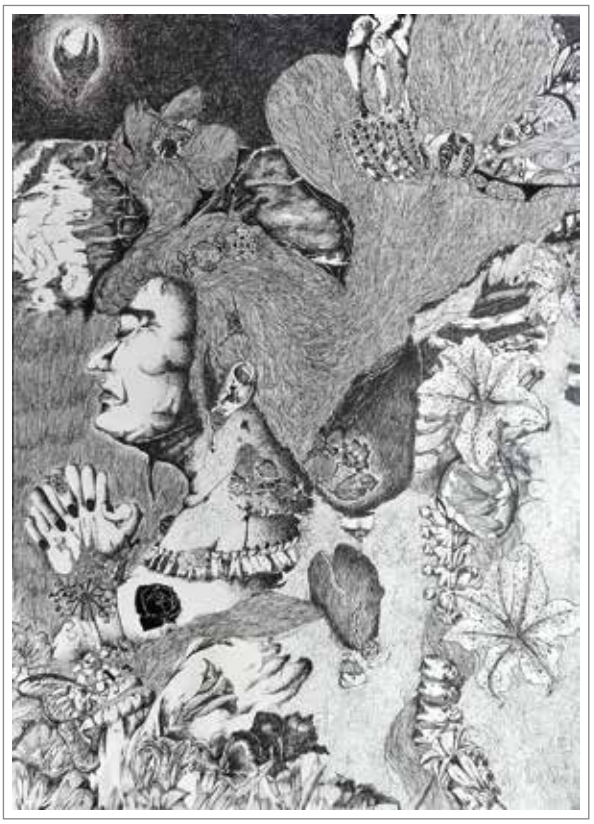
平成 28 年度

研究集録

付 研究論文集



埼 玉 県 連 合 教 育 研 究 会

あ　い　さ　つ

埼玉県連合教育研究会
会長　上　亟　啓　介

日ごろ埼玉県連合教育研究会の活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、平成28年度埼玉連合教育研究会の『研究集録付研究論文集』が、教科等教育研究団体及び地域教育研究団体並びに研究論文入選者等の執筆協力のお陰で、発刊する運びとなりましたことを心より感謝申し上げます。

本研究会は、教科等研究団体及び埼玉大学教育学部附属小・中学校等を含めて21団体、地域教育研究団体55団体、会員数30,326名を擁する教育研究団体として、昭和39年より埼玉県の小・中学校等の教育振興に大きく寄与してまいりました。

これも偏に、教育研究団体等がこれまでの研究成果を蓄積され、新たな教育課題に向け、たゆまぬ研究活動を推進されてきた成果によるものと深く敬意を表します。

この『研究集録』には、教科等教育研究団体及び地域教育研究団体等の研究活動の概要を集録しております。

教科等教育研究団体の概要につきましては、21の研究団体が平成28年度の研究主題に基づき推進してまいりました研究活動の概要を集録しており、学習指導要領の改訂についても触れるなど、今後の研究推進や教育実践に大いに役立つものと思います。

地域教育研究団体につきましては、55団体の中の14団体の運営組織や各部会等の活動内容等を掲載しております。地域教育研究団体におかれましては、是非、研究集録の内容を参考にし、これまでの研究の成果と課題を把握いただき、今後の研究活動の推進や実践活動に役立てるとともに、教科等・地域教育研究団体相互の情報交換等を含め参考にしていただきたいと思います。

また、『研究論文集』には、本年度応募されたました14編の中から、審査を経て入賞されました研究論文３編を掲載いたしました。応募されました研究論文は、教科指導、進路指導・キャリア教育、視聴覚教育、学校経営等多岐にわたっており、いずれも日々の着実な実践に裏付けられた創意工夫された力作であり、課題解決に向けての継続的な取組内容の数々でありました。

今後も会員の皆様の奮ってのご応募を期待いたします。

会員の皆様には、本誌『研究集録付研究論文集』を熟読いただくことにより、次年度の教育課題を明確にするとともに、その解決に向けて日々の研究活動をより一層充実したものにしていただけるものと期待をしております。

結びに、本研究会のために常に温かいご指導、ご支援を賜りました県市町村教育委員会をはじめとする関係各位、教育研究団体並びに委員の皆様方に衷心より御礼申し上げ、刊行のあいさつといたします。

目　　次

あ い さ つ…… 埼玉県連合教育研究会会長　　上亟　啓介

研 究 集 録

1　教科等教育研究団体の研究

1　国語教育…… 埼玉県国語教育研究会…… 4
2　書写教育…… 埼玉県書写教育研究会…… 8
3　社会科教育…… 埼玉県社会科教育研究会…… 12
4　算数・数学教育…… 埼玉県算数数学教育研究会…… 16
5　理科教育…… 埼玉県理科教育研究会…… 20
6　音楽教育…… 埼玉県音楽教育連盟…… 24
7　図画工作・美術教育…… 埼玉県美術教育連盟…… 28
8　保健体育教育…… 埼玉県保健体育研究会…… 32
9　英語教育…… 埼玉県英語教育研究会…… 36
10　道徳教育…… 埼玉県道徳教育研究会…… 40
11　特別活動…… 埼玉県特別活動研究会…… 44
12　進路指導・キャリア教育…… 埼玉県進路指導・キャリア教育研究会…… 48
13　視聴覚教育…… 埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会…… 52
14　教育心理・教育相談…… 埼玉県教育心理・教育相談研究会…… 56
15　特別支援教育…… 埼玉県特別支援教育研究会…… 60
16　学校図書館教育…… 埼玉県学校図書館協議会…… 64
17　中学校技術・家庭科教育…… 埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会…… 68
18　小学校家庭科教育…… 埼玉県小学校家庭科教育研究会…… 72
19　生活科・総合的な学習の時間教育…… 埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会…… 76
20　本校の研究の取り組みについて…… 埼玉大学教育学部附属小学校…… 80
21　埼玉大学教育学部附属中学校…… 埼玉大学教育学部附属中学校…… 84

2　全国教育研究発表大会・関東地区教育研究発表大会　埼玉大会の報告

1　第５７回全日本書写書道教育研究会埼玉大会…… 90
2　第５１回小学校学校行事研究全国大会埼玉大会…… 91
3　第５８回関東音楽教育研究会埼玉大会…… 92
4　第５５回関東甲信越中学校技術・家庭科研究会埼玉大会…… 93
5　第１８回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会埼玉大会…… 94

3　地域教育研究団体の研究

1　川口市教育研究会…… 96
2　志木市教育研究会…… 98
3　桶川市教育研究会…… 100
4　所沢市教育研究会…… 102
5　富士見市教育研究会…… 104
6　ふじみ野市教育研究会…… 106
7　東松山市教育研究会…… 108
8　秩父教育研究会…… 110
9　児玉郡本庄市教育研究会…… 112
10　寄居町教育研究会…… 114
11　羽生市教育研究会…… 116
12　吉川市教育研究会…… 118
13　松伏町教育研究会…… 120
14　白岡市教育研究会…… 122

研究論文集

＜入　　選＞

1　先行概念に沿った実験結果を相互に説明し合うことが科学概念の形成に及ぼす効果
　～第５学年「振り子の運動」の学習を例にして～【理科】…… 126
　羽生市立須影小学校　教諭　柿沼　宏充

＜佳　　作＞

1　次期学習指導要領で求められる資質・能力の育成を図る体育科における「アクティブ・ラーニング」の在り方
　～児童一人一人の学習内容の確かな習得を図る新教育課程型体育授業～【体育】…… 132
　坂戸市立入西小学校　教諭　荻原　雄麿

＜新人奨励賞＞

1　学び合い、高め合いを通して「自己効力感」「自己肯定感」を養う体育授業の工夫
　～「集団達成」「協調学習」を活用した児童が主体的に学び合う授業実践～【体育】…… 138
　越谷市立増林小学校　教諭　八田　正登

◎　平成29年度　研究論文募集要領…… 144

記念講演会

「学校不適応児童のパラダイムシフト～非行少年から発達障害児童へ～」…… 146
　久里浜少年院　医務課長　井上　雅人　氏

平成28年度　埼玉県連合教育研究会役員等名簿 …… 154

あ と が き……編集委員長　長島　庸夫 …… 159

表紙の絵　「平成28年度　身体障害者福祉のための　第58回　埼玉県児童生徒美術展覧会」
　埼玉県連合教育研究会会長賞
　・「みんなだいすき　たまいれ」　さいたま市立大砂土小学校　第１学年　鏑木　心皓
　・「純　　潔」　熊谷市立三尻中学校　第３学年　大久保　佑姫

表紙の題字　埼玉県連合教育研究会会長　　上亟　啓介

平成 28 年度

研究集録

1　教科等教育研究団体の研究

1　国　語　教　育

埼玉県国語教育研究会

Ⅰ　研究主題と事業

1　研究主題

生活に生きてはたらく国語の能力の育成をめざす授業の創造

2　事業

・国語教育夏季研修大会
・国語教育研究発表大会
・常任理事・理事研修会
・研究委嘱校研究発表大会
・地区別国語科授業研究会
・中学校国語学力向上対策事業（学力調査）
・「平成28年度国語教育研究集録」の発刊

Ⅱ　活動状況

1　新旧合同理事研修会　　6月8日㈬

⑴　平成27年度会務報告
⑵　平成27年度決算報告
⑶　平成27年度監査報告
⑷　新役員および常任理事の選出
⑸　平成28年度研究主題案および研究方針案についての審議
⑹　平成28年度事業内容案および事業計画案についての審議
⑺　平成28年度予算案についての審議

2　国語教育夏季研修大会提案者・司会者打ち合わせ会　　7月6日㈬

3　国語教育夏季研修大会　　8月9日㈫

⑴　分科会　小学校5　小・中連携1
　　中学校2分科会
⑵　講　演　文部科学省初等中等教育局教育課程課
　　教科調査官 国立教育政策研究所
　　教育課程調査官・学力調査官
　　杉本　直美　先生
　演　題「実生活に生きて働く国語科の授業づくり
　　―4つの視点で授業を見直す―」
⑶　参加者数　約250名

4　常任理事・理事研修会　　10月5日㈬

⑴　講　演　さいたま市教育研究所
　　佐藤　大介　先生
　演　題「国語科教育の現状と課題」
⑵　参加者数　約60名

5　地区別国語科授業研究会

⑴　戸田市立新曽小学校　　11月18日㈮
⑵　川越市立仙波小学校　　10月28日㈮
⑶　深谷市立川本北小学校　　1月27日㈮
⑷　加須市立北川辺東小学校　　1月19日㈭

6　研究委嘱校研究発表会

※地区別国語科授業研究会を兼ねて開催
・川越市立仙波小学校　　10月28日㈮

7　国語教育研究発表大会発表者・司会者・指導者打ち合わせ会

12月7日㈬

8　小中学校国語教育研究発表大会　　2月8日㈬

⑴　会　場　深谷公民館（深谷市）
⑵　分科会　小学校3　中学校1分科会
⑶　講　演　埼玉大学教育学部
　　言語文化講座　国語教育分野
　　教授　　薄井　俊二　先生
　演　題「中国の山岳地帯
　　－天台山記について－」

Ⅲ　研究内容

1　国語教育夏季研修大会

⑴　提案者・提案主題名

○小低1　松戸　涼子　　さいたま市立常盤北小学校
・主体的に学び、思いや考えを交流し、深め合う児童生徒の育成
　～「お手がみ」の指導を通して～
○小低1　大貫　美穂　　春日部市立備後小学校
・豊かに伝え合う力を高める指導の工夫
　～お話の世界を楽しみながら、音読で表現することを通して～
○小低1　末継　麻衣子　　所沢市立椿峰小学校
・生き生きと自ら学ぶ児童の育成
　～「自分の考えを伝え、相手の考えを聞く言語活動」の工夫を通して～
○小低2　奈良　恵理子　鴻巣市立赤見台第二小学校
・言語活動を通した、思考力・表現力を高める指導法の工夫
　～はなみずき俳句会を通して～
○小低2　堀越　恵理佳　　本庄市立本庄東小学校
・言語活動の充実を図る指導法の改善
　～「がまくんやかえるくんに手がみをかこう

『お手がみ』」の実践を通して～

○小低２　三浦　知美　　さいたま市立片柳小学校
・児童一人ひとりに学ぶ楽しさを味わわせ、確かな学力をはぐくむ国語科の指導の研究
～豊かに表現し、伝え合う力を育てる指導の充実を目指して～

○小中１　櫛引　千恵　　八潮市立八條小学校
・主体的に読み、協働的に学び合う児童の育成をめざして
～単元名「世界の民話のおもしろいところをしょう介します！」～

○小中１　金子まゆみ　　川越市立上戸小学校
・伝え合い、学び合う子どもの育成
～国語科「読むこと」の指導を通して～

○小中１　福井　結菜　　草加市立谷塚小学校
・「自ら学び豊かに表現する力を育てる授業の研究」
～自ら学び、自分の考えを言葉を通して伝え合うことができる児童の育成～

○小中２　田部井　訓子　　深谷市立上柴西小学校
・自分の思いや考えを伝える力を高め心が通い合う指導の研究
～「聞き取りメモ」を活用した授業実践を通して～

○小中２　吉田　洋子　　さいたま市立大谷口小学校
・書く楽しさを味わい、自分の言葉で表現し、互いにみがき合う子の育成
～話し合い活動を取り入れた「書くこと」の指導の工夫～

○小中２　小林　綾子　　春日部市立豊野小学校
・「自分の考えを深め、表現する児童の育成」
～「記号はかせブック」を作ることを通して～

○小高　清水　明日香　　鳩山町立亀井小学校
・読むことを通して言語力を高め豊かに表現する児童の育成
～『きつねの窓』の実践を通して～

○小高　吉岡　樹謙　　熊谷市立成田小学校
・確かな学力を育む国語科の授業の創造
～わかる・できる・ともに学ぶ国語科の授業づくり～

○小中連　星川　淳子　　さいたま市立中島小学校
・豊かな言語活動を通して確かな国語力の向上を目指す
～児童自ら主体的に思考・判断しながら書く力や考える力を身に付けるための指導法の工夫～

○小中連　式守　妙子　　加須市立水深小学校
・根拠に基づいて自分の言葉で説明できる児童の育成
～「伝え合い」を中心にして単元を貫く言語活動の充実を図る～

○小中連　浅見　友博　　入間市立東町中学校
・「小中一貫教育の視点に立った国語科指導実践」
～中学校の学習につなげる、小学校への乗り入れ授業～

○中１　緒方　健人　　さいたま市立宮前中学校
・日常生活に役立つ語彙力を養う指導
～登場人物の心情表現を書き表すノベライズを書くことを通して～

○中１　税所　三代子　　宮代町立百間中学校
・主体的に読みを深めるための学習形態の工夫

○中１　田中　京子　　川越市立霞ケ関中学校
・学力の向上を図る教育活動の充実
～国語科としての授業の工夫～

○中２　堀　泰浩　　桶川市立桶川中学校
・言語活動を通じて思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫

○中２　牛込　孝憲　　本庄市立児玉中学校
・「課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」の実践を通して見える効果と課題

○中２　岸　智絵　　さいたま市立桜木中学校
・豊かな言語活動を通して、確かな学力を育む授業づくり

⑵　国語教育夏季研修大会講演要旨

○講　師　文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官
国立教育政策研究所教育課程調査官・
学力調査官
杉本　直美　先生

○演　題　「実生活に生きて働く国語科の授業づくり
―４つの視点で授業を見直す―」

【学習指導要領改訂に当たって】

今、国では、各教科等における学びの本質を明確にするとともに、「アクティブ・ラーニング」の視点から授業を改善すること、そして、社会に開かれた教育課程を実現するためには、各学校におけるカリキュラム・マネジメントが重要であることを指摘している。今回の学習指導要領は、何を学ぶかということのみならず、どのように学ぶかということをセットで考え、資質・能力の育成を目指そうとしている。そこが前回との違いである。

「アクティブ・ラーニング」については、三つの視点、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点を示し、これらの視点から学習過程の質的な改善を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていくべきではないかと提案している。

「国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」には、現行の学習指導要領の成果と課題を踏まえた上で、育成すべき資質・能力を踏まえた教科等の目標と評価の在り方等について書かれている。言語活動については、端的に言えば、一層充実させるというこ

とである。

そして、国語科が中心的役割を担いながら他教科等と連携して言語能力の向上を図るとともに、国語科が育成する資質・能力が各教科等において育成する資質・能力の育成にも資することができるようにすることが、カリキュラム・マネジメントの観点からも重要であると書かれている。

また、国語科における「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善とは、「アクティブ・ラーニング」の視点から言語活動を充実させ、学習過程を質的に改善することであると言える。ただし「アクティブ・ラーニング」は資質・能力を育成するための視点であって、授業の「型」ではない。活動そのものではなくて、活動が学びにどうつながるかが重要であるということをもう一度ご確認いただきたい。

【国語科の授業づくりについて】

４つの観点で今後のポイントを説明する。

１つ目は「課題解決的な言語活動を通して、思考・判断・表現しているか？」ということである。

授業では、児童生徒が試行錯誤する時間を取っていただきたい。発達の段階に応じて彼ら自身にまずは考えさせて、判断させる。課題のある児童生徒には適宜、手引き等を配付する。最終的に全員に配付してもよい。言語能力を向上させるには、まずは児童生徒に考えさせ、言葉を駆使して表現させるということが大切ではないか。

例えば、書く活動を行う際に、本当にその言葉でよりよく伝わるのか、その言葉よりよい表現はないのかといったようなことを考えさせるのが、国語科の一つの役目ではないかと思う。

２つ目は、「児童生徒が主体的・協働的に学習しているか？」。「主体的」については、単元を通して課題を追究していこうとする姿から見ていくようにしたい。

また、「協働的」というと、すぐグループ学習になり、なんとなくグループ、とりあえずグループという授業が散見される。さまざまな協働の形態があるし、やはりそこには目的があって、目的とセットで考えていくべきであろう。何のためにグループにするのか、グループ活動を行う意味を確認していただきたい。

そして、グループになってからも指導が必要である。ただ漠然と考えさせるのではなくて、「どこか」「どうして」「どのように」というようなキーワードを適宜与えることで、学びが一層深く広くなる可能性があるのではないか。

３つ目は、「指導事項に即した付けたい国語の力が確実に身に付いているか？」。どの学年でどういったことを重点的に指導して、次の学年に渡すのかということを改めて確認してほしい。

４つ目は「観点別評価、目標に準拠した評価を適切に行っているか？」。現行では、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』を使うと評価規準が比較的容易に立てられる。問題は、立てた評価規準でどのような児童生徒の学習の状況、姿をＢとするのかＡとするのかである。『参考資料』には、具体的な評価の方法が、かなり細かく書かれている。現場からは、評価が大変だということを聞く。ぜひ、本資料も参考にしてほしい。児童生徒をどのように評価するかは重要であり、新しい学習指導要領でも引き続き話し合われている。

私たちは、例えば、子どもたちに最初からＡ、Ｂ、Ｃを付けてしまっていないか。私たちがまず、しなければならないことは、努力を要する状況であるＣの児童生徒にすぐ手立てを加えることである。それ以外の子どもは暫定的にＢである。その中には既にＡの状況の児童生徒もいれば、指導することでＡの状況になっていく者もいるだろう。

例えば、そのように整理をしてみると、評価がもう少し効率よくできるのではないか。また、授業につながる定期テストの問題についても考えてほしい。それに関して言えば、Ｂ問題が役に立つのではないか。ぜひうまくご活用いただきたい。

２　中学校国語学力調査（第58回）

⑴　ねらい

中学生一人一人の国語学力の実態や問題点を把握し、学習指導の工夫・改善に役立てる。

⑵　調査の分野・領域・資料文

①文学的文章の読解・鑑賞

１年『白をつなぐ』　（まはら三桃）
２年『青い海の宇宙港』　（川端　裕人）
３年『花舞う里』　（古内　一絵）

◎文章中の登場人物の心情や展開を、表現に即して読み取る力を確かめる問題を出題した。

②説明的文章の読解

１年『ねこはすごい』　（山根　明弘）
２年『鳥ってすごい！』　（樋口　広芳）
３年『学びとは何か―探求人になるために』　（今井むつみ）

◎文章内容や構成、要旨等を、正しく読み取る力を確かめる問題を出題した。

③放送による問題（独話または話合いを聞く）

１年　スキー教室の事前集会での説明

２年　応援合戦の案についてのプレゼンテーション
３年　本の貸し出しを増やすための話合い
・話の概要を聞き取る問題
（話題の中心・意見の根拠　等）
・話の組み立て方の特徴や工夫をつかむ問題
④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関する問題
１年　文中の主語を問う問題
２年　品詞の種類（副詞）を問う問題
３年　助動詞の用法（受け身）を問う問題
⑤漢字の読み書き

	読み取り	書き取り
1年	雑踏・鈍い・推す・脳裏	損害・血管・禁止・訪問・幼い・温める
2年	装い・遮る皆無・貢献	蒸らす・清潔・苦悩・垂直・幼い・群がる
3年	緩和・朗らか・頑丈・費やす	洗練・供える・留守・簡潔・幼い・著しい

⑥作文
・事例や根拠をあげて自分の考えを構成に注意して書く。
生徒にとって身近な話題や場面を設定し、資料から読み取ったこと等を踏まえて、自分の意見を述べる力について、その実態把握を目指した。

(3)　参加校状況
①参加校 20校（原稿作成時）
②地域別参加校数
南　　部…３　　西　　部…２
北　　部…１　　東　　部…13
国県私立…１
③参加生徒数　　4,070名
④学年別参加生徒数
１年　…　2,158名
２年　…　　858名
３年　…　1,054名

(4)　改善点
○国の教育施策との関連
調査結果を国の教育施策（全国学力・学習状況調査）と関連させ、「知識」を問う問題と「知識を活用」する問題を作成した。考察結果を報告書に掲載した。

(5)　結果の報告
埼玉大学、県教育委員会の指導・助言を得て集計処理し、問題ごとの正答率、誤答分析、指導のための方策等を含めて、国語教育研究発表大会において報告を行う。また、報告書（Ａ４判）を実施中学校宛に送付する。

2　書　写　教　育

埼玉県書写教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「児童生徒が生き生きと学ぶ書写授業の創造」
～ 確かな書写力の育成を目指して ～

2　主題設定の理由及び方針

情報化やグローバル化など産業の構造が急激に変化する社会にあって、新たな学習指導要領の実施に向けた国の動きも活発化している。

これからの時代に必要となる知識や力を明確にした教科・科目の新設、目標・内容等の見直し、主体的・対話的で深い学びを求めるアクティブ・ラーニングの視点からの学習過程の改善など、学びを人生や社会に生かす具体的な内容について検討・審議が進められ、各学校においても教師一人一人の工夫・実践が求められているところである。

このような中で本研究会は、書写教育の視点から生きて働く知識・技能の基礎となる「確かな書写力を育成するための授業の創造」を目指した取組を進めている。

今年度は、「書字文化を育む書写書道教育」を主題に、第57回全日本書写書道教育研究会全国大会が文教大学を会場に開催され、小学校低学年の毛筆導入や中学校の実態調査結果など、各部会から報告がなされた。さらに「これからの書写書道教育 ～学習指導要領改訂をにらんで～ 」と題した小・中・高・大学の代表５人によるシンポジウムも行われた。

また、昨年度に引き続き夏季実技研修会を実施し、毛筆の授業や書きぞめの実技など、日々の書写の指導に直接役立つ研修を進めた。さらに、授業研究会では６年生の授業を公開し、参観・協議する機会をもつことで指導力の向上、児童生徒への確かな書写力の育成を目指した。

以上の事業を通して、児童生徒一人一人が生き生きと主体的に学ぶ書写授業の創造に努め、書くことを通して確かな書写力の育成を目指している。

Ⅱ　活動状況

1　役員会の概要

⑴　４月26日㈫　理事会　さいたま市立大宮北中学校
　○県硬筆展覧会開催要項・審査規程審議

⑵　５月18日㈬　総会・研究協議会・講演会
　浦和コミュニティセンター
　○総会（書写書道教育連盟・書写教育研究会）
　○研究協議会・講演会

⑶　６月８日㈬　常任理事会　ひだかアリーナ
　○県硬筆展覧会本部・開催地区協議会
　○本部事務分担及び計画
　○県書きぞめ展覧会語句選定・開催要項案審議

⑷　６月22日㈬　理事会　ひだかアリーナ
　○県硬筆展覧会作品審査会
　○県書きぞめ展覧会開催要項案審議
　○会報（埼書教連）発行

⑸　10月４日㈫　理事会　埼玉県県民活動センター
　○県書きぞめ展覧会開催要項・審査規程審議

⑹　11月15日㈫　常任理事会　加須市立花崎北小学校
　○県書きぞめ展覧会本部・開催地区協議会
　○県硬筆展覧会語句選定・開催要項案作成

⑺　１月25日㈬　理事会　加須市立花崎北小学校
　○県書きぞめ展覧会作品審査会
　○会報（埼書教連）発行

2　研究発表会の概要

⑴　小中高等学校書写書道教育研究協議会
　○期　　日　　平成28年５月18日㈬
　○会　　場　　浦和コミュニティセンター
　○参加人数　　85名
　○研究発表者・発表テーマ
　　①「基礎・基本の定着と書写の日常化をめざして」
　　深谷市立川本南小学校教諭　新井　真由美　先生
　　②「地域との触れ合いを通して学ぶ書と生涯学習」
　　狭山市立入間野中学校教諭　菅野　裕之　先生
　○講　演
　・演　題　「これからの手で書くことの学びを考える」
　　－漢字指導と書写指導との間から
　　スタートしたとき－
　・講　師
　　上越教育大学大学院学校教育研究科教授
　　押木　秀樹　氏

⑵　全日本書写書道教育研究会
　第57回全国大会（埼玉）
　○大会主題　　「書写文化を育む書写書道教育」
　○期　　日　　平成28年８月26日㈮
　○会　　場　　文教大学

3　研修会の概要

⑴　実技研修会

○期　　日　　平成28年８月１日(月)
○会　　場　　北本高等学校
○参加人数　　51名
○研修内容及び講師
「書写授業・書きぞめ指導法」
・元埼書教連副会長　　稲見　修央　氏
・埼書教連常任理事　　風間　道雄　氏
・埼書教連常任理事　　新井　和徳　氏

(2)　埼玉県書写教育研究会委嘱授業研究会
［越谷地区］
○期　　日　　平成28年12月６日(火)
○会　　場　　越谷市立蒲生南小学校
○参加人数　　30名
○単元名・授業者
「穂先の動きと点画のつながり」
越谷市立蒲生南小学校　　尾形　成子　先生

(3)　各地区書写実技研修会・授業研究会

４　展覧会の概要

(1)　第55回記念 硬筆展覧会
○会　　期　　平成28年６月25日(土)・26日(日)
○会　　場　　ひだかアリーナ

○出品点数	・推薦賞	小学校	274点
		中学校	125点
	・特選賞	小学校	821点
		中学校	380点
	・優良賞	小学校	1,643点
		中学校	759点
		合　計	4,002点

○課　　題　　次　頁

(2)　第69回書きぞめ展覧会
○会　　期　　平成29年１月28日(土)・１月29日(日)
○会　　場　　加須市立花崎北小学校

○出品点数	・推薦賞	小学校	122点
		中学校	79点
	・特選賞	小学校	492点
		中学校	315点
	・優良賞	小学校	615点
		中学校	395点
		合　計	2,018点

○課　　題　　次　頁

(3)　平成28年度　教職員書道展覧会
○会　　期　　平成29年１月28日(土)・１月29日(日)
○会　　場　　加須市立花崎北小学校
○出品点数　　６点

５　研究刊行物

(1)　「研究集録」第54号の発行

※平成28年度硬筆展覧会参考手本揮毫者

小一　所沢市立泉小学校　　三上　陽照　先生
小二　さいたま市立泰平小学校　　齊藤　裕子　先生
小三　加須市立大越小学校　　大澤美和子　先生
小四　所沢市立泉小学校　　三上　陽照　先生
小五　熊谷市立熊谷西小学校　　鯨井智恵子　先生
小六　熊谷市立熊谷西小学校　　鯨井智恵子　先生
中一　県立伊奈学園総合高校　　鷹啄　知美　先生
中二　松伏町立松伏中学校　　関根　祐介　先生
中三　県立伊奈学園総合高校　　鷹啄　知美　先生

※平成28年書きぞめ展覧会参考手本揮毫者

小三　熊谷市立熊谷西小学校　　鯨井智恵子　先生
小四　さいたま市立泰平小学校　　齊藤　裕子　先生
小五　熊谷市立熊谷西小学校　　鯨井智恵子　先生
小六　鴻巣市立赤見台第二小学校　　奈良恵理子　先生
中一　松伏町立松伏中学校　　関根　祐介　先生
中二　所沢市立泉小学校　　三上　陽照　先生
中三　県立小川高等学校定時制　　田島　　慶　先生

Ⅲ　研究内容

越谷支部研究発表

１　発表者

越谷市立蒲生南小学校　教諭　　尾形　成子　先生

２　研究テーマ

「自ら考え、課題を解決する力を身に付けさせる書写指導の創意工夫～学習指導要領改訂の動きを踏まえて～」

今回の学習指導要領改訂では、「学び」の本質として重要となる「主体的･対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善の視点として、「アクティブ・ラーニング」という考え方が注目されている。そこで、児童生徒が、自ら考え、課題を解決する力を身に付けられるよう、アクティブ・ラーニングの視点も踏まえながら書写指導を創意工夫していこうと考え、今回の研究テーマとして設定した。

３　発表内容

◎県書写教育研究会委嘱「授業研究会」より

(1)　はじめに
今回、幸いにも埼玉県書写教育研究会の委託を受け「書写授業研究会」を本支部で開催する機会をいただくことができた。児童が課題意識をもち、自ら考え、課題を解決していく力を身に付けさせる書写指導について創意工夫・実践すべく、研修に励んできた。

(2)　単元名・教材名
効率のよい書き方のリズムを身に付けよう
――穂先の動きと点画のつながり――

(3)　実施学年学級　　蒲生南小学校　第６学年２組

⑷　児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、これまで学んだことを生かして文字を書くことができ、見やすく読みやすい文字を書こうとする意識が高まっている。しかし、毛筆で学習したことをなかなか硬筆に生かせなかったり、視写することに重点を置いてしまい、自身の課題を解決するポイントを見いだせなかったりする児童も見られる。そこで、本単元を通して、毛筆での学びを硬筆に生かし、他の教科や日常生活でも使える技能として定着させるとともに、主体的・積極的に生かそうとする意欲や態度をはぐくんでいきたい。

⑸　単元の目標

○穂先の動きと点画のつながりを理解して書くことができる。

⑹　単元の指導計画

第１時　点画のつながり、文字と文字のつながりを意識して書くことと、そのよさについて確かめる。

第２・３時　穂先の動きと点画のつながり、文字のつながりを意識して、毛筆で「あけび」を練習し、まとめ書きをする。

第４・５時　毛筆で学習したことを生かして硬筆で書き、試書と比較し、学習成果を確認する。

⑺　本時の学習指導（３／５時）

ア　目　標

○穂先の動きと点画のつながりを意識しリズムよく書くことができる。

○適正に課題を設定し、適正な課題解決方法により、解決に取り組むことができる。

○自分の考えを正確に他者に伝え、他者の考えを正しく理解することができる。

イ　展　開

㈠　本時の学習課題を知る。

・穂先の動きと点画のつながりを理解して書こう。

㈡　「あけび」の基準を確認する。

ＤＶＤを併用して「あけび」の書き方の基準を確認する。

㈢　自分の課題を試書に赤で書き込む。

試し書きと基準との比較　　【課題設定①】

㈣　適切なワークシートを選択し、練習する。

（練習①）

設定した課題に適したワークシートの選択

【課題解決①】

㈤　自己批正をする。

試書で設定した課題解決状況の確認

新たな課題の設定　　【課題設定②】

㈥　適切なワークシートを選択し、練習する。

（練習②）

設定した課題に適したワークシートの選択

【課題解決②】

㈦　自己批正、相互批正をする。

練習①で設定した課題解決状況の確認

新たな課題の設定　　【課題設定③】

㈧　適切なワークシートを選択しまとめ書きをする。

設定した課題に適したワークシートの選択

【課題解決③】

㈨　まとめ書きと試書を比較する。

㈩　硬筆試書を確認し、硬筆まとめ書きをする。

㈪　硬筆試書と硬筆まとめ書きを比較する。

㈫　硬筆で他の文字・言葉を書き、本時の学習内容を活用する。

㈬　本時の学習を振り返る。

⑻　「授業研究会」を終えて

ア　研究協議会から（抜粋）

・穂先ちゃんを用いて、穂先の動きの確認をしたのがよかった。特に、筆の返しがよく分かった。

・ＩＣＴを活用していた。動画を流していることで穂先の動きや点画・文字のつながりを意識できていた。

・ペア学習による伝え合いが活発に行われていた。

・ワークシートの種類が多く、自分で選択させることもよかった。

・学習習慣がよく身に付いていた。

・授業開始前の黙想の時間がよかった。

・個人の課題を設定し、半紙に書き込んでいたのがよかった。

・漢字から平仮名の学習へと発展することで、系統性を意識した学習となっていた。

・日常化への手立てを示していた。

・筆の持ち方や姿勢について、繰り返し指導することが大切である。

・まとめ書きでは、能力に応じてワークシートを使わなくてもよいだろう。

・ペア学習では、聞く視点を明確にした方がよい。

イ　指導講評（抜粋）

（指導者）文教大学文学部准教授

豊口　和士　氏

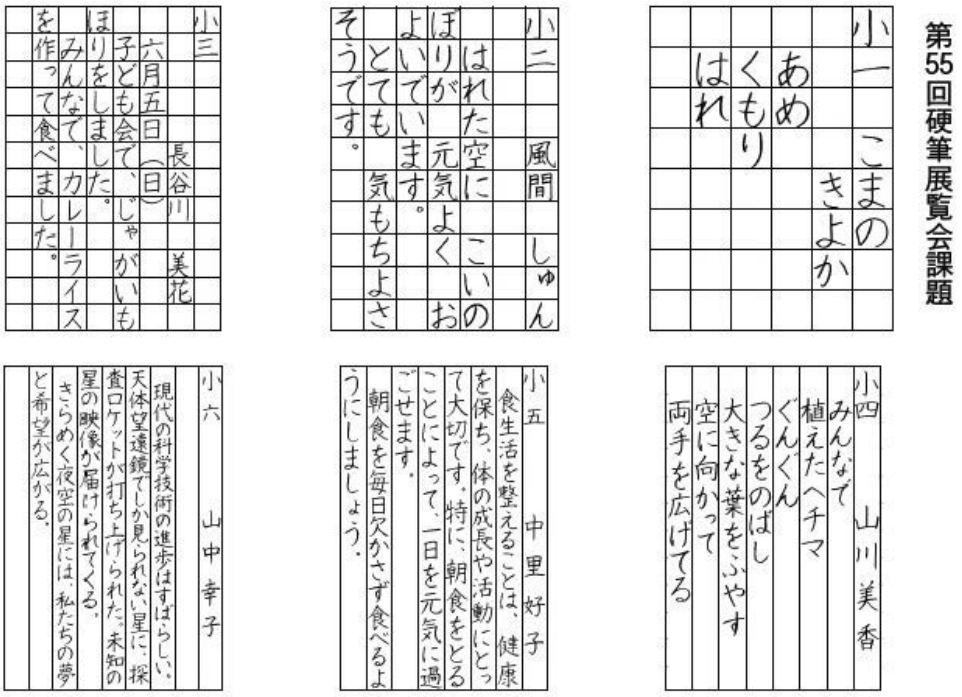
・評価物を目の高さに掲げて比較をしていたのはよかった。

・課題を意識させ、児童に思考させながら書かせるための言葉がけがもっとあるとよい。
・思考を促す声かけや問いかけが大切である。
・リズムやつながりを実感させるような伝え方を考え、身に付けるとよい。
・文字を書くのが楽しいと思えるような指導の工夫が必要である。

Ⅳ　今後の課題

今後は、実技研修会や授業研究会等の内容の工夫改善、充実を図ることでさらに教員の実践的な指導力を高め、児童生徒の意識の変革や意欲の向上を目指した創造的な授業を展開することで確かな書写力の育成を図っていく。

平成28年度　硬筆・書きぞめ展覧会参考手本



３　社　会　科　教　育

埼玉県社会科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

小学校「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」

中学校「追究する力を育てる社会科学習」

～主体的・協働的に学ぶ学習の充実～

小学校では平成12年度に、研究主題を「人・夢・・・21世紀」と掲げ、「全国小学校社会科研究協議会」を開催した。平成17年度には研究主題を「ゆたかな社会をつくりだす、生きてはたらく力を育てる社会科学習」と掲げた「関東地区小学校社会科研究協議会」を開催し、それぞれ成果を挙げた。これらの研究を踏まえ、平成30年10月25日㈭、26日㈮に川口市を会場に「全国小学校社会科研究協議会」が予定されている。

中学校では、平成13年度に研究主題を「生徒がつくり自ら学ぶ社会科学習の在り方」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」を開催し、成果を挙げた。平成21年度には研究主題を「学ぶ楽しさを味わい、わかる喜びを体感できる社会科学習」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」をそれぞれ開催し、成果を挙げた。これらの研究を踏まえ、平成29年11月17日㈮に川越市を会場に「関東地区中学校社会科研究協議会」が予定されている。

現在、この２つの大会に向けて、計画的かつ組織的に研究を進めている。

Ⅱ　活動状況

１　理事研修会

⑴　第１回理事研修会

○期　日　平成28年６月10日㈮

○会　場　埼玉大学教育学部附属中学校

○講　師　文部科学省初等中等教育局視学官

澤井　陽介　氏

○演　題　「社会科教育の現状と課題」

⑵　第２回理事研修会

○期　日　平成29年２月15日㈬

○会　場　川越市立博物館

○内　容　平成28年度事業のまとめと平成29年度事業計画について

２　現地研修会

○期　日　平成29年２月15日㈬

○会　場　川越市立博物館

○内　容　川越市立博物館等の見学

３　第49回小・中学校地域学習研修会（さいたま市）

県内の公立小・中学校教員を対象に、自分たちの住む市町村や県を社会科の授業の中で指導するのに必要な基礎的内容について研修し、教員の資質の向上を図ることを目的としている。実際の資料や施設を活用して研修を進める点に大きな意義がある。

⑴　主　催　埼玉県社会科教育研究会

後　援　埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会

⑵　期　日　平成28年８月５日㈮

⑶　会　場　埼玉大学教育学部附属中学校

さいたま地方検察庁

さいたま地方裁判所

⑷　研修内容及び講師

○講義

「政治的教養を育む教育の実践と授業のつくり方」

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　清水　利浩　氏

４　第45回埼玉県社会科教育研究会研究発表大会

⑴　期　日　平成28年８月10日㈬

⑵　会　場　さいたま市立教育研究所

⑶　発表者

〈地理的分野〉

越谷市立鷺後小学校	小髙　正治
熊谷市立吉岡小学校	須長　雅紀
久喜市立栗橋西小学校	青柳　慎一

〈歴史的分野〉

川口市立戸塚北小学校	内山　達也
川越市立芳野小学校	小林　義明
上里町立上里中学校	清水　　修

〈公民的分野〉
さいたま市立春野小学校　小林　孝太郎
狭山市立入間野中学校　工藤　瑠美
戸田市立戸田中学校　内藤　圭太

(4) 指導者
さいたま市教育委員会学校教育部教育研究所
主任指導主事　山口　美保　氏
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課
主任指導主事　千明　勉　氏
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課
主任指導主事　小倉　弘一　氏

5　ブロック別授業研究会

＜小学校＞

(1) 東部ブロック
○期　日　平成28年11月１日㈫
○会　場　八潮市立大原小学校
○授業者と小単元名
菊池　宏行　５年「自動車をつくる工業」

(2) 西部ブロック
○期　日　平成28年11月18日㈮
○会　場　日高市立高麗川小学校
○授業者と単元名
有山　和宏　３年「日高市の人々の仕事」

(3) 南部ブロック
○期　日　平成28年11月24日㈭
○会　場　新座市立西堀小学校
○授業者と小単元名
織田　智恵里　６年「高度経済成長の中の東京オリンピック」
池谷　ひろみ　３年「農家の仕事」

(4) 北部ブロック
○期　日　平成28年11月８日㈫
○会　場　寄居町立寄居小学校
○授業者と単元名
大久保　尚郁　５年「自動車をつくる工業」

(5) さいたま市ブロック①
○期　日　平成28年12月16日㈮
○会　場　さいたま市立岸町小学校
○授業者と単元名
笠井　正範　６年「暮らしの中の政治」

(6) さいたま市ブロック②
○期　日　平成29年２月17日㈮
○会　場　さいたま市立大成小学校
○授業者と単元名
廣瀬　悠　６年「日本とつながりの深い国々」

(7) 指導者
八潮市教育委員会指導課
主任指導主事　北原　広泰　氏
久喜市立本町小学校校長　針谷　重輝　氏
埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター
教授　河野　秀樹　氏
日高市教育委員会指導主事　利根川典正　氏
新座市立池田小学校校長　大場　真　氏
埼玉県教育局北部教育事務所
指導主事　小島　直樹　氏
寄居町教育委員会指導主事　岡田　久志　氏
さいたま市立大砂土東小学校
校長　小堺　新一　氏
さいたま市立河合小学校校長　三島　公夫　氏
埼玉県社会科教育研究会長、副会長、役員

＜中学校＞

(1) 東部ブロック
○期　日　平成28年11月25日㈮
○会　場　吉川市立南中学校
○授業者と単元名
白幡　貴弘　３年「私たちの暮らしと経済」

(2) 西部ブロック
○期　日　平成28年７月６日㈬
○会　場　川越市立川越第一中学校
○授業者と単元名
中島　裕子　１年「古代までの日本
～大和政権の統一～」

(3) 南部ブロック
○期　日　平成28年11月２日㈬
○会　場　戸田市立笹目中学校
○授業者と単元名
久保田　紘弥　３年「わたしたちと地方自治」

(4) 北部ブロック
○期　日　平成28年10月20日㈭
○会　場　皆野町立皆野中学校
○授業者と単元名

浅見　寿文　２年「産業の発達と幕府政治の動き」

⑸　**さいたま市ブロック**

○期　日　平成28年12月14日㈬

○会　場　さいたま市立与野南中学校

○授業者と単元名

吉野山　慎　３年「私たちの暮らしと経済
～市場の働きと経済～」

⑹　**指導者**

吉川市教育委員会指導主事　田中　裕史　氏
越谷市立蒲生第二小学校校長　中台　正弘　氏
西部教育事務所教育支援担当指導主事
鈴木　茂　氏
川越市立博物館指導主事　寺内　和広　氏
戸田市教育委員会指導主事　伊藤　敏郎　氏
伊奈町立小針北小学校教頭　宮澤　好春　氏
秩父市立尾田蒔中学校教頭　井上淳一郎　氏
埼玉大学教育学部教授　大澤　利彦　氏
さいたま市立桜山中学校校長　井山　直之　氏
埼玉県社会科教育研究会長、副会長、役員

６　小学校社会科学習指導法研修会

○期　日　平成28年８月４日㈭
平成28年８月23日㈫
平成28年12月26日㈪

○会　場　埼玉大学教育学部附属小学校

○内　容　実践した事例の検討

委員長　田丸　淳哉　（川口市立青木中学校長）
副委員長　森川　哲治
（ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校長）
指導者　平岡　健　（川越市立月越小学校長）
河野　秀樹（埼玉大学教育学部附属
教育実践総合センター教授）
委　員　（41名）

７　第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会研究部会

○期　日　平成28年８月３日㈬
平成28年12月27日㈫
平成29年２月22日㈬

○会　場　埼玉大学教育学部附属小学校

○内　容　社会科の理論を構築する

大会実行委員長
田丸　淳哉（川口市立青木中学校長）
研究部長　平岡　健（川越市立月越小学校長）
研究副部長　岩本　好則（川口市立木曽呂小学校）
指導者　佐々木　清（白岡市立菁莪小学校教頭）
土橋　仁（川口市立東領家小学校）
斉藤　実（深谷市立幡羅小学校長）
笹原　秀之（さいたま市立南浦和小学校長）
岡田　大助（川口市教育委員会指導主事）
三島　公夫（さいたま市立河合小学校長）
小池　和生（川口市立芝南小学校長）
五十嵐和彦（所沢市立小手指小学校教頭）
髙田信太郎（さいたま市立辻小学校長）
笠原　健司（熊谷市立熊谷南小学校長）
竹内まゆみ（川口市立在家小学校長）
穂村　憲久（久喜市立太田小学校長）
研究主任　時森　英明（さいたま市立文蔵小学校）
委　員　（65名）

８　中学校基礎学力調査　問作・分析委員会

○期　日　平成28年７月６日㈬
７月29日㈮
８月８日㈪
10月28日㈮
11月29日㈫

○会　場　埼玉大学教育学部附属中学校

○内　容　問作・分析

委員長　豊田　正一（吉川市立南中学校長）
委員代表　林　遼平（ふじみ野市立福岡中学校）
問作・分析委員　（17名）

９　第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉大会研究部員研修会

○期　日　平成28年11月10日㈭

○会　場　川越市内３校

○内　容

社会科の授業理論及び実践の研究

実行委員長　山口　勝（深谷市立藤沢中学校長）
副実行委員長　内野　博紀（川越市立芳野中学校長）
研究部長　村田　文雄（久喜市立鷲宮中学校長）
副部長　針谷　重輝（久喜市立本町小学校長）
吉田　元（桶川市立朝日小学校長）
井山　直之（さいたま市立桜山中学校長）
研究主任　青柳　慎一（久喜市立栗橋西中学校）

＜地理的分野＞

指導者　杉田　勝（羽生市立南中学校長）
山﨑　祐一（ふじみ野市立福岡中学校長）

＜歴史的分野＞

指導者　鈴木　和博（さいたま市立与野南中学校教頭）
井上淳一郎（秩父市立尾田蒔中学校教頭）

＜公民的分野＞

指導者　中台　正弘（越谷市立蒲生第二小学校長）
宮澤　好春（伊奈町立小針北小学校教頭）

委　　員　(34名)

10　研究刊行物

⑴　会誌38号

おもな内容を、講演会記録、研究発表大会要旨・関ブロプレ大会要旨、基礎学力問題、教室の声、一年間のあゆみ（活動報告）として編集した。会誌は県内教育関係機関に送付し、同時に本研究会の理事を通じて、県内の全公立小・中学校に配付した。

11　その他

⑴　全国大会・関東ブロック大会

＜小学校＞

第54回全国小学校社会科研究協議会研究大会　名古屋大会
○期　日　平成28年10月20日㈭・21日㈮
○主　題　「ともに生き合う社会を目指す子どもたちの社会科学習～協働から参画を志向して～」
○会　場　名古屋市立白島小学校　他２校
　助言者　渡邊　　勤（羽生市立羽生南小学校長）
　司会者　小島　　敏（羽生市立手子林小学校）
　提案者　田島　直樹（加須市立田ヶ谷小学校）

平成28年度全国小学校社会科研究協議会研究大会　香川大会
○期　日　平成29年２月９日㈭・10日㈮
○主　題　「『どのように学ぶのか』の資質・能力を育て、社会科の魅力を創る教育」
○会　場　観音寺市観音寺小学校　他１校
　助言者　金銅　　孝（さいたま市立与野八幡小学校長）
　司会者　小林孝太郎（さいたま市立春野小学校）
　提案者　作田　　丞（さいたま市立柏崎小学校）

＜中学校＞

第49回全国中学校社会科教育研究大会　岡山大会
○期　日　平成28年11月17日㈭・18日㈮
○主　題　「生きる力を培い、未来を創る社会科学習」
　～自らの学びを見つめる学習活動から～
○会　場　岡山コンベンションホール　他２校
　メルパルク岡山・ピュアリティまきび

第34回関東ブロック中学校社会科教育研究大会　神奈川大会
○期　日　平成28年11月４日㈮
○主　題　「社会の中で生きる力を身につけることができる生徒の育成」
　～学び合いと社会科的な見方・考え方を軸に～
○会　場　相模原南市民ホール
　相模原市大野南中学校　他２校

⑵　役員一覧

会　長　田丸　淳哉（川口市立青木中学校長）
副会長　豊田　正一（吉川市立南中学校長）
　　森川　哲治（ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校長）
　　清水　健治（川口市立鳩ヶ谷小学校長）
　　山口　　勝（深谷市立藤沢中学校長）
　　笹原　秀之（さいたま市立南浦和小学校長）
幹　事　北川　智之（埼玉大学教育学部附属小学校）
　　矢島　弘一（埼玉大学教育学部附属小学校）
　　岩田　信之（埼玉大学教育学部附属小学校）
　　二瓶　　剛（埼玉大学教育学部附属中学校）
　　齊藤耕太郎（埼玉大学教育学部附属中学校）
　　歌代　圭介（埼玉大学教育学部附属中学校）

Ⅲ　今後の課題

過去の研究大会で得た研究の成果と課題を活かし、平成29年度の関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉大会、平成30年度の全国小学校社会科研究協議会研究大会埼玉大会に向けて、活動に取り組んでいる。研究の人的・物的なネットワークを広げ、研究を進めていきたい。

また、理事研修会における諸研修、ブロック別授業研究会、地域学習研修会、研究発表大会等をこれからも継続して実施し、研究に取り組んでいきたい。今後も持続可能な形で計画的・組織的に進めていく。

今後も研究や実践を重ね、これからの社会科教育について、その成果を構築していきたい。

4　算数・数学教育

埼玉県算数数学教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

学ぶ楽しさを味わう算数数学の学習をめざして、学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材研究を深め、指導内容の系統を明らかにし、算数（数学）的活動を重視した学習指導が展開できるようにする。そのとき、児童生徒の学習意欲を喚起し、数理的な処理のよさや数学的な見方や考え方のよさに気付き、活用できるよう学習過程や指導の工夫に努め、指導と評価の一体化を図る。

Ⅱ　活動状況

1　小学校（主なもの）

⑴　総務部活動状況

①　埼玉県算数数学教育研究会役員研修会

・平成28年６月３日㈮　埼玉大附属中

・平成27年度事業報告、同決算報告

・平成28年度役員について

・平成28年度事業計画、同予算案　審議

・研究発表

「数学的思考力・判断力・表現力を育て学び合える授業を考える　－自分の解決活動をきちんと説明できる児童の育成－」

嵐山町立菅谷小学校　　市川　わかゆ　氏

②　第98回全国算数・数学教育研究（岐阜）大会

・８月３日㈬、４日㈭、５日㈮

③　第71回関東都県算数・数学教育研究（静岡）大会

・８月10日㈬

④　研究集録の発行

平成28年度の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。今年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各小学校に１部ずつ配付した。

⑤　算数教育研究発表会

・平成29年１月27日㈮

会　場　さいたま市民会館うらわ

・講　演

「協調学習による算数授業の展開

－更なる算数的活動の実現を目指して－」

埼玉大学　松嵜　昭雄　氏

・研究発表

「生き生きと活動する心豊かな児童の育成を目指して～「なぜ」から「見つけ」、「つくり」、「いかす」算数指導の工夫～」

発表者　上尾市立大石北小学校

濁川　　究　氏

司会者　上尾市立今泉小学校

土井　新太郎　氏

「自ら学び考え、豊かに表現する児童の育成～『思考力・判断力・表現力』を高める教育課程の編成～」

発表者　さいたま市立木崎小学校

清水　武蔵　氏

司会者　さいたま市立木崎小学校

石原　裕太　氏

「基礎・基本の習得を目指す算数科指導法の研究」

発表者　吉見町立西小学校　小林　知子　氏

司会者　吉見町立東第一小学校

吉田　典正　氏

「算数科における言語活動の充実を目指して」

発表者　秩父市立荒川東小学校

小林　弘和　氏

司会者　横瀬町立横瀬小学校

髙野　敬子　氏

「基礎・基本を身に付け、考える力を育む児童の育成～わかる・できる・かかわり合う授業の実践～」

発表者　行田市立北小学校　金子　満枝　氏

司会者　行田市立荒木小学校

梅澤　　剛　氏

⑵　研修部活動状況

①　小学校算数教育研究協議会

テキスト第49集を中心に県下10地区で研究協議をした。各地区の会場校等は次のとおりである。

北足立南部 11月11日㈮　川口市立中居小学校

北足立北部 11月15日㈫　上尾市立原市南小学校

さいたま市 １月25日㈬　さいたま市立芝川小学校

入　　間 12月２日㈮　入間市立豊岡小学校

比　　企 10月20日㈭　嵐山町立菅谷小学校

秩　　父 11月10日㈭　小鹿野町立小鹿野小学校
児　　玉 11月18日㈮　本庄市立本庄南小学校
大　　里 １月25日㈬　熊谷市立成田小学校
北　埼　玉 11月９日㈬　行田市立北小学校
埼　　葛 11月９日㈬　八潮市立大曽根小学校

② 算数教育夏季研修会
・平成28年８月12日㈮
会　場　さいたま市民会館おおみや
・講　演
「全国学力・学習状況調査を活用した授業改善」
県教育局市町村支援部義務教育指導課
松永　　哲　氏
「これからの算数・数学教育を考える」
文教大学　永田　潤一郎　氏
・研究発表
「数学的思考力・判断力・表現力を育て学び合える授業を考える」
平成27年度　埼玉県長期研修教員
嵐山町立菅谷小学校　市川　わかゆ　氏

「自ら学びのびのびと表現する算数授業の研究～思考力・表現力を育成する問題解決型学習～」
平成27年度　埼玉県長期研修教員
戸田市立美谷本小学校　菊地　奈津子　氏

「学び合いを通してわかる喜びを知り、主体的に学習に取り組む児童の育成～『きずな学習』で楽しさを実感させる算数指導の工夫～」
寄居町立寄居小学校

⑶ 編集部活動状況
○算数教育研究協議会用テキスト第49集作成
「教科・教材の本質」をテーマに掲げ編集を行った。第１章では、学習指導要領の変遷と四領域の特徴から、教科・教材の本質についてまとめ、次のように示した。
１　はじめに
２　教科・教材の本質について
３　教材の本質と具体例について
４　評価と観点のその在り方について
５　おわりに
第２章では、各学年３編ずつ指導例を載せた。資料編では、付録として「指導困難な題材とその指導」を載せた。調査研究部の教員意識調査の結果から得られた題材について、過去に発刊されたテキストを参考に、手立てを示した。
〔テキストの内容〕
第１章　教科・教材の本質
１　はじめに
２　教科・教材の本質について
⑴　学習指導要領の変遷より
⑵　四領域の考察より
３　教材の本質と具体例について
４　評価と観点のその在り方について
⑴　評価の観点について
⑵　評価規準の設定と評価方法について
５　おわりに
第２章　学習指導の実際
第１学年　いくつといくつ
たしざん
ながさくらべ
第２学年　３けたの数
かけ算
三角形と四角形
第３学年　小数
円と球
ぼうグラフと表
第４学年　わり算（倍の計算）
垂直・平行と四角形
変わり方調べ
第５学年　小数のかけ算
四角形と三角形の面積
割合
第６学年　速さ
対称な図形
場合の数
資料編
「指導困難な題材とその指導」

⑷ 調査研究部活動状況
○教員の意識調査
授業改善に向けた取組の一環として、教員の意識調査を行った。調査項目については以下のとおりである。
１　職名、教職経験について
２　題材について
・指導が難しいと感じる題材
・選んだ題材の難しいと感じる理由
３　その他
・テキストの活用方法について
・算数教育夏季研修会、算数教育研究発表会の

開催について

⑸　研究委嘱校発表

委嘱校　寄居町立寄居小学校

主　題　「学び合いを通してわかる喜びを知り、主体的に学習に取り組む児童の育成～『きずな学習』楽しさを実感させる算数指導の工夫～」

期　日　平成28年11月30日㈬

①研究仮説

仮説１　学び合い活動を通して、学ぶ価値を知るという視点

「きずな学習」や算数的活動を通して、学ぶ楽しさを実感させれば、主体的に学習に取り組む児童が育つだろう。

仮説２　既習内容の価値を知り、その定着と活用を図るという視点

既習を生かす楽しさを実感させれば、基礎・基本が定着し、学習や日常の生活に活用しようとする児童が育つだろう。

②研究の内容

＜授業の流れで思考力を磨く＞

○見通しや予想を立て、課題を設定する場面で磨く思考力（推論的思考）

○自力解決する場面で磨く思考力（演繹的思考・帰納的思考など）

＜「きずな学習」（話し合い活動）で表現力を磨く＞

○話す側の学習効果

・自分が持っているイメージや考えを相手に伝える力（表現力）を高める

○聞く側の学習効果

・自分の考えが相手の説明によって感化される

○「きずな学習」の効果

・説明する機会を通して、表現する力がつく。

・自分の考えを深めるきっかけとなる。

・より良い考えに気付くきっかけとなる。

・答えや解決方法の見通しをもつきっかけとなる

・話す機会を通して、自己評価ができる。

・コミュニケーション能力や人間関係調整力を育てる。

③研究授業

１年２組　「どちらがひろい」

授業者　相馬　みどり　氏

工藤　　均　氏

４年１組　「変わり方調べ」

授業者　大濵　純一　氏

内野　里奈　氏

５年２組　「図形の角」

授業者　大久保尚郁　氏

前山　和範　氏

２　中学校（主なもの）

⑴　理事研修会

平成28年６月３日㈮

・平成27年度事業報告、会計報告、監査報告

・平成28年度役員、事業計画、予算案審議

・算数数学教育研究協議会について

・研究委嘱校発表

「個に応じた指導法の工夫

－基礎学力の定着を目指して－」

平成26・27年度　研究委嘱校

鴻巣市立鴻巣北中学校　　大塚　　浩　氏

・研修報告

平成27年度長期研修教員

朝霞市立朝霞第四中学校　　米倉　菜穂美　氏

⑵　研究委嘱校

平成28・29年度　さいたま市立泰平中学校

⑶　数学教育研究協議会用テキスト第47集作成

「主体的に問題解決する力を育む数学学習指導

－図形／全国学力・学習状況調査を基にした授業アイディア例－」

という主題を設定し、理論と実践の結び付きを図るように編集したものである。

【理論編】

○数学教育の不易を捉え直す

－数学教育におけるアクティブ・ラーニングとは－

埼玉大学教育学部　教授　二宮　裕之　氏

【実践編】

「理論編」で述べた考え方をもとに、各学年の＜図形＞領域の授業実践例を載せている。各学年で６編の実践例をまとめ、主体的に問題解決する力を育むための数学的活動の具体を示し、その活動によってどんな力を育成するのかを明示した。また、学習指導において適切に振り返る場面を位置づけ、学習活動と自己評価の一体化が図られていることを示した。

「題材について」は、主体的に問題解決する力を育む具体的な活動を学年と領域の内容に即して明確に示した。

「本時の計画」は、「学習活動」「指導上の留意

点」「評価と具体的な手立て」の３項目で、本時のねらいに示した観点について具体的に評価する場面をしぼり、生徒の反応を評価し、どのようなフィードバックが目的達成に効果的かを明らかにした。

【特集編】

「全国学力・学習状況調査を基にした授業アイディア例」では、調査概要や調査問題作成の基本理念等を再度確認し、調査問題や調査の結果を踏まえた授業づくりについてまとめた。第１学年の学習内容に当たる調査問題を取り上げ、６事例の授業アイディア例を作成した。授業ですぐに活用できるように、場面設定を工夫し、授業に即した展開にした。

⑷　数学教育研究協議会

⑶のような内容で作成された数学教育研究協議会用テキスト第47集をもとにして、県内10地区で、実践授業を通して研究協議会を実施した。

○　南部地区

・11月10日㈭　和光市立第二中学校
　授業者　和光第二中　　森下　泰廉　氏
　　〃　　小松崎　麻美子　氏

・11月29日㈫　鴻巣市立吹上中学校
　授業者　吹上中　　木村　進之介　氏
　　〃　　長谷川　隆司　氏
　　〃　　三須　浩詞　氏

○　さいたま市

・11月２日㈬　さいたま市立与野東中学校
　授業者　与野東中　　大澤　貴史　氏

○　西部地区

・10月７日㈮　入間市立野田中学校
　授業者　野田中　　武内　秀樹　氏

・11月11日㈮　ときがわ町立玉川中学校
　授業者　玉川中　　関口　裕之　氏

○　北部地区

・12月13日㈫　小鹿野町立小鹿野中学校
　授業者　小鹿野中　　小野　仁士　氏

・11月１日㈫　本庄市立本庄東中学校
　授業者　本庄東中　　柏木　祐也　氏

・10月14日㈮　熊谷市立中条中学校
　授業者　中条中　　石川　英雄　氏

○　東部地区

・10月25日㈫　羽生市立南中学校
　授業者　羽生南中　　中川　雄介　氏

・11月16日㈬　越谷市立東中学校
　授業者　越谷東中　　山口　暁之　氏
　　〃　　宮本　祐樹　氏

⑸　数学教育研究発表大会

○　平成29年２月７日㈫

○　浦和コミュニティセンター

３ヶ年任期による数学教育研究推進委員会の３年次の発表である。７つの分科会に分かれ研究主題、研究仮説、実践例、今後の課題などを発表した。

○　講演会

「次期学習指導要領の授業化で強調したいこと」
日本体育大学教授　　金本　良通　氏

○　分科会

・領　域　　図　　形
　主　題　　数学的活動を促す授業の工夫
　　－操作活動を取り入れた
　　図形教材の研究－

・領　域　　関　　数
　主　題　　表・式・グラフを相互に関連付けて
　　数学的に表現する力を高める関数指導

・領　域　　問 題 解 決
　主　題　　生徒が主体的に課題解決する授業
　　－練り上げの段階における
　　グループ活動を通して－

・領　域　　数学的な考え方①
　主　題　　数学的な見方や考え方を身に付けさせる指導の工夫
　　－数学的な考え方に
　　焦点を当てた発問－

・領　域　　数学的な考え方②
　主　題　　数学を探求する生徒の育成

・領　域　　活用・表現
　主　題　　事象を数理的に考察し表現する能力の育成を目指して
　　－数学を活用する授業の
　　実践を通して－

・領　域　　学習指導法
　主　題　　自ら学び自ら考える生徒が育つ数学指導
　　－数学的活動を通して考える
　　楽しさを味わえる授業の工夫－

⑹　数学教育会誌の発行

平成27年度における会員の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。今年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各中学校に１部ずつ配付した。

５　理　科　教　育

埼玉県理科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「理科における資質・能力の育成」

２　設定の理由及び方針

平成28年８月、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が取りまとめられ、次期指導要領の方向性が見えてきた。本研究会も次期学習指導要領の方針を見据えつつ、これまで理科が大切にしてきた問題解決を基盤とした授業の充実を一層図っていく必要がある。

今回の改訂では、「資質・能力」が「個別の知識や技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に整理された。また、その育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善が求められている。さらに、これまで最終的な目標であった「科学的な見方や考え方」についても捉えが変わった。今回より「理科の見方・考え方」は資質・能力を育成するために働かせるものとして位置付いている。このように、これまでと異なる新たな考え方が出てきたり、これまでの言葉が再定義され、より具体的に示されたりと、今回の改訂は、学習指導要領が大きく変わることが分かる。

そこで、本研究会では、これまで大切にしてきた「自然事象への主体的な関わり」「観察・実験を通した問題解決」を基盤とし、さらに次期学習指導要領の方向性を踏まえ、その意向を具現化すべく、研究主題「理科における資質・能力の育成」を設定した。本研究会が具体的な授業の在り方、児童の姿を明らかにし、全県に発信していくことが理科教育の発展につながると考える。

上記の方針を基に、以下の５事項について調査・研究を行った。

○思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫
○理科の見方・考え方を働かせる単元構成・教材開発
○主体的・対話的で深い学びを実現させる授業改善
○理科における資質・能力の評価の方法
○ＩＣＴ機器の効果的な活用法の開発

Ⅱ　活動状況（委員会・研究会等）

１　事務局打ち合わせ会

平成28年4月9日㈯
会場：埼玉大学教育学部附属小学校
○年間事業計画・予算案の作成、及び総会準備

２　第１回常任理事研修会・総会

平成28年6月1日㈬
会場：別所沼会館
○平成27年度事業・決算報告
○平成28年度事業・予算案審議、役員の承認
○退任役員への感謝状贈呈
○講演会 演題「全国学力・学習状況調査結果と中教審の動向から見る理科授業づくり」
文部科学省　国立教育政策研究所
教育課程研究センター研究開発部
学力調査官・教育課程調査官　　山中　謙司　氏

３　理科教育研究発表会（教員の部）開催

平成28年８月23日㈫
会場：秩父市影森公民館

４　第２回常任理事研修会

平成28年８月31日㈬
会場：さいたま共済会館
○科学教育振興展覧会（中央展）の計画
○理科教育研究発表会（教員の部）の反省
○理科教育研究発表会（児童生徒の部）の計画

５　科学教育振興展覧会（中央展）開催

平成28年10月28日㈮･29日㈯･31日㈰
会場：富士見市立関沢小学校（展示・審査）
針ヶ谷コミュニティセンター（表彰式）

６　理科教育研究発表会（児童生徒の部）開催

平成29年２月10日㈮
会場：さいたま市青少年宇宙科学館

７　第３回常任理事研修会

平成29年２月22日㈬
会場：別所沼会館
○科学教育振興展覧会（中央展）の反省
○理科教育研究発表会（児童生徒の部）の反省
○平成29年度の活動計画について
○講演会 演題「次期学習指導要領の動向とこれからの理科教育」
文部科学省　初等中等教育局　教育課程課
教科調査官　　鳴川　哲也　氏

Ⅲ　研究内容

１　小学校理科指導法研究委員会

今年度は、昨年度に引き続き『「活用」を重視した理科授業の工夫』をテーマとして研究を進めてきた。活用に関する問題の４つの枠組み（適用・分析・構想・改善）のうち、今年度は適用・改善に重点を置き、理科授業を通して活用する力が付くための手立てを、指導と評価の両面から追究し、実践を行った。今後は、実践を基に原稿の検討を行い、実践事例集としてとりまとめていく。

＜構成委員＞
顧　　問　下妻　淳志　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
　　紺野　雅弘　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委 員 長　谷口　正夫　川口市立神根中学校長
副委員長　荻原　　章　行田市立西小学校長
＜委　　員＞
川口　石山　和之　　蕨　　松尾　晃宏
草加　鈴木　　実　　朝霞　小笠原史樹
鴻巣　丸岡　祐介　　上尾　野澤　友裕
さいたま　新海　智哉　　さいたま　田中　　麗
入間　伊藤あやこ　　入間　宮原　義房
比企　鹿山　　泰　　秩父　黒沢　恵理
児玉　清水由紀子　　大里　金井　大季
北埼　斉藤　貴司　　埼葛　小林　正樹
埼葛　佐久間聡子　　埼葛　佐藤　真晴
埼葛　野本　大介
幹事　杉山直樹　塩盛秀雄　肥田幸則（埼大附小）

２　中学校指導法研究委員会

今年度は、各教科書で掲載されている観察・実験のうち、扱うのに難易度の高い教材やその観察・実験方法を再考し、工夫点を探るといった研究に特化して取り組んだ。物理・化学・生物・地学の４分野における研究および実践から得られた成果をまとめ、「よりよい指導をめざして」に掲載する。

＜構成委員＞
顧　　問　下妻　淳志　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
　　紺野　雅弘　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委 員 長　谷口　正夫　川口市立神根中学校長
副委員長　落合　啓志　伊奈町立伊奈中学校長
＜委　　員＞
川口　大澤やよい　　入間　矢島　啓子
蕨　　松村　梨沙　　比企　三村　尚志
草加　本田　光平　　秩父　田之上大輔
朝霞　丸山　夏実　　児玉　新井　悠平
鴻巣　遠藤　裕貴　　大里　中山　亜弓
上尾　市川　貴裕　　北埼　増山　雄也
さいたま　塚原　益夫　　埼葛　牛島　健一
さいたま　大嶋　陽介
幹事　島田直也　山本孔紀　伊藤悠昭（埼大附中）

３　小学校理科ICT活用研究委員会

今年度は、昨年度に引き続き『「活用」を重視した理科授業の工夫』をテーマとして研究を進めてきた。活用に関する問題の４つの枠組み（適用・分析・構想・改善）のうち、今年度は適用・改善に重点を置き、タブレット端末やデジタルカメラなどのＩＣＴ機器を効果的に取り入れながら理科授業を通して活用する力が付くための実践を行った。今後は、実践を基に原稿の検討を行い、実践事例集としてとりまとめていくとともに、埼玉県理科教育研究会のホームページにて実践事例を紹介していく。

＜構成委員＞
顧　　問　下妻　淳志　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
　　紺野　雅弘　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委 員 長　谷口　正夫　川口市立神根中学校長
副委員長　荻原　　章　行田市立西小学校長
＜委　　員＞
川口　植竹　　剛　　蕨　　土橋　賢典
草加　山内さくら　　朝霞　中山　　亮
鴻巣　山谷　修平　　上尾　阿久津直人
さいたま　高野　智大　　さいたま　高澤　玲子
入間　梅津　健志　　比企　鎌田　健志
秩父　白砂　修司　　児玉　田島　晴彦
大里　中嶋　史和　　北埼　小島　伸介
埼葛　奥澤　智志　　埼葛　松本　千春
埼葛　松永　　愛　　埼葛　阿部　孝洋
幹事　杉山直樹　塩盛秀雄　肥田幸則（埼大附小）

４　中学校理科基礎学力調査研究委員会

中学校３年生を対象に、生徒のつまずきを把握し、学習指導に役立てることを目的として実施した。本年度は２年生までに学習した内容から基礎的・基本的な内容について出題し、「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」の４観点をねらいとして、17名の委員の先生方が物理・化学・生物・地学の各分野に分かれて問題作成にあたった。調査問題は10月より県内30校で実施、3,152名の申し込みがあった。11月に各校から返送された結果を基に戸田支部の先生方を中心に報告書を作成、1月にＨＰに速報を掲載し、２月に「よりよい指導をめざして」を刊行する。

＜委員構成＞
顧　　問　下妻　淳志　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
　　紺野　雅弘　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委 員 長　谷口　正夫　川口市立神根中学校長
副委員長　落合　啓志　伊奈町立伊奈中学校長
担当支部長　布施　人志　戸田市立戸田第一小学校長
＜委　　員＞
蕨　　成塚　奨馬　　蕨　　山岸真木子
蕨　　谷口志緒里　　蕨　　目黒　　敦
川口　中田　智博　　草加　宮崎　明彦
鴻巣　村岡　和徳　　上尾　坂田　昴也
さいたま　加茂　誠大　　さいたま　石井亜友美
入間　矢部　暁大　　比企　三橋　匠翔
秩父　長谷河健志　　児玉　田村　陽美
大里　町田　典洋　　北埼　細田　敏之
埼葛　徳久進之介

幹事　島田直也　山本孔紀　伊藤悠昭（埼大附中）

Ⅳ　研究委嘱校

1　春日部市立八木崎小学校　（校長　福原　秀晴）

⑴　期　　日　平成28年11月10日㈭

⑵　研究主題

『思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業方法の工夫　～一人一人が主体的に取り組む言語活動の充実を目指して～』

⑶　単元・授業者

第４学年３組「水の３つのすがた」

岡田　喜博　教諭

第６学年４組「水溶液の性質」

新江　達矢　教諭

⑷　講　　演

講演題目「アクティブ・ラーニングをどう進めていくか」

講　師

埼玉大学名誉教授・

国際学院埼玉短期大学学長補佐　清水　　誠　氏

⑸　指 導 者

春日部市教育委員会教育長	植竹　英生
春日部市教育委員会学校教育部学務指導担当部長	川崎　信雄
春日部市教育委員会学校教育部学務指導担当次長兼指導課長	柳田　敏夫
春日部市教育委員会学校教育部教職員担当課長	大野　明彦
春日部市教育委員会学校教育部指導課担当課長兼教育相談センター所長	加藤　大二
春日部市教育委員会学校教育部指導課指導担当主幹	三浦　　力
春日部市教育委員会学校教育部指導課指導担当主幹	佐山　宏樹
春日部市教育委員会学校教育部指導課教職員担当主幹	小野　　誠
春日部市教育委員会学校教育部指導課指導主事	秋山　法之
春日部市教育委員会学校教育部指導課指導主事	石川　和明
春日部市教育委員会学校教育部指導課指導主事	山本　智英
春日部市教育委員会社会教育部社会教育課指導主事	鷲林　潤壱
春日部市教育委員会社会教育部スポーツ推進課指導主事	花車　進矢

2　越生町立越生小学校　（校長　竹田　聡）

⑴　期　　日　平成28年11月22日㈫

⑵　研究主題

『小中一貫教育を見据え、
児童の思考力・表現力を高める指導法の研究』

⑶　単元・授業者

４年２組　水のすがたと温度　小林さおり　教諭

５年３組　物のとけ方　　岩田　永遠　教諭

６年３組　てこのはたらき　　原　　健史　教諭

⑷　指 導 者

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　下妻　淳志　氏

⑸　講　　演

演題「これからの理科教育について
～越生小学校の実践を踏まえて～」

講師

国立教育政策研究所 学力調査官・教育課程調査官

山中　謙司　氏

Ⅴ　理科教育研究発表会

1　教員の部

⑴　日　時　平成28年８月23日㈫

⑵　会　場　秩父市影森公民館

⑶　指導者

埼玉大学	小倉　　康　氏
埼玉大学	中島　雅子　氏
県教育局義務教育指導課	下妻　淳志　氏
さいたま市教育委員会	佐久間貴弘　氏
県教育局北部教育事務所	齋藤　健一　氏
県教育局北部教育事務所秩父支所	小泉　貴寛　氏
埼玉県理科教育研究会	
	谷口　正夫　　青木　隆志
	久米　正美　　落合　啓志

⑷　担　当　秩父支部（支部長　古田　秋吉）

⑸　発表テーマ・発表者一覧

ア　小学校の部

①科学的な思考力や表現力を育てる理科の授業づくり

深谷市立藤沢小学校　　野村　真司

②授業効果を高める指導法について

思考の流れを可視化するフローチャートの効果的な活用

狭山市立狭山台小学校　　山田　賢吾

③理科をよりわかりやすくするための児童間の話し合いを促進する手法の開発

滑川町立月の輪小学校　　島田　広彦

④客観的根拠に基づき多様な視点から考え，判断する力の育成を目指した実践研究

小学校第５学年「もののとけ方」を事例に

羽生市立須影小学校　　柿沼　宏充

⑤授業効果を高める指導法について

現象を結び付けて表現する能力の育成

坂戸市立坂戸小学校　　清水　　岳

⑥論理的思考力を育成する役割分担に基づいた話し合いを通して

川越市立川越小学校　　中村　久恵

⑦見えない自然現象の理解を助けるための指導法の工夫

全員体験と具体化による共通理解で指導の効果を高める授業実践

桶川市立桶川東小学校　　星野つばさ

⑧自然を主体的に調べる授業の工夫

小中連携を活用した理科教育

越谷市立川柳小学校　　関根　達也

⑨学習を実生活に結びつける指導の工夫

「生活と結びつける時間」を生かして

草加市立草加小学校　　古卿　　聡

草加市立新里小学校　　山岸　宏美

イ　中学校教員の部

①ユニバーサルデザインを意識した授業づくり
学習意欲の向上を目指して
秩父市立吉田中学校　長谷川隼也
②考え方の視点を明確にした学力向上の取り組み
美里町立美里中学校　本庄　秀行
③ＯＰＰＡを活用した中学校理科の学習指導と評価の工夫
深谷市立上柴中学校　大澤　豪人
④理科教育におけるアクティブ・ラーニングの実践及び効果の検証
行田市立南河原中学校　坂本　祐基
⑤思考力・表現力を高める指導法の研究
ふじみ野市立大井中学校　吉良　悟
狭山市立入間川中学校　上村　誠司
⑥科学的思考力向上を促進する指導法の検証
上尾市立西中学校　市川　貴裕
⑦視覚的・体感的情報を取り入れたホワイトボードの活用が概念獲得に及ぼす効果
さいたま市立美園中学校　管野　敬之
⑧小・中の系統立てした理科教育の実践
ＣＳＴ（コアサイエンスティーチャー）としての取り組み
川口市立安行東中学校　川島　慎也

２　児童生徒の部

⑴　期　日　平成29年２月10日㈮
⑵　会　場　さいたま市青少年宇宙科学館
⑶　指導者　埼玉大学教員　他

Ⅵ　科学教育振興展覧会

１　地区展

⑴　期間・会場　9月30日㈮～10月18日㈫
（県下10会場　各３～4日間）
⑵　出品数 1,786点（小・中）
⑶　優秀な作品（小・中・高　110点）中央展へ

２　中央展

⑴　期間・会場　10月28日㈮、29日㈯、31日㈪
富士見市立関沢小学校（展示・審査）
針ヶ谷コミュニティセンター（表彰式）
⑵　出品数　小・40点　中・40点　高・30点
⑶　審査員
埼玉大学教育学部
教授　金子　康子　岡本　和明
准教授　小倉　康　大向　隆三　松岡　圭介
日比野　拓
埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課 指導主事
櫻田　忍　氏
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事
下妻　淳志　氏
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課 指導主事
佐久間貴宏　氏
埼玉県教育局西部教育事務所 指導主事
櫻井　誠　氏
富士見市教育委員会学校教育課 指導主事
大竹　宏治　氏
埼玉県理科教育研究会 副会長
石田　耕一　氏
埼玉県理科教育研究会 副会長
荻原　章　氏
埼玉県高等学校理化研究会 会長
八木橋　勉　氏
埼玉県高等学校生物研究会 会長
井上　正美　氏
⑷　受賞作品
◎埼玉県知事賞
・あさがおのふしぎ６　朝顔のつぼみと睡眠時間
小川町立みどりが丘小学校　中村　早紀
・紅葉でpH指示薬をつくる研究
羽生市立西中学校　科学部
渡沼　心優　他７名
・二次元格子の欠陥による回折像への影響
県立不動岡高等学校　由元　美凪
◎埼玉県議会議長賞
・進め！ホバークラフト
上尾市立大石小学校　中村　明日香　他５名
・見えない世界の住人－ケラの生態を暴け！！－
熊谷市立三尻中学校　南　亘紀
・植物病原性糸状菌に有効な微生物由来農薬の開発
県立熊谷西高等学校　有馬　樹　他４名
◎埼玉県教育長賞
・高く長く遠くまでとべ！！とんぼオリンピック
久喜市立久喜小学校　平原　愛美
・災害に強い家の研究　PART３
－マンションに有効な筋交いを探る－
川越市立砂中学校　小池　智与　舟木　美波
・ミミズと月の関係性～出現と月齢～
県立大宮高等学校　生物部　鈴木　優仁

Ⅶ　今後の課題

課題としては次の３点が挙げられる。

理科教育研究発表会（教員の部）の発表件数は、徐々に増えているが、全ての支部から発表者が上がっているわけではなく、十分とは言えない。県内理科教員の採用枠も広がり、若い教員も増えている中で、より多くの教員が積極的に実践研究を行い、発表する環境を整えていきたい。

次期学習指導要領に向けて、情報収集と具体的な指導法の研究が急務と言える。本研究会から新たな理科教育を発信できるよう、各種委員会で研究を深めたり、理事会で教科調査官の先生の講演会を開催したりするなど、研究と発信の場をより確保していく必要がある。

さらに理科教育研究会の事業についても見直していく。今年度は、理事会において講演会を企画した。各事業について軽重をつけながら、運営面での見直しを行い、よりよいものにしていく必要がある。

６　音　楽　教　育

埼玉県音楽教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「伝わる音楽」

～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～

２　研究主題について

⑴　「伝わる音楽」について

これまでの音楽科の授業の中で、表現領域において児童生徒が思いや意図をもって音楽表現を工夫する際に、その根拠が大切にされなかったり、思いや意図と音楽表現が適切に結び付いていなかったりする学習活動が見られた。また、鑑賞領域においては、「感じ取りましょう」「味わいましょう」と知覚・感受する視点が児童生徒まかせになってしまう授業や、知覚・感受をする活動が重視されずに、教師から児童生徒に一方的に知識として教え込むような授業が行われることもあった。

つまり、音楽の様々な特性から音楽美を感得し合う「音楽の共有」が十分になされないままに、授業が展開されることが課題となっていた。

そこで、本研究では、協働的な学びを重視し、表現領域及び鑑賞領域で、児童生徒同士、教師と児童生徒が音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合うことを「伝わる」とし、「伝わる音楽」があふれて展開される授業の創造を目指すこととした。

表現領域において児童生徒が「伝わる音楽」を目指すとき、音や音楽に対するイメージを膨らませ自分なりの意図をもち、試行錯誤して表現することが大切であり、音楽表現と結び付け、そこに音楽に対する新しい価値を創造しようとする。その際、自分なりのイメージや表現意図を表すために、感性を敏感に働かせ、技能を高めながらよりよい音楽表現を求めていく。その過程は、思考・判断・表現を伴い、児童生徒の感性を豊かにしていく。

鑑賞領域においては、楽曲から音楽のよさや美しさなどについて、音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由を挙げながら言葉で表したり、その音楽が自分にとってどのような価値があるのかを明らかにしたりする活動をするとき、児童生徒は、音楽と言語を結び付けるために感性を働かせる。

こうした音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合う「伝わる」活動が、児童生徒の感性を豊かにすると考え、本主題を設定した。

⑵　「音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して」について

音楽を共有し、音楽を多角的に捉えたり、自分の感じたことを改めて捉え直したりする中で、児童生徒の音楽的感受性は豊かになる。音楽的感受性を高めたとき、児童生徒は、明確な思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽のよさや魅力をより味わって聴いたりすることにつながる。音楽活動から感得した音楽の価値を明らかにしたり、再認識したりすることを通して、本研究で目指す児童生徒の姿とは、次のとおりである。

・思いや意図をもって音楽表現を工夫し、新しい価値を創造することができる児童生徒

・音楽のよさや魅力を味わい、自分にとっての価値を見いだすことができる児童生徒

音楽的感受性、すなわち音楽に対する感性を豊かにすることは、美しいものや崇高なものに感動する心を育む上で欠かすことができないものである。また、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考えたり、共感したり価値観の違いを認め合ったりすることのできる温かい心などを育むことにつながる。

以上の理由から、本研究の副主題とすることにした。

本研究主題の下、組織の編制や活動内容等について検討しながら、全県をあげて研究に取り組んでいく。本年度は、１１月に所沢市を会場として開催された関東音楽教育研究大会埼玉大会において、小・中学校合わせて１１分科会で公開授業と研究協議、そして全体会を行った。

３　研究の方針

本連盟の研究推進に当たっては、

○役員研修会　○音楽会

○実技研修会　○研究紀要（会報）

のそれぞれの場において実施されるようにした。

昨年に引き続き、組織及び活動内容の見直しについて、実践を行った上で、成果と課題を探った。それについては以下のとおりである。

⑴　役員研修会

役員研修会は、本連盟における研究内容や方法に

ついての共通理解が図られる、研究推進において重要な研修会である。事業内容厳選にかかわる指導の下、年間３回（６月中旬、夏季休業中、２月中旬）役員研修会を開催している。

第１回役員研修会では、全体会にて、昨年度の事業報告があった。また、本年度の活動内容について計画立案、報告があり、音教連の役員が一丸となって活動する方向を提示することができた。

第２回役員研修会では、各地区からの活動報告がなされた。また、各地区に関する音楽会についての報告を行った。その後、県教育局義務教育指導課指導主事　齋藤　直美　先生を招いて講演会を開いた。その他、各部会の活動や研究委嘱に関する指導案検討等や役割分担等が活発に行われた。

第３回の役員研修会では、今年度の活動の総括として各地区活動報告を行い、来年度に向けて準備を行う予定である。また、文部科学省　教科調査官臼井　学　先生を招いて講演会を行った。

⑵　音楽会

音楽会の実施状況は次のとおりである。

〇地区音楽会を県内10地区で開催した。

〇中央大会は、例年、県南・県北の２会場にて開催しているが、本年度は、関東音楽教育研究大会埼玉大会のため、開催なし。

⑶　実技研修会

現在本連盟で実施している実技研修会は、次のとおりである。

〇県内10地区ごとに行われる研修会
（実施計画、運営は各地区に一任）

〇小学校管楽器指導に関する研修会

〇合唱指導に関する研修会

これらの研修会は、児童生徒一人一人が豊かな音楽経験を積むことができ、そのことを通して「音楽性」「豊かな感性」を確実に育てていくために、音楽教育に携わる教師の資質向上を目的として実施されるものである。このことの共通理解を図りながら、実施内容や方法について研究を進めていくようにした。

Ⅱ　活動状況

1　役員研修会

⑴　平成28年６月14日㈫

会場：さいたま市　ときわ会館

・平成27年度事業・決算及び監査報告
・平成28年度役員について
・平成28年度事業案・予算案審議
・平成28年度関東音楽教育研究会埼玉大会について　等

⑵　平成28年８月23日㈫

会場：さいたま市　プラザウエスト

・夏季地区研修会報告
・小・中学校音楽教育実技研修会の報告
・地区音楽会の計画
・平成28年度関東音楽教育研究会埼玉大会について　等
・教育講演会
講師　県教育局義務教育指導課
指導主事　齋藤　直美　先生
演題　「音楽科教育の充実を目指して」

⑶　平成29年２月８日㈬

会場：さいたま市　プラザウエスト

・地区音楽会の報告
・教育講演会
講師　文部科学省
教科調査官　臼井　　学　先生

2　音楽会

⑴　地区大会：日程及び会場

地　区	期　日	会　　場
さいたま市	11月８日㈫ 11月９日㈬	(歌) さいたま市民会館おおみや (器) さいたま市文化センター
南部・南	11月25日㈮	和光市民文化センター
南部・北	11月18日㈮	鴻巣市文化センター
西部・南	11月25日㈮	飯能市民会館
西部・北	11月１日㈫	東松山市民文化センター
秩　　父	11月18日㈮	秩父ミューズパーク音楽堂
北部・西	11月９日㈬	本庄市民文化会館
北部・東	11月９日㈬	江南総合文化会館
東部・北	11月９日㈬	パストラルかぞ
東部・南	11月18日㈮	春日部市民文化会館

＜実施委員長＞

さいたま市：　藤澤　太郎（さいたま・上落合小）
南部・南　：　磯　奈保子（川口・桜町小）
南部・北　：　新村　　出（上尾・大谷小）
西部・南　：　奥泉　　徹（入間・金子小）
西部・北　：　岡野　啓子（小川・竹沢小）
秩　　父　：　島嵜　孝夫（秩父・高篠小）
北部・西　：　戸井田　豊（神川・渡瀬小）
北部・東　：　小島　一代（熊谷・奈良小）
東部・北　：　小林　澄江（行田・須加小）
東部・南　：　鈴木　昇二（三郷・吹上小）

＜指導助言者＞

さいたま市：　清水　一司（さいたま・大砂土中）
南部・南　：　石山　大介（さいたま・高砂小）
南部・北　：　奥泉　　徹（入間・金子小）
西部・南　：　野村　真一（草加・花栗中）
西部・北　：　吉野　徳子（鴻巣・箕田小）
秩　　父　：　白井　裕一（深谷・上柴西小）
北部・西　：　新井　麻紀（上尾・鴨川小）
北部・東　：　鈴木日出彦（川口・十二月田中）
東部・北　：　横崎　剛志（越谷・大袋小）
東部・南　：　森田　恵子（草加・新田小）

３　夏季地区研修会日程、内容、会場

＜さいたま市＞

○期　日　８月17日㈬
○会　場　武蔵浦和コミュニティセンター
○講　師　筑波大学附属小学校教諭
平野　次郎　先生
・ひとりひとりが輝く音楽科授業づくり
意欲を高める、学びを深めるための指導法

＜南部・南（旧北足立南部地区）＞

川口市、戸田市、朝霞市の３地区で実施

【川口市】
○期　日　８月18日㈭
○会　場　蕨市立文化ホールくるる
○講　師　メイルコーラス北声会指導者
粟飯　原喜男　先生
キャトル　エクレール
・音楽を聴く力が身に付く楽しい鑑賞指導
・サキソフォーン　クァルテット

【戸田市】
○期　日　８月18日㈭
○会　場　戸田市立芦原小学校
○講　師　音楽教育推進協議会理事
加藤　幸平　先生
・授業に活用できるリコーダーの指導法

【朝霞市・和光市・志木市】
○期　日　８月30日㈫
○会　場　志木市立宗岡第二小学校
○講　師　川越市立山田小学校教諭
中山　尊之　先生
・歌唱指導の参観

＜南部・北（旧北足立北部地区）＞

○期　日　８月２日㈫
○会　場　北本市立中丸小学校
○講　師　合唱指導者　　金沢　智恵子　先生
・小・中学校における合唱活動の指導について

○期　日　８月17日㈬
○会　場　上尾市立鴨川小学校
○講　師　作曲家　　滝口　亮介　先生
・音楽づくり・創作の実践研修

＜西部・南（旧入間地区）＞

西部北地区と合同開催
○期　日　７月22日㈮
○会　場　坂戸市勝呂公民館
○講　師　東京学芸大学　特任准教授
石上　則子　先生
・小学校から中学校の発達段階に即した音楽づくり・創作

＜西部・北（旧比企地区）＞

西部南地区と合同開催
○期　日　７月22日㈮
○会　場　坂戸市勝呂公民館
○講　師　東京学芸大学　特任准教授
石上　則子　先生
・小学校から中学校の発達段階に即した音楽づくり・創作

＜秩父＞

○期　日　10月４日㈫
○会　場　秩父市立影森中学校
○講　師　作曲家・調布市立第五中学校　教諭
山崎　朋子　先生
・１年C組「空高く」の合唱指導
・新曲「種」「きらきら」を用いての実技研修

＜北部・西（旧児玉地区）＞

○期　日　８月４日㈭
○会　場　本庄市本庄西中学校
○講　師　群馬交響楽団　打楽器奏者
堀川　正彦　先生
・スネアドラムを中心とした打楽器の実技研修

＜北部・東（旧大里地区）＞

○期　日　８月９日㈫
○会　場　深谷市川本公民館
○講　師　東松山市立唐子小学校　教諭
長澤　久美恵　先生
・音楽に対する感性と基礎的な技能を高める小・中学校音楽科授業のポイント

＜東部・北（旧北埼玉地区）＞

○期　日　７月29日㈮
○会　場　北川辺文化・学習センター　みのり
○講　師　音楽教育推進協議会　理事
加藤　幸平　先生
・つながる学び「速度・強弱・問いと答え」
～国道共通事項１号線～

＜東部・南（埼葛地区）＞

○期　日　７月29日㈮

○会　場　松伏町中央公民館　エローラ

○講　師　前世田谷区立守山小学校　主任教諭

初山　正博　先生

・みんなで楽しく器楽合奏

○講　師　ジュニア＆コーラスRaw-Ore指導者

大槻　葉子　先生

・授業で使える歌声づくり

Ⅲ　研究

＜第58回関東音楽教育研究会埼玉大会＞

平成28年11月11日（金）

大会主題「伝わる音楽」

～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～

○第１分科会　小学校２年＜歌唱＞

「ようすをおもいうかべよう」

授業者　坂戸市立大家小学校　　川北　久子　教諭

○第２分科会　小学校５年＜歌唱＞

「曲の魅力を味わい、豊かに表現しよう」

授業者　富士見市立みずほ台小学校

熊田　玲子　教諭

○第３分科会　小学校５年＜器楽＞

「和音の美しさを味わおう」

授業者　川越市立牛子小学校　　橋本　　隆　教諭

○第４分科会　小学校４年＜音楽づくり＞

「つくって・つなげて

～旋律づくりを楽しもう～」

授業者　所沢市立小手指小学校　松長　　誠　教諭

○第５分科会　小学校６年＜音楽づくり＞

「つくった旋律を楽しく演奏しよう

～友達と音をつなげて～」

授業者　川越市立今成小学校　　松岡　訓史　教諭

○第６分科会　小学校３年＜鑑賞＞

「曲想とその変化を感じ取ろう」

授業者　日高市立高萩北小学校　毛利　優紀　教諭

○第７分科会　小学校６年＜鑑賞＞

「雅楽の特徴を感じ取り、よさや魅力を味わおう」

授業者　日高市立高麗川小学校　蝦　真理子　教諭

○第８分科会　中学校１年＜歌唱＞

「日本の民謡に親しみ、そのよさを味わおう」

授業者　所沢市立所沢中学校　　細田　美幸　教諭

○第９分科会　中学校１年＜器楽＞

「曲の構成を感じ取り、表現の工夫をしよう」

授業者　吉見町立吉見中学校　　新井　　優　教諭

○第10分科会　中学校２年＜創作＞

「音階の特徴を生かした旋律をもとに

工夫して音楽をつくろう」

授業者　川越市立大東西中学校　水谷　　愛　教諭

○第11分科会　中学校３年＜鑑賞＞

「我が国の伝統的な音楽の魅力を味わおう」

授業者　入間市立東金子中学校　小熊　克宜　教諭

【研究演奏】

○川越市立山田小学校（合唱）

○さいたま市立高砂小学校（金管バンド）

○志木市立志木第二中学校（吹奏楽）

○合唱団トコろん

（所沢市立所沢中学校　南陵中学校

三ヶ島中学校　上山口中学校混声合唱団）

【指導者】

奈良教育大学　教授 理事・副学長　宮下　俊也　氏

信州大学　教授　齊藤　忠彦　氏

文部科学省　教科調査官　津田　正之　氏

教科調査官　臼井　　学　氏

Ⅳ　今後の課題

本連盟では、平成28年11月に、第58回関東音楽教育研究会埼玉大会を開催した。埼玉大会の成果と課題を基に、子どもたちの思考を深め、感性を磨き、より豊かな生き方につながる音楽教育の実現を目指し、研究を進めていく。

7　図画工作・美術教育

埼玉県美術教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

埼玉県美術教育連盟は創立68年を迎えた。この長きにわたる歴史は埼玉の図工・美術教育の歩みでもある。また、造形教育研究大会も第58回を迎えた。大会を通じて研究の成果が県内各学校の図工・美術教育の進展に大きな役割を果たしてきた。

本年度の造形大会は、北部ブロックを中心に開催され、夏季休業中に１日半で実施した。昨年度から夏季休業中の開催により参加者の拡大を図り、創造体験研修会の各コースを県内５地区で担当することにより若手教員の育成と題材の発展を図ることをねらいとしたが、大きな成果をあげることができた。

今後も、先輩諸氏が長年にわたって築き上げてきた実践と研究が基盤となって本県の造形教育が発展してきたことを確認し合い、時代の流れを正確に見据えて改善を図るとともに、図画工作・美術がもつ可能性を広げていきたい。

１　研究主題

「きらめく感性　つくりだす喜び
　～子どもが輝く　生き生き授業～」（３年次）

⑴「きらめく感性　つくりだす喜び」
　（めざす子どもの姿）

子どもが主体となり、意欲的に、自らの世界を豊かにひらき、新たな自分をつくりだしていくような姿を「きらめく感性」「つくりだす喜び」という言葉で表現した。

「感性」は、今回新たに加えた文言である。これは、表現及び鑑賞の活動において、子どもの感覚や感じ方などを一層重視することを明確にするために示している。「感性」は、様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものである。

子どもが、自らの感覚や感じ方、表現の思いなど、自分の感性を十分に働かせ、つくりだす喜びを味わう姿がめざす子どもの姿である。

⑵　「子どもが輝く　生き生き授業」
　（めざす授業の姿）

私たちは、子どもが輝く姿（感性を十分に働かせつくりだす喜びに溢れるような子どもの姿）が実現するような授業のあり方を深く研究し、創造していかなくてはならない。そこでめざすべき授業の姿を「子どもが輝く　生き生き授業」とした。

２　活動方針

⑴　研究テーマは、時代の要請を受けて設定する。

⑵　造形教育の広がりと発展を期すため、授業実践研究会と創造体験研修会を造形教育研究大会において年１回（１日半）夏季休業中に開催する。開催地は、県内５ブロックに分けて輪番とする。

⑶　時代や社会の変化を見据えてその要請に応える研究を推進する。

⑷　造形教育研究大会の諸準備に当たり、理事会等の期日や時間を活用し、必要に応じて大会スタッフや提案者等が連絡、相談し合う場を設ける。

Ⅱ　活動状況

会則に基づき、次の事業を行った。

５月11日㈬　役員研修会（常任理事会）
　会場：埼玉大学教育学部附属中学校
６月17日㈮　総会
　会場：さいたま市産業文化センター
６月18日㈯　関東甲信越静地区造形教育連合
　都県代表者会議　参加
　会場：新宿区立花園小学校
８月３日㈬～４日㈭
　第58回埼玉県造形教育研究大会
　会場：深谷市上柴公民館
　　深谷市男女共同参画推進センター
　　Ｌ・フォルテ
８月17日㈬　平成28年度身体障害者福祉のための第58回
　埼玉県児童生徒美術展覧会　中央審査会
　会場：埼玉県障害者交流センター
８月23日㈫　役員研修会（理事会）
　会場：埼玉大学教育学部附属中学校
10月22日㈯～23日㈰
　平成28年度身体障害者福祉のための第58回
　埼玉県児童生徒美術展覧会
　会場：蓮田市立平野小学校体育館
10月27日㈭　郷土を描く児童生徒美術展中央審査会
　会場：所沢市生涯学習推進センター
11月17日㈭～18日㈮
　第56回関東甲信越静地区造形教育研究大会
　神奈川大会参加

11月26日㈯～27日㈰
第51回郷土を描く児童生徒美術展
会場：坂戸市総合運動公園小体育館
１月下旬～２月上旬
第57回埼玉県小・中学校児童生徒美術展
県下10会場で開催
２月17日㈮　役員研修会（理事会）
会場：埼玉県立近代美術館
２月18日㈯～19日㈰
第57回埼玉県小・中学校児童生徒美術展
第９回中央展

Ⅲ　研究内容

１　第58回埼玉県造形教育研究大会

⑴　大会主題

「きらめく感性　つくりだす喜び
～子どもが輝く　生き生き授業～」

⑵　主旨

本連盟では、参加する教員が研修会の主体となり、子どもたちと同じ目線で、新しい授業提案や題材開発につながるような授業実践発表会や実技研修会を求めて、本大会を実施してきた。昨年度より、それまでは年２回に分けて開催していた「授業実践研究会」と「創造体験研修会」を夏季休業期間に１日半で実施した。

子どもたちが、つくりだす喜びにあふれる授業を実現したいとの思いで、子どもたちの喜びの声や輝く顔を実現するための授業提案や体験研修を企画し、後者では様々な素材をもとにした題材の表現のあり方や可能性を追求する目標に加えて、題材開発という視点だけでなく創造的な技能と創造する心を学ぶ事を重視している。分科会ごとのテーマを設定し、参加する教員がそれぞれの希望に応じて多様なコースを選択できるようにした。

⑶　主催　埼玉県美術教育連盟

⑷　後援　埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会

⑸　期日　平成28年８月３日㈬　授業実践研究会
８月４日㈭　創造体験研修会

⑹　会場　深谷市上柴公民館
深谷市男女共同参画推進センター
（Ｌ・フォルテ）

⑺　１日目　授業実践研究会

日程　受　付　　９：15　～　９：30
全体会　　９：30　～　10：00
提案①②　　10：15　～　12：30

	分科会	分科会協議題
1	素材との対話	①光と場の特徴を生かした造形遊び 「光の魔術師」 ②子どもたちが主体的・意欲的に力を発揮できるアルミホイルを用いた造形活動 「変身！！新しい自分、隠れた自分～アルミホイルで型取り、お面をつくろう～」 「コロコロキラキラココロノカタチ～和紙でつくる張り子のランプ～」
2	自己との対話	①身近な材料を使って、造形活動を楽しもう 「切ってチョキチョキ　ひねってグルリン　つなげてパッチン～紙ざらと紙コップにまほうをかけて～」 ②自己を見つめ、新たな自己を感じとり、表現する造形活動 「自然に、わたしらしく」
3	生活との対話	①自分の思いを発想力豊かに表現する実践 「～あふれる思いを　つめこんで～」 ②生活の中で使う場面をイメージして感性を働かせながら表現する実践 生活を豊かにする工芸作品 「～　だんらん　なべしき　～」
4	作品等との対話	①“自分らしく　仲間とともに” 表現と一体化した鑑賞活動 「～ようこそ～ホワイトジャングルへ～」 ②美術館と連携した鑑賞授業 「この椅子イイっす！～人に使ってもらう椅子～」

⑻　２日目　創造体験研修会

日程	受　付	９：15	～	９：45
	コース説明	９：45	～	10：00
	研修会　前半	10：00	～	12：00
	後半	13：00	～	15：30
	後片付け	15：30	～	16：00

コース		テーマ
Aコース	造形遊びⅠ	ふわふわ ～クシャクシャ　紙のミリョク ～材料をもとにした造形遊び～
		トイレットペーパーをいっぱい使って遊んでみよう。グルグル、ひらひら、ビローン、どんな世界が誕生するでしょう。デジカメを使って鑑賞方法も工夫します。
Bコース	造形遊びⅡ	光の造形遊び ～あかりのレシピＶｅｒ．２～
		光の造形遊びプロジェクトは、現代に生きる子どもたちのために開発した体験活動です。アートの世界に光と音、動きを取り入れて、幻想的な光を体感してみませんか？
Cコース	絵に表す	うつして発見 ～ウキウキ版画体験～
		版表現の可能性は無限大で楽しいものです。授業で悩んだ時に役に立つ版画の『基礎・基本』を学び、身に付けませんか。版画指導のヒントが満載の人気のコースです。
Dコース	立体に表す	紙の七変化 ～紙からはじまる生き生き授業～
		「紙」はイメージを自分の手で形にできる素敵な素材。小学校から中学校まで、授業の主役となる「紙」にスポットを当て、立体造形の様々な可能性を探ります。
Eコース	生活に生かす	心地よい音色づくり ～風を感じて～
		風が流れ込む「窓辺」にあるウィンドチャイムは、いろいろな音色やファンタジーの世界が広がります。さあ、「私の窓辺」をどんなふうに飾ったら心地よい音色を奏でられるか楽しみですね。
Fコース	鑑賞活動	体験から始まる鑑賞 ～見て、つくって、語り合おう～
		盆栽は、さいたま市が誇る日本の伝統文化の一つです。盆栽美術館から講師を招き、その深い伝統と美しさを体験。思いを作品に表し、語り合いましょう。

Ⅳ　関ブロ大会への参加

１　第56回　関東甲信越静地区造形教育研究大会
神奈川大会

⑴　大会テーマ

「感じる　つくる　生きる
～今をみつめ　明日を育む造形活動～」

⑵　期日　平成28年11月17日㈭・18日㈮

⑶　会場（全体会）関内ホール
（公開保育・公開授業・分科会）
鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園
横浜市立西寺尾小学校
横浜市立仲尾中学校
神奈川県立上矢部高等学校

⑷　日程

１日目　・都県代表者会議
・全体会
（基調提案・指導講評・講演）
・レセプション

２日目　・公開保育／公開授業
・研究協議／授業研究会
・ワークショップ／分科会／研究発表

⑸　埼玉県の発表者

発　表　者	分科会テーマ
小林　玲子 （美里町立　東児玉小学校）	「やりたい!やってみたい!」思いのままに 小学校Ａ表現⑵ 絵や立体、工作に表す みつける
牛久　智美 （加須市立　大利根中学校）	「・・・きめた。」わたしがわたしをつくるとき 中学校Ａ表現⑴⑶ 思う

Ⅴ　児童生徒美術展の開催

１　平成28年度　身体障害者福祉のための
第58回　埼玉県児童生徒美術展覧会

⑴　主催・共催

主催　社会福祉法人　埼玉県身体障害者福祉協会
共催　埼玉県美術教育連盟

⑵　地区審査

県下10会場で地区審査が行われ、入選・特選作品が選ばれた。

⑶　中央審査会

平成28年8月17日㈬埼玉県障害者交流センターで、地区審査特選作品750点の中から、特別賞の作品68点が選ばれた。

(4) 展覧会会期・会場
会期　平成28年10月22日(土)～23日(日)
会場　蓮田市立平野小学校体育館
(5) 表彰式
平成28年10月22日(土)実施

2　第51回　郷土を描く児童生徒美術展

(1) 主催・共催
主催　埼玉県校外教育協会 埼玉県
埼玉県教育委員会
埼玉県芸術文化祭実行委員会
共催　さいたま市教育委員会
埼玉県市町村教育委員会連合会
埼玉県美術教育連盟
(2) 地区審査
県下10会場で地区審査が行われ、入選作品9,254点・特選作品1,009点が選出された。
(3) 中央審査会
平成28年10月27日(木)所沢市生涯学習推進センターにおいて地区審査で選ばれた特選作品1,009点の中から、埼玉県知事賞等120点が選ばれた。
(4) 展覧会会期・会場
会期　平成28年11月26日(土)～27日(日)
会場　坂戸市総合運動公園小体育館
(5) 表彰式
平成28年11月14日(月)実施
さいたま市文化センター

3　第57回　埼玉県小・中学校児童生徒美術展

(1) 主催・共催
主催　埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会
埼玉県美術教育連盟
共催　埼玉県市町村教育委員会連合会
(2) 会期　１月下旬～２月上旬に実施
(3) 会場　県下10地区会場で開催
(4) 第９回中央展
①会期　平成29年２月18日(土)～19日(日)
②会場　埼玉県立近代美術館
③内容　平面作品100点・立体作品100点
④表彰　県知事賞
県議会議長賞
県教育委員会教育長賞
さいたま市教育委員会教育長賞
⑤表彰式　平成29年２月19日(日)　13時30分～
埼玉県立近代美術館

Ⅵ　今後の課題

図画工作・美術科として、学力の重要な要素である①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力・人間性等、そして造形的な視点でとらえた見方・考え方を重視した研究を推進していく。

また、「子どもの心」「確かな力」という観点を生かしつつ、それを実際の授業づくりに結実させるために、「受け止めよう　子どもの心」「育てよう　確かな力」「深めよう　生き生き授業」という３つの追究観点から今後も実践を深めていく。

8　保健体育教育

埼玉県保健体育研究会

本研究会は、小学校部会と中学校部会から成り立ち、互いに連絡を取り合いながら活動をしている。

以下、本年度の両部会の研究方針や活動状況について概略を報告したい。

Ⅰ　小学校部会

本部会の主な活動の中心は「県小学校体育研究協議会」である。本研究協議会は、決められた研究テーマに基づき、個人あるいは共同で研究した結果を発表し合って研究協議を重ね、より優れた体育科教育の指導法や資料を得ようとするものである。

従って、研究については実践的で、日々の指導に直接役立つものが求められている。

1　研究主題の決定

理事会を年度当初に開催し、県教育委員会の指導をいただき、どの学校にも共通した課題として次のような研究主題と三つの領域を決定した。そして、領域ごとに分科会を組織して研究協議を進めている。

2　研究主題

「運動の特性や魅力を味わわせ、体力と運動の技能を高める指導と評価の工夫」

「健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健学習の工夫」

⑴　器械運動系（鉄棒）

①　鉄棒を使った運動遊び　（１・２年）

②　鉄棒運動　（３・４年）

③　鉄棒運動　（５・６年）

⑵　陸上運動系（ハードル走）

①　走の運動遊び　（１・２年）

②　小型ハードル走　（３・４年）

③　ハードル走　（５・６年）

⑶　保健　（３～６年）

3　研究主題と方針

生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくためには、小学校段階において運動に親しむ資質や能力の基礎を確実に育成することが重要となる。

運動に親しむ資質や能力とは、運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲よく運動をすること、運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能などを指している。

これらを育てるためには、

⑴　児童の発達の段階、運動の特性や魅力に応じて指導を工夫し、運動の楽しさや喜びを味わわせることができるようにする。

⑵　児童に身に付けさせたい具体的な内容を明確にし、指導内容の確実な定着を図ることができるよう指導と評価を的確に行い、できる喜びや達成感を味わわせる。

⑶　学習規律の確立を図り、助け合い、励まし合い、教え合い、高め合う学習集団を育て、人間関係は温かく、学習は安全で効率的な授業が行えるよう努めることが重要である。

保健領域については、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を実践的に理解することを通して、自らの生活行動や身近な生活環境における学習課題を把握し、改善することができる資質や能力の基礎を培うことが重要となる。

以上のことから、平成28年度の研究主題を「運動の特性や魅力を味わわせ、体力と運動の技能を高める指導と評価の工夫」及び「健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健学習の工夫」とした。そして、今年度の研究領域は、「器械運動系（鉄棒）」、「陸上運動系（ハードル走）」、「保健」とした。

4　活動状況

⑴　資料交換会

研究協議会の参会者に他地区の研究資料を事前に配付することにより、研究を深め、よりよい協議ができるように行っている。

⑵　指導者・司会者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするために行っている。

⑶　研究協議会

協議会においては、意見交換や協議が充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（９分科会）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

⑷　指導者

○　県教育局県立学校部保健体育課指導主事

○　県教育局教育事務所指導主事

○　県総合教育センター指導主事

○　市町村教育委員会指導主事

○　県小学校体育連盟役員

５　研究の視点

本年度は、各運動領域の次のことに視点を当てて研究を進め、協議する。

⑴　器械運動系（鉄棒）

「鉄棒を使った運動遊び」は、いろいろな動きに楽しく取り組んで、自分の力にふさわしい動きを身に付けたときに喜びを味わうことのできる運動である。

学習指導では、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転などの運動遊びを楽しく行えるようにするとともに、基本的な動きができるようになったり、動き方を工夫したりすることが課題になる。児童が多様な動き方や遊び方をイメージできるように図で掲示したり、友達の良い動きを見付けさせたり、児童が創意工夫した動きを評価したりすることが必要である。また、器械運動と関連の深い動きを、意図的に取り組ませ、基礎となる感覚を身に付けさせることが大切である。

「鉄棒運動」は、技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

学習指導では、一人一人の児童が自己の能力に適した技に取り組んだり、その技がある程度できるようにしたりすることが課題となる。すべての児童が技を身に付ける喜びを味わうことができるよう、自己の技能の程度に応じた技を選んだり、課題が易しくなるような場や補助具を活用して取り組んだりすることが大切である。また、一人一人が自己の課題の発見と解決に向けて主体的、協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）が行えるよう指導することが大切である。

⑵　陸上運動系（ハードル走）

「走の運動遊び」は、仲間と競い合う楽しさや、調子よく走る心地よさを味わうことができる運動である。また、体を巧みに操作しながら走るなどの動きを身に付けることもできる。

学習指導では、走る動き自体の面白さ・心地よさを引き出す指導を基本にしながら、どのような力を持った児童においても競走（争）に勝つことができたり、意欲的に運動に取り組むことができたりするように、楽しい活動の仕方や場の工夫をすることが大切である。

「小型ハードル走」は、小型ハードルを走り越す運動で、体を巧みに操作しながら、合理的で心地よい動きを身に付けるとともに、仲間と速さを競い合ったり、自己の目指す記録を達成したりすることの楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

「ハードル走」は、合理的な運動の行い方を大切にしながら競走（争）や記録の達成を目指す学習活動が中心となるが、競走（争）では勝敗が伴うことから、できるだけ多くの児童に勝つ機会が与えられるように指導を工夫することが大切である。

一方、記録を達成する学習活動では、自己の能力に適した課題を発見し、解決することができるよう、主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）が行えるよう指導することが大切である。

⑶　保健

保健については、自他の生命を尊重するとともに、健康的な生活行動や習慣を身に付け、生涯にわたって健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、小学校においては、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な事項で構成し、「毎日の生活と健康」「育ちゆく体とわたし」「心の健康」及び「けがの防止」「病気の予防」の５つの内容がある。

指導に当たっては、学習のねらいと内容を明確にするとともに、児童の発達の段階や生活体験等を十分に踏まえ、効果的な指導時期を設定したり、児童がより実践的に理解するために主体的・協働的な学習（アクティブ・ラーニング）ができるよう指導方法を工夫したりすることが重要である。

６　研究の推進

⑴　県小学校体育連盟各支部においては、必ず２領域（「器械運動系」「陸上運動系」）の研究に取り組む。なお、「保健」に取り組む支部は「器械運動系」「陸上運動系」のどちらかを合わせて２領域とすることができる。

⑵　学校内・地域のグループ、支部等で組織的に取り組むことが望ましい。

⑶　研究対象学年は、器械運動系と陸上運動系は全学年、保健は第３～６学年の中から選ぶ。

⑷　研究仮説をもとに具体的な単元の学習指導計画を作成し、授業を実践して結論を導くようにする。

⑸　研究の結果については、単元の目標と評価規準に照らし合わせた指導の成果を踏まえ、児童の具体的な変容（数値等）を示して考察を進め、まとめるようにする。

７　今後の課題

○　県の体力向上施策や課題となっている体力を踏まえたさらなる研究の推進。

○　本研究協議会後、各地区で行われている報告会の確保と内容の充実。

Ⅱ　中学校部会

本部会の主な活動である「県中学校保健体育研究協議会」では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校における保健体育指導の充実と一層の進展を期するため、教科保健体育の指導及び学校における体育・健康に関する指導上の諸課題から研究主題を設定し、各校の実践を通して得られた成果を持ち寄って研究協議をする。このことにより、一層充実した研究実践を進め、心身共にたくましい生徒の育成を期するとともに、指導者の資質の向上を図ることをねらいとしている。さらに、県の研究協議会に至るまでの各学校における実践、各地区での資料の作成など研究活動の充実を図る上からも重要な研究協議会である。

1　研究主題の決定

本年度の研究主題は、学習指導要領に基づく体育授業の実践を目指し、昨年度のアンケート調査の結果を参考にし、研究常任委員会で検討を加え、その話し合いでの問題点を県教育委員会・県中学校体育連盟・県保健体育研究会の三者で調整を図り、次に示すように決定された。

2　研究主題と方針

研究主題

「生徒一人一人を伸ばす保健体育指導の実践」

＜第１主題＞

学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の工夫

⑴　研究の趣旨

学習指導要領は、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する基礎を培うことを重視し、心と体をより一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要であるとしている。また、学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視し、学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し、明確に示すことで体系化を図っている。

さらに、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランス良く育てることを重視している。指導に当たっては、生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められる。

このバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価においては、観点毎の評価をバランス良く実施することが必要である。

学習評価の妥当性、信頼性等を高める取組が求められていることからも、これらを踏まえ、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定することや評価方法などの評価の計画を工夫する必要がある。

⑵　研究の観点

生徒一人一人を伸ばす授業の実践に当たっては、個々の能力、適性、興味・関心等に応じた学習指導に努めるとともに、生徒の主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の推進や、より安全に配慮した指導計画を立てることが大切である。

そのためには、生徒一人一人が自らの目標や課題を明確にし、課題を解決し目標を達成できるようにすることが重要である。

また、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

これらを踏まえて、これまでの取組を見直すとともに、改めて各学校や生徒の実態を的確に把握し、客観的で信頼できる評価規準の設定や創意工夫した評価方法などの評価の計画について研究する。

⑶　研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、学校や生徒の実態に応じた指導と評価の一体化について研究協議を行う。

＜第２主題＞

ダンスの特性に応じた効果的な学習指導の工夫

⑴　研究の趣旨

ダンスは、イメージをとらえた表現や踊りを通した交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動であり、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

第１学年及び第２学年では、「イメージをとらえた表現や踊りを通した交流ができるようにする」ことをねらいとし、第３学年では、「感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表ができるようにする」ことを学習のねらいとしている。

学習指導要領の趣旨に基づき、生徒一人一人の自発的・自主的な運動への取組を引き出し、体力と運動技能を高めるとともに、運動の特性や魅力にふれる楽しさや喜びを味わわせるための学習指導の工夫をする必要がある。

⑵　研究の観点

生徒一人一人を伸ばす授業の実践に当たっては、個々の能力、適正、興味・関心等に応じた学習指導に努めるとともに、生徒の主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の推進や、より安全に配慮した指導計画を立てることが大切である。

そのためには、生徒一人一人が自らの目標や課題を明確にし、課題を解決し目標を達成できるようにすることが重要である。教師が生徒の課題に対して適切な資料を準備したり、学習を支援する用具の工夫や適切な言葉かけ等を行ったりすることが求められる。

これらのことを踏まえて、これまでの取組を見直すとともに、あらためて各学校や生徒の実態を的確に把握し、生徒一人一人を伸ばす「ダンス」の学習指導について研究する。

⑶　研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、生徒一人一人を伸ばす「ダンス」の学習指導について研究協議を行う。

＜第３主題＞

健康で安全な生活を営むための実践力を育てる保健学習の工夫

⑴　研究の趣旨

「保健」については、個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることをねらいとしている。

中学校においては、主として個人生活における健康・安全について、科学的に思考し、理解できるようにすることを目指している。

このことは、発達の段階を踏まえて、心身の健康の保持増進に関する内容を、単に知識や記憶としてとどめるだけではなく、生徒が現在及び将来の生活において、健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断の下に意志決定や行動選択を行い、自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力の基礎を育成することを目指したものである。

⑵　研究の観点

小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、小学校における「身近な生活において実践的に理解する」という指導内容や学習状況を把握した上で、子どもたちの発達の段階を踏まえて、指導内容を明確にすることが大切である。

このため、学習指導要領及び解説から学習内容、指導上の配慮事項、学習方法などを充分読み取る必要がある。

学習指導の展開では、基礎的・基本的な知識を習得した上で、思考力・判断力を育成するために知識を活用する学習活動を授業展開の中に取り入れていくことが重要である。例えば、事例などを用いたディスカッション、ブレインストーミング、心肺蘇生法などの実習、実験、課題学習、また、必要に応じてコンピュータ等を活用したり、専門性を有する教員の参加・協力を推進したりするなど、多様な指導方法の導入が効果的である。

このように、生徒の興味や関心を生かし、主体的に活動させ、思考や判断が働くような授業づくりが求められている。そのため、指導方法や評価方法を工夫した効果的な保健学習の在り方について研究する。

⑶　研究協議の方向

研究の観点に基づき、学校や地域における授業実践を通して、実践力を育てる学習指導の在り方について研究協議を行う。

３　活動状況

⑴　資料交換会

研究協議会の参会者に他地区の研究資料を事前に配付することにより、研究を深め、より良い協議ができるようにするために行っている。

⑵　指導者・司会者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするために行っている。

⑶　研究協議会

分科会においては、意見交換や協議することが充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（各３グループ）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

⑷　指導者

○　県教育局県立学校部保健体育課指導主事
○　県教育局教育事務所指導主事
○　県総合教育センター指導主事
○　市町村教育委員会指導主事

４　今後の課題

○　県の体力向上施策や課題となっている体力を踏まえたさらなる研究の推進。
○　小学校や高等学校の研究協議会と連携を図るなど研究協議会のさらなる充実。

９　英　語　教　育

埼玉県英語教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「児童生徒一人一人が積極的に活動し、コミュニケーション能力を培う授業の創造」

２　主題設定の理由及び方針

これからの学校教育においては、「確かな学力」の向上と「心の教育」の充実を図り、自ら課題を見付け、自ら考え、問題を解決していく資質や能力などの「生きる力」を育むことが求められている。この視点から日々の実践において、児童生徒一人一人が積極的に活動できる授業の創造がきわめて重要な課題となる。

英語教育においては、国際社会の一員として世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行える資質・能力の基礎を養う観点から、コミュニケーション能力を育てる新たな授業の構築が重要な課題であると考えられる。

そこで、言語の実際の使用場面に結びついたコミュニケーション能力を身に付ける活動に積極的に取り組ませるために、年間指導・評価計画を作成し、指導過程や学習形態などを工夫する。そして、児童生徒一人一人の活動を支援し、適切に評価し、指導に生かすことで主題に迫る方針である。

Ⅱ　活動状況および研究内容

１　行事計画

６月７日㈫　理事・幹事会
（年間の方針、総会提出議案等の審議）
於：横瀬町立横瀬中学校

６月７日㈫　総会・授業研究会
（決算、予算、役員選出、事業報告、事業計画についての審議及び研究協議）
於：本庄市立本庄東中学校
本庄市立本庄東小学校

６月14日㈫　学力調査問題作成委員研修会
（問題作成に当たっての研究協議①）
於：さいたま市民会館うらわ

６月17日㈮　関ブロ都県代表者会
（関中英教理事会研修会）
於：川崎市

７月28日㈭　専門部研修会
（問題作成に当たっての研究協議②）
於：埼玉大学附属中学校図書館

７月31日㈰　教員研究発表会準備会
（教員研究発表会に向けての準備及び研修会）
於：浦和コミュニティセンター

８月４日㈭　教員研究発表会
（県下英語科教員等による研究発表・研修等）
於：浦和コミュニティセンター

８月５日㈮　専門部研修会
（問題作成に当たっての研究協議③）
於：埼玉大学附属中学校図書館

８月10日㈬　学力調査問題作成委員研修会
（問題作成に当たっての研究協議④）
於：浦和コミュニティセンター

８月17日㈬　専門部研修会
（問題作成に当たっての研究協議⑤）
於：埼玉大学附属中学校図書館

８月18日㈭　学力調査問題作成委員研修会
（問題作成に当たっての研究協議⑥）
於：さいたま市民会館うらわ

10月５日㈬　英語弁論大会準備会
（大会実施に向けての準備・役割分担）
於：坂戸市文化会館

10月12日㈬　第68回高円宮杯英語弁論大会埼玉県予選（生徒による英語弁論大会）
於：坂戸市文化会館

11月10日㈭　英語学力調査実施（全学年実施）
於：各実施校

11月18日㈮　第40回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会　神奈川大会
（授業研究、研究成果発表、講義等）
於：川崎市

12月26日㈪　専門部研修会
（結果分析をもとにした研究協議⑦）
於：埼玉大学附属中学校図書館

１月20日㈮　埼英研だより発行（広報誌の発行）
英語学力調査結果分析速報の発行

３月19日㈰　常任理事会
（年度末反省及び次年度全体研究）
於：さいたま市民会館うらわ

３月31日㈮　研究紀要発行

２　役　員

６月７日㈫に本庄市立本庄東中学校で行われた総会において、本年度の役員が次のように選出された。

・会　長　　西　　博美（熊谷・熊谷東中校長）
・副会長　　関根　栄一（本庄・本庄東中校長）
　　杉田　茂久（横瀬・横瀬中校長）
　　新井　裕則（鴻巣・赤見台中校長）
　　福島　章雄（川口・神根小校長）
　　佐藤　栄一（所沢・南陵中校長）
　　森澤　　清（坂戸・坂戸小校長）
　　小島　久和（越谷・越谷西中校長）
　　青野　　保（蓮田・黒浜西小校長）
　　湯沢　保紀（さいたま・馬宮東小校長）
　　阿久津一浩（さいたま・美園中校長）
・監　事　　柳澤登紀男（さいたま・東浦和中校長）
　　茂木　隆資（深谷・深谷西小校長）
・支部長
　さいたま市　大澤　　敬（さいたま・木崎中校長）
　北足立南部　上石　雅己（戸田・新曽中校長）
　北足立北部　長谷川　等（鴻巣・吹上北中校長）
　入　　間　新井　健一（日高・高萩中校長）
　比　　企　福島　　一（東松山・松山中教頭）
　秩　　父　宮本　典行（秩父・尾田蒔中校長）
　児　　玉　福島　　実（神川・神川中教頭）
　大　　里　新井　英和（熊谷・奈良中校長）
　北　埼　玉　竹井　章浩（行田・南河原中校長）
　埼　　葛　川島　俊明（松伏・松伏中校長）

３　専門部組織

・行事部　総会、英語弁論大会を担当
　部　長　　深須　英昭（深谷・岡部中教諭）
　副部長　　深井　祐子（草加・新栄中教諭）
　　笠原　基男（川越・名細中教諭）
・研修部　教員研究発表会を担当
　部　長　　高橋　伸行（富士見・西中教諭）
　副部長　　笠原　　俊（秩父・秩父第一中教諭）
・調査研究部　学力調査問題作成、結果分析担当
　部　長　　嶋村　　淳（さいたま・春里中教諭）
　副部長　　小山　協子（狭山・堀兼中教諭）
・広報部　研究紀要、広報誌の発行
　部　長　　政所　宏真（和光・大和中主幹教諭）
　副部長　　松本　光正（東松山・北中教諭）
・庶務部　庶務、会計等を担当
　部　長　　髙橋　太一（埼大附属中教諭）
　副部長　　蓬澤　　守（埼大附属中教諭）

４　活動の状況

⑴　授業研究会、総会
・期日　　平成28年６月７日㈫
・会場　　本庄市立本庄東中学校
　　本庄市立本庄東小学校
・日程　　12:00～13:35　受付、役員打合せ
　　13:35～14:20　公開授業（小学校）
　　13:35～14:25　公開授業（中学校)
　　14:40～15:40　研究協議
　　15:55～16:50　総会
・指導者（敬称略）
　本庄市教育委員会指導主事　　瀧澤　政明
　秩父市教育委員会指導主事　　矢口　岳人
　北部教育事務所学力推進担当指導主事川田　博樹
・来　賓（敬称略）
　本庄市教育委員会教育長　　勝山　　勉
・授業者（敬称略）
　本庄市立本庄東中学校　　関川しのぶ
　　James Spence
　　清水　克憲
　　眞尾　理民
　　岡　真理子
　本庄市立本庄東小学校　　高坂　悠太
　　Corin Thummuel
・総会
　①平成27年度事業報告
　②平成27年度決算報告
　③平成28年度役員選出
　④会則改正案審議
　⑤平成28年度活動方針案審議
　⑥平成28年度事業計画案審議
　⑦平成28年度予算案審議

⑵　英語学力調査

現行教育課程実施に伴う英語学力を調査して、その実態を把握し、学習活動の指針とするとともに、言語活動のあり方についての資料とすることを目的に実施しているものである。調査は、県内全域の中学生を対象とし、学年ごとに実施している。本年度の参加校数は約60校であった。実施に至る経過は以下のとおりである。

・６月14日㈫　学力調査問題作成委員研修会
　　於：さいたま市民会館うらわ
　○問題作成委員の委嘱、方針・計画・分担等についての研究協議
・７～８月　問題作成委員会　　於：各地区

○担当組織ごとに開催
１年：北埼玉　　２年：秩父
３年：埼葛　　スピーキング：調査研究部
・８月10日㈬・18日㈭
○第１・２回学力調査問題作成委員研修会
於：第１回　浦和コミュニティセンター
於：第２回　さいたま市民会館うらわ
○学力調査問題の検討及び完成
・８月28日㈰
○実音テスト録音
於：埼玉大学教育学部附属中学校
・11月10日㈭～12月12日㈪
○学力調査実施
於：各参加校
・12月26日㈪
○学力調査結果の分析
於：各担当組織
・１月13日㈮
○分析結果速報の発送

⑶　教員研究発表会

英語教育に関する個人またはグループによる研究成果を発表し、県下英語科及び外国語活動担当教員の資質の向上をねらい、開催されるものである。

・期日　　平成28年8月4日㈭
・会場　　浦和コミュニティセンター
・指導者（敬称略）
埼玉県教育委員会　義務教育指導課指導主事
竹内　徳望
さいたま市教育委員会　指導１課指導主事
加藤　英教
さいたま市立内谷中学校　主幹教諭　遠藤　敏恵
北部教育事務所　学力向上推進担当指導主事
川田　博樹
・内容
○全体研修
「2020年学習指導要領（予定）を先取りした授業実践」
東京都南区赤坂中学校
主任教諭　北原　延晃　氏
○分科会研究協議
＜第１分科会＞
『アクティブ・ラーニングの充実を図る授業の創造について～表現する喜びを味わわせる協働学習～』
秩父市立大田中学校　　島田　有子
『書くことの効果的な指導～自由英作文指導における添削と書き直しの効果～』
熊谷市立江南中学校　　野原　孝之
＜第２分科会＞
『スキットを通して深めていく、生きた英語指導』
上尾市立原市中学校　　秋場　大輔
『英語を学ぶ楽しさを感じる授業
～他者とのコミュニケーションを通して～』
上里町立上里北中学校　　石川ゆきの
『４技能のバランスを保ちながら基礎基本の定着を図る指導の工夫』
加須市立昭和中学校　　高田　冬子
＜第３分科会＞
『ICTを活用した授業の工夫』
滑川町立滑川中学校　　久保田直子
『LEAD（Learning English Abilities Developer英語教材作成支援システム）を用いて、４技能を総合的に伸ばす工夫』
三郷市立北中学校　　平林　　渉
＜第４分科会＞
『児童の意欲を高める授業づくり　～担任中心のコミュニケーション能力の育成～』
所沢市立北小学校　　石川　智美
『児童のコミュニケーションに対する意欲・関心を高める指導の工夫』
川口市立領家小学校　　角田　　潤
『児童の発達の段階に応じたグローバル・スタディ科の活動の工夫』
さいたま市立大戸小学校　　朝比奈直美

⑷　英語弁論大会

・期日　　平成28年10月12日㈬
・会場　　坂戸市文化会館
・目的　　県内中学生の英語を話す能力、聞く能力の向上を図るとともに、諸言語活動の発表の場とする。
・審査員（敬称略）
埼玉大学教授　　宇田　和子
大東文化大学教授　　静　　哲人
埼玉大学准教授　　及川　　賢
大東文化大学准教授　　淡路　佳昌
埼玉大学英語教育開発センター准教授
Leander Hughes
東京理科大学講師　　Debjani Ray
埼玉県県民生活部国際課国際交流員
Jane Hommerding

埼玉県教育局高校教育指導課国際交流員
Kelly Martin

・日程

９：00～９：30	受付
９：30～10：00	開会行事
10：00～12：20	予選の部発表
12：20～13：20	昼食・休憩
13：20～14：20	決勝の部発表
14：20～14：50	審査・休憩
14：50～15：30	閉会行事
15：30～16：00	諸連絡等

・入賞者

１位　仁科　洋志　　私立立教新座中学校
The Spirit of Japanese People

２位　市川　千瑛　　さいたま市立浦和中学校
The Secret to a Long Life

３位　池田　幸大　　新座市立第三中学校
Nothing Else Matters

４位　藤村　綾香　　所沢市立北野中学校
Normalization

５位　村上　典花　　さいたま市立浦和中学校
Star Girl

６位　メルシャンテ　アレキサンドラ
神川町立神川中学校
So Far, So Good

７位　加藤　緩凪　　さいたま市立三橋中学校
The Value of Life

８位　石坂　怜子　　川口市立南中学校
What I’ve learned from my great mentor

今年度も、質の高いスピーチの発表であった。

なお、上位３名は、高円宮杯関東甲信越大会決勝予選大会に出場した。

(5)　関東甲信地区中学校英語教育研究協議会

第40回を数えることとなった今年度は、神奈川県川崎市で開催された。本研究会からも多数の参加を得ることができ、英語教育に対する各界からの質の高い提言がなされた。概要は以下のとおりである。

①　開会行事

②　全体会

・大会主題提案

主題：「グローバル化する社会で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成」
～受信から発信へとつながる４技能の統合的な指導の工夫～

③　公開授業

川崎市立西中原中学校
川崎市立宮内中学校
川崎市立今井中学校

④　分科会

・第１分科会
「受信から発信へ　～学習形態の工夫～」

・第２分科会
「受信から発信へ　～学習内容の工夫～」

・第３分科会
「受信から発信へ　～話すことにつながる指導～」

・第４分科会
「受信から発信へ　～書くことにつながる指導～」

本研究大会において、埼玉県からは第４分科会で入間市立豊岡中学校・水谷大輔教諭が県外提案を行った。

(6)　研究紀要の発行

本年度の本会の活動の総括として以下のような内容の紀要を作成、発行するとともに、来年度以降の研究推進の基礎としたい。

○　教員研究発表会記録
○　英語学力調査全問題、解答および全学年分析結果
○　英語弁論大会経過と各部入賞者及び弁論原稿
○　総会、授業研究会記録
○　埼英研だより等

Ⅲ　今後の課題

平成32年度から順次全面実施される新学習指導要領においては、小学校では英語が正式に教科化され、中学校では英語で授業を行うことを基本とし、グローバル化に対応した英語教育改革が進められることになっている。本会の諸活動を通じ、学習内容の深化や主体的な学びの工夫等に関する研修を深め、児童生徒のみならず、県内英語科教員の資質・能力の向上を図っていきたい。

10 道 徳 教 育

埼玉県道徳教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「自己への問いかけを深め、
　　よりよい生き方を求める道徳教育」
～　多様で効果的な指導方法の改善を目指して　～

2　研究方針

小学校学習指導要領、中学校学習指導要領の一部改正が公示され、これまでの「道徳」は「特別の教科道徳」となり、平成30年には小学校が、平成31年には中学校が実施することとなる。すでに移行措置として、改正学習指導要領の一部または全部を実施することが可能であることから、全国で教科化に向けた様々な取組が始まっており、本県においても、教科化に向けた実践的な研究の一層の推進が喫緊の課題となる。

本研究会の主題「自己への問いかけを深め、よりよい生き方を求める道徳教育」は、道徳教育の根幹を正面から見据えたものである。自己への問いかけを深めることなしに、道徳教育の目標である道徳性を育成することはできない。道徳教育は自己の生き方について考えることがその中心であり、自分自身に「その生き方でいいのか」と常に問いかけることが重要である。自己に問い、自己と対話しながら生き方について考えていくこと、そのことがそのままによりよい生き方を求める道徳教育となる。

さらに、副題である「多様で効果的な指導方法の改善を目指して」を付している。今回の学習指導要領の改正に先立つ、中央教育審議会の「道徳に係る教育課程の改善等について」（答申）の中で、「特定の価値を押し付けたり、主体性をもたずに言われるままに行動するように指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」と明記されており、これからの道徳教育は、幅広く、より柔軟に工夫しながら多様性を実現することが求められている。この多様性を実現するためには、指導方法も多様で効果的であることが求められ、指導方法等の改善を目指した研究が必須になると考え、設定した。

「考え・議論する道徳」という文字がマスコミを賑わせて数年たつが、今、議論をさせるための「多様で効果的な指導方法」の研究ばかりに重きが置かれ、ともすれば「道徳科の特質」を外れてはいないかと疑問を感じるような実践も見られるようになった。本会としては、道徳教育と道徳科の目標にある「道徳性」の育成を目指し、学習指導要領を拠り所とした本質を外さない道徳科教育の研修を進めていくこと、そして、今後、文部科学省から出される指導資料等、国の動向もしっかり見据えた上で、研究を進めていくことが必要不可欠と考える。道徳教育の抜本的な改善・充実を図ることができるか否かは、取りも直さず学校現場にかかっている。道徳授業を「考える授業」「議論する授業」へと転換を図り、道徳科の授業を要としての学校教育全体を通して行う道徳教育が充実されること、そして、自立した一人の人間として人生を他者とともによりよく生きるための基礎となる道徳性が、県内各地の学校で育成されることを強く願い、研究を推進する。

3　組織・運営

⑴　理事会（総会）・専門部会・全体研究協議会

今年度当初の組織づくりと、活動方針、計画を確認・周知するとともに、全体研究協議会での道徳講話を通して、自己の研究活動を振り返り、今後を見つめる。

⑵　夏季研修会

道徳の時間の指導方法の充実を目指して、「埼玉県道徳教育教材資料集・彩の国の道徳」「さいたま市道徳教育教材資料集・みらいを拓く」に掲載されている資料を用い、低学年・中学年・高学年・中学校・高等学校各分科会に分かれて、資料分析及び指導案づくりの研修を実施している。また、「子どもの心に響く道徳授業の基礎基本を学ぼう」と題して若手教員を中心とした道徳教育の基礎基本を学ぶ分科会を開設し、研修を深めている。さらに、中央講師を招聘し、全体講演会を実施することにより、道徳教育を理論と実践の双方から学ぶ貴重な機会となっている。

⑶　埼玉県道徳教育研究会研究大会・坂戸大会

本研究会の研究の充実のため、毎年、授業研究を中心とした研究大会を実施している。大会運営に当たっては、各役員の資質向上も含めて、道徳教育の課題解決に向けた授業研究と文部科学省教科調査官等の中央講師を招聘し、道徳教育の重要性を県下に発信する。

(4)　『会報』『道徳教育研究集録』の発行・配付

本会研究活動と全県の教育委員会、各小・中学校との道徳教育研究の連携を深めるために、広報紙として会報を年１回発行する。また、道徳教育研究の充実と組織の強化、研究内容の普及のために年間の活動や研究内容、実践事例を一つにまとめた研究活動集録を作成し、希望者に斡旋する。

(5)　各研究会への参加

小・中学校別に開催される関東大会・全国大会の本会への分担要請については、本会の威信にかけて担当者を選考の上、埼玉県道徳教育の情報発信、全国の道徳教育の発展に貢献するため、積極的に派遣する。

(6)　支部活動の推進

道徳教育について、埼玉県全体の振興を図るため本会と県内各道徳教育研究会との連携を深める。その際、会則第３章第５条の旧教育事務所や政令指定都市を単位とした９支部を基本に推進する。

Ⅱ　活動状況

1　平成28年度役員

会　長

土井　　雅弘　坂戸市立入西小学校長

副会長

会田　　研司　越谷市立中央中学校長
石川　　勉　蓮田市立蓮田中学校長
梓澤　　恒夫　加須市立加須南小学校長
鴻野　　年伸　寄居町立寄居中学校長

監　事

矢作　　修一　さいたま市立中島小学校長
古川　　慶子　三芳町立三芳小学校長
利根川　勝美　吉見町立南小学校長

総務部長

堀内　　俊吾　久喜市立鷲宮西中学校長

総務部副部長

金子　　雄二　日高市立高麗小学校長
福田　由美子　川口市立仲町小学校長
石黒　真愁子　さいたま市立大門小学校長
嘉藤　　央　深谷市立常盤小学校教頭
鈴木　　和男　志木市立宗岡小学校教頭
比留間　重美　飯能市立富士見小学校教諭

授業開発部長

島方　　勝弘　越谷市立栄進中学校長

授業開発副部長

吉野　昇之介　春日部市立緑中学校長
浅見　　哲也　深谷市立藤沢小学校長
浅井　　俊朗　越谷市立平方中学校教頭
関本　　由美　杉戸町立杉戸第三小学校教頭

企画推進部長

須山　恵美子　さいたま市立文蔵小学校長

企画推進部副部長

矢作　　信行　川口市立前川小学校長
坂本　　孝子　鴻巣市立大芦小学校長
長井　　正邦　川越市立高階西中学校長
夘木　　昌宣　行田市立太田東小校教教頭
正籬　　洋子　春日部市立上沖小学校教頭
秋山　香奈子　越谷市立城ノ上小学校教諭

事務局長

藤澤　由紀夫　越谷市立大沢小学校長

事務局次長

阿部　泰次郎　白岡市立菁莪小学校長
藤間　　隆子　加須市立加須平成中学校教頭
沢口　　裕　北本市立北本中学校教諭
岸　　千里　上尾市立西小学校主幹教諭
渡邊　　純子　加須市立三俣小学校教諭

2　本年度の主な事業

(1)　平成28年度　総会・専門部会・全体研修会

①　期　日　平成28年５月27日㈮
②　会　場　さいたま市民会館うらわ
③　内　容

ア　総会（理事会）
平成27年度事業報告、会計報告審議
平成28年度事業計画、予算案審議

イ　専門部会
各専門部会活動計画審議、情報交換

ウ　全体研究協議会
講　演　北陸大学　教授
東風　安生　先生
演　題　『いま問われる「特別の教科道徳」の理解とその実践』

東風先生の御講演

【　講演の概要　】

①なぜ学習指導要領の一部改正が行われたか。

・歴史的権威に影響され、いまだに道徳教育そのものを奇異しがちな風潮がある。道徳教育の目指す理念が、関係者に共有されていない。教諭の指導力が十分でなく、児童生徒が何を学んだか印象に残らない。他教科に比べて軽んじられて、実際には他教科に振り替えられている。

→　心の教育・道徳教育の必要性

→　「特別の教科　道徳」の誕生

②なぜ領域の一つだった道徳が、教科化されたか。

・教科書、評価、免許状、すべての学校で検定教科書を使用することにより、どの学校・地域でも一定の学力（心の力）が保障される。

③一般教科ではなく、なぜ「特別の教科　道徳」なのか。

・道徳は、各教科と密接に関わることによって、成り立つ。各教科も、その根底には道徳教育がなされている。その意味において、道徳は、本来の教科の概念を越えて成り立つものである。したがって、特別の教科、スーパー教科ともいえる。

④なぜ「特別の教科　道徳」は、考える道徳なのか。

・道徳教育は「どのように社会、世界と関わり、よりよい人生を送るか」というこれからの時代に求められる資質・能力を育む。子どもたち一人一人が自らのよりよい生き方を求めるためには、多様な見方や考え方ができるようにする必要がある。そこに、道徳が考え議論する道徳科へと転換する必要性が生まれる。答えが一つでない、多様な見方や考え方ができるよう、子どもたちに考えさせる素材を盛り込んだ教材の充実、指導法の改善等が不可欠である。

⑤なぜ道徳の時間にアクティブ・ラーニングなのか。

・道徳の時間は自らの生き方を自ら考える時間である。どのように学ぶことで自ら考える力を身に付けるかを考えたとき、アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善が求められる。

⑵　夏季研修会

①期　日　平成28年８月10日㈬

②会　場　鴻巣市文化センター（クレアこうのす）

③内　容　分科会協議及び全体会（記念講演）

基礎基本部会では、「子どもの心に響く道徳授業の基礎を学ぼう」というテーマをもとにして、学習指導要領を基盤とした「心に響く魅力ある道徳授業」を柱に指導方法の様々な工夫等について具体的事例や実践ビデオを通して学びを深めた。

小学校低・中・高・中学校分科会では、埼玉県やさいたま市の道徳教育指導資料を用い、資料分析並びに指導案作成をワークショップ形式で行った。それぞれの分科会で実践的で細やかな指導があり、今後の授業実践の推進につながる有意義な時間となった。

④記念講演

講　演　上越教育大学大学院教授

早川　裕隆　先生

演　題　『これからの道徳に求められるもの』

～　役割演技の活用を踏まえて　～

【　講演の柱　】

①（道徳の教科化）をめぐる、現在の状況

②　道徳は、どう変わるのか

③　なぜ議論するのか、なぜ考えるのか

④　質の高い多様な指導方法とは

⑤　教科化の「準備」で必要なこと

ア　「なぜ教科になったか」「何をする教科なのか」ということの理解を深める。

イ　確かな指導力、授業力をつける。

ウ　教科化への体制づくりを行う。

⑶　埼玉県道徳教育研究会研究大会・坂戸大会

①　日　平成28年11月22日㈫

②　会　場　坂戸市立入西小学校

③　内　容　授業公開

④　指導講評（全体会）

埼玉県教育局県立学校部義務教育指導課

指導主事　磯山　貴則　先生

⑤　記念講演

京都産業大学　教授　　柴原　弘志　先生

演題　『道徳科の評価を視野に入れ

道徳授業をどう充実させるか』

柴原先生の御講演

【　講演の概要　】

○教科書とカリキュラムマネジメント

全体計画や年間計画をどうするのか、教材はどうするのか。　→　　子どもの見取りが大切。

教科書とそれ以外の教材とどちらを年間指導計画

に入れ込むのか。　→　実態やねらいに応じて入れ込むことが大事。これが、「特別の教科　道徳」その所以の一つ。今日のねらいの達成に効果があるかどうか。ものさしは一本だけ。吟味することが大事。

○批判的思考力

教師の中で、子どもたちに「批判的思考力」をつくるという意識が低い。「批判的思考力」とは吟味する思考力のこと。「自分は今どういう風に感じたのか、でもそれを他の人は、違うように感じたり考えたりしているのだ」という事実をしっかり知って、どういう思いでどういう主張をしているのかを吟味する力。道徳の時間に「批判的思考力」を更に意識した学習を繰り返し行っていく。

○評価について

学習指導要領では「児童生徒の学習状況や、道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする」と示されている。つまり、評定はしないということ。これまでの学習指導要領の評価と変わった部分が、「学習状況」という言葉が新しく加わったこと。道徳性については、これまでも言われてきたように、しっかり個人内評価をしていく。また、道徳は、他の教科と同質の目標設定ができない。それは一人一人の道徳性には違いがあり、その時間だけで指導が完結できないものでもあるからである。そこで一定のスパンを考えた評価が必要になる。しかしながら、道徳性については常に把握をして、指導に生かしていくことも大事である。

これからは、「学習状況」を評価して、授業改善に生かすということを大きく意識するべき。補充・深化・統合を含めて、機能しているかどうかを吟味することが大事。他の教科の指導をしていても、道徳教育の意識を全教員がもっているかどうかということ。小学校から道徳教育を意識して９か年行う。小学校では教職員一同がすべての教育活動で、中学校では教科・領域や大きなウエイトを占める部活動においても継続的に意識して道徳教育を行う。道徳的成長を学校全体で育もうと意識した教育活動の中で９か年生活した子と、あまりそんな意識がない学校を卒業した子との差は大きくなる。小学校と中学校が一貫して道徳の時間の指導に当たれれば、道徳の授業改善に役立ち、道徳の授業がより質の高いものになり、道徳性が育まれていく。

○評価意識の明確化

学習指導案は、前述のことが活かせるようになっていること、つまり、ねらいが極めて具体的で明確になっていることが大事。どういう観点から考えさせようとしているのか。どういうことに気付かせようとしているのか。或いは、どういうことに共感的理解をもたせようとしているのか。そうしたねらいをしっかり意識して授業に臨めれば、評価を意識した授業展開となる。今日のねらいの達成に、この目の前の子どもたちにとっては、どのような指導方法がよいのか、その一本の物差しを明確にしていくしかない。

○考え・議論する道徳について

他者の考え方や議論に触れ、思考する活動を通して一面的な見方から、多面的・多角的なものの見方にしていくという観点が重要である。子どもたちの様々な考え方を引き出すために、教師側は最低６つ程度、子どもの反応を予測して、発問等考えておくとよい。

評価方法の基本は、観察と言語分析ということになる。言語というのは、当然、言葉が中心となるが、必ずしも言葉だけではない。ネームプレート等を使い、自らの考えを表すのも言語であり、可視化、明確化することにつながる。

○道徳科におけるアクティブ・ラーニング

主体的で、対話的で深い学びに持ち込むこと。道徳の時間では、具体的な行為・行動の方法を探り当てるということだけになってしまうと、道徳の特質から離れ、異なるものとなってしまう。アクティブ・ラーニングを取り入れなければならないからといって、すべてが問題解決的な学習になるわけではない。

Ⅲ　今後の課題

50数年にわたる「道徳の時間」の歴史がもうすぐ幕を下ろそうとしている。「特別な教科　道徳」は、これまで「道徳の時間」では、なしえなかった本来の心の教育が実践できる最後のチャンスといっても過言ではない。今は改革期であり、混沌とした状態が続いている。しかし、だからこそ子どもたちの心に響く本物の道徳教育が埼玉の各地域で実践されるよう、今後、国や県の動向を押さえた上で、本物の「特別の教科　道徳」の実践者とともに本物の道徳教育の指導者もしっかり育成していくことが大きな課題である。

11 特 別 活 動

埼玉県特別活動研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「共生社会の基盤をつくる特別活動」
～豊かなかかわりの中で自尊感情を高める
集団活動を通して～

2　主題設定の理由

本会では昨年度、共生社会を「他者を思いやり、自他共に幸せと感じる社会」と捉えた。そして研究主題を「共生社会の基盤をつくる特別活動～よりよい学校・学級文化を創造する集団活動を通して～」とし、共生社会の基盤をつくるための指導計画や指導と評価の在り方について明らかにしてきた。また、研究を進めていく中で「自分もよくみんなもよい生活」をつくる集団活動の積み重ねにより、子どもたちの思考力や判断力、実践力が育成され、既存の学校・学級文化がより一層深まり、質が高まっていくことが明らかになった（詳しくは研究集録第55集を参照）。

しかしながら、共生社会の基盤づくりは依然として重要課題の一つである。昨年度の研究の取組には、さらなる研究の余地があると考え、２か年継続で研究と実践を重ねていく必要があると考えた。広く社会に目を向ければ、力による争いを回避し、言葉を尽くして話し合うこと、葛藤と折り合いを繰り返しながら合意形成を図ること、そして手を取り合って成熟した社会の構築を目指すことが、いかに重要かを感じ取ることができる。社会のあり様は子どもたちの人格形成に大きな影響を与える。子どもたちが「自分もよくみんなもよい生活」をつくる集団活動を繰り返し体験できるようにすることが、特別活動の使命であることに変わりはない。そこで、本年度の研究主題は、昨年度同様の「共生社会の基盤をつくる特別活動」とした。

さて、「自分もよくみんなもよい生活」をつくる集団活動の根幹には、子どもたちが自分のことを大切に思う自尊感情が必要不可欠である。ここで述べる自尊感情とは、他者を排除してまで自分の優位性を保つという歪んだ自己愛ではない。「自分の大切さに気付き、自分を価値ある存在として尊重し、認める気持ち」であり、「自分と同じように自分以外の人も大切な存在だと認める気持ち」である。人間は支え合い、かかわり合うことで生活している。「自分は他者から認められている」、「自分にもよいところがある」、「自分のしたことが誰かの役に立っている」などのような、自分を大切に思う感情は他者とのかかわりの中でこそはぐくまれる。同時に、自分を大切に思える子どもは、他者を認め、他者を尊重する態度を身に付けるようになる。つまり、本会が捉える自尊感情は他者とのかかわりの中ではぐくまれる“他尊”感情と同義である。このような自尊感情をはぐくむことが「自分もよくみんなもよい生活」をつくるという共生社会の基盤づくりには極めて重要なのである。

昨年度、共生社会の基盤をつくるためには、「自分もよくみんなもよい生活」をつくる集団活動を繰り返し実践することが何よりも重要であることを改めて実感できた。本年度は、その成果に加えて、自尊感情を高める指導と評価をどう展開するかという視点で研究に取り組みたい。それは例えば、

① 互いのぬくもりを感じ取ることができるような支持的な風土を醸成する事前の活動の在り方
② 異なる考えや価値観を認め合い、折り合いをつけたり、新たな価値を生み出そうとしたりする話合い活動の展開
③ 活動の目標を共有し、その実現のために支え合い、協働する実践活動の在り方　等である。

こうした活動の中でこそ、かかわり合いは生まれ、子どもたちの自尊感情は高まっていく。本会として、豊かなかかわりを子ども同士、子どもと教師、子どもと学校のみならず、地域や自然、文化などとのかかわりも含め、広い意味で捉えたい。

望ましい集団活動の中ではぐくまれる自尊感情の高まりは、誰に対しても柔軟で温かく、異なる考えや価値観をも受け止め、笑顔で元気いっぱいに活動する子どもを育てる。豊かなかかわりの中で自尊感情を高めていくことは、豊かな学校文化を創造することになり、ひいては「自他共に幸せ」と感じる共生社会の基盤をつくることになる。

そこで、今年度は、研究主題を「共生社会の基盤をつくる特別活動」とし、副題を「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める集団活動を通して」とした。

以上の研究主題に基づき、次に示す２つの内容について研究を進めていく。

一つ目は、昨年度同様「共生社会の基盤をつくる特別活動の指導計画」についてである。「自分もよくみんなもよい生活」をつくる集団活動を積み重ねていく

ためには、指導計画が重要である。指導計画の見直しや作成に当たっては、昨年度までの研究に加えて、以下のことについて留意する。

① 豊かなかかわりを生み出すような活動の計画を工夫する
② 他者とのかかわりの中で自尊感情を高めるような活動の計画を工夫する

そこで、改めて自校の指導計画は共生社会の基盤をつくることにつながるものになっているかどうか、捉え直してみたい。具体的には、全体計画、各活動及び学校行事の年間指導計画、一単位時間の指導計画等についてである。また、豊かなかかわりの中で自尊感情を高めるような工夫のある指導計画になっているか、自発的・自治的な活動が系統的に位置付けられているかどうかということも捉え直してみたい。さらに、地域資源の活用や保護者との連携、近隣の異校種間（幼保小・小中等）の連携が図られているかも確認したい。このような連携を生かすことができるのも特別活動であり、共生社会の基盤をつくることにもつながるのである。

二つ目も、昨年度同様「共生社会の基盤をつくる特別活動の指導と評価の方法」についてである。豊かなかかわりの中で自尊感情を高める集団活動の系統的な指導と評価を行うために、昨年度までの研究を礎に、以下のことについて留意する。

① 「自分もよくみんなもよい生活」をつくる集団活動において、自尊感情を高めるような活動の指導方法について工夫する
② 集団の雰囲気や人間関係等の変容を見取ることのできるような評価の方法について工夫する
③ 一人一人のわずかな伸びも見取ることのできるような評価の方法について工夫する

そこで、各活動及び学校行事で扱う内容に応じた指導と評価が共生社会の基盤をつくるものになっているかどうか、捉え直してみたい。具体的には、豊かなかかわりの中で自尊感情を高める事前、本時、事後の活動の指導と評価をどのように展開するか等である。また、指導や評価の過程が適切であるかどうかも確認したい。さらに、自己を見つめ、自己を生かしていく能力を養うための具体的な指導方法について、キャリア教育や道徳教育などの視点からも、研究を進めていく。

今こそ、人と人の絆の中でこそ人は成長することを再確認し、異なる考えや価値観を受け入れ、互いを尊重し支え合って、よりよく生きていこうとする態度をはぐくむことが重要である。豊かなかかわりの中で自尊感情を高める集団活動を通して、共生社会の基盤をつくることは、他者を認め、手を取り合って、自分のよさを生かしながら社会を生き抜く子どもを育てると信じている。

3 研究の方針

⑴ 各専門委員会を中心に、研究主題に関わる実践研究を深める。
⑵ 総会や講演会を通して、理論研究を深める。
⑶ 各支部活動を通して、地域に根ざした実践の情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。
⑷ 各種全国規模の大会での提案を通して、全国での情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。

Ⅱ 活動状況

1 支部長・専門委員長・理事等合同会議

○日　時　平成28年５月10日㈫
　　15時～16時30分
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○内　容　支部活動、役員選出・承認、総会議案等の審議

2 定期総会並びに講演会

○日　時　平成28年５月18日㈬
　　13時50分～16時30分
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○内　容　⑴ 定期総会
　　⑵ 講演会
演題「豊かなかかわりの中で
　　自尊感情を高める特別活動」
講師　文部科学省初等中等教育局教育課程課
　　教科調査官
　　国立教育政策研究所教育課程
　　研究センター教育課程調査官
　　安部　恭子　氏

3 地区別研究協議会

○期　日　平成28年６月から平成29年２月まで
○実　施　各地区

4 役員研究協議会

⑴ 第１回役員研究協議会
○日　時　平成28年５月31日㈫
　　15時～16時30分
○会　場　さいたま市民会館おおみや

○内　容　　平成28年度の専門委員会等の研究・運営計画について

⑵　第２回役員研究協議会

○日　時　　平成29年３月３日㈮
15時～16時30分

○会　場　　さいたま市民会館うらわ

○内　容　　平成28年度の専門委員会等のまとめ及び次年度の事業計画について

５　専門委員研究協議会

⑴　第1回専門委員研究協議会

○日　時　　平成28年６月８日㈬
13時15分～16時30分

○会　場　　埼玉県県民活動総合センター

○内　容　　研究主題についての共通理解と各専門委員会の研究の視点の確認

⑵　第２回専門委員研究協議会

○日　時　　平成28年９月７日㈬
13時15分～16時30分

○会　場　　ウエスタ川越

○内　容　　研究主題に沿った実践の構想レポート検討

⑶　第３回専門委員研究協議会

○日　時　　平成29年１月13日㈮
13時15分～16時30分

○会　場　　埼玉県県民活動総合センター

○内　容　　実践レポートを基にした研究のまとめ

６　全国小学校学校行事研究全国大会
第21回夏季研究協議会

⑴　期日　　平成28年８月４日㈭・５日㈮

⑵　会場　　ソニックシティ

⑶　内容

①講話

演題　「今後の学校行事に期待して」

講演　東京国立博物館館長
元文部科学事務次官　　銭谷　眞美　氏

②シンポジウム

演題　「今、求められる豊かな体験活動を考える」

○コーディネーター
元文部科学省初等中等教育局視学官
宮川　八岐　氏

○シンポジスト
文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　　安部　恭子　氏
埼玉県PTA連合会長　　齋藤　芳尚　氏
全国小学校学校行事研究会会長
鈴木純一郎　氏

③実践発表

第１分科会【異年齢集団を生かす学校行事】

○提案者　狭山市立狭山台小学校
教諭　新井　邦弘　先生
新潟県上越市立古城小学校
教諭　佐藤　晴美　先生
三郷市立幸房小学校
教諭　埜口　真央　先生
東京都八王子市立弐分方小学校
指導教諭　佐生　秀之　先生

○指導者　熊谷市立久下小学校
校長　島村　明義　先生
東松山市立新宿小学校
校長　荒井　敏夫　先生

第２分科会【学級活動、児童会活動、クラブ活動との関連を図る学校行事】

○提案者　川越市立武蔵野小学校
教諭　稲垣　伸孝　先生
川口市立芝西小学校
教諭　仲尾　恭子　先生
さいたま市立七里小学校
教諭　河地　洋明　先生
徳島県藍住町立藍住南小学校
教諭　元木　里美　先生

○指導者　秩父市立尾田蒔小学校
校長　千島　　真　先生
川島町立伊草小学校
校長　鍋谷　正則　先生

第３分科会【教科・道徳との関連を図る学校行事】

○提案者　上尾市立尾山台小学校
教諭　須賀　江理　先生
東松山市立青鳥小学校
教諭　内田　恵子　先生
鶴ヶ島市立藤小学校
教諭　鈴木　綾乃　先生
福島県猪苗代町立吾妻小学校
教諭　渡邊　康貴　先生

○指導者　所沢市立三ヶ島小学校
校長　中村　　靖　先生
寄居町立折原小学校
校長　堀越由喜子　先生

第４分科会【幼保小中、地域、保護者との連携を図る学校行事】

○提案者　加須市立加須西中学校
教諭　大朏　隆弘　先生

川越市立川越小学校
教諭　白根かなみ　先生
羽生市立羽生北小学校
教諭　石原　良介　先生
北本市立西中学校
教諭　内田　　智　先生
○指導者　三芳町立上富小学校
校長　山下　道夫　先生
狭山市立入間野小学校
校長　小俣惠美子　先生

７　研究集録第56集　発刊

８　広報活動

会報「特活」第120・121・122号発刊

９　特活実践の会

⑴　第１回　平成28年６月11日㈯
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○提案者　さいたま市立文蔵小学校
教諭　佐藤　三喜　先生
教諭　佐藤　　奨　先生
○指導者　川口市立芝中央小学校
校長　本会副会長　熊谷　茂樹　先生
⑵　第２回　平成28年９月３日㈯
○会　場　所沢市立明峰小学校
○提案者　入間市立西武小学校
教諭　石井　文子　先生
所沢市立和田小学校
教諭　深澤真奈美　先生
○指導者　東松山市立新宿小学校　校長
本会副会長　荒井　敏夫　先生
⑶　第３回　平成28年11月19日㈯
○会　場　秩父市立尾田蒔小学校
○提案者　長瀞町立長瀞第一小学校
教諭　梅澤　郁枝　先生
横瀬町立横瀬中学校
教諭　高橋　雄大　先生
○指導者　熊谷市立久下小学校　校長
本会副会長　島村　明義　先生
○講　話　北本市立教育センター
本会顧問　島田　光美　先生
⑷　第４回　平成29年１月14日（土）
○会　場　パイオランドホテル大宮
○講　演　松伏町立松伏小学校　校長
本会常任顧問　岡田　直人　先生
川越市立川越小学校　校長
本会常任顧問　小池　　幸　先生

10　平成２８年度研究委嘱校研究発表会

○期　日　平成28年11月29日㈫
○会　場　新座市立新座小学校
○内　容　「学び合い　認め合う児童の育成」
～自分もよく、みんなもよいと考え、
話合いができる学級活動のあり方～

Ⅲ　研究内容

１　定期総会・講演会

〔演題〕
「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動」
〔講師〕　文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター
教育課程調査官
安部　恭子　先生
〔内容〕
①豊かなかかわり合いと自尊感情
・「自尊感情」は、自分に対する自己評価が中心であり、「自己有用感」は自分に対する他者からの評価が中心となる。
②学級活動の充実
・思考ツールは、意図をもって適切に使うことが重要である。
③中央教育審議会企画特別部会論点整理から
・「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の視点で育成すべき資質・能力を整理している。

２　全国小学校学校行事研究全国大会埼玉大会

〔演題〕　「今後の学校行事に期待して」
〔講師〕　東京国立博物館長
元文部科学事務次官　　銭谷　眞美　氏
〔内容〕
学校行事の今後の役割
・これから変化の激しく、予測不可能である中で、子どもたちがたくましく生き抜いていくためには、学校行事の役割が大変大きい。
・学校行事を通して児童生徒に身に付く力は多く、これからも学校行事に期待するところがあるので、研究を進めてほしい。

12　進路指導・キャリア教育

埼玉県進路指導・キャリア教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

学習指導要領の柱の一つとして、生徒の社会性や豊かな人間性をはぐくむため、学校における体験活動の機会を確保し、充実を図ることが求められている。また、埼玉県５か年計画、安心・成長・自立自尊の埼玉へ（平成24～28年）基本目標１「子どもを鍛え次代を担う人材を育成する」の主な取組に、「発達の段階に応じたキャリア教育の推進」があげられている。

本研究会では、キャリア教育を「社会的・職業的に自立するために必要な能力や態度等を育て、学校の学びと社会(職業)の接続を円滑に行うための教育」と捉え、小学校からのキャリア発達の段階に応じた学級活動や体験学習を充実させることを念頭においている。このようなキャリア教育の視点に立ち、発達の段階に応じたキャリア教育を充実させ、自己理解を深めさせ、生徒の職業的発達（キャリア発達）を促す進路指導・キャリア教育の在り方を研究実践してきた。また、平成25年度より、小学校段階からの発達の段階に応じたキャリア教育の研究を行っている。その具体的研究として、小学校の実践事例を分析して、中学校との関連を研究し、小学生に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力と活動内容との関連表の作成を進めてきた。

今年度は、この関連表の作成において、小学校の実践事例の分析をさらに深めながら、中学校との関連を研究することにより、修正・改善を行った。および、本研究会で作成した「学級活動を核とした中学校キャリア教育」の本を活用した実践を多くの先生方に行ってもらい、小学校と中学校をつなぐ視点を交えながら実践を検証し、まとめた。

以上の点を踏まえ、今年度からの研究テーマを、過去２年間の「小・中学校におけるキャリア発達の段階に応じた学級活動の充実・実践」を考慮するとともに、来年度の本県の越谷市立千間台中学校で開催する予定の関東甲信越地区進路指導研究協議会埼玉大会（以下、関ブロ埼玉大会）を見据えた上で、**「未来を見据え、主体的に生きる力を育てるキャリア教育の推進　～小中の連携を円滑に進めるための協同的な取組を通して～」**と設定し、研究を進めてきた。

1　研究組織

専門委員会の中に研究推進委員会を組織し、下部組織として、専門委員を第一部会（主に東・南部地区）、第二部会（主に西部地区）、第三部会（主に北部地区）の３部会に分け、原則として地区ごとの部会に所属している。また、各部会において、来年度の関ブロ埼玉大会に向けての研究推進を行った。

2　25地区進路指導・キャリア教育研究協議会の実施と協力

県内を25地区に分け、小学校・中学校・高等学校の連携を図り、地区ごとに中学校で研究授業を行い、研究協議を通して、進路指導・キャリア教育の研究推進を図った。25地区の研究協議会を活性化し、実践内容をまとめ、全県に配付し成果を共有した。

3　副読本『中学生活と進路』（実業之日本社）　埼玉県版の改訂

副読本の県版部分を学年ごとに作成し、キャリア教育の新しい視点で3年間を見通し、埼玉県として指導内容を精選し、指導案を考えるとともに授業に使える資料を掲載するように作成・編集を行った。

4　関東甲信越地区進路指導研究協議会への提案

第42回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会茨城大会

・全体会、実践発表、分科会
　第３分科会　道徳
　提案者　幸手市立幸手中学校教諭
　　小林　　剛　先生

5　第65回進路指導・キャリア教育研究協議全国大会への参加

Ⅱ　活動状況

５月14日㈯　第１回代表者会議
・新年度組織、活動方針について
・第１回総会並びに理事・専門委員合同研修会について

６月22日㈬
総会並びに第１回理事・専門委員合同研修会
・事業報告、決算報告、役員の承認
・事業計画、予算案、専門委員会の報告
・25地区進路指導・キャリア教育研究委嘱校交付式・前年度委嘱校研究発表
・講演会

演題　「進路指導・キャリア教育の現状と課題」
講師　県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　　鈴木　香織　先生

７月18日㈪　第２回代表者会議
・第２回理事・専門委員合同研修会について

７月29日㈮・30日㈯
第65回進路指導・キャリア教育研究協議会全国大会
国立オリンピック記念青少年総合センター
・記念講演　・分科会、全体会

８月10日㈬
第２回理事・専門委員合同研修会
・第２回専門委員会
・関ブロ茨城大会の案内
・講演会
演題　「キャリア教育の推進のための点・線・面」
講師　上越教育大学准教授　　山田　智之　先生

10月10日㈪　第３回代表者会議
・25地区研究協議会への派遣について
・関ブロ茨城大会事前協議

11月４日㈮
第42回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会茨城大会
・全体会、実践発表、分科会
第３分科会　道徳
提案者　幸手市立幸手中学校教諭
小林　　剛　先生

１月14日㈯　第４回代表者会議
・第３回理事・専門委員合同研修会について
・関ブロ埼玉大会について

２月15日㈬
第３回理事・専門委員合同研修会
・理事会、第３回専門委員会
・活動報告、25地区の実施報告
・専門委員会の研修報告
・講演会
演題　「小・中学校におけるキャリア教育」
講師　八潮市立柳之宮小学校教頭
飯山　　智　先生

３月４日㈯　第５回代表者会議
・平成29年度にむけて
・関ブロ埼玉大会について

Ⅲ　研究内容

１　25地区進路指導・キャリア教育研究協議会

⑴　研究実施校

県下25地区における進路指導・キャリア教育研究協議会は、進路指導・キャリア教育の実際の課題を、授業を通して研究協議し、進路指導の充実・推進に資することをねらいとして開催している。

今年度は35回目となるが、この積み上げは県下415中学校における進路指導・キャリア教育の実践の改善・充実に大きく寄与している。身近な場所で、研究・実践の交流や研究協議を進め、進路指導の取組の全県的な広がりや深まりを目指すことを大切にしている。本年度の実施校は次のとおりである（表１）。

表１　25地区進路指導･キャリア教育研究協議会実施校

№.	地　区　名	会　場　校	開催期日
1	さいたま（東）	さいたま・城南中	11月18日㈮
2	さいたま（西）	さいたま・大宮西中	11月22日㈫
3	川口	川　口・仲町中	11月24日㈭
4	蕨･戸田	戸　田・新曽中	11月10日㈭
5	草加	草　加・新田中	11月８日㈫
6	朝霞･志木･新座･和光	朝　霞・朝霞第四中	10月20日㈭
7	上尾	上　尾・瓦葺中	１月19日㈭
8	鴻巣･北本･桶川･伊奈	北　本・北本中	11月25日㈮
9	川越	川　越・東　中	11月11日㈮
10	所沢	所　沢・美原中	10月14日㈮
11	狭山･入間	狭　山・入間野中	11月10日㈭
12	飯能･日高	飯　能・吾野中	12月14日㈬
13	坂戸･鶴ヶ島･越生･毛呂山	坂　戸・桜　中	10月４日㈫
14	富士見･ふじみ野･三芳	ふじみ野・福岡中	11月17日㈭
15	比企郡市･東秩父	鳩　山・鳩山中	11月18日㈮
16	秩父郡市（東秩父は除く）	秩　父・秩父第一中	10月13日㈭
17	本庄・美里・上里・神川	本　庄・本庄東中	１月27日㈮
18	熊谷	熊　谷・中条中	12月９日㈮
19	深谷･寄居	深　谷・南　中	12月２日㈮
20	行田・羽生・加須	行　田・太田中	11月29日㈫
21	春日部	春日部・大沼中	９月14日㈬
22	越谷･八潮	越　谷・大相模中	11月18日㈮
23	三郷･吉川･松伏	三　郷・彦糸中	11月２日㈬
24	久喜･蓮田･白岡	久　喜・栗橋東中	11月11日㈮
25	幸手･杉戸・宮代	宮代町・前原中	12月６日㈫

⑵　研究協議等の状況

①　参加者

今年度は１月13日㈮現在で、まだ実施してない学校と報告書が届いていない学校が６校あるため、前年度との単純な比較はできないが、報告の出ている地区の今年度の研究協議会参加者数は合計909名で、参加者数は若干少なめである（表２）。

表２　これまでの参加者の推移

	小学校	中学校	高 校	その他	合　計
平成21年	294	901	35	99	1,329
平成22年	244	950	48	27	1,269
平成23年	250	833	62	14	1,159
平成24年	257	622	89	75	1,043
平成25年	236	661	76	16	989
平成26年	265	788	57	100	1,210
平成27年	265	839	49	221	1,374
平成28年	196*	593*	66*	54*	909*

＊平成28年度は、１月13日㈮現在（報告19／25校)

以下は、報告書の出ている19会場について、まとめたものである。

小・中・高全て参加した会場は19会場中11会場。昨年同様に小学校からの参加がない会場があり、参加者数も若干減少傾向である。高等学校の参加は12会場で、会場数では昨年と大きな変化はないが、参加者は増加している。

１会場あたりの平均参加者は48名で、昨年より５名ほど減少している。

②　公開授業について

全学年・全クラスを公開した学校が19校中７校、全学年を公開した学校が19校中12校と昨年より割合として少なくなったが、公開授業が行われたクラスは144クラスで大幅に増えている。授業の内容は、学級活動や総合的な学習の時間を中心に行われ、各教科や道徳が５校で公開された。昨年同様に、ゲストティーチャーを招いて体験授業を行った学校が４校あった。そのうち高校の先生による出前授業は２校で昨年度同様であった。民間企業や個人商店から講師を招く割合には大きな変化はなかった。

今年度は、開催日が11月に集中し、12月、１月の開催が大幅に減ったこともあり、３年生の公開授業が大幅に増え、扱われた題材やテーマも多岐に渡った。教科・道徳の授業におけるキャリア教育について様々な工夫を凝らした公開授業が行われた。また、昨年はなかった特別支援学級の公開授業が２校で行われた（表３）。

表３　公開授業を行ったクラス数

	１年	２年	３年	特別支援
総合的な学習の時間	6	7	8	0
特別活動・学級活動	51	30	23	0
道　徳	0	7	3	0
教　科	1	5	1	2
合　計	58	49	35	2

その後の研究協議では講演会や全体会、分科会が開催され、活発な意見交換が行われ、指導者の方からは貴重な御指導をいただくことができた。

⑶　研究協議会の課題等について

25地区研究協議会は、会場校だけでなく、その地区内の小中学校における進路指導・キャリア教育の連携や研修を深める貴重な機会になる。ここ数年参加者が減少傾向であったが、一昨年から増加し始めている。

キャリア教育について研究を進める学校も増え、キャリア教育的な視点に立った道徳や教科の授業の実施も定着してきているようである。

更に、小中連携という視点から、各地区での小学校からの参加者を増やすような取組がなされていくことを期待したい。

また、生徒がより望ましい社会的・職業的自立ができるよう、社会構造や時代の変化を踏まえた新しい取組にチャレンジすることが課題である。

２　第42回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会茨城大会への提案

大会主題　社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の在り方

大会期日　平成28年11月４日㈮

大会会場　那珂市総合センター「らぽーる」及び那珂市立瓜連小学校

第３分科会　キャリア教育の視点を取り入れた道徳の取組

テーマ　「道徳の時間を通して望ましい生き方を考えさせる」

指導助言者　埼玉県教育局東部教育事務所
指導主事　大山美智子　先生

提案者　埼玉県幸手市立幸手中学校教諭
小林　剛　先生

⑴　はじめに

幸手市では、社会経済情勢の変化や国・県の目指す教育を的確に把握するとともに、第５次幸手市総合振興計画を策定した。教育分野では、「明日を支える人を育む教育・文化の豊かなまち」を踏まえ、児童生徒の安心・安全を確保し、一人一人の個性を活かせる教育環境を充実させるとともに、基礎的・基本的な学力の確かな習得や社会潮流の変化に適応した人材育成を推進している。

また、平成28年３月に幸手市教育委員会から「道徳のまち　さって」が郷土資料として市内の全児童生徒に配付された。先人の生き方、民話、そして、現在活躍している人など13編を題材にして、人間の生き方や感じ方を考えるとともに、郷土のことを深

く学べる資料となっている。まさしくこれからの生き方の指針となるものがあり、望ましい勤労観・職業観へと発展すると考えられる。

⑵　取組内容

①　道徳教育における指導計画の見直し

ア　学級における指導計画の見直し

本校には道徳教育全体計画を受け、道徳教育の学級における指導計画がある。この指導計画は年度当初、学級担任が学級の実態を踏まえて製作する。ここにキャリア教育との関連を入れることにより、望ましい勤労観・職業観を育んでいきたいと考える。また、学級担任が年度初めにこの指導計画を立てることにより、すべての教育活動においてキャリア教育の視点をもって教育活動に臨む機会の一つになると考える。

イ　職員会議での提案

本校では職員会議にて「今月の道徳指導」として道徳担当から提案される。各学年の年間指導計画を月ごとにまとめ、本年度の道徳指導の重点指導項目が提案される。ここで関連が深い育成したい「基礎的・汎用的能力」を併記し提案する。このことにより、職員全体がキャリア教育の必要性を意識するきっかけになると考える。

本年度、各月における道徳指導の重点指導項目に関係が深い、育成したい「基礎的・汎用的能力」を対応させた。

②　道徳の実践

ア　題材名「箱根路を走る―柳利幸―」（出典：幸手市郷土資料「道徳のまち　さって」）の実施

本主題は「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばした生き方を追求すること」を内容としている。これから先どんな困難が待っていようとも、それを乗り越え前向きに取り組み、自分を高めていってほしいと考え本主題を設定した。また、資料はサッカー部をやめて陸上部に入って自分の能力を伸ばし、前向きに取り組んでいる姿を描いており生徒にとっては身近に感じられ心に響く資料であると考えられる。

イ　題材名「石に刻まれた心」（出典：幸手市郷土資料「道徳のまち　さって」）の実施

本主題は「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもって、よりよい社会の実現に努めること」を内容としている。一人一人が共に手を携え協力し、誰もが安心して生活できるよりよい社会を実現しようとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

⑶　まとめ

成果として、道徳教育を通して「進路指導・キャリア教育」の必要性が職員間に広がったと思われる。道徳の時間の実践では、生徒の感想から「望ましい生き方」を考えさせるきっかけとなる授業となった。また、３年生で４月に実施した全国学力・学習状況調査で本校生徒の課題と関係がある４項目でもう一度調査を行った結果、自己肯定感とコミュニケーション能力に関係がある項目に良い方向への変化が見られた。課題として本年度は各月の重点指導項目に対応させた「基礎的・汎用的能力」の表記であった。今後はアンケート結果をもとに、学年別に生徒の実態に合った育成したい能力を表記し、全職員と共有していきたい。更に、進路指導・キャリア教育の全体計画を見直し、より本校の生徒の実態に合ったものを学校全体で考えていきたい。

Ⅳ　今後の課題

小学校段階からの積極的なキャリア教育や連携の在り方を研究し実践する。更に、生徒に基礎的・汎用的能力を身に付けさせ、未来を見据え、主体的に生きる力を育てるための指導法を研究する。

特に、小中一貫教育やアクティブ・ラーニングなどの協同的な取組を通して進路指導・キャリア教育を更に発展させていく。そして、以下に示した来年度の関ブロ埼玉大会に向けて研究を深めることが今後の課題である。

大 会 名	第43回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会埼玉大会
大会主題	未来を見据え、主体的に生きる力を育てるキャリア教育の推進　～小中の連携を円滑に進めるための協同的な取組を通して～
大会期日	平成29年11月10日㈮
大会会場	埼玉県立大学及び越谷市立千間台中学校
記念講演	筑波大学人間系教育学教授　藤田　晃之　先生

13 視 聴 覚 教 育

埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会
・埼玉県学校視聴覚教育連盟
・埼玉県放送教育研究会
・埼玉県教育機器研究会

埼玉県学校視聴覚教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

現在、子どもたちを取り巻く社会環境は、高度情報通信社会の真っ只中にあり、インターネットをはじめデジタル放送、デジタルカメラ、携帯電話などの情報収集・情報処理・情報伝達機器が生活の一部として取り入れられるなど、まさにネットワーク化・デジタル化が進んでいる。このような情報化社会の中で今学校現場では、「授業でのICT活用」、「教職員の指導力向上」、「情報モラル、情報セキュリティの重要性」など、情報化に関わる教育課題が指摘されている。

また、この度の中央教育審議会での文科大臣からの諮問においてもＩＣＴを活用した指導を踏まえた「アクティブ・ラーニング」の充実が示されている。

このような現状を受け、学校教育現場での指導については、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や、インターネット、携帯電話・スマートフォン利用に当たっての情報モラルを身に付け、安全にかつ適切に利用できるようにするための学習活動を充実させる必要がある。

これらのことから、本連盟では視聴覚機材や情報機材、放送機材などの教育メディアを積極的に活用した学習を展開することで、子どもたちが楽しく、進んで学ぶことにつながり、『自ら学ぶ意欲』と『主体的に活動できる力』を培い、これからの時代を「心豊かな人間」として生活できることをねらって、【自ら学び主体的に活動する力を育む教育メディアの活用をめざして　～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～】と研究主題を設定し本年度の研究に取り組んだ。

Ⅱ　活動状況

1　役　員

顧　問　　渡邉　雄市
　　熊谷市立桜木小学校　　校長
　　宮内　一男
　　蓮田市立蓮田中央小学校　校長

会　　長　　神田　俊也
　　飯能市立東吾野小学校　校長
副 会 長　　村田　久也
　　入間市立西部小学校　校長
　　桒原　伸行
　　熊谷市立江南北小学校　校長
　　根岸　和幸
　　本庄市立仁手小学校　校長
　　須藤　亘
　　越谷市立新栄中学校　校長
　　池田　久男
　　秩父市立大田中学校　校長
事務局長　　児玉　日左治
　　飯能市立東吾野小学校　教諭

2　主な活動

(1)　５月24日㈫
埼玉県学校視聴覚教育連盟
役員・理事研修会
埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会
理事研究協議会
（埼玉県県民活動総合センター）

(2)　６月３日㈮
関放協・関視連　第１回合同理事会
（甲府市）

(3)　８月３日㈬
第20回 埼玉県教育メディア活用研究大会
＜研究発表＞　３団体より研究発表
①学校視聴覚教育連盟
②教育機器研究会
③放送教育研究会
＜研究発表①＞
○提案者
入間市立扇小学校　　村田　武明　教諭
○指導助言者
埼玉県教育局義務教育指導課
学力向上推進学力調査担当　指導主事
下妻　淳志　先生

○テーマ

「ユニバーサルデザイン授業でのタブレット端末の活用」

○概　要

ユニバーサルデザイン授業では、視覚的に理解することを目指して、ICT機器を活用した。

授業の中ではタブレット端末の操作の他、大型テレビやプロジェクターを活用し、全員で同じ画面を見ることで、理解を深めることができた。

○指導助言

・ソフトが導入されていない、各種ケーブルがないなど条件面が十分整備されていないようであったが、それにもめげず環境整備に努めていただいた。
・環境整備の充実もあるが、さらに管理していくことも大切である。
・活用のところで、タブレット端末を活用し、問題も一斉に子どもたちに提示し、子どもたちがそれに対して自分の考えを書き込んだりすることができる。また、それを拡大しみんなに写して見せ、討論する。このことは、深い学び、対話による学びにつながる。さらに、全体を表し見比べる活動が充実できる。
・ICT教育はインターネット等で、個人で学んだり、調べたりすることで主体的な学びにつながっていく。
・ICT教育はPC活用ばかりでなく、実際に体験して見ることを織り交ぜていくことが、より学力向上につながっていく。
・ICT活用において教師の年齢や取り組み意欲によって差があると、あるクラスの子はよく使う、あるクラスの子はあまり使わないとなると不平等になる。学校として使うなら、どのクラスの子も使えるよう教師に共通理解・共通行動が大切である。
・トラブルが起きたとき、その時の対応の仕方を教師全員が共通理解しておく必要がある。

（さいたま市 浦和コミュニティセンター）

⑷　10月28日㈮

関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会　山梨大会

（甲府市）

⑸　３月７日㈫

埼玉県学校視聴覚教育連盟

役員・理事研修会

（埼玉県県民活動総合センター）

Ⅲ　今後の課題

多種多様なＩＣＴ機器、放送教材等の教育メディアを積極的に活用した学習を実践し、より効果的な活用法について研究を深める。さらに、その実践内容・工夫点などを互いに共有し、より質の高い指導方法を考え、児童生徒の学力向上に努めなければならない。そのために本連盟として、充実した研究活動を推進していく必要がある。

埼玉県放送教育研究会

Ⅰ　研究主題

１「再考　学ぶ喜びのもてる放送教育」（３年次）

２　主題設定の理由

本研究会では、発足以来子どもの学び方、分かり方を中心に研究を重ねてきた。子どもの内にある「学びたい」「分かりたい」「もっと知りたい」等を学習活動に活かす指導を実践してきた。「放送番組の特性を活かし、放送番組を見せることから、子どもの学びは始まる。番組を視聴している子どもは、自らの知識や経験を踏まえ、自分らしく考え、学んでいく。」という基本理念は、これからも変わることはない。

一昨年度より、「再考　学ぶ喜びのもてる放送教育」を研究主題に掲げ、授業研究会や夏季研修会、教育メディア活用研究大会等を通して、子どもの「学びたい」「分かりたい」「もっと知りたい」という気持ち、つまり「学ぶ喜び」を追及してきた。具体的な授業の流れとして、番組視聴後「空発問」により、子どものダイナミックな思考や発言をそのまま活かす。その後の話し合いで、子どもたちの多種多様な考え方やとらえ方をダイナミックに出し合う。そのことで自分の「知」が学級全体の「知」となり、みんなの学びの役に立つ。

この２年間で、

・６年理科　「水溶液の性質とはたらき」
　利用番組＜ふしぎがいっぱい＞
・２年国語　「本はともだち」
　利用番組＜おはなしのくに＞
・３年国語　「ありがとうをつたえよう」
　利用番組＜ひょうたんからコトバ＞
・３年理科　「明かりをつけよう」
　利用番組＜ふしぎがいっぱい＞
・５年道徳　「外国から来た転校生」
　利用番組＜ココロ部＞

の５本の研究授業を行った。様々な学年、教科で実践

をし、「学ぶ喜び」を追求してきた。

また、昨年度末に30余年に及ぶ本研究会の研究活動をまとめた「なぜ教室にはテレビがあるのか！？」を刊行した。今年度は、この本を活用し、より多くの教員に本研究会の基本理念を広め、実践者を増やしていきたいと考えている。そのために、

⑴　毎月の定例会で
　①本を読み込み理解を深める。
　②本の内容を実践し、検証を行う。
　③番組を視聴し、協働で授業案を考える。

⑵　年３回の授業研究会を行い、多くの参観を募り、実践研究を深める。

⑶　これらの成果を研修会等で発表し、小冊子にまとめる。

今年度も「再考　学ぶ喜びのもてる放送教育」（最終年）を研究主題に掲げ、２年間の成果と課題を踏まえ、定例会及び授業研究会を通して、実践的な研究を進めていく。

昨年度より進めている組織改革に向け埼玉県学校視聴覚教育連盟、埼玉県教育機器研究会との連携をさらに深め、埼玉県の視聴覚教育・放送教育の発展にも寄与していく。また、全国放送教育研究会連盟との連携も図り、全国に「埼玉の放送教育」をさらに広げる活動に取り組む。

Ⅱ　活動状況

１　役　員

会　　長　　福田　由美子
　　川口市立仲町小学校　校長
副 会 長　　清水　肇
　　さいたま市立新開小学校　校長
　　山田　茂
　　川口市立八幡木中学校　教頭
　　四方　孝明
　　八潮市立八條小学校
　　石川　秀治
　　さいたま市立仲町小学校
　　関口　麻理子
　　新座市立新堀小学校

２　活動状況

・定例研究会　　毎月第３土曜日
・理事研究協議会　５月24日㈫　県民活動センター
・関放協・関視連　第１回合同理事会
　　６月３日㈮　甲府市
・第１回授業研究会　７月１日㈮
　第６学年　社会科　「歴史にドキリ」
　　さいたま市立仲町小学校　教諭　石川　秀治
・埼玉県教育メデイア活用研究大会　８月３日㈬
　「歴史上の人物を中心に展開する放送番組を活用した歴史学習」
　　さいたま市立仲町小学校　教諭　石川　秀治

　「放送と歴史学習」
　　放送と教育の会　　大室　健司
・関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会
　　10月28日㈮　山梨大会　甲府市
・第２回授業研究会　　11月17日㈭
　第６学年　社会科　「歴史にドキリ」
　　さいたま市立仲町小学校　教諭　舩津　需遥
・第67回放送教育研究会全国大会
　　11月18日㈮・19日㈯
　　国立オリンピック記念青少年総合センター
・第３回授業研究会　２月14日㈫
　第６学年　道徳　「ココロ部」
　　さいたま市立仲町小学校　教諭　石川　秀治
・視聴覚教育研究集録第43集　刊行３月

埼玉県教育機器研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「児童生徒一人ひとりの心を
大切にした教育機器の活用」

２　主題設定の理由と研究方針

本研究会は、昭和42年に「シンクロファックス」の活用を、最初の研究課題として発足した。以来30数年に及ぶ活動を振り返ると、21世紀を迎えた今日、まさに教育文明の歴史とともに歩んできたという感慨を覚える。特に、教育機器に関わる進歩は、教育現場にたとえようがないほど急激で、大きな変革をもたらしている。

本研究会では、常に児童生徒の「心」の変容を踏まえた指導のあり方、学習のあり方を探究してきた。また、個々の児童生徒の能力や個性や特性をしっかりと見つめ、「学習の個別化」や「授業システム」の研究も進めてきた。これらの過程において、ただ便利だから使う機器ではなく、児童生徒の実態把握をどのように行ったらよいか、学習環境をどのように整備したらよいか、児童生徒一人ひとりをどのように評価したらよいか等、子どもの立場に立った学習活動の展開を求めてきた。単に機器を活用するのではなく、単にメデ

イアを組み合わせるのではなく、子どもたちの「心」に語りかけることができるような機器の活用を期待している。以下に研究方針を述べる。

教育機器の特性を大切に活かし、21世紀の指導方法を洞察し、児童生徒一人ひとりが学ぶ楽しさや、学習意欲が喚起できるような学習環境の整備を図るよう努める。また、コンピュータのみにとらわれず、常に必要な機器の見直しを行い、積極的に児童生徒の「心」を大切にした教育機器の活用と、そのあり方について研究を進める。

Ⅱ　活動状況

1　役　員

会　　長　　藤巻　和司
　　新座市立東北小学校　　校長
副 会 長　　金澤　勇一
　　和光市立下新倉小学校　教頭
　　兵藤 一樹
　　深谷市立上柴東小学校　教頭
　　山崎 育樹
　　本庄市立本庄東中学校　教頭
事務局長　　高坂 悠太
　　本庄市立本庄東小学校　教諭
参　　与　　渡邉 孝広　前会長

2　主な活動

(1)　総　会
　ア　期　日　平成28年５月24日㈫
　イ　会　場　埼玉県県民活動総合センター
　ウ　内　容　役員・理事研修会

(2)　平成28年度
　第20回　埼玉県教育メディア活用研究大会
　第45回　埼玉県視聴覚・放送研究合同大会
　ア　期　日　平成28年８月３日㈬
　イ　場　所　浦和コミュニティーセンター
　ウ　内　容　各研究会の分科会、全体会
　エ　分科会提案（埼玉県教育機器研究会）
　　プロジェクターを用いた効果的な提示とタブレットを活用した授業づくり
　　～小６国語「１年生に物語を書こう」
　　本庄市立本庄西小学校　　小泉　亘　教諭

Ⅲ　今後の課題

研究会会報の充実など、これまでの研究成果をどのように、県下の小・中学校に浸透させていくか。また、若い世代の会員の力をいかに発揮させ、より活力ある研究活動を推進していくかが大きな課題である。

14　教育心理・教育相談

埼玉県教育心理・教育相談研究会

Ⅰ　研究主題

「通常の学級における発達障害児童生徒等の指導支援」

～社会性を育むスキル教育の実践と定着～

Ⅱ　研究の概要

1　主題設定の理由

⑴　平成17年４月に発達障害支援法が施行され、更に、平成18年度から通級による指導の対象として新たにＬＤ、ＡＤＨＤが加わったことにより、ＬＤ，ＡＤＨＤ、自閉症に対する発達障害・情緒障害通級指導教室の新設や増設が県内で進んでいる。また、このような状況のもと、発達障害を有する児童生徒が、通常の学級に籍を置き学校生活を送るケースも増えてきた。

一方、指導支援する教職員にあっては、このような障害を有する児童生徒に対する理解が十分とはいかず、「どのような学級経営を行ったらよいのか」、「児童生徒を支援する関係機関や支援員との連携協力のあり方について」などの課題が生じている。これらの課題に対して、本研究会としてどのように取組を進めたらよいか協議を重ね、活動方針を固めるとともに必要な資料収集や事例研修会を実施した。今年度は、それらを更に発展させるために、実践資料の作成を進める。

⑵　本専門委員会では、本会の研究テーマに関わり掲示用資料集（ＣＤ版）の普及を行ってきた。昨年度、活用資料集を完成させ、ＣＤ版とセットで普及活動を行うことにした。これまで、主に「ソーシャルスキル」や「発達障害の理解と対応」等に併せ、それらを推進する教職員のアンケート調査を実施した。これらを論議しながら、教職員一人一人の実践力アップと校内組織の在り方についても研究を進める。

2　研究方針

⑴　通常の学級等において発達障害を有する児童生徒をどう理解・指導支援していくか、先行して取り組んでいる事例を研究し、広めていく。

⑵　社会性を育むスキル教育の実践化と定着のための研修会を実施する。

⑶　専門委員会では、各校・各地区の事例や情報に基づき研究協議を行い、課題解決のための具体的な取組を行う。

⑷　実践事例や実践状況の把握を行い、取組への課題を整理し、改善策を検討し、実施する。

3　研究計画

⑴　夏季研修会

県内の地域（東部、西部、南部、北部、さいたま市の５地区）ごとに、講演会、ワークショップ、を実施し、発達障害の理解や教育相談的手法、考え方を活かした指導・援助の方法を身に付け、実践に役立てる。

⑵　教育心理・教育相談講演会

教育心理及び学校教育相談等で活躍している専門家の講演会を通して、児童生徒・保護者・教師が、いじめの背景や具体的な対処法などを学び、望ましい人間関係や心を育む教育について理解を深め、実践に役立てる。

⑶　理事研究協議会

本研究会の運営について協議するとともに、国や県内の動向を知り、各地域における学校の実態に応じた研究の在り方を検討する。また、有効な手立てや情報を各地域に持ち帰り、研究活動の啓発及び各学校に活かせる取組を行う。

⑷　専門委員会

「社会性を育む教育」掲示用資料集と活用冊子の普及に努める。また、実態調査や専門委員の気付きを共有し、それらを起点にして広く学校現場に還元できる提案ができるよう検討する。

Ⅲ　活動状況

1　総会及び第１回理事研究協議会

⑴　期　日　平成28年６月２日㈭

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・平成27年度事業報告

・平成27年度決算報告及び監査報告

・平成28年度役員承認

・新役員紹介及びあいさつ

・平成28年度活動計画

本年度の基本方針

夏季研修会、講演会、理事会等の計画、専門委員

会活動計画
・平成28年度予算案
・講演「各種教育技法の研究」
・名簿の確認
・その他連絡事項

2　平成28年度役員

会　長　髙橋　光代（川口市立元郷小学校　　校長）
副会長　兼子紀美江（越谷市立大間野小学校　校長）
　　大木　　剛（東秩父村立東秩父中学校 校長）
　　髙村　美恵（川口市立安行小学校　　校長）
　　宇野　聡規（熊谷市立江南中学校　　校長）
　　桑原啓一郎（さいたま市立栄小学校　校長）
監　事　戸谷　弘幸（川口市立上青木小学校　校長）
　　新井　　恵（川口市立並木小学校　　教頭）
代表幹事
　東部　小澤　範子（越谷市立蒲生南小学校　教諭）
　西部　井上　和美（坂戸市立浅羽野中学校　教諭）
　南部　加藤　吉宏（草加市立栄中学校　　教諭）
　北部　雨宮　大地（深谷市立深谷小学校　主幹教諭）
　さいたま　内山　一幸（さいたま市立上里小学校　教頭）
事務局　平田　清美（川口市立元郷小学校　　教諭）
幹　事　福島　陽子（越谷市立千間台中学校　教諭）
　　木戸　由美（所沢市立林小学校　　教諭）
　　関崎　純也（富士見市立勝瀬小学校 主幹教諭）
　　千島　元代（坂戸市立南小学校　　教諭）
　　渡辺　由佳（坂戸市立坂戸小学校　　教諭）
　　須加野千明（上尾市立西小学校　　教諭）
　　角田　和美（蕨市立西小学校　　教頭）
　　井上　恭子（本庄市立児玉小学校　主幹教諭）
　　渡辺　智彦（寄居町立鉢形小学校　　教諭）
　　岩崎　成美（本庄市立秋平小学校　　教諭）
　　大野　里佳（さいたま市立大宮東中学校 教諭）
　　吉岡奈津江（さいたま市立蓮沼小学校　教諭）
理　　事　各地区研究会から選出された51名
専門委員　各地区から選出された21名

3　夏季研修会

(1)　東部地区
　①　期　日　平成28年８月10日㈬
　②　会　場　越谷市中央市民会館
　③　内　容
　　ア　講演会『発達障害の子はふえているの？
　　～相談室で気付いたこと～』
　　講　師　前埼玉大学教育学部　講師
　　子育て科学アクシススタッフ
　　子どもの命を守る会　理事
　　藤原　一夫　氏
　　イ　ワークショップ
　　・いじめと学習意欲
　　・学級経営に生かすアサーション
　　・校内の教育相談の進め方

(2)　西部地区
　①　期　日　平成28年８月１日㈪
　②　会　場　ふじみ野市「フクトピア」
　③　内　容
　　ア　講演会『グループ・アプローチの効用とその課題』
　　講　師　関西学院大学教育学部
　　教授　中村　　豊　氏
　　イ　ワークショップ
　　・どの児童生徒にも役立つ、行動科学に基づく指導方法
　　・ピア・サポート活動の実際
　　・子どもの人間関係づくりの技

(3)　南部地区
　①　期　日　平成28年７月29日㈮
　②　会　場　埼玉県県民活動総合センター
　③　内　容
　　ア　講演会『実行機能から見た教育支援の工夫』
　　講師　立教大学現代心理学部
　　教授　大石　幸二　氏
　　イ　ワークショップ
　　・ソーシャルスキルトレーニングの指導
　　・指導の実際・教育相談の進め方
　　・エンカウンター　～人間関係づくり～

【南部地区　夏季研修会　講演会】

(4)　北部地区
　①　期　日　平成28年７月29日㈮
　②　会　場　深谷市教育研究所
　③　内　容
　　ア　講演会『長期欠席児童生徒への支援の方法』
　　講　師　開善塾教育相談研究所
　　金澤　純三　氏
　　イ　ワークショップ
　　・学級経営に生かせる教育相談的手法
　　・授業に生かす児童生徒理解の手法

(5)　さいたま市
　①　期　日　平成28年８月４日㈭

② 会　場　さいたま市立教育研究所

③ 内　容

ア　講演会『不登校やいじめ問題等への実践的な対応』

講　師　東京都スクールカウンセラー

鈴村　眞理　氏

イ　講演会『人間関係プログラムの適切な実施と結果の解釈・活用について』

講　師　東京聖栄大学

教授　岡田　　弘　氏

4　夏季研修会でのアンケート結果

県内５地区において、夏季休業中に教育心理・教育相談に関する研修会を実施している。

(1)　地区別参加者数　【人】

	東 部	西 部	南 部	北 部	合 計
人数	86	54	57	41	238

(2)　性別　【人】

	東 部	西 部	南 部	北 部	合 計
男 性	16	6	8	5	35
女 性	70	48	49	36	203

(3)　勤務所属　【校】

	東 部	西 部	南 部	北 部	合 計
小	37	37	43	31	148
中	34	17	13	10	74
その他	15	0	1	0	16

(4)　年代

	20 代	30 代	40 代	50 代
割合（%）	7.7	17.7	29.1	45.5

(5)　参加回数

	初めて	２回目	３回目	４回以上
割合（%）	54.4	24.7	7.9	13.0

(6)　校務分掌

	教心・教相	生徒指導	その他
割合（%）	64.7	6.3	29.0

(7)　参加理由

項　　目	午前	午後
	割合（%）	割合（%）
児童生徒について理解を深めたい	25.7	14.5
学級経営に活かしたい	8.1	16.7
配慮を必要とする児童生徒の指導	20.6	28.6
専門家の話が聞きたい	34.2	9.0
教育相談的手法を身につけたい	10.3	25.2
その他	1.1	6.0

(8)　ワークショップの感想

項　　目	割合（%）
とても参考になった	73.0
参考になった	26.1
あまり参考にならなかった	0.9
参考にならなかった	0

(9)　講演会の感想

項　　目	割合（%）
とても参考になった	70.6
参考になった	29.4
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0

⑽　今後希望する演習等（複数回答）

項　　目	割合（%）
グループエンカウンター	10.4
エゴグラム	5.0
自律訓練法	11.0
ロールプレイング	2.1
カウンセリング技法	12.6
グループワーク	5.8
ソーシャルスキルトレーニング	18.4
人間関係づくり	12.6
学校教育相談の進め方	22.1

※アンケート集計は、さいたま市を除く。

※①は受付数、②～⑩はアンケート回答数より集計

5　第２回理事研究協議会

(1)　期　日　平成28年10月21日㈮

(2)　会　場　埼玉県県民活動総合センター

(3)　内　容

・夏季研修会の結果と反省の報告

・専門委員会の取組の報告

・教育心理・教育相談講演会（冬季）について

・その他

6　教育心理・教育相談講演会（冬季研修会）

(1)　期　日　平成28年11月18日㈮

(2)　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　講　師　所沢市発達障害・情緒障害通級指導教室
そだちとこころの教室「フロー」
坂本　條樹　氏

⑷　演　題『配慮を要する児童生徒・保護者への対応と教育相談の進め方』

7　第３回理事研究協議会

⑴　期　日　平成29年２月17日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・平成28年度事業の反省と平成29年度事業の検討

・平成29年度予算の検討

Ⅳ　専門委員会の活動

専門委員会では、平成23年度以来、「社会性を育むスキル教育」に関わる研究活動を行ってきた。そして平成26年には掲示用資料（ＣＤ版）、本年度初めには活用資料集を完成することができた。

第１回専門委員会　平成28年６月２日㈭

・本年度の体制

・掲示用資料（ＣＤ版）と活用資料集の現状と啓発活動について

・昨年度決算と本年度予算の確認

第２回専門委員会　平成28年10月21日㈮

・各地区における掲示用資料と活用資料集の啓発状況の確認

・今後の研究活動についての方針と意見交換

・教職員アンケート実施について

第３回専門委員会　平成28年11月18日㈮

・掲示用資料と活用資料集の啓発状況の確認

・現状報告

第４回専門委員会　平成29年２月17日㈮

・掲示用資料と活用資料集の啓発状況の最終確認

・研究報告集について

・今年度の反省と次年度の確認

Ⅴ　今後の活動

現在、系統的なカリキュラムに沿ったスキル教育を実践する小中学校が増えてきている。また、スキル教育の実践により児童生徒が望ましい言動をとることができるようになってきているとの報告が多くあり、着実に実績を上げていると考えられる。

更に、夏季のワークショップや講演会等を通して発達障害を有する児童生徒への指導支援の重要性が認識されるとともに、具体的に学んだことを生かし、効果的な指導が実施されるようになっている。

これまで専門委員会では「社会性を育むスキル教育」をテーマに掲示用資料（ＣＤ版）と活用資料集の作成に取り組んできた。今後も、少しでも多くの現場での実践に役立てられるよう継続して研究していきたい。

また、教職員アンケートや課題を検討する中で、「発達障害」「いじめ」「不登校」等々への継続的な対応から、保護者とのコンサルテーション、教職員の世代交代に関わること、校内教育相談体制全般に関わること、その他多くの話題が報告された。どれも学校現場からの切実な背景が込められていた。

本年度は一本のテーマにまとめるには至らなかったが、逆に１つにまとめることよりも各専門委員の問題意識を本委員会で共有し、可能な部分を統合させ、その結果を報告することも一方策ではとも考えた。引き続き現場のニーズに応える専門委員会を考えていきたい。

【夏季研修会での人間関係づくり】

15 特別支援教育

埼玉県特別支援教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「生きる力を育て、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方を求めて」

2　研究活動方針

特別支援教育の推進は、幼・小・中・高の全ての校種、全ての学級における課題となっている。特に、障害者の権利に関する条約が批准され、インクルーシブ教育システム構築への動きが加速する中、通常の学級においては、ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善の視点などから研究が進められている。また、障害者差別解消法において義務付けられた合理的配慮への各学校における対応については、障害のある子どもたちに対して、多様な学び方や適切な学習環境を提供できるかどうかが重要な観点となる。

さらには、障害の重度・重複化や多様化、幼児期からの早期支援、後期中等教育における特別支援教育の推進、卒業後の進路等、特別支援教育に関する課題は多岐に渡っている。

本研究会は、これらの特別支援教育推進に係る諸課題を解決するべく、各学校等の実態を把握し、各教職員のニーズを踏まえて研究を推進する。そして、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の一層の充実をめざして、指導力の向上と埼玉県の特別支援教育の振興に寄与していく。

○幼児児童生徒一人一人の障害の状態及び発達の段階や特性等に応じた効果的な指導の在り方を追究する。

○発達障害等、学習や生活に特別な支援を必要とする幼児児童生徒に対する指導の在り方を追究する。

○新しい時代の特別支援教育の課題に応じた教育について研究し、実践を進展させる。

Ⅱ　活動状況

1　研究組織

本研究会は、小学校・中学校の特別支援学級を母体とする本部と障害種・学校別の３つの部会（難聴・言語、発達・情緒、特別支援学校）とで構成されている。

2　本部事業

⑴　平成28年度総会・講演会

昨年度の活動状況及び本年度の研究活動方針や事業計画について審議した。また、総会後、国立特別支援教育総合研究所の若林　上総　先生にご講演いただいた。

期　　日　平成28年６月10日㈮
会　　場　埼玉大学教育学部附属特別支援学校
協議事項　平成27年度事業報告、平成28年度事業計画、新役員選出、等
記念講演
・国立特別支援教育総合研究所主任研究員
若林　上総　氏
・演題「新しい学習指導要領のもとでの実践に向けて」
・参加者数　91名

⑵　第56回埼玉県特別支援教育研究協議会

毎年、夏に開催する重要な事業である。今年度は、パストラルかぞ加須文化・学習センター、加須市市民総合会館市民プラザかぞを会場に、全体会・１８分科会という内容で開催した。

午前の全体会では、国立特別支援教育総合研究所の江田　良市　先生を招いて「特別支援教育の更なる進展に向けて」というテーマで特別講演会が行われた。障害者差別解消法施行後の特別支援教育の在り方について、更には、合理的配慮の検討・決定を行う際に、「合意形成を踏まえる」ことが大切であるとご教示いただいた。

午後は、すべての分科会に指導助言者として大学機関等の研究者を迎え、専門的な見地から特別支援教育における的確な御指導と貴重な情報を提供いただいた。

分科会は、すべての教育現場で特別支援教育の推進を目指す観点から、幼稚園・保育所、高等学校分科会、通常の学級に関する分科会を設定した。実践に基づく貴重な提案がなされ、熱心な協議が展開された。

期　　日　平成28年８月３日㈬
会　　場　パストラルかぞ加須文化・学習センター他
内　　容　全体会（講演会）、分科会
参加者数　785名
全 体 会　特別講演会
テ ー マ「特別支援教育の更なる進展に向けて
～障害者差別解消法施行を受けて～」
講　　師　国立特別支援教育総合研究所
総括研究員　江田　良市　氏
分 科 会　次ページの一覧で報告する

⑶　第24回特別支援教育実践研究協議会

今年度は大里地区をはじめ、県内各地の教員が参

第56回埼玉県特別支援教育研究協議会　分科会一覧

分科会No	分科会名とテーマ	指導助言者（敬称略）			提案者			司会者			分科会会場	分科会No
1	学校経営 特別支援教育を基盤とした一人一人の豊かな学校生活を支える学校経営のあり方	聖学院大学 川口市立元郷小学校	教授 校長	吉田　昌義 髙橋　光代	さいたま市立植水小学校 越谷市立北越谷小学校	校長 校長	内河　水穂子 池田　広	白岡市立南小学校 越谷市立出羽小学校	校長 校長	山中　正志 西田　知巳	パストラルかぞ 実習室２	1
2	各教科等を合わせた指導①（日常生活の指導・遊びの指導） 一人一人の意欲や技能を高め、人とのかかわりを育てる日常生活の指導・遊びの指導のあり方	埼玉純真短期大学 県立総合教育センター	教授 主任指導主事	伊藤　道雄 小池　八重子	県立上尾かしの木特別支援学校 横瀬町立横瀬中学校	教諭 教諭	田口　祥子 吉田　光汰	県立特別支援学校羽生ふじ高等学園 皆野町立皆野中学校	教諭 教諭	土屋　弥生 有賀　栄子	パストラルかぞ 実習室１	2
3	各教科等を合わせた指導②（生活単元学習・作業学習） 将来の自立と社会参加を目指し、一人一人の生活する力、働く力を育てる生活単元学習・作業学習のあり方	文教大学 県立久喜特別支援学校	准教授 教頭	小野里　美帆 赤間　茂	県立熊谷特別支援学校 さいたま市立植竹小学校	教諭 教諭	渡邊　庄元 三逵　梨那	富士見市立富士見特別支援学校 さいたま市立日進北小学校	教諭 教諭	辻　雅之 猪野　愛子	パストラルかぞ 会議室	3
4	教科別の指導①（小学校段階） 小学校（部）段階における、生活に生きる確かな学びを大切にした教科別指導のあり方	元上越教育大学 さいたま市教育委員会	教授 指導主事	齋藤　一雄 堀内　千佳子	県立上尾かしの木特別支援学校 蕨市立南小学校	教諭 教諭	田牧　諒 木村　大海 御園　裕右	県立所沢おおぞら特別支援学校 蕨市立南小学校	教諭 教諭	大熊　浩之 菅沼かおり	パストラルかぞ 展示室	4
5	教科別の指導②（中・高段階） 中学校（部）、高等部段階における、生活に生きる確かな学びを大切にした教科別指導のあり方	埼玉大学 県立大宮北特別支援学校さいたま西分校	教授 教頭	長江　清和 小島　邦隆	県立所沢おおぞら特別支援学校 飯能市立加治中学校	教諭 教諭	久保　沙由里 小室　昭代	県立川口特別支援学校 飯能市立原市場中学校	教諭 教諭	野村　利則 島津　政子	パストラルかぞ 研修室２	5
6	自立活動 個別の教育的ニーズに応じ、豊かな生活を支援する自立活動のあり方	埼玉大学 県立総合教育センター	准教授 指導主事	名越　斉子 船津　昭平	県立越谷西特別支援学校 東松山市立松山第二小学校	教諭 教諭	富田　沙織 荒井ゆう子	県立川越特別支援学校 東松山市立松山第一小学校	教諭 教諭	横田　一美 山本　彩子	パストラルかぞ 大ホール	6
7	知的障害と自閉症を併せ有する児童生徒への指導・支援 特別支援学校及び特別支援学級における、自閉症の特性に配慮した効果的な指導のあり方	埼玉大学 県立所沢特別支援学校	教授 教頭	櫻井　康博 田中　ひとみ	県立騎西特別支援学校 小川町立小川小学校	教諭 教諭	小川　きよ江 伊豆野　文子	県立騎西特別支援学校 小川町立竹沢小学校	教諭 教諭	本多　正典 小泉　みよこ	パストラルかぞ 小ホール	7
8	キャリア教育 一人一人の個性を活かした社会参加をめざすキャリア教育・進路指導のあり方	東松山障害者就労支援センター 県立特別支援学校さいたま桜高等学園	事務局長 主幹教諭	若尾　勝己 菅原　博	県立春日部特別支援学校 さいたま市立大宮八幡中学校	教諭 教諭	島田　さえり 橋本　幸恵	県立春日部特別支援学校 さいたま市立西原中学校	教諭 教諭	中村　勇樹 長谷川則子	市民プラザかぞ ３０１Ａ	8
9	特別支援教育コーディネーターの役割と個別の教育支援計画・指導計画の活用 個別の教育支援計画、個別の指導計画等を活用した学校内外の連携のあり方	埼玉大学教育学部附属特別支援教育臨床研究センター 県教育局県立学校部特別支援教育課	専門相談員 主任指導主事	服部　純一 橋本　晋一	県立深谷はばたき特支特別支援学校 春日部市立八木崎小学校	教諭 教諭	**八木　邦彦** 中村　英美	県立深谷はばたき特支特別支援学校 春日部市立牛島小学校	教諭 教諭	野口　玲行 沼田　敦	市民プラザかぞ 402	9
10	交流及び共同学習 ノーマライゼーションの進展をめざし、豊かな関わり合いの中で共に学び合う交流及び共同学習のあり方	埼玉大学 県教育局県立学校部特別支援教育課	准教授 指導主事	山中　冴子 田村　好子	県立三郷特別支援学校 朝霞市立朝霞第二小学校	教諭 教諭	宮本　絵美 阿部　咲紀	県立三郷特別支援学校 朝霞市立朝霞第一中学校	教諭 教諭	川端鯉太郎 金井　邦夫	市民プラザかぞ ４０４Ａ	10
11	通常の学級における発達障害のある児童生徒への支援 特別支援学級の弾力的運用等を活用した、発達障害のある児童生徒への支援のあり方	聖学院大学 さいたま市教育委員会	教授 指導主事	金谷　京子 荒井　康恵	本庄市立金屋小学校 熊谷市立熊谷西小学校	教諭 教諭	沼田　麻里 杉浦　里奈	上里町立七本木小学校 熊谷市立熊谷西小学校	教諭 教諭	飯田　潔 戸田　昌子	市民プラザかぞ ４０４Ｂ	11
12	通常の学級における授業改善 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、すべての子どもにとって分かりやすい授業づくりのあり方	文教大学 県立越谷特別支援学校	教授 教頭	今野　義孝 高橋　雄一	入間市立金子小学校 行田市立行田中学校	教諭 教諭	今田　剛 菊野　享子	入間市立東町小学校 行田市立西小学校	教諭 教諭	新福　誠 田村　歩美	市民プラザかぞ ３０１Ｂ	12
13	通級による指導①（発達障害・情緒障害） 通級指導教室における発達障害・情緒障害のある児童生徒への支援のあり方	星美学園短期大学 所沢市教育委員会	専任講師 指導主事	遠藤　愛 伊東　真吾	草加市立栄小学校 草加市立栄中学校	教諭 教諭	柴崎ひとみ 上野恵理 加藤　吉宏	所沢市立並木小学校	教諭	坂本　條樹	市民プラザかぞ ３０１ｃ	13
14	通級による指導②（難聴・言語障害） 通級指導教室における難聴・言語障害のある児童生徒への支援のあり方	東京家政大学 熊谷市立星宮小学校	教授 教頭	半澤　嘉博 磯野　和人	上尾市立上尾西小学校 さいたま市立大宮南小学校	教諭 教諭	髙野　智樹 北島　美穂	狭山市立入間川東小学校 川口市立幸町小学校	教諭 教諭	澤田スミ子 池内　美貴	パストラルかぞ 研修室１	14
15	重度・重複障害のある児童生徒への指導・支援（訪問教育・医療的ケアを含む） 重度・重複障害のある児童生徒の理解と支援、及び医療との連携のあり方	埼玉大学 県立浦和特別支援学校	教授 教頭	細渕　富夫 髙井　賢一	県立越谷特別支援学校 県立熊谷特別支援学校	教諭 教諭	四角目　吉洋 中島　琴美	県立越谷特別支援学校 県立熊谷特別支援学校	教諭 教諭	中富　太智 篠原　啓志	市民プラザかぞ ３０２Ａ	15
16	幼児期の特別支援教育 幼稚園や保育所における、一人一人のニーズに応じた早期支援と就学支援のあり方	発達支援教室ビリーブ 文教大学 和泉短期大学	代表 講師 専任講師	加藤　博之 八代　陽子	羽生市立井泉小学校 蕨市立みどり保育園	教諭 保育士	小倉　克己 中村　尚子	羽生市立須影小学校 埼玉大学教育学部附属特別支援学校	教諭 教諭	吉野　政実 西野　碧	市民プラザかぞ 303	16
17	高等学校における特別支援教育 高等学校における特別支援教育の推進体制及び校内支援体制のあり方	星美学園短期大学 県教育局県立学校部特別支援教育課	専任講師 指導主事	太田　研 田中　幸子	県立戸田翔陽高等学校 県立新座高等学校	教諭 教諭	齋藤　淳子 雨宮　史子	県立戸田翔陽高等学校 県立新座高等学校	教諭 教諭	鈴木　太郎 福泉　志織	市民プラザかぞ ３０２Ｂ	17
18	特別支援学級での授業づくり入門 特別支援学級における授業づくりの基礎と学級経営のあり方	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	副校長	神田　佳明	越谷市立城ノ上小学校 さいたま市立日進中学校	教諭 教諭	小林　宣子 山口　幸子	越谷市立大沢北小学校 埼玉大学教育学部附属特別支援学校	教諭 教諭	大矢　久美子 栗原　悦子	市民プラザかぞ 403	18

加した。６つの分科会を設定し、実践事例を持ち寄り、教えるプロとしての熱意の感じられる充実した協議会を開催することができた。

期　　日　　平成28年８月18日㈭

会　　場　　熊谷市立妻沼中央公民館

参加者数　　72名

⑷　第４回埼玉県特別支援教育みらいセミナー

長期研修派遣教員が学んだ先端研究や優れた教育実践に触れ、新たな特別支援教育の方向性を学ぶ機会として開催された。特別支援に関する研究成果を、その後の教育実践と結びつけながらの発表で、協議も充実し、意義深い会となった。

期　　日　　平成28年12月３日㈯

会　　場　　大宮ソニックシティカレッジ

⑸　第46回埼玉県特別支援教育研究発表大会

特別支援教育にかかわる実践研究の成果を広く公募し、その中から、創意工夫あふれる優れた研究実践を紹介し、特別な配慮を必要とする児童生徒への教育の更なる充実・発展をめざす。今回は、生活単元学習の授業づくりの取組、小学校全校での環境整備等の取組、県立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの取組についての発表があり、最新の実践研究の成果が発表された。

期　　日　　平成29年１月27日㈮

会　　場　　埼玉大学教育学部附属特別支援学校

⑹　提案者等の推薦

第50回関東甲信越地区特別支援教育研究協議会

期　　日　　平成28年８月９日㈫

第９分科会「教科・領域を合わせた指導（生活単元学習）」

提案者：田中　雅之　（北本市立西小学校　教諭）

司会者：柳澤　真美

（埼玉大学教育学部附属特別支援学校　教諭）

第17分科会「個別の教育支援計画・個別の指導計画の活用」

提案者：小澤　紀美子

（埼玉県立春日部特別支援学校　教諭）

司会者：加藤　和子

（埼玉大学教育学部附属特別支援学校　教諭）

⑺　研究委嘱

＜委嘱年度27・28年度＞

①　戸田市立笹目小学校「ユニバーサルデザインと学校づくり－推進から拡充へ－」

②　戸田市立芦原小学校「特別支援教育の視点を根底に据えた学校課題研修の推進～ユニバーサルデザインの視点に基づく授業改善を中心として～」

③　川口市立新郷小学校「『確かな学力』を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成～ユニバーサルデザインの視点を生かした『わかる・できる』『楽しい』授業づくり～」

＜委嘱年度28・29年度＞

④　入間市立金子小学校「ユニバーサルデザインに基づく授業作り～学級内すべての子供にわかりやすい授業の展開～」

⑤　鴻巣市立松原小学校「共に励み、ともに学び、共に磨く松原の子の育成～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級・授業づくり～」

⑥　熊谷市立熊谷西小学校「基礎・基本を確実に身に付け、たくましく生きる児童の育成～インクルーシブ教育の見える化の実践～」

３　難聴・言語障害教育研究部会

「児童一人一人の教育的ニーズに応じた支援のあり方を求めて」を目標として.今年度２回の研究協議会と１回の役員研修会、1回の施設見学を行った。施設見学では大宮ろう学園の各教室や宿舎を見学しその後、「聞こえに障害のある二人のお子様を育てた経験から」というテーマで保護者の方の貴重な経験談をお聞きした。役員会では吃音研修会「ハイブリッド講演」として吃音当事者の立場と元ことばの教室担当の立場のお話をお聞きし、吃音に対しての理解を深めた。

特別支援教育や通級指導教室の充実が求められる昨今、全県で62校116名の担当者にとってこの研究会は貴重な研修の場である。参加率は高く毎回多数の担当者が集まり、研修を深められた。

⑴　全体研修会

期　日　　平成28年４月26日㈫

会　場　　さいたま市立高砂小学校

テーマ　　「特別支援教育の現状と課題」

講　師　　埼玉県教育局県立学校部特別支援教育教育指導担当指導主事　楠奥佳二　先生

埼玉県の特別支援教育の充実に向けての今年度の動向並びに難聴・言語障害通級指導教室の役割についてお話いただいた。

⑵　グループ別研修会

期　日　　平成28年６月24日㈮

会　場　　所沢市立並木小学校

①　構音グループ

「構音指導の基礎」講師を招いての研修

②　吃音グループ「吃音指導の実際」

③　難聴グループ

「難聴指導に関する情報交換・実践紹介」

④　教室経営グループ「各市の教室経営の現状」

⑤　周年記念誌グループ「50周年誌の内容検討」

⑶　グループ別研修会

期　日　　平成28年10月４日㈫

会　場　　県立特別支援学校大宮ろう学園

〔施設見学〕４つのグループに分かれ見学

〔講演会〕

テーマ「聞こえに障害のある子どもを育てた経験から」
二人の聞こえに障害のあるお子さんを育てた保護者の貴重な経験談をお聞きし、今後の通級児童との学習に活かしたいと実感した。
〔全体会〕・連絡及び報告

⑷ 役員研修会
期　日　　平成29年２月14日㈫
会　場　　戸田市立新曽小学校
〔講演会〕吃音研修会「ハイブリッド講演」
テーマ
「吃音当事者とことばの担当者の両方の立場から」
吃音当事者の立場と元ことばの教室担当の立場からご講義いただき、担当者として、通級児童との関わり方や責任を改めて実感した。
〔全体協議〕
① 今年度の各グループ別研修内容の報告
② 今年度の事業報告、予算報告
③ 新年度の役員について

４　発達・情緒障害教育研究部会

⑴ 研修の概要について
研修テーマ「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援のあり方」のもと、3つの分科会を設定し特別支援教育の今日的課題に取り組む。
○自閉症・情緒障害特別支援学級（分科会Ⅰ）
○発達障害・情緒障害通級指導教室（分科会Ⅱ）
○通常の学級における指導上の諸問題（分科会Ⅲ）

⑵ 具体的な研修について
【第１回研究協議会】
期　日　平成28年５月31日（火）
会　場　さいたま市武蔵浦和コミュニティセンター
参　加　76名
全体会　「特別支援教育の現状と課題」
講　師　埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課
指導主事　　井上　弘江　先生
各分科会に分かれ，分科会Ⅰでは自閉症・情緒障害特別支援学級の経営と指導について，分科会Ⅱでは，通級指導教室の運営上の諸課題について，情報交換・意見交換を行った。また，分科会Ⅲでは通常の学級担任やコーディネーターを指名された先生方に対して，それぞれの活動についての課題に対して，本会役員がコンサルテーションを行った。
【第２回研究協議会】
期　日　平成28年８月26日（金）
会　場　所沢市立柳瀬公民館ホール
講演会「特別支援教育に生かす神経科学・行動科学」
講　師　名古屋学芸大学ヒューマンケア学部
准教授　　今井　正司　先生
参　加　160名
【第３回研究協議会】
期　日　平成29年３月２日㈭
会　場　さいたま市武蔵浦和コミュニティセンター
発表者　所沢市立並木小学校　岡部泉太郎　先生
【第１回役員研修会】
期　日　平成29年３月２日㈭
会　場　さいたま市武蔵浦和コミュニティセンター
次年度の事業計画，研究大会発表者の選定などを役員・研修係で行った。

５　特別支援学校部会

以下の９つの研究部会に分かれ、各研究テーマのもと外部講師の招聘や実技研修も交え、取り組んでいる。
・国語部会
「生活を豊かにする国語の指導」
・算数・数学部会
「発達の段階に応じた指導法について」
・日常生活の指導部会
「生活力を身に付け、高める日常生活の指導」
・生活単元部会
「どの子も主体的に活動できる生活単元学習」
～「できる状況づくり」を目指した授業づくり～
・作業学習部会
「生徒の実態に即した作業学習」
・自立活動部会
「個の障害特性・ニーズを踏まえた自立活動の充実」～企業におけるＳＳＴの実践及び応用行動分析学の手法から学ぶ～
・体育部会
「よりよい授業づくりを目指して」
～授業をとおして運動の経験を積み重ね、卒業後の生きがいにつながる指導の工夫～
・音楽部会
「豊かな表現力を育てる音楽教育」
～児童生徒一人一人の力を高め、互いに学び合える授業の工夫～
・図工・美術部会
「発達の視点をもった表現活動」
（各部会の研究内容：本会発行の会報49号を参照）

６　今後の課題

全ての教育機関において「特別支援教育」の必要性が叫ばれ、障害者権利条約の批准に伴い、インクルーシブ教育システムの構築が課題となっている。本会の研究協議会も約800名の参加者があり、幼・小・中・高の全ての校種、特別支援学級、特別支援学校の教員に加え通常の学級の教員や管理職まで幅広い。今後とも広い教育現場での特別支援教育のニーズに、最も応えられる団体としての充実と貢献が必要である。

16　学校図書館教育

埼玉県学校図書館協議会

Ⅰ　研究主題と方針

「豊かな心と確かな学びを育む学校図書館の創造」
～読書指導のてびきの見直しと再編集～

Ⅱ　主題設定の理由・方針

現行学習指導要領では、「生きる力」の育成をめざし、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むことが求められている。

また、各教科等を通じて児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育む観点から言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図ることとしている。その中でも、読書活動は、児童生徒の知的活動を増進し、豊かな心と確かな学びを育むとともに、人間形成・情操や情報活用能力を養う上で重要である。全教育活動を通し、児童生徒の望ましい読書習慣や図書館等を活用する学習習慣をつけるため、学校図書館を計画的に利用して、多様でしかも創意工夫した学習指導の展開を図ることが必要である。

さらに、次期学習指導要領にキーワードの一つである「アクティブ・ラーニング」「主体的・対話的で深い学び」についての理解と学校図書館の果たすべき役割について研究を深めていかなければならない。

そこで、本年度は、学習指導要領の趣旨に基づき、昨年度から進めている「読書指導のてびき」再編集と刊行を最重要課題に設定し、研究大会や読書感想文コンクールをはじめとする諸事業の一層の充実を図ることとした。

1　活動方針

⑴　管理運営：学習・情報センターとしての学校図書館の充実
　①　学校図書館全体計画
　②　年間経営計画
　③　小中・地域連携全体計画の見直し

⑵　利用指導：学び方を学ぶ情報活用能力を育成する指導の在り方
　①　学び方指導計画、情報メディアを活用する学び方体系表
　②　利用指導年間指導計画の見直し
　③　学校図書館活用事例を付記した各教科等年間指導計画例の提案

⑶　読書指導：生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導の在り方
　①　読書指導の全体計画体系表
　②　読書指導年間指導計画
　③　小中連携の系統表

⑷　地域連携：学校、家庭、地域社会等の連携による読書活動の推進の在り方
　①　学校・家庭・地域等(図書館ボランティア等)の連携の体系表
　②　家庭教育との連携
　③　公立図書館等との連携推進

2　各部の事業概要

⑴　事務局……事業の計画・実施・評価、各会議の開催手続、年度資料ファイル管理、一般会計、会計監査等

⑵　総務部……読書感想文コンクール、読書感想画コンクールの企画・運営、表彰式の企画・運営

⑶　研究部……活動方針と努力点の計画・実施、研究員協議会、研究大会、授業研究会の企画・運営・管理・記録、研究刊行物の再編集

⑷　情報部……広報誌発行、埼玉ＳＬＡ基礎資料収集、ホームページの管理

⑸　出版部……研究集録の編集・発行、刊行物の企画・運営・管理等

3　活動状況

５月10日㈫　第1回本部役員研修会
　会場：朝霞市立朝霞第九小学校
６月３日㈮　新旧役員研修会（総会）・理事会
　本部役員会・第１回研究員研究協議会
　会場：さいたま市青少年宇宙科学館
７月１日㈮　第２回研究員研究協議会
　会場：さいたま市青少年宇宙科学館
７月29日㈮　埼玉県学校図書館研究大会
　会場：越谷市中央市民会館
　共催：埼玉県学校図書館協議会
　　埼玉県図書館協会
８月８日㈪～10日㈬
　全国学校図書館研究大会

神戸大会へ参加

11月１日㈫　授業研究会（小学校）及び
第２回本部役員研修会
会場：坂戸市立千代田中学校
指導者：城西大学水田記念図書館長
橋本フミ恵　氏
授業者：秋元三基雄　教諭
内容：「京都・奈良を紹介しよう」

11月22日㈫　第62回読書感想文コンクール
県中央審査会
会場：さいたま市立美園小学校
指導者：毎日新聞さいたま支局長
竹中　拓実　氏

１月17日㈫　第28回読書感想画コンクール
県中央審査会
会場：さいたま市立美園小学校
指導者：毎日新聞さいたま支局長
竹中　拓実　氏
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課
指導主事　　小川　直生　氏
さいたま市立指扇中学校長
栗原　勝義　氏

１月31日㈫　第３回研究員研究協議会
会場：越谷市中央市民会館

２月22日㈬　読書感想文・感想画コンクール表彰式並びに第２回理事会
会場：越谷市コミュニティセンター

３月11日㈯　第２回本部役員会
会場：朝霞市立朝霞第九小学校

☆　研究集録（真珠・研究紀要合併号）発行
☆　機関紙「埼玉SLA」発行
☆　「読書指導のてびき」発行

Ⅲ　本年度の主な研究内容

１　埼玉県学校図書館研究大会

平成28年７月29日㈮越谷市中央市民会館にて、埼玉県学校図書館協議会・埼玉県図書館協議会の共催による「埼玉県学校図書館研究大会」を、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会の後援を受け開催した。当日は、「豊かな心と学びを育む学校図書館の創造」をテーマに、午前に講演を一席、午後は全体講義を一つと４分科会に分かれての研究会を行った。小・中・高校の司書教諭や学校図書館・公立図書館の関係者150名が参加し、有意義な大会となった。

＜講演会＞

「障害者差別解消法の施行と学校図書館
～合理的配慮の提供と基礎的環境整備の推進」
講師　専修大学教授　　野口　武悟　氏

平成28年４月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）が施行された。障害は個人の問題ではなく、「社会こそが障害を作っており、それを取り除くのは社会の責務」であるというノーマライゼーションの考え方を実現するべく制定されたものである。今までは、障害のある児童生徒をどう指導していくか、という考え方であったが、現在通常学級１クラスに6.5％の割合で障害の可能性のある児童生徒がいるという現実の中、学習が困難な児童生徒を指導する環境をどう整えていくかという「合理的配慮」は行政（学校）における義務となった。障害の可能性のある児童生徒のうち、約半数が学習障害であり、そのうちの約８割がディスレクシア（読み書きが困難）である。読み書きが困難な児童生徒が、学校図書館を使うということは抵抗があると考えられる。そこで、学校図書館はどのような「合理的配慮」ができるのか、という具体的な対応例を挙げていただいた。これらは、特別な子だけのためにあるのではなく、全ての人が利用できるもの、このような配慮は当たり前という認識をもつことが今後必要となる。各校で何ができるかを検討し、対応を進めてほしい。

＜全体講義＞

「アクティブ・ラーニングと学校図書館
～意欲的に取り組む探究的学習を！」
講師　東京学芸大学非常勤講師　　村山　正子　氏

ここでは、「テーマ決め」と「情報収集」について述べる。

「テーマ決め」は探究的な学習のポイントになる。より詳しいテーマを設定するためには、図書の他にウェビングマップ、ドーナツチャート、新聞記事等を活用する方法がある。文で表現したり、友達と意見交換したりすることは非常に効果的である。

実際の授業の中では、「情報収集」の支援が中心となる。図書で調べる時には、３冊以上調べること、反対意見とも比較してみること、引用と自分の意見を区別して書くこと等を意識するように声をかけている。担当教員や学校司書との打ち合わせをもとに、新聞、データベース、雑誌、インターネット等の資料の用意をすることも忘れてはならない。また、完成した作品を学校図書館で保存しておくと、イメージがわきやすい。図書、新聞、インターネットを活用する際の利点と併せて留意点もある。

アクティブ・ラーニングが強く叫ばれるこれからの教育では、学校図書館は学校の中心に、そして、すべての教科の学習活動の土台になっていく。

＜分科会＞

分科会Ａ（管理運営）

「学校図書館の運営と充実」

提案発表者

三郷市立早稲田小学校　　武藤　菜々　教諭

越谷市立中央中学校　　櫻井亜莉沙　教諭

武藤教諭は、学校図書館に対する教員の共通理解を図るため、学校図書館会議を開くなど、教職員の意識改革を実践されたことについて発表した。図書館支援員とも連携を図り、効果的なオリエンテーションを実施していることについて述べた。全職員で共通理解を図ることや、次年度へしっかり引継ぎをしていくことの大切さなども述べた。

櫻井教諭は、「攻めの姿勢での働きかけ」というテーマに基づき、利用を待つのではなく、学校図書館の情報を積極的に発信していることや、出張授業の実践について発表した。教科の中でも図書館を利用する機会を増やす工夫が多く紹介された。生徒だけでなく、職員にもライブラリーナビを配付することで、図書館の利用の幅が広がることも紹介された。

分科会Ｂ（利用指導）

「学校図書館を活用した情報活用能力の育成」

提案発表者

本庄市立本庄西小学校　　吉田　育代　教諭

越谷市立大相模中学校　　中井　美穂　教諭

吉田教諭は、オリエンテーションとしての、○×クイズや、本の紹介、読み聞かせなど具体的な方法を発表した。２年生の国語では分類シール（赤木かん子　パネルサイン）、４年生では、全国学校図書館協議会「図書館・学び方ノート」を利用した授業を発表した。また、読書ビンゴ、手作りしおり、親子読書カード、差し込み表示板作成など利用指導の具体的な取組を紹介した。

中井教諭は、１年生へのオリエンテーションとして、図書館利用についてのクイズや分類番号を使った暗号解読ゲームを紹介した。国語での調べ学習では、新聞記事からテーマを探し、図書やインターネットで調べ、ミニ新聞にまとめる学校図書館を活用した授業実践を発表した。

分科会Ｃ（読書指導）

「生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導」

提案発表者

川越市立大東西小学校　　八代　和泉　教諭

さいたま市立土呂中学校　　江原　瑞貴　教諭

八代教諭は、読書月間を中心とした取組の実践を発表した。１つ目は「読書ビンゴ」で読書の輪を広げるのに有効だった。２つ目は理科のおすすめ本の紹介で、普段、児童が手に取らない本をよく読んだ。３つ目は図書委員によるお薦めの本の紹介で、子ども同士で紹介し合うことは読書量を増やすのに有効だった。最後に、課題として高学年の読書量を増やすことと読書の質を高めることの２点を挙げた。

江原教諭は、中学校の国語科の授業実践を発表した。教材と関連させて、その作家の他の本を読み、読書新聞を作るなど授業時数の少ない中で指導計画を工夫し、各学年で取り組んでいた。個読で新聞を書き、グループで書いた物を読み合うことで、より読みが深まったようだ。また、図書室経営の一環として、10,000ページ読書活動、土呂中学校100選などにも積極的に取り組んでいた。

分科会Ｄ（地域連携）

「連携による読書活動の推進の在り方」

提案発表者

富士見市立水谷中学校　　堀口　竜輔　教諭

三郷市立早稲田図書館　　園田久美子　館長

堀口教諭は、地域連携部会として初めて中学校からの提案となった。社会福祉体験としての体験や小学生への読み聞かせなど、中学生ならではの取組とともに、中学校が地域連携をする難しさが挙げられた。今後は、さらなる連携活性化のために、積極的に連携する意識を持ち、共通認識をもって活動を進めていくことの必要性について述べた。

園田館長は、三郷市の多様な取組についての発表となった。三郷市は市全体で読書活動を推進し、公共図書館と小中学校などの連携が盛んに行われている。公共図書館での魅力あふれる催しの他、「日本一の読書のまち推進室」が中心となることで小中学校との共通理解が進み、スムーズな連携となっていることが述べられた。

２　授業研究会（中学校）

期　日：11月１日㈫

会　場：坂戸市立千代田中学校

内　容：「京都・奈良を紹介しよう」

授業者：司書教諭　　秋元　三基雄　教諭

指導者：城西大学水田記念図書館

図書館長　　橋本　フミ恵子　先生

３　第62回読書感想文コンクール県中央審査会

期　日：11月22日㈫
会　場：さいたま市立美園小学校
指導者：毎日新聞さいたま支局長　竹中　拓実　氏

最優秀賞受賞者
≪読書感想文≫
◎自由読書
小低
白岡市立南小学校　１年　泉　杜和
作品名　ぼくのだんごむしは、だんちゃんだよ
小中
久喜市立青毛小学校　４年　田村　美南
作品名　生き抜いてきた鐵志と私
小高
さいたま市立大戸小学校　６年　舘市　侑汰
作品名　家族がいるありがたさ
中学校
飯能市立加治中学校　１年　篠田　祥太
作品名　「武器より一冊の本をください」を読んで
◎課題読書
小低
蕨市立中央東小学校　１年　河合　瑠菜
作品名　わたしのなかのみずたま
小中
上尾市立今泉小学校　４年　當摩　紗瑛
作品名　母の言葉の本当の意味
小高
坂戸市立千代田小学校　６年　日置　萌花
作品名　ふるさとと共に
中学校
川越市立名細中学校　１年　山内　優輝
作品名　自分らしく生きる

４　第28回読書感想画コンクール県中央審査会

期　日：１月17日㈫
会　場：さいたま市立美園小学校
来　賓：毎日新聞さいたま支局長　竹中　拓実　氏
指導者：さいたま市教育委員会学校教育部
指導１課　指導主事　小川　直生　氏
さいたま市立指扇中学校
校　長　栗原　勝義　氏

最優秀賞受賞者
≪読書感想画≫
◎自由読書
小低
三郷市立彦郷小学校　１年　大塚　圭一郎
小高
さいたま市立沼影小学校　４年　山田　眞子
中学校
さいたま市立大成中学校　１年　鹿野　さくら
◎指定図書
小低
三郷市立前谷小学校　３年　坂井　唯愛
小高
三郷市立吹上小学校　５年　持田　姫奈
中学校
川越市立霞ヶ関東中学校　２年　森田　美桜

Ⅳ　成果と今後の活動

夏季休業中の研究大会には多数の参加者があり、「主体的・対話的で深い学び」「アクティブ・ラーニング」に果たす学校図書館と読書活動の役割について多様な視点から学ぶことができた。また、２月に感想文・感想画コンクールの表彰式と理事会を開催し、１年間のまとめと次年度に向けての準備を行うことができた。研究部では、読書指導の手引書『すぐ使える読書指導マニュアル』の再編集を終え、刊行した。

研究紀要と読書感想文・感想画優秀作品集「真珠」を統合した、「研究集録」、広報誌「埼玉SLA」を刊行した。

課題として、研究部員の確保、研究協議会開催の工夫について、さらに改善が必要である。ホームページの試行、役員・研究員のネットワーク化も、引き続き、工夫改善の余地がある。

来年度も、各地区理事や研究員と綿密に連携し、学校図書館教育の充実をなお一層図っていきたい。

17　中学校技術・家庭科教育

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会

Ⅰ　はじめに

技術・家庭科のねらいの具現化に向け、カリキュラム検討および題材開発検討を行い、実践研究を進め、その研究成果を県内各中学校の技術・家庭科の教育活動に広げ、生かす取組を行ってきた。また、全国研究大会と７ブロックの研究大会を中心とする教科の研究と、生徒の学習成果の発表の場として設定されている「創造ものづくり教育フェア」の開催・運営を活動の両輪として教育実践を進める形が全国的な動きとなっているなか、本県でも同様に運営と広報の体制を整備し、フェア関係事業の拡張を意識した取組を行っている。

Ⅱ　研究主題

本県研究テーマ
「次代を担い、
　　社会を生き抜く力を育む学習指導の研究」

本年度も昨年度に引き続き、社会の変化への対応を主体的にできる力を身に付けさせる生徒の育成をめざし、「次代を担い、社会を生き抜く力を育む学習指導の研究」というテーマで、実践研究を行い、今年度の関東甲信越技術･家庭科研究大会にて成果を発表した。

Ⅲ　本年度の研究内容・活動状況

１　研究方針・研究体制

⑴　県内を 11 支部に分け、各支部より専門委員を選出し、指導内容等による分科会を配置し、研究について情報交換を行いながら、研究発表を行う体制を作る。

⑵　専門委員会の活動を中核とし、各支部でリーダーシップ をとった技術・家庭科教育の充実を図る。

⑶　昨年度までの取組をもとに、学習指導要領の趣旨の具現化に関わる実践研究を進める。

⑷　学習指導要領の趣旨の具現化につながるよう、各支部で授業研究会等を推進する。

⑸　各校の技術・家庭科の授業実践に生かせる資料を可能な限り検討及び作成・収集する。

⑹　平成 28 年度関東甲信越ブロック大会埼玉大会の全体会の提案をまとめるとともに、全体会の企画・運営、分科会での提案を行う東西南北及びさいたま市の５ブロックによる研究組織それぞれに、大会を意識した研究を推進することを呼びかけ及びまとめるとともに、各分科会の発表における企画・運営まで行った。

また、10 部会
①材料と加工に関する技術部会
②エネルギーの変換に関する技術部会
③生物育成に関する技術部会
④情報に関する技術部会
⑤家族・家庭と子どもの成長部会
⑥食生活と自立部会
⑦衣生活・住生活と自立部会
⑧身近な消費生活と環境部会
⑨教育課程部会
⑩研究主任部会
ごとに、学習指導要領の趣旨に則った年間指導計画及び評価計画を作成し、その中からの授業実践や、授業提案を取り上げながら研究を進めるとともに指導力向上を図り、ブロック大会での発表を行った。

また、創造ものづくり部会を別に設け、フェア運営の充実を図った。

２　研究経過・活動の概要

⑴　専門委員会

①　第１回専門委員会
６月22日㈬　県民活動センター
○平成27年度　活動報告
○平成28年度　研究概要の説明・周知
○研究の検討及び進め方について

②　第２回専門委員会
12月９日㈮　県民活動総合センター
○関ブロ埼玉大会分科会発表内容報告
○全体会（確認事項及び事務連絡）
○各分科会の研究協議
（研究集録の確認・今後の研究について）

③　教員研究発表会
２月24日㈮　県民活動総合センター
○各分科会で工夫し創造する能力を意図的に育む授業を軸に検討した年間指導計画及び評価計画による授業研究成果発表（全体提案及び９分科会）
○指導講評

埼玉県総合教育センター指導主事
山本　智広　先生

⑵　支部長研修会

①　支部代表者会

５月18日㈬　県民活動総合センター

○関ブロ準備会

○理事会・総会

②　支部長研修会

９月16日㈮　県民活動総合センター

○２学期以降の諸事業運営検討

○関ブロ埼玉大会全体会・分科会運営計画確認

○ＳＡＩＴＡＭＡ創造ものづくり教育フェア運営について

③　支部長研修会

３月１日㈬　さいたま市立与野東中学校

○平成28年度事業報告

○平成28年度会計報告・監査報告

○平成29年度事業計画

○平成29年度関東フェア埼玉大会運営について

⑶　ＳＡＩＴＡＭＡ創造ものづくり教育フェア

11月11日㈮　ウィングハット春日部

＜後援＞埼玉県教育委員会　さいたま市教育委員会
川越市教育委員会

＜共催＞春日部市教育委員会

＜趣旨・目的＞

○ものづくりの発表を通して，生徒が知識や技術を習得・活用することにより、ものをつくることの喜びを味わう機会とする。

○技術・家庭科で習得した知識や技術を生かし、生徒がつくる喜びや仲間と共同して競技をする喜びを味わう機会とする。また、発表の場を通して、他校生徒との交流を図り、併せて知識や技能の向上を図る。

○「ロボットコンテスト部門」、めざせ!「木工の技」チャンピオン部門、「豊かな生活を創るアイデアバックコンクール部門」「あなたのためのお弁当コンクール部門」「生徒作品コンクール部門」共に、第17回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県代表生徒・作品を選出する大会を兼ねるものとする。上記の第17回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県代表生徒・作品を選出する５部門と「生徒研究発表会部門」の計６つの部門からなる大会運営を実施した。県研究会のＷｅｂページや県専門委員会でのＰＲ等の広報活動を行った。今後とも各部門での多くの参加者･出品数となるように研究会としても検討していきたい。

①　生徒研究発表部門

身近な問題や、タイムリーな話題となっている事柄を研究テーマに設定し、担当の技術・家庭科教師による指導のもとで各支部代表生徒による研究発表会が行われた。生徒が日々直面している生活の中から、疑問に思っていることがらの解明や生活する上での工夫等が多く取り上げられた。発表の仕方についても自信をもってはっきりとした口調で話し、実物の提示や実演など研究内容が聞き手にわかりやすく伝わるよう各自で工夫を凝らし、しっかりと準備をしてこの会に臨んだ様子がうかがえた。聞き手も立派な態度で各研究について聞き入っていた。

＜研究発表＞

・「揚げ物の油は何回まで使えるか」
さいたま市立大宮西中学校　肥田野　理子

・「快適にすごすための衣服の色」
さいたま市立本太中学校　家庭科部

・「なぜ、料理によってゼラチンと寒天の使われ方が違うのか？」
川口市立里中学校　生活科学部

・「野菜嫌い克服ハンバーグ」
伊奈町立小針中学校　松本せりな
加藤　陽名

・「保冷剤の再利用術～日や水害に使えるエコアイディア～」
所沢市立柳瀬中学校　角島　　迅

・「家中まるごとピカピカ大作戦」
川島町立川島中学校　田川　友理

・「イカを丸まらずに調理する方法」
長瀞町立長瀞中学校　三橋　　尊

・「神川町の特産「梨を使った梨ジャム」の研究」
神川町立神川中学校　須野　原空
守屋　明夏
パンヤーチュンリナ

・「ジョウロの「口」の研究」
熊谷市立大里中学校　木下　滉大

・「すごいぞ酢のパワー」
加須市立加須東中学校　田村　臣仁
吉田　紫穏
中村　朋矢
風戸　大河
別所　航平
飯田　紫織

・「お酢のチカラで毎日元気！！！」
三郷市立早稲田中学校　家庭部

・「「料理は化学？」緑色の紫いも」

久喜市立鷲宮中学校　　阿部　圭吾

＜講評＞
県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　　栃木　法雄　先生

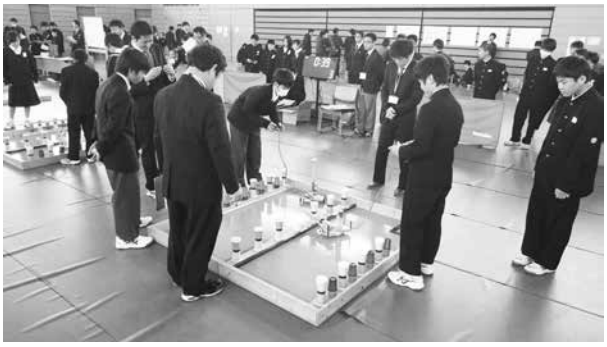
② 埼玉ロボットコンテスト部門
全国大会へつながるルールと、県内のローカルルールを合わせて毎年８種類以上の競技が行われる。

トーナメント部門
A　ワン・ツー・チャンス
B　あっち行けポイ
C　ロボット・オリエンテーリング
D　コンピュータ制御プログラミング
E　ロボサッカー

全国部門
F　全国基礎部門「はじめてのおつかい2016」
G　全国活用部門「積んで、回して、紙コップ」
H　全国応用部門「The 綱引２」
I　全国動画部門

F・G・Hの各部門については部門毎に４チームが、関東甲信越地区山梨大会への代表としてそれぞれ出場することになった。

得点至上主義に走らず、互いのよさやアイディアを評価し合おう。」というスローガンを掲げ、勝敗にこだわらず、お互いのアイデアを認め、学びあいの場となるよう配慮している。



＜審査員＞
埼玉県総合教育センター
指導主事　　山本　智広　先生
埼玉大学　教授　　山本　利一　先生
蓮田市立蓮田中学校　教頭　　安藤　義仁　先生

③ めざせ！「木工の技」チャンピオン部門
授業で習得した知識や技能を活用して、材料等の制約条件の中で作品を考え、構想図をもとに製作した作品を募集したが応募がなく、来年度は参加者増に向けた広報活動など工夫が必要である。

④ 生活を豊かにするアイデアバックコンクール部門
これまで生徒が身に付けてきた知識と技術を生かして製作した作品とレポートをもとに審査を行い、関東甲信越地区群馬大会への代表選考が行われた。上位２作品を選出し、関東甲信越大会へエントリーした。

⑤ あなたのためのお弁当コンテスト部門
食材や献立を、お弁当を作る対象に合わせて思いやり、工夫して調理に当たるコンテストとなる。今大会でも近隣の春日部市立谷原中学校をお借りし、全国大会と同様に実際に調理を行い、審査を実施した。最優秀作品は全国大会へエントリーした。

＜審査員④＞
県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　影山　葉子　先生

＜審査員⑤＞
県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　影山　葉子　先生

＜審査員⑥＞
県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　栃木　法雄　先生

⑥ 生徒作品コンクール部門
全県から作品を募集し、県の研究会で全て審査し、県代表の選出を行なっている。技術分野と家庭分野で授業内製作作品（Ⅰ部門）、自主製作作品（Ⅱ部門）、合計９点を選出し、全国大会へエントリーした。

(4) 第17回全国中学生創造ものづくり教育フェア
1月21日(土)・22日(日)
第一会場　　TOC有明　生徒作品コンクール他
第二会場　　女子栄養大学駒込キャンパス
　　あなたのためのお弁当コンテスト

各都道府県の大会からブロック大会を経て、全国大会に至る一連の流れの最高位となるフェアの全国大会が東京都内二会場にて開催された。盛大に技術・家庭科の学習成果発表ができた。

＜全国大会入賞＞

○生徒作品コンクール

全国中学校産業教育教材振興協会長賞

「電動台車ついてくるくるん改」

所沢市立南陵中学校　　矢野　礼伊

○「あなたのためのおべんとう」コンクール

全日本中学校技術・家庭科研究会会長賞

「I want to save my fathers eye by 愛」

志木市立宗岡中学校　　佐藤美咲希

田中　美帆

松村　京香

(5)　埼玉県発明創意くふう展

10月29日(土)・10月30日(日)

さいたま新都心ビジネス交流プラザ

＜埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長賞＞

・「思いやりフタ」

さいたま市立城北中学校　　鳥羽　穂香

・「免震装置」

さいたま市立城北中学校　　逆藤　広樹

・「シワ知ら～ず」

川越市立高階西中学校　　長尾　虎珠

・「折りたたみ BBQ テーブル」

皆野町立皆野中学校　　門平　桃弥

・「イス」

長瀞町立長瀞中学校　　冨田　佳吾

・「角ハンガーくっつき防止ネット」

八潮市立八潮中学校　　竹内　莉緒

・「猫がいてもエコができる！ドアストッパー」

白岡市立篠津中学校　　水野　　駆

・「安定感抜群マルチ液体流し」

白岡市立白岡中学校　　小堀　亮太

Ⅳ　成果と今後の課題

今年度の関ブロ埼玉大会では、全体での研究及び運営について方向性や見通しをもたせ研究や会議等も同時に進めてきたことで、無事終えることができた。また、大会テーマについても、分科会での提案をする東西南北及びさいたま市の５ブロックでそれに沿った、研究主題を設定し、統一感のある研究を行うことができた。今後は、専門委員会の部会において、これまでの研究成果を再度検討し、県全体での組織的な研究を行い続けていくことが課題である。

研究では、技術・家庭科のねらいを具現化するための授業づくりとその評価についての研究を更に進めて行く必要がある。そこで、本年度の研究によって明らかになった事項の検証を引き続き行っていく。今後、多くの学校でこれらを基に実施及び改善をしながらその成果の検証につなげていきたい。

18　小学校家庭科教育

埼玉県小学校家庭科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」

－食生活への関心を高め、学び合いにより基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用する児童の育成－

2　方針

本研究会は、昭和58年度に「第１回関東ブロック大会」、昭和63年度に「第25回全国大会、第６回関東ブロック大会」、平成11年度に「第17回関東ブロック大会」、平成24年度に「第29回関東ブロック大会」を開催した。その成果は年度を追って充実、発展しつつ今日に受け継がれている。

今年度の研究を推進するに当たって、昨年までの本研究会の研究成果と課題を踏まえながら、自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成をめざし、研究指定地区西部（比企地区）とし研究を推進することとした。

具体的には、西部（比企地区）の家庭科教育研究会を核とし、授業研究を中心とした実践的な研究を展開していく。

3　研究主題について（埼玉県研究主題）

⑴　児童の実態と課題

本地区の児童の実態としては、アンケート調査の結果から家庭科が好きな児童が多いことが伺える。好きな授業内容として「調理の仕方」と回答している児童が多く、次いで、「布を使っての物の作り方」も多い。このことから、実践的・体験的な活動についての関心が高いことが分かる。また、理由として「家庭への協力」、「家庭生活に役立つ」等、家庭に関連した項目への回答も多い。このことから、家庭科の学習では、家庭生活との関連を重視した指導が必要である。

また、あまり好きではない授業内容として「製作や調理の技能」に関する項目を回答している。このことから、家庭科の技能の習得を図る学習過程を工夫することが求められる。

⑵　家庭科で育みたい児童の姿

変化する社会の要請から、家庭科の学習は、自らの力で未来を創り出す力を身に付けさせていくことが必要であると考える。また、家庭科教育では生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、生活における自立の基礎を培うとともに家庭生活を大切にする心情を育み、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることが求められている。そこで自分の生活を見つめ課題を設定し、課題を解決していく中で家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成を目指していく。

埼玉県教育委員会の平成28年度の指導の重点である「アクティブ・ラーニング」（課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び）等の学びの改革を家庭科における指導法を研究する中で取り組んでいく。また、西部教育事務所より示された「題材を通した授業づくり」に取り組むことにより、「考え、話し合い、学び合う」学習を充実させることで、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、それを活用する児童の育成を図りたい。

⑶　研究主題の設定

⑴、⑵での内容をふまえ、研究主題を「自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成－食生活への関心を高め、学び合いにより基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用する児童の育成－」と設定する。「実践的・体験的な活動を重視した指導計画の作成」「学び合い確かな学力を育む指導方法の工夫」「個を伸ばす評価の工夫」「学校、家庭・地域との連携」の４つの視点で研究を進め、目指す児童像の実現を図る。

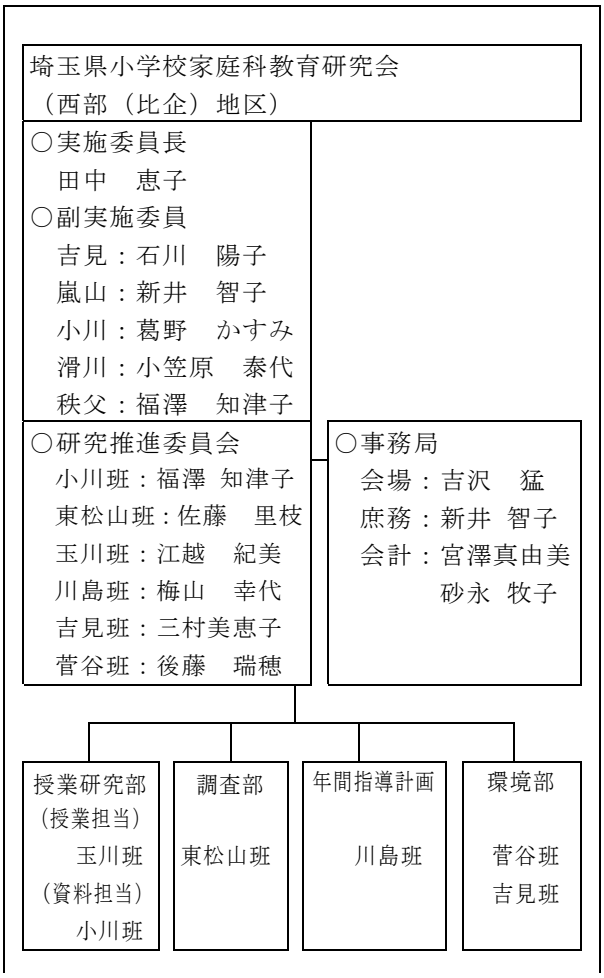
Ⅱ　研究概要について

1　研究の方法

⑴　研究の基本的な考え方

研究主題及び副主題に迫る実践的な研究をする。

(2) 研究組織



2　研究の内容

＜めざす児童像＞

ひ（比）･･･人と人とのきずなを深め

き（企）･･･基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け

ち（地）･･･家庭や地域に広めていく

く（区）･･･工夫ができる児童

＜研究の視点＞

視点1　実践的・体験的な活動を重視した指導計画の作成

児童が自ら考え、話合いを通して解決方法を見付け、創意工夫を重ねることで、将来にわたって生きてくる重要な能力を育てることができる。そこで、年間指導計画作成においては、段階的・系統的に題材を開発し配列した。また、問題解決的な学習や実践的・体験的な学習活動を重視した。さらに、学習したことを家庭生活に生かし、継続的に実践できるようにするための場を指導計画に位置付けた。

視点２　学び合い確かな学力を育む指導方法の工夫

変化の激しい社会を生き抜いていくためには、児童に基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などを身に付けさせる必要がある。そこで、題材を通した授業づくりをし、児童が考え、話し合い、学び合う活動を取り入れていく。また、５年間を見通した授業づくりも進める。

視点３　個を伸ばす評価の工夫

２学年間の家庭科の学習を通して、子どもたちが自分の成長をいかにして実感できるかが重要である。ガイダンスでは、家庭科の学習を通して「なりたい自分」を具体的にイメージできるようにし、題材ごとに、できるようになった自分を振り返ることができるようにした。また、家庭科の学習における評価では、行動観察や学習カード、ワークシートを活用することが多い。

しかし、自己評価や相互評価の方法が課題となっている。そこで、児童同士、児童と教師が互いに評価できる手立てが必要である。そこで、評価の「見える化」を図った。

視点４　学校、家庭・地域との連携

家庭科の学習を充実させ、児童の学習意欲を高め、家庭実践への働きかけをするために、学校、家庭・地域との連携を図った。「家庭科だより」などを通して情報提供を行ったり、家庭の協力を得た家庭実践や地域のゲストティーチャーを活用したりするなどの工夫をした。

3　研究の成果と課題

＜研究の成果＞

○段階的・系統的な題材の開発、配列や実践的・体験的な活動を重視した題材の開発、家族との関わりを重視した指導計画の作成を行うことにより、小学校で押さえるべき基礎的・基本的な知識及び技能が明確になり、２年間を見通した各教科や領域等とのつながりを意識した学習指導ができた。

○「題材を通した授業づくり」に取り組み、問題解決的な学習過程を工夫することにより、児童が学習のめあてを明確にし、主体的に課題の解決に取り組むことができるようになった。

○「考え、話し合い、学び合う」学習過程を位置付けた言語活動を通した学び合いを手立てとすることにより、本時のねらいを達成することができた。

○題材の導入や課題の解決の場面で、調理実験を取り入れたり、ゲストティーチャーによる実物の提示や講話等の体験活動を工夫したりすることにより実感を伴った学習ができ、身に付けるべき知識や技能の習得を図ることができた。

○「自分の成長が実感できる評価」を目指し、評価指標の設定やワークシートや調理実習時の評価方法等を工夫することにより、児童が学習を振り返り、家庭実践への意欲化にもつながった。

○「家庭から始まり、家庭に返す」家庭科の授業づくりを目指し、家庭・地域と連携した学習過程の工夫をした。地域人材を活用することにより児童の学習意欲が高まり、家庭実践の割合も増えた。

＜研究の課題＞

○「題材を通した授業づくり」では、目標を達成するための活動としてアクティブ・ラーニングの効果的な活用等をさらに研究していく必要がある。

○「評価の見える化」（評価の手立てが具体的で、目標に即した評価内容の共通理解）をさらに具体的に研究していく。

○適切な時期に適切な学習ボランティアを活用できるよう連携を進めていく。

Ⅲ　平成28年度埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動

1　平成28年度　研究組織

相　談　役	小川三代子（東部）	
会　　長	染谷　和美（東部）	
所属研究部	副会長（部長）	監事（副部長）
研　修　部	榊原　久子（東部）	池田智恵子（西部）
調査研究部	田中　恵子（西部）	－
広　報　部	茂呂　尚美（南部）	－
庶務会計部	長島　淑子（さいたま）	棚村かおり（北部）
専門委員会	金田　佳子（北部）	小峯由起子（東部）
	幹事 吉田みゆき　横家　知世　髙橋容史子	

地区理事　62名

（常任理事24名含　常任理事は研究部に所属する）

専門委員　14名

研　修　部　部長：榊原　久子

・研修会の計画及び運営

・児童研究発表会の計画及び運営

・研究集録の編集及び発行

調査研究部　部長：田中　恵子

・家庭科学習帳の作成

・全国調査の協力

広　報　部　部長：茂呂　尚美

・小家研会報の作成

庶務会計部　部長：長島　淑子

・文書作成及び発送

・総会、常任理事会、研修会等の要項作成

専門委員会　部長：金田　佳子

・学習指導の実践に関する研究

2　研究会活動状況

(1)　平成28年度役員研修会及び講演会

平成28年５月24日㈫

＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校

①　役員研修会

・平成27年度事業報告

・４部会・専門委員会の活動報告

・平成27年度決算報告・監査報告

・役員の補充・新役員の承認

・平成28年度事業計画、平成28年度予算案

・４部会・専門委員会の活動計画

・全小家研の入会について

・研究指定地区の研究の概要

②　講演会

講師　県教育局市町村支援部

義務教育指導課指導主事

影山　葉子　先生

演題　「小学校家庭科教育の学習指導と評価の工夫」

＜内容＞

ア　次期学習指導要領の改訂に向けて

～論点整理から～

イ　平成28年度埼玉県教育行政重点施策

ウ　アクティブ・ラーニング学習観　６則

エ　平成28年度埼玉県指導の重点･努力点

オ　生活を創意工夫する能力を育む問題解決的な学習の充実

・全面実施６年目の家庭科の実践課題

㈠　２学年間を見通した指導計画の作成

㈡　基礎的・基本的な知識及び技能の明確化

・小・中学校の連携

㈢　学習指導要領実施状況調査を踏まえた指導と評価の改善

㈣　問題解決的な学習

・主体的・協働的に学ぶ学習（言語活動の充実、ＩＣＴの活用）

㈤　家庭との連携

カ　目標に準拠した評価の着実な実施

㈠　各題材で身に付けさせたい力を整理し、指導において、具体化する。（目標の明確化）

㈡　評価規準を適切に設定する。

（目標を実現した児童の姿を具体的に示す）

「評価規準の作成のための参考資料」

（国研）

㈠ 評価場面、評価方法を設定する。

キ　私たちの基礎･基本

～指導や評価に困ったら立ち戻る～

(2) 夏季研修会

平成28年８月５日㈮

＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校

①　全体会

・発明創意くふう展について

・家庭科教育研究協議会について

・児童研究発表会について

・地区別授業研究会の計画について

・４部会の活動

②　平成28年度地区別授業研究会実施発表会

③　講演会

講師　横浜国立大学

教授　　杉山　久仁子　先生

演題　「家庭科における食の内容で育成すべき資質・能力」

(3) 第47回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会

平成28年11月30日㈬

＜会場＞　ときがわ町立明覚小学校

①　研究授業並びに研究協議会

・題材名「食べて元気に　～地元野菜で元気パワーを～」

５年１組授業者　加藤　則子　教諭

・題材名「くふうしよう　みんなの食事」

６年１組授業者　坂本　裕子　教諭

②　記念講演

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官　筒井　恭子　先生

演題「これからの家庭科教育」

③　研究集録第47集の発行

平成２年度から研究指定地区研究の成果のまとめと埼玉県小学校家庭科研究会の組織・活動状況の２部構成で編集している。

(4) 地区別授業研究会（４地区）

①　さいたま市

平成28年11月17日㈭

さいたま市立城北小学校

②　南部・北足立南部地区

平成28年11月22日㈫

蕨市立南小学校

③　北部・秩父地区

平成28年10月11日㈫

秩父市立原谷小学校

④　東部・埼葛地区

平成28年11月９日㈬

越谷市立平方小学校

(5) 埼玉県発明創意くふう展

平成28年10月29日㈯～10月30日㈰

＜会場＞　新都心ビジネス交流プラザ

(6) 平成28年度児童研究発表会

平成28年11月15日㈫

＜会場＞　埼玉県県民活動総合センター

指導者　埼玉県立総合教育センター

指導主事　白石　里佳子　先生

(7) 第３回役員研修会

平成29年２月14日㈫

＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校

・平成28年度の反省と次年度の展望

・会報36号の配付

19　生活科・総合的な学習の時間教育

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

「思考力・表現力・判断力を高める支援の工夫」

＜方針①＞授業研究会の開催

本年度は、滑川町立月の輪小学校、上里町立上里中学校、鴻巣市立鴻巣中央小学校で研究を深めることを目的に授業研究会を開催する。

＜方針②＞指導法の研究と指導事例集の刊行

「構造的な板書」「発話分析」「思考ツールの活用」の３つの視点を掲げ、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に指導法の研究を行う。

Ⅱ　活動状況

1　活動内容

⑴　事務局幹事打合せ会
○期日　平成28年４月７日㈭
○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　常任理事会の原案作成
各地区理事の調査用紙発送
講演会の講師の依頼

⑵　常任理事会
○期日　平成28年５月18日㈬
○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　平成27年度決算報告
平成28年度の役員案
平成28年度事業計画及び予算案審議
各地区理事の確認
専門部の決定

⑶　講演会及び総会
○期日　平成28年６月14日㈫
○会場　越谷サンシティホール
○内容
①総会　常任理事の決定
専門部組織決定
平成28年度の事業計画及び日程
平成28年度の予算案の決定
②講演会
演題「これからの生活科・総合的な学習の時間の在り方～自立・協同・創造の学びの充実に向けて～」
講演　共栄大学教育学部教授　若手　三喜雄　氏

⑷　第１回指導法研究委員会
○期日　平成28年６月22日㈬
○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　委員の委嘱
研究の進め方

⑸　生活科・総合的な学習の時間研究発表会
○期日　平成28年８月５日㈮
○会場　さいたま市民会館おおみや
○内容　研究発表及び協議

⑹　第２回指導法研究委員会
○期日　平成28年８月19日㈮
○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　指導方法の研究

⑺　第18回関東地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究協議会　埼玉大会
○期日　平成28年10月28日㈮
○会場　越谷市立大袋東小学校
○内容　公開授業
授業別研究協議会
課題別分科会
記念講演

⑻　第３回指導法研究委員会
○期日　平成28年11月８日㈫
○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
○内容　指導方法の研究

⑼　授業委嘱校研究発表会
○期日　平成28年12月８日㈭
○会場　滑川町立月の輪小学校
○内容　詳細はⅣ（P.77）を参照

⑽　授業委嘱校研究発表会
○期日　平成28年12月14日㈬
○会場　上里町立上里中学校
○内容　詳細はⅣ（P.78）を参照

⑾　授業委嘱校研究発表会
○期日　平成29年２月３日㈮
○会場　鴻巣市立鴻巣中央小学校
○内容　詳細はⅣ（P.79）を参照

⑿　理事研修会
○期日　平成29年２月22日㈬
○会場　戸田市立戸田南小学校
○内容　講義・演習
①生活科
「スタートカリキュラムの実践とその充実」
指導者　横浜市こども青少年局
担当課長　寳来　生志子　氏
②総合的な学習の時間
「探究のプロセスにおける思考ツールの活用」
指導者　新宿区立大久保小学校
主幹教諭　三田　大樹　氏

２　運営組織

本研究会の事業は、４つの専門部会において、具体的に進められている。それぞれ、各地区理事が所属し、生活科・総合的な学習の時間教育の発展に大きな役割を果たしている。

⑴　総務部

○地区活動全体の総轄

・総会・理事会・講演会の計画及び実施

・通知文書の発送・受理

・予算案・決算書の作成

⑵　研修部

○生活科・総合的な学習の時間研修に関する総轄

・研究発表会の計画及び実施

・授業研究会の計画及び実施

⑶　編集部

○研究会編集物に関する総轄

・研究集録の作成

⑷　指導法研究部

○生活科・総合的な学習の時間教育の指導法に関する総轄

・指導法の研究

・研究成果の編集

Ⅲ　研究内容

１　生活科・総合的な学習の時間指導法研究委員会

生活科・総合的な学習の時間の授業における指導方法の研究と各単元における指導の在り方について研究し、学習指導に役立てることを目的とする。

研究の視点として、「発話分析」「構造的な板書」「思考ツールの活用」の３つの視点を基に、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に研究を深めた。

その成果物として「生活科・総合的な学習の時間指導事例集　第25集」を発行した。

２　生活科・総合的な学習の時間研究発表会

○期　日　平成28年８月５日㈮

○会　場　さいたま市民会館おおみや

○内　容

⑴実践発表

①戸田市立戸田東小学校　教諭　　飯島　亜美

テーマ「秋の自然のよさや、楽しさに気付く学びを目指して」

②滑川町立月の輪小学校　教諭　　袴田　正義

テーマ「各クラスの活動をつなぐ総合的な学習の時間づくり」

③深谷市立川本中学校　教諭　　吉田　隆司

テーマ「『ふるさとを愛し、志高く生きる川本のこどもたち』の育成」

⑵指導講評

共栄大学教育学部　教授　　若手　三喜雄　氏

３　生活科・総合的な学習の時間教育編集委員会

総会における講演の要旨、研究発表会の発表の要旨、役員一覧、生活科・総合的な学習の時間指導事例集、研究組織一覧、支部だより、事業報告などを主な内容として編集した。

○研究刊行物　「生活・総合」　第27号

Ⅳ　授業研究委嘱校の概要

本年度は、滑川町立月の輪小学校、上里町立上里中学校、鴻巣市立鴻巣中央小学校の３校に授業研究の委嘱をした。それぞれの公開授業等の概要について紹介する。

滑川町立月の輪小学校

１　日　時　平成28年12月８日㈭

２　授　業　総合的な学習の時間　第５学年

３　単元名「ＨＳＪ？！調査隊～クロメダカの命をつなぐひみつをさぐろう～」

４　授業者　　袴田　正義　教諭

５　授業の概要

総合的な学習の時間のテーマに関して、本校では学年ごとにテーマを決め、学習計画を作成し、全校で系統立てて学習を進めている。ただ、学年一斉に同じテーマで学習を進めていくと、一人一人の児童の意識や活動が希薄になってしまうという課題があった。そこで、本学年としては、学年としてのテーマは共通にしながら、学級単位で活動を決め、進めていくことを考えた。さらに、各学級の思いや活動をつなぐポイントを設定し、学年としての大きな活動のまとまりを最終的に創っていこうと考え本単元を構成した。

本授業は、課題を「少なくなってしまってメスしかいないクラスのクロメダカをこれからどうしていきたいか話し合おう」と設定し、産卵させるかどうかについて話し合わせた。同じ方向性の意見をもつ３つのグループ①自然に返す、②現状を整備する、③オスを捕獲し数を増やす、に児童を分け、それぞれの方向性のメリット、デメリットを話し合わせ、内容を検討させた後、学級全体として、結論を出すことにした。

６　授業を振り返って

発表した児童に偏りがあり、時間内にまとめ、結論を出すにいたらなかった。より多くの児童の意見を取り上げたかった。板書はウェビングを使うことで、メリットやデメリットをフラットな状態で関連付けたかった。教師が誘導することなく、目標に達する授業にするための工夫や展開をどうしたらよいのか改めて難しさを感じた。

７　研究協議

○地域性があるのがよかった。ただ、既習事項との関連があると、さらに系統立てられてよかったの

ではないか、また、一人一人が課題に対して真剣に議論していてよかった。授業後も意見をぶつけあうことができていた。

○１つのグループの構成人数が多かったため、他の意見の児童と議論する場面に課題が見られた。カードなどがあると児童の思考を整理できるのではないか。

○板書の工夫（例えば、グループの意見の内容を区別できるような工夫）があった方がよかったのではないか。議論の落とし場所を見付けていくとよかった。

８　指導講評

（共栄大学教育学部教授　若手　三喜雄　先生）

総合的な学習の時間での大きなテーマ「主体性、協働性、探究性」に関して今回の授業の取組はどうだったかを考えていきたい。話合いは活発だったが児童の変容はどうだったのか考えていく。自分たちの意見を主張するだけに終わるのではなく、教師が多く関わり、整理しながら、進めていかないといけない。

地域性に関しては、「地域をどう巻き込んでいくか。」「地域を活性化させる。中学校での総合の中でのキャリア教育につながる活動」もあると思う。創造性に関して「何ができるのか。自己の生き方を考えさせる。」など、ただの調べ学習にならないようにすることが大切である。また、グループでの話合いでは１０人は厳しいと思う。グループの人数はどうするかよく検討する必要がある。板書に関して、ホワイトボードに児童の考えをまとめながら板書していくとよいのではないか。まとまらなくても本時の授業の到達点を明確にしていくことが肝要である。メダカの生態系をしっかりと調べておく必要があり、ビオトープは自然と中間であるべきである。月の輪のクロメダカという以上、もっと広げていく必要がある。大変であるが、テーマが変わっていくことはよいことではないか。（何年か同じことを探究すると意識が薄れてきてしまう。）探究性をどう保っていくかが重要である。

上里町立上里中学校

１　日　時　平成28年12月14日㈬

２　授　業　総合的な学習の時間

⑴　第１学年

単元名「職業調べ～職業体験学習を通して～」

授業者　畠山　梅太郎　長濱　孝　黒﨑　なるみ
馬場　美鶴　青山　睦美　岩田　哲哉
酒井　瞬　今井　久允

⑵　第２学年

単元名「進路学習～社会人としてのマナーを身に付けよう～」

授業者　小島　憲悟　此島　淳

３　授業の概要

⑴　第１学年

第１学年では、総合的な学習の時間で、進路・キャリア教育の一環として、「職場体験学習」を行っている。事前学習として、「職業調べ」や「職場アンケート」等を基に働くことの意義や学ぶことの意義を考え、11月の初旬に「職場体験学習」を実施した。今回の授業は、各班で「職場体験学習新聞」を作成したものの中から、「消防署」、「大型店舗」、「介護施設」の３班を代表の班として選び、１学年全体を前に発表し、さらに職業観を深めることにした。さらに、ゲストティーチャーとして、職場体験学習でもお世話になった、「スリーフラワー」の会長様を講師にお招きして講演をお願いした。

⑵　第２学年

第２学年では、進路・キャリア教育の一環として、２学期を中心に「卒業後の進路」について、総合的な学習の時間で学習している。その中で実際に「上級学校訪問」を行い、自分の進路について見通しが持てるようにしている。このことに加えて、今年度は、「社会人としてのマナーを身に付けよう」というテーマでの学習として、ジュニアマナーズ協会の田中　ゆり子　様を講師としてお招きし、ジュニアマナーアップ講座を開催した。今回の授業では、このマナーアップ講演を受けて、「日常生活の実際の場面」でどのようなマナーや心がけが必要かを考え、ロールプレイを授業で行い、考え発表し、クラス全体で共有することで日常生活に生かせるようにした。

４　授業を振り返って

⑴　第１学年

「職場体験学習」のまとめとして「消防署」、「大型店舗」、「介護施設」の３班が、体験した内容や大変だったこと、勉強になったこと等を発表した。その後、質疑応答を行い、感じたこと、学んだことなどを各自がワークシートにまとめた。これらを通して、代表の班の体験を学年で共有し、深めることができた。

⑵　第２学年

事前学習のジュニアマナーアップ講座を受け、「日常生活の実際の場面」でどのようなマナーや心がけが必要かを考える授業を行った。最初に教師を含めたロールプレイを見本として行った。続いて「どんな場面で」「どんなこと」を心がけたらよいかを各班で考え、改善前と改善後の両方をロールプレイで行い、その違いを示して、よりよいマナーを具体的な場面で考えることができた。

５　指導講評

共栄大学教育学部教授　若手　三喜雄　先生

中学校の総合的な学習の時間の単元づくりは大切である。その中に「主体性」、「協同性（みんなで）」、「探究性（自分たちで）」、「地域性」を授業の中に求めていく必要がある。いざというときに地域の力になれるのは「中学生」である。このことを考えて、総合的な学習の時間を計画することが大切である。

探究のスパイラルは最低３回必要である。はじめは生徒自身でなかなか課題を設定できないかもしれないが、繰り返すうちに主体性が出てくる。３つのスパイラルは２年生、３年生に持ち越してもよいので、スパイラルを是非考えて欲しい。

３年生の「ゴール」をどうするかを考えることが必要である。生徒が、自分は地域の一員であることを自覚できる取組がよい。また、生徒にも探究のどの部分をやっているのかが実際に見えるようにすることが大切である。それを生徒の言葉でまとめることができるようにすることが重要である。

鴻巣市立鴻巣中央小学校

1　日　時　　平成29年２月３日㈮
2　授　業　　生活科　第２学年
3　単元名　「あしたへ　ジャンプ」内容⑼
4　授業者　　岸本　真希
5　授業の概要

本単元は、自分の生活や成長を振り返り、自分の成長に気付くとともに、自分の成長には多くの人々の支えがあることに気付き、これからの生活や成長へ願いをもち、意欲的に生活することをねらいとしている。

これまで、「できるようになったこと」「役割が増えたこと」「大きくなったこと」の３つの観点でイメージマップを使い成長を振り返ってきた。また、身近な人へのインタビューでは、一人一人が調べたいことを自由に調べてくる方法をとった。

本時では、児童がもった成長への思いや願いを基にして、まとめたり伝えたりするためにどのようにしていきたいか、一人一人が見通しをもてるようになることを目標としていた。そこでまず、これまでに書き足したイメージマップを使って、自分や友達の成長についてペアで伝え合った。このときに教師は、児童が自分の成長に気付いたり、友達のことを認めたりできるよう言葉がけをしていった。その後、自分の成長について気付いたり思ったりしたことを基に、これからの学習をどのようにしていきたいかを学級全体で話し合った。

6　授業を振り返って

本時までの間に作成してきたイメージマップには、児童の成長への気付きが溢れているものが多く、これらを本時に活用できたことは良かった。また、ペアを変えての伝え合いの時間は、児童の成長への思いを強くしたり、再認識したりすることに有効であったと思う。しかし一方で、本時までの活動で、マップを作成しながら成長を振り返る場面が何度かあったため、児童は成長への新たな思いを、もちにくかったように感じる。そのため、自分が成長を感じる順に色分けをしたり、特に心に残ったところを赤で囲ったりなど、マップの活用の仕方にはもっと工夫の余地があるのではと思った。

そして、本時の最も大きな反省は、本時のめあてが「自分の成長を振り返り、どうするか考えよう」であり、児童にとっては抽象的で捉えにくかったことにある。そのため、成長について気付いたことや思ったこと、マップで広げてきたことをどのようにしていきたいかの意見がなかなか出なかった。

これらのことから、例えば教科書を活用しこれまでのことを振り返ったり、板書を工夫したりするなど、児童が思考しやすいよう手立てを工夫するべきであった。その一方で、本校ではこれまで、幼い頃からの成長を調べ、アルバムにまとめるという学習を行ってきた中で、児童の思いや願いに合わせた方法で進めていく展開で授業を提案できたことは、有意義であったと思う。

7　指導講評

（共栄大学教育学部教授　　若手三喜雄　先生）

生活科の学習は、中学～大学へも繋がっていく。自分自身、自分の生活について、自尊感情をもたせていくことは大切なことである。

生活科の学習は、①生活の仕方を学ぶ、②学び方を学ぶ、③自信から意欲へつなげていくことが大切である。今回の単元はとくに、「自信」「意欲」をもたせるための単元である。だからこそ、「形」から「思い」ではなく、「思い」から「形」が生まれてくるようにしたい。

めあてに近づくためには、例えば、①だれに、②どのように伝えたいのか、考えられるようにすると良かった。それをカードにし、板書として一つずつ示しながら考えさせていくとよい。また、「①だれに」のところでは、家族や地域の人など、より多くの人が出てくるとよい。笑顔の顔カード等を使用するのも有効である。また、教科書もうまく活用していくことが求められる。

20　本校の研究の取り組みについて

埼玉大学教育学部附属小学校

Ⅰ　本校の研究概要

1　研究主題

「学びの本質」を育む授業の創造
～新しい時代に求められる思考力・判断力・表現力～

2　研究主題について

⑴　「学びの本質」とは

本研究における「学びの本質」とは、全教科・健康教育等に共通の学力であり、これを本校では、「マスターキー」と呼んでいる。（図１参照）

【図１】

このマスターキーは、21世紀の「グローバル化社会」において、児童が正解の見えづらい問題に相対したとき、その問題に対応し、最善解を導いていくことができ、生きて働く力となっていくと考える。

そこで、目指す児童の具体的な姿を以下に示す。

⑵　「学びの本質」が育まれた児童の姿

> 問題解決の過程で、自ら多様な考えを生み出したり、自ら明確な根拠をもって考えを絞り込んだりしている姿

児童は学習活動の中で、問題解決に向けて、自分なりに考えを生み出したり、考えを絞り込んだりしている。本研究では、この問題解決の過程において、考えを生み出す際には、既習経験を振り返ったり、自分の考えをつなげたりしながら、多様な考えを生み出せるようにしていく。また、考えを絞り込む際には、生み出された多様な考えを比べたり、整理したりすることで、明確な根拠をもって考えを絞り込むようにしていく。そして、それらの力を身に付けた児童は、問題の解決に向けて自ら考えを生み出したり絞り込んだりすることができるようになっていく。

⑶　研究の視点

現代の情報化社会では、欲しい情報が容易にかつ大量に入手できる。しかし、情報は自分自身の考えの基にはなるが、自分の考えそのものではない。入手した情報を踏まえて、自分の考えを生み出さなければならないし、その考えに根拠をもてるようにしなければならない。問題解決の過程で考えてみると、一つの答えに直ちにたどりつくことは希である。自分の考えを複数出した後、考えを絞って一つの答えに達するのである。本校では、このように思考する力を「水平思考力」・「垂直思考力」と呼び、「全教科・健康教育等に共通の学力」ととらえる。そして、これらの力を思考力・判断力・表現力に関するマスターキーとして、研究主題にせまっていく。

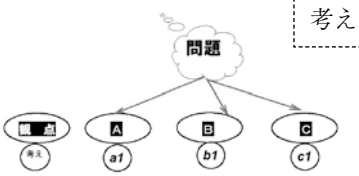
①「**水平思考力**」

児童が課題の解決に向けて考える際、自分の考えを増やしたり、広げたりできるようにしたい。つまり、多様な視点で、複数の考えを生み出す力が必要である。この力が「水平思考力」である。

水平思考力には、３つの思考スキルと３つの手立てを設定している。

＜発想する＞

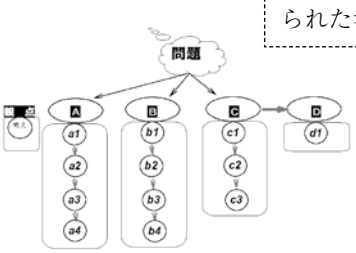
観点をA，B，C・・・とする
考えをa1，b1，c1・・・とする



スキル：最初の考えを生み出すスキル
手立て：焦点化（着目すべきところがわかるようにすることで、最初の考えを生み出す）
評価規準：課題に対し、具体物・半具体物を操作している。

＜連想する＞

a1とa2は、関連付けられた考えを示す

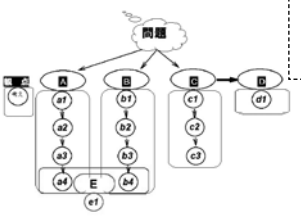


Ｄとd1は、連想して生み出した観点と考えを示す

スキル：既存の考えから新たな観点や考えを生み出すスキル
手立て：グループ化（同じ観点で考えを分類し、それを基に図や記号で関連付けることによって、新たな観点や考えを生み出す）
評価規準：既存の考えから新たな考えを連想している。

＜転換する＞

Ｅとe1は、転換して生み出した観点と考えを示す



スキル：既存の考えの観点を変えて、新たな考えを生み出すスキル
手立て：構造化（自分の考えを見直せるようにすることで、新たな考えを生み出す）
評価規準：新たな観点へ転換している。

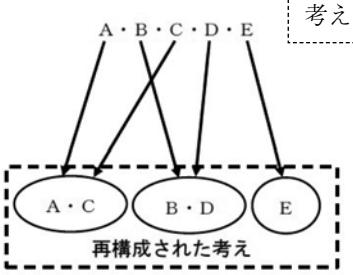
②「**垂直思考力**」

児童が課題に対する答えを導く際、明確な根拠をもって自分の考えを絞り込んでいけるようにしたい。そのためには、課題に対する自分の考えを再構成する力が必要である。この力が「垂直思考力」である。

垂直思考力には、３つの思考スキルと３つの手立てを設定している。

＜分類・整理する＞

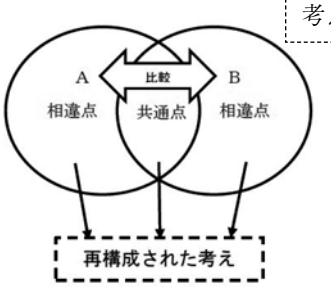
考えをＡ，Ｂ・・・Ｅとする



スキル：複数の考えの共通点を見つけ、まとまりをつくるスキル
手立て：観点の設定（観点を設定することで、まとまりをつくる）
評価規準：（低学年）まとまりをつくっている
（高学年）目的に応じたまとまりをつくっている。

＜分析比較する＞

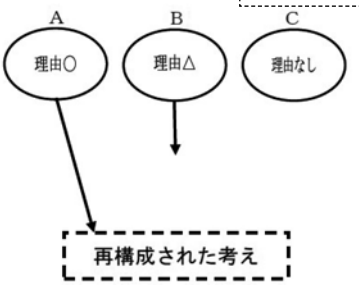
考えをＡ，Ｂとする



スキル：複数の考えの特徴をとらえ、共通点や相違点を見つけるスキル
手立て：比較対象の設定（比較対象を設定することで、共通点や相違点を見つける）
評価規準：（低学年）共通点や相違点を見付けている。
（高学年）目的に応じた共通点や相違点を見付けている。

＜取捨選択する＞

考えをＡ，Ｂ，Ｃとする



スキル：複数の考えの中からより適切な考えを取り上げ、その他の考えを除くスキル
手立て：条件設定（考えに条件を設定することで、より適切な考えを取り上げ、その他の考えを除く）
想起（既習事項や体験を基にすることで、より適切な考えを取り上げ、その他の考えを除く）
評価規準：（低学年）自分なりの理由をもっている。
（高学年）妥当性のある理由をもっている。

本研究では、授業実践を通して、「水平思考力」と「垂直思考力」を明らかにし、それらを身に付け活用する経験を重ねていくことで、「『学びの本質』が育まれた児童」を目指す。

３　研究の内容

(1)　マスターキーを身に付け、活用するために

①思考スキル及び手立ての検討

本年度は、児童が身に付けたマスターキーを、自ら活用できるようにしていくことが目的である。また、これまでに設定してきた思考スキルや手立てを、児童が活用している姿から検討し、さらなる思考スキルや手立ての可能性を追究することである。

これまでは、児童一人一人の思考力を高めて来たが、いかにして、児童がグループや学級全体でそれらを生かし、さらに高められるような授業を展開していくことができるのかを検討していく。

②本校独自の調査問題の作成

これまで、本校独自の調査問題は、平成24年度から平成26年度までの３年間実施し、児童の思考力・判断力・表現力の変容を見取ったり、抽出児童を選んだりすることに活用してきた。本年度は、これまでの調査問題を基に、新たな調査問題を作成し、これまでと同じように児童の思考力・判断力・表現力の変容を見取ったり、抽出児童を選んだりすることに活用していく予定である。

「水平思考力」の問題では、考えを広げていく

内容とし、回答の量と質を分析していく。「垂直思考力」の問題では、理由を説明する内容とし、回答を「分類・整理」、「分析・比較」、「取捨選択」などの観点に照らして分析していく。

今年度、調査問題を受けた児童を今後、追跡調査していくことで、本校児童の「水平思考力」と「垂直思考力」が、どのように変容していったのかを分析する。

また、授業研究会などで、調査問題の「水平思考力」と「垂直思考力」の得点が低かった児童を抽出児童とし、授業の指導実践を通して、それらの手立てやスキルをいかに高めていくのかを検討していく。

なお、本調査は児童の思考力・判断力・表現力の現状をとらえるものである。そのため、実施後の答え合わせ等は行わない予定である。児童は何を書けば正答かを把握していない状況であるため、実施回数が増えても、正答が増えるとは限らない。

Ⅱ　活動内容

1　第84回小学校教育研究協議会について

⑴　期　日　平成28年10月18日㈫、19日㈬

⑵　会　場　埼玉大学教育学部附属小学校

⑶　主　題　「学びの本質」を育む授業の創造
～新しい時代に求められる思考力・判断力・表現力～

⑷　趣　旨
各自が学校研究主題と教科の研究テーマに基づいて公開授業を行い、研究協議を通して小学校教育の充実を図る。

⑸　後　援
埼玉県教育委員会　　さいたま市教育委員会
埼玉県連合教育研究会　埼玉県公立小学校校長会

⑹　公開授業　　全18クラス　　38時間

⑺　分科会（各教科・健康教育・外国語活動）
本年度は、継続研究５年次として教科分科会を設定した。学校研究主題と各教科等の研究主題、個人研究のテーマを基に、具体的な方策を考え、授業を通して提案し、研究協議を行った。

◎教科の研究主題 ①提案者　②公開授業　③指導者　④司会者

【国語科】

◎課題解決に機能する言語能力を育成する指導の工夫

①松下洋介　②１年「くらべて　よんで　この一だい」
３年「おもしろさを　かたろう」
①笠原雅広　②４年「本の世界に　入ってみよう」
６年「浸ろう　宮澤賢治の世界」
③埼玉大学・戸田功、本橋幸康　県教育局・榎本敦司
④日高・高萩小・松本亜矢、春日部・川辺小・阿部慎一郎

【社会科】

◎社会的事象に対する見方や考え方を養う指導の工夫

①北川智之　②３年「店で働く人」
①矢島弘一　②４年「下水道のひみつ」
５年「工業生産とわたしたち」
①岩田信之　②３年「工場の仕事」
６年「世界に歩み出した日本」
③埼玉大学・大澤利彦、桐谷正信、高橋雅也
県教育局・清水利浩
④羽生・羽生北小・吉田圭佑　熊谷・玉井小・笹岡智聡
日高・高麗川小・有山和宏

【算数科】

◎数学的に考える資質・能力を育てる指導

①新井宏和　②６年「比例と反比例」
①神谷直典　②３年「ぼうグラフとひょう」
５年「四角形と三角形の面積」
①関口泰広　②１年「かさくらべ」
４年「小数のわり算」
③埼玉大学・二宮裕之、飛田明彦、松嵜昭雄
県教育局・松永　哲
④嵐山・菅谷小・市川わかゆ　川口・舟戸小・村上裕一
さいたま・与野西北小・松井浩司

【理科】

◎自然事象を通して、科学を語る児童を育てる指導の工夫

①杉山直樹　②６年「大地のつくりと変化」
①塩盛秀雄　②３年「太陽とかげの動きを調べよう」
５年「電流がうみ出す力」
①肥田幸則　②４年「物のあたたまり方」
６年「水溶液の性質とはたらき」
③埼玉大学・岡本和明、中島雅子、小倉　康
県教育局・下妻淳志
④川越・霞ヶ関小・岸田拓郎、
春日部・八木崎小・新江達矢、
熊谷・妻沼小・松井裕太

【生活科】

◎学びを自らの生活に生かす生活科の学習指導

①若村健一　②１年「つくって　あそんで　たのしもう」
２年「町のすてきをさがそう」
①横田典久　②２年「うごくおもちゃであそぼう」
③埼玉大学・宇佐見香代、磯田三津子
県教育局・市川篤史
④さいたま・桜木小・間宮陽香
戸田・戸田東小・飯島亜美

【音楽科】

◎感性を働かせ、主体的・創造的に音楽を伝えようとする児童を育む指導の工夫

①波多江慶太　②６年「曲想を味わおう」
①工藤紘子　②２年「日本のうたをたのしもう」
４年「日本の音楽に親しもう」
①三橋博道　②５年「曲想を味わおう」
③埼玉大学・伊藤　誠、蛭多令子、小野和彦
県教育局・齋藤直美
④北本・東小・納見 梢
さいたま・宮原小・正金寺幸平

【図画工作科】

◎造形的な創造活動の基礎的な能力を相互に関連させる指導の工夫

①廣田和人　②２年「ゆめのせかいへ」
６年「学校はすてきな表現ステージ」

①坂井貴文　②５年「スーパーライトアップワールド」
６年「せん料でえがくと…」
①安藤健太　②４年「ゆめいろらんぷ」
③埼玉大学・小澤基弘、高須賀昌志、内田裕子
県教育局・武田圭介
④さいたま・神田小・鈴木利枝
川口・青木中央小・木下智子

【家庭科】

◎よりよい生活を目指して、課題を解決しようとする児童を育む指導の工夫

①吉田みゆき　②５年「手ぬいでわくわくソーイング」
①横家知世　②６年「いためておいしい　朝食に合うおかず」
③埼玉大学・島田玲子、河村美穂　県教育局・影山葉子
④新座・陣屋小・大関さわ子
春日部・桜川小・森田明子

【体育科】

◎「わかる」と「できる」をつなぐ思考力・判断力を高め、運動への自信をもてる指導の工夫

①河野裕一　②３年「多様な動きをつくる運動」
①森田哲史　②１年「走・跳の運動遊び」
５年「短距離走・リレー」
①兒玉直也　②４年「ベースボール型ゲーム」
③埼玉大学・細川江利子、松本　真、古田　久
県教育局・椿　智絵
④狭山・南小・尾崎孝之　上里・上里東小・小林大輔
上尾・中央小・吉野竜一

【健康教育】

◎自他の健康課題を主体的に解決していくことができる児童を育てる指導の工夫

①石山結加里　②３年「朝から元気もりもり大作せん！」
③埼玉大学・七木田文彦
④さいたま・大東小・佐竹未希

◎附属４校園実践発表

①附属４校園養護教諭
③埼玉大学・戸部秀之　県教育局・岩澤奈々子

◎シンポジウム「現職、養成、行政・管理職の立場から養護教諭の専門性について考える-埼玉県からの発信-」

コーディネーター　女子栄養大学　久保田美穂
シンポジスト　埼玉大学・中下富子、
県立浦和高・山崎章子、
川口・芝中央小・若松洋子
指定討論者　全国養護教諭連絡協議会　堀田美枝子

【外国語活動】

◎コミュニケーション能力の基礎を養う指導の工夫

①神谷直典　②５年「What do you like? 」
①波多江慶太　②６年「What do you want to be? 」
③埼玉大学・及川　賢　県教育局・池田耕司
④深谷・深谷小・佐藤明子

２　校内授業研究会について

個人の研究主題を基に、授業を通して検証を試み、全員で研究協議を行った。研究会には、埼玉大学から指導者を招聘した。本年度は、各教科、外国語活動で授業研究会を８回実施した。

①教科等（学年）　②授業者　③研究主題　④指導者

⑴　平成28年６月６日㈪
①社会科（５年）　②矢島弘一
③本校の指導法改善に関わる授業研究
⑵　平成28年６月９日㈭
①外国語活動（６年）　②笠原雅広
③聞く・話す活動を充実させ、外国語に慣れ親しむ態度を育む指導の工夫
④埼玉大学・及川　賢
⑶　平成28年６月20日㈪
①図画工作科（５年）　②坂井貴文
③創造的な技能が発想や構想の能力につながる図画工作指導の工夫
④埼玉大学・小澤基弘
⑷　平成28年６月30日㈭
①理科（３年）　②塩盛秀雄
③自然事象と向き合い、問題を見いだす児童の育成
④埼玉大学・小倉　康
⑸　平成29年１月23日㈪
①社会科（３年）　②岩田信之
③社会的な見方や考え方を養う指導の工夫
④埼玉大学・河野秀樹
⑹　平成29年２月２日㈭
①家庭科（５年）　②吉田みゆき
③必要感をもって、主体的に課題を解決しようとする児童を育む指導の工夫
④埼玉大学・河村美穂
⑺　平成29年２月６日㈪
①算数科（５年）　②神谷直典
③発展的に考え、学びをつなげる児童を育てる算数指導
④埼玉大学・二宮裕之
⑻　平成29年２月９日㈭
①国語科（５年）　②松下洋介
③関連付けて読むことのできる児童を育てる指導の工夫
④埼玉大学・戸田　功
⑼　平成29年２月20日㈪
①図工科（２年）　②廣田和人
③本校の指導法改善に関わる授業研究

Ⅲ　今後について

今年度は、第84回小学校教育研究協議会や校内授業研究会において、これまでの研究を継続し、５年目としての学校研究主題を具現化した授業を提案することができた。

汎用的な資質・能力の育成は、今日の教育界において、重要な内容の一つである。本校としても、来年度からの新しい研究主題の設定に向け、引き続きマスターキーの育成を研究の柱の一つとしていく。

そして、今後も授業時における児童の姿で研究の成果を示せるように研究及び授業をより充実させていく。

21　埼玉大学教育学部附属中学校

Ⅰ　研究主題と方針

1　主題

「社会を主体的に生き抜くことができる生徒の育成（２年次）－よりよい解や新しい価値を創造する力を育成する指導の工夫－」

2　方針

これまでの本校の研究の成果や社会の状況、及び生徒の実態を踏まえ、生徒一人一人に対して、変化の大きな社会を生き抜くために必要とされる資質・能力を育むことをねらいとして研究を進めていく。

１年次の研究では、「自立・協働・創造」の理念を踏まえ、各教科等において育成すべき資質・能力について分析・整理した。その中でも、特に「自立」、「協働」に視点をあて、「自らの考えに基づいて、活動したり表現したりする力」や「他者とのよりよい関係を形成し、集団の活動に進んで関わる力」の育成を図った。

２年次は、各教科等において育成すべき資質・能力の再検討を行うとともに、「創造」に視点を当て、「よりよい解や新しい価値を創造する力」の育成について研究を進める。

＜研究の方向性＞

問題解決学習の中で「学習場面の設定」と「振り返り」を工夫することによって、よりよい解や新しい価値を創造する力を育成する。

研究の視点として次の２つを挙げ授業実践を行った。

＜視点Ⅰ＞

生徒が目的をもって取り組むことができる学習場面の設定と学習活動の工夫

＜視点Ⅱ＞

生徒が主体的によりよい解や新しい価値を見いだすことができる振り返りの工夫

Ⅱ　活動状況および研究内容

1　平成28年度中学校教育研究協議会

⑴　発表主題

「社会を主体的に生き抜くことができる生徒の育成（２年次）－よりよい解や新しい価値を創造する力を育成する指導の工夫－」

⑵　主催　埼玉大学教育学部附属中学校

⑶　後援　埼玉県教育委員会･さいたま市教育委員会
埼玉県連合教育研究会
埼玉県中学校長会･さいたま市中学校長会
埼玉県市町村教育委員会連合会

⑷　期日　平成28年５月24日㈫　25日㈬

⑸　内容

【国語科】

研究主題「生活に生きてはたらく国語の能力の育成をめざす授業の創造」

指導者　埼玉県教育局　小野塚祐一　先生
　　埼玉大学　飯泉　健司　先生
司会者　上尾市立大石中学校　岩野　江梨　先生

昨年度までの研究の中で、本校国語科において「自立・協働・創造」の３つの分類で捉えてきた資質・能力を、「中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会国語ワーキンググループ第４回」で示された「国語科で育成すべき資質・能力」に照らし合わせ、再整理した。

＜視点Ⅰ＞として、「話す・聞く」「書く」「読む」の各領域において、「単元を貫く課題解決的な活動」を取り入れながら、言語活動の設定についてより工夫することを目指した。昨年度の課題から、今年度は身に付けた力を他教科での学習場面に転化させることができるよう、より資質・能力を「使う」ことを意識させる授業づくりを行った。

＜視点Ⅱ＞として、「振り返りの工夫」について、①振り返り自体のタイミング（いつ振り返るのか、意図的なタイミングの設定）　②振り返りの期間（いつのことを振り返るのか）　③振り返りの内容（何を振り返るのか、どのように振り返るのか）　④振り返りによる生徒の変容、の４つに整理し、授業における毎時間の振り返り、単元終了時の振り返り、一年間の振り返りをそれぞれ行った。

以上の取組を行った結果、生徒の学習記録の記述から、既習事項を意識した学習の進め方や、学習課題から発展した疑問などを見取ることができ、「よりよい解や新しい価値」に気付く視点が育まれた姿が確認できた。

【社会科】

研究主題「社会の形成者としての資質や能力を育成する社会科学習」

指 導 者　埼玉県教育局　高野　達 先生
　　埼玉大学　大友 秀明 先生　谷　謙二 先生
　　清水　亮 先生　髙橋 雅也 先生
司会者　さいたま市立大谷場中学校　泉 多恵子 先生

本校社会科部では本校の研究主題を受け、上記の研究主題を設定し、研究を深める具体的な手立てとして次の２つについて取り組んだ。

① 生徒が目的をもって取り組むことができる学習場面の設定と学習活動の工夫

② 生徒が主体的によりよい解や新しい価値を見いだすことができる振り返りの工夫

今回社会科部では、中教審・初等中等教育分科会教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける学習プロセスを参考に、学習場面の設定と、学習活動の工夫を本校の実践と照らし合わせながら再構成することを試みた。また、導入だけでなく、終末の部分に関しても新しい価値を見いだすことができる振り返りの工夫について研究を進めていった。

具体的な研究の手立てとして、①にあたる部分では、学習問題の類型を社会科部として整理し、学習によって適切な場面での問題設定や精選をしやすくなるよう工夫を行った。また、学習形態と効果的に評価することができるであろう資質能力を整理した。手立て②にあたる部分では、問題解決した過程や結果に対する振り返りの工夫として社会科としてどのようなものが考えられるか整理し、学習内容によって適切に振り返ることができるよう工夫を行った。新しい価値を見いだす視点として、社会科だけでなく学校での教育活動全体で育まれていくことを意識しながら、社会科としてどの部分を引き取れるか研究を進めていった。

【数学科】

研究主題「豊かな創造性を育む数学学習指導」

指 導 者　埼玉県教育局　岸田 健吾　先生
　　埼玉大学　二宮 裕之　先生
司 会 者　朝霞市立朝霞第四中学校　米倉 菜穂美　先生

研究仮説は、「問題解決学習において、学習場面の設定や振り返りを重視することにより、自ら問い、統合的、発展的に考える生徒の育成につながる。」である。基礎研究として、数学における創造性について議論し、豊かな創造性が育まれた生徒の姿と数学科の目指す生徒像を定義した。また、次期学習指導要領を見据え、育成すべき資質・能力について整理した。さらに、近年話題に上っているアクティブ・ラーニングと数学的活動について論じ、数学教育でこれまで行われてきた問題解決的な学習を見直し、授業づくりに生かすことにした。研究の内容としては２つの視点で研究を行った。１つ目は、「生徒の思考をゆさぶる問題から課題への展開の工夫」である。課題をすぐに提示するのではなく、問題場面から導入し、生徒の反応を踏まえて課題を設定することで、生徒に課題を追究する必要感をもたせることができるようにした。２つ目は、「問題解決過程における数学的な態度を養う振り返り」である。「振り返り」を「問題解決した事柄や過程を振り返ること」と定義し、次の４つの目的で振り返る活動を行うことで数学的活動の質的向上を図った。①点検や確認を促す振り返り　②評価・改善したり、洗練したりすることを促す振り返り　③発展を促す振り返り　④問題解決過程を味わう振り返り

【理科】

研究主題「自然を主体的・科学的に探究する能力の育成」

指 導 者　埼玉県教育局　下妻　淳志　先生
　　埼玉大学　小倉　　康　先生
司 会 者　深谷市立岡部中学校　永島　大輔　先生

アクティブ・ラーニングの視点に立って理科における学習過程を見直し、問題解決学習の一連の学習過程を本校の実践と照らし合わせながら、学習指導における手立てとしては具体的にどのようなものがあるか、それぞれの過程の中で関わってくる資質・能力は何か、を整理して再構成した。

＜視点Ⅰ＞として、生徒にとって必要感のある問題や課題を提示したり、学習する科学の世界に引き込むような工夫をしたりする必要があると考え、具体的には以下のような工夫を実践した。「単元・小単元を貫く問いを設定する。」「実社会や実生活との関連を図る。」「観察・実験や体験活動など、追究方法の工夫・充実を図る。」「問題・課題の把握、目的の明確化を行う。」

＜視点Ⅱ＞として、「問題解決した事柄を評価・改善する。」「思考過程や思考の流れを客観的に捉える。（良い点、改善点のモニタリング）」「日常や社会における活用を考える。」「新たな問いを生む。」ことを授業に取り入れた。共通することは、振り返りを行うことで自身の見方や考え方を再構築し、理科で育てたい資質・能力の向上につなげていくことである。

【音楽科】

研究主題「音楽科における思考力・判断力・表現力を育てる指導法の研究」

指 導 者　埼玉県教育局　齋藤　直美　先生
　　埼玉大学　伊藤　　誠　先生
司 会 者　上里町立上里北中学校　鈴木　洋祐　先生

本校音楽科が生徒に身に付けさせたい資質・能力について、思考力・判断力・表現力に係るものを中心に設定し、指導のねらいや手立てを明確にする視点から、題材ごとに生徒に身に付けさせたい思考力・判断力・表現力を明らかにして授業の実践を行うことで、指導と評価の一体化につなげることができた。また、表現領域と鑑賞領域の相互関連を図った題材設定は、生徒の思考力・判断力・表現力をより効果的に育てることにつながり有効

であった。学習内容と学習場面、学習活動を工夫しながら、生徒に身に付けさせたい資質・能力を整理して授業実践を行うことで、生徒の思考力・判断力・表現力の育成につなげることができた。

今後の研究では、思考力・判断力・表現力の指導と評価について、より一層客観的で信頼性のある方法を模索していきたい。ワークシートにおける生徒の思考の変容や、他者と協働的に学んでいく過程においての学習活動において、どのように評価し、次の学習指導に結び付けていくべきかを更に研究していく必要がある。

【美術科】

研究主題「表現と鑑賞を一体化させながら基礎的な能力を働かせる力の育成」

指 導 者　埼玉県教育局　武田　圭介　先生
　　埼玉大学　吉岡　正人　先生
司 会 者　越谷市立大袋中学校　稲垣　直人　先生

美術科では本校の研究主題を受け、上記の研究主題を設定した。研究に当たっては、美術科の活動そのものが、社会を主体的に生き抜き、新たな価値を主導・創造するための資質・能力を育成するものであると考え、鑑賞の活動と表現する活動の資質・能力を明確にし、相互に関連させ一体化させ、学習指導の工夫を行いながらよりよく育成することを実践した。

学習場面の設定と学習活動の工夫として、①身の回りや社会における課題設定　②学年を通して身に付く資質・能力を明確にしながらの学習指導　③資質・能力を意識した教師の働きかけや環境整備を行った。

振り返りの工夫として、①学習を振り返り、次時の課題を発見する　②主題を見直し、構想を深める　③意図に応じて材料や用具を生かして試行錯誤しながら創意工夫する　④作品を鑑賞し、作品に対する自分の価値意識をもって批評し合うことを行った。

【保健体育科】

研究主題「主体的な学びを育む保健体育の学習」

指 導 者　埼玉県教育局　西川　光治　先生
　　埼玉大学　古田　　久　先生
司 会 者　八潮市立八條中学校　阿部　健作　先生

本校保健体育科では研究主題を「主体的な学びを育む保健体育の学習」とし、「わかったことができるようになる」ことが「よりよい解や新しい価値の創造」として捉えることとし、次の２点の内容を研究した。

１点目は、試行錯誤しながら課題を克服しようとしたり、周囲の仲間と協力して取り組もうとしたりする姿を目指して、生徒が目的をもって取り組むことができる学習場面の設定と学習活動の工夫を行った。

２点目は、よりよい動きの理解や運動の内観で得たものを表現しようとする姿を目指して、生徒が主体的によりよい解や新しい価値を見いだすことができる振り返りの工夫を行った。

成果としては、学習活動を明確にした教材・教具や場の工夫を行うことで、積極的に挑戦しようという生徒の姿が増え、失敗の中から試行錯誤をしながら仲間と協力して取り組むことができた。また、思考を促し深めるために、教師による生徒への声かけを工夫することにより、常に生徒は考えながら運動することで、生徒自身が答えを導き出し、運動により意欲的に取り組む生徒が増えたことである。さらに、学習カードの工夫をすることにより、自己効力感を高め、他者と関わりながら運動の楽しさや喜びを実感させることができた。

【技術・家庭科】

研究主題「主体的・協働的な学習活動を通して、問題解決的な思考力を育む学習指導の工夫」

指 導 者　埼玉県教育局　栃木 法雄 先生
　　影山 葉子 先生
　　埼玉大学　山本 利一 先生・荒木 祐二 先生
　　川端 博子 先生
司 会 者　越谷市立中央中学校　鶴見 祥之 先生
　　さいたま市立木崎中学校　富澤 美都 先生

技術・家庭科では、「社会を生き抜く生徒の育成＝生徒の生活を工夫し創造する能力と実践的な態度の育成」と捉えた。実践的な態度は工夫し創造する能力と関係性があることが埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会の研究によって実証されているため、生活を工夫し創造する能力を育むことで目標を生徒に迫ることとした。

まず、生徒が目的をもって課題に取り組めるよう、難易度別の学習課題や、考えられて意欲的に取り組める学習課題を設定した。また、課題に対して深めるための学習場面も工夫した。生徒がよりよい解や新しい価値を見いだすためには、振り返りやワークシートの活用を通じて働きかけた。実際の授業場面では、該当学年に応じた課題を設定し意欲付けを行ってきたことで、主体的に課題に取り組む場面が多く見られた。

また、過去の振り返りを活用することや、考えを導くためのワークシートを活用することでさらなる解を生み出そうとする姿勢が見られる生徒もいた。しかし、協働的な学習を取り入れた場面として、単なるアイデアの出し合いとなってしまい、工夫し創造する能力を深めるところまではいかなかった。次年度以降、どこまで生徒の社会を生き抜く力が育成されたのかを評価し授業改善へと繋げていくことに取り組んでいきたい。

【英語科】

研究主題「コミュニケーションの質の向上を図る学習指導の工夫」

指 導 者　埼玉県教育局　福沢　仁恵　先生

埼玉大学　及川　賢　先生
埼玉県教育局　福沢　仁恵　先生
司 会 者　和光市立大和中学校　政所　宏真　先生

英語科では、前年度までの「主体的な学びを育む発信力の育成」に関する研究の成果を基盤として、本年度の学校研究主題から「コミュニケーションの質の向上」という点を加え、学習指導をより効果的にするための指導法の工夫・改善について、実践研究を進めた。

具体的には、生徒のコミュニケーションの質の向上を図る指導の手立てとして、「生徒が目的をもって取り組むことができる学習場面の設定と学習活動の工夫」と「生徒が主体的によりよい解や新しい価値を見いだすことができる振り返りの工夫」という２つの視点から研究主題に迫った。前者については、「発信者だけでなく受信者も意識した場面設定」、「意味内容にも焦点を置いた明確な言語使用の目的のある課題（タスク）の設定」、「各学年修了時の学習到達目標の明示」を柱とし、後者については、「自己」、「協働」、「スパイラル」、「ICT」の4つの振り返りについて研究を進めた。

研究の成果として、これらの実践が積極的に言語活動に取り組もうとする態度や学習した英語を正しく運用しようとする能力、すなわちコミュニケーション能力の質の向上に結びつくことがわかった。

【学校保健】

研究主題「心豊かな人間性を育むため指導の工夫」

指 導 者　埼玉県教育局　岩澤奈々子　先生
埼玉大学教授　沢崎　俊之　先生
司 会 者　川口市立総合高等学校　鈴木　直美　先生

昨年の研究を引継ぎ、生徒たちが社会を主体的に生き抜いていくためにはどのような指導が効果的なのか。よりよい解や新しい価値を創造するためにはどのような工夫ができるのかに着目して研究を行った。学校保健では、養護教諭が平成26・27年度の内地留学研修からの復帰となり、改めて学校保健としての研究を再スタートさせた年であった。学校保健として、社会を主体的に生き抜くために身に付けたい力はどのようなものかを掲げ、教科だけでなく学校生活や学校行事等の学校生活すべての積み重ねで、生徒たちに身に付けたい「資質や能力」を学校保健の視点から提案した。学校保健として、教科や領域も含めながら、横断的にかかわり心豊かな生徒を育てる指導の工夫を考えていきたい。

２　平成28年度の研究概要

⑴　研究主題

「社会を主体的に生き抜くことができる生徒の育成（３年次）～主体的な学びを実現する学習指導と評価の在り方～」

⑵　研究主題について

生徒一人一人に対して、これからも続くであろう変化の激しい社会を生き抜くために、学校教育においてどんな力を育む必要があるかを考えていくこととし、研究主題を上記のように設定した。

１年次は、「自立・協働・創造」の理念を受け、育成すべき資質・能力を定義し、生徒の主体的・能動的な学びと協働的な学びを両輪として学習活動の具現化を図った。

２年次は、生徒の主体的・能動的な学びと協働的な学びをより充実させながら、よりよい解や新しい価値を創造する力の育成を図ってきた。

３年次は、これまでの研究を踏まえた実践の充実と、資質・能力を多角的・多面的に見取る評価について考えていく。

⑶　研究の目的

①　本校の目指す生徒像の明確化と全職員での共有
②　各教科等における育成すべき資質・能力の整理
③　問題解決的な学習による資質・能力の育成の具体化
④　資質・能力を見取る多面的・多角的な学習評価

④については、以下の２つの視点で研究を進めていく。

視点Ⅰ：生徒に学びの自覚をうながす形成的評価の工夫
視点Ⅱ：各教科等の見方・考え方を働かせる学習課題と評価基準

⑷　研究経過

①　研究全体会

全教員で研究内容について議論を重ね、共通理解を図った。年間で５回実施し研究の基礎理論、研究主題の設定、研究推進の実務について検討した。

②　研究情報の収集

国立大学附属学校等の研究発表や「教育展望セミナー」などへの参加を通して、研究情報を集めた。

③　夏季教員研修会（講演会）平成28年７月28日㈭
講師　国立教育政策研究所　大杉　昭英　先生

④　校内授業研究会

第１回　数学　岸本　航司　平成28年７月７日㈭
第２回　音楽　根岸　綾子　平成28年11月18日㈮
第３回　国語　廿樂　裕貴　平成29年２月14日㈫

平成 28 年度

研究集録

２　全国教育研究発表大会・関東地区教育研究発表大会埼玉大会の報告

第57回　全日本書写書道教育研究会
埼玉大会

1　研究主題

「書字文化を育む書写書道教育」

2　期　　日　平成28年８月26日㈮

3　会　　場　文教大学

4　大会の概要

埼玉で行われた全日本書写書道教育研究大会は昭和59年の第25回大会から、平成11年第40回（旧大宮市）、平成16年第45回（さいたま市）、平成21年第50回（川越市）、そして今回と５回目の開催となった。

開会式には、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の加藤　泰弘　先生、埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課の小野塚　祐一　先生に多忙の中ご登壇いただいた。

今回の大会は、学習指導要領改訂直前を機会として、小学校低学年における毛筆導入にかかわる導入研究、全国調査を行った中学校書写の現状、そして大学教育の現況（中間報告）について、同一会場で研究協議を行った。

また、実際の改訂にかかわる会議に参加されている宮澤、長野両先生をお迎えし、小・中・高の現場で実践されている先生方を交えてのシンポジウムを開催した。

これまでの大会は、公開授業や内容別に分かれたことが多かったが、今回は同一会場で、小学校から大学までの研究協議を行い、さらに、これからの書写書道教育を考えるシンポジウムを行ったことで、文教大学の412人収容の講堂いっぱいの参会者に一貫した方向性を掴んでいただけたのではないかと考えている。

⑴　研究協議会

①　特別研究委員会小学校部会報告

「小学校低学年毛筆（軟筆）導入研究授業報告」

（発表）長崎県川棚町立石木小学校校長
高橋ちあき

埼玉県さいたま市立三室小学校教諭
鈴木　佳子

（助言）東京家政大学准教授　　宮　絢子　先生

②　特別研究委員会中学校部会報告

「中学校国語科書写の学習指導における生徒・指導者の意識及び実態調査報告」

（発表）巣鴨中学校・高等学校教諭
熊坂　尚史

桐朋女子中学校・高等学校教諭
岡野屋宏一

（助言）文教大学准教授　　豊口　和士　先生

③　特別研究委員会大学部会報告

「小学校教員免許状取得のための書写の授業実施状況（中間報告）」

（発表）千葉大学教授　　樋口　咲子

武蔵野大学教授　　廣瀬　裕之

（助言）東京学芸大学名誉教授
加藤　祐司　先生

⑵　シンポジウム

『これからの書写書道教育
～学習指導要領改訂をにらんで～』

◇　コーディネーター

東京都江戸川区立大杉第二小学校校長
土上　智子　先生

◇　シンポジスト

山梨大学大学院教授　　宮澤　正明　先生

東京学芸大学名誉教授　　長野　秀章　先生

埼玉県立川口青陵高等学校校長
新井　和徳　先生

埼玉県所沢市立小手指中学校教頭
小原　　茂　先生

埼玉県越谷市立蒲生南小学校教諭
尾形　成子　先生

⑶　指導・講評

文部科学省
初等中等教育局教育課程課教科調査官
加藤　泰弘　先生

第51回　小学校学校行事研究全国大会
埼玉大会

1　研究主題

「豊かな学校文化を創造する学校行事の役割」
～特別活動、その基礎・基本を踏まえて～

2　期　　日　平成28年８月４日㈭
８月５日㈮

3　会　　場　大宮ソニックシティ

4　大会の概要

私たちは、様々な価値観が存在することを認め合い、互いを尊重することが極めて重要な時代に生きている。

本大会では、教師の適切な指導の下、子どもの手によって創り出される生活や行動の在り方の総体を「学校文化」と捉え、豊かな学校文化を醸成する学校行事の役割について研究を深めた。副題を「特別活動、その基礎・基本を踏まえて」とし、よりよい学校行事の在り方について協議を行った。

初日は、開会行事や総会に加え、国立博物館館長　銭谷　眞美　様によるご講話と、元文部科学省初等中等教育局視学官　宮川　八岐　様のコーディネートによるシンポジウムを開催した。

２日目には、４つの分科会を開催し、それぞれのテーマに沿った研究協議を行った。全国各地から16名の先生方のご提案をいただき、活発な協議がなされた。２日間、大宮ソニックシティを会場とし、盛会の中での終了となった。

【１日目】

○　理事会・開会行事・総会

午前の理事会では、平成28年度以降の小学校学校行事研究全国大会の開催についての協議を行った。

午後の開会行事では、主催者挨拶の後、文部科学省初等中等教育局担当審議官　瀧本　寛　様、埼玉県教育委員会副教育長　櫻井　郁夫　様、さいたま市教育委員会副教育長　村瀬　修一　様にご挨拶を頂戴し、大会に花を添えていただいた。総会においては、議事承認後、本大会の基調提案と大会宣言がなされ、次回の兵庫大会のご案内もいただいた。

○　講話

東京国立博物館館長（元文部科学事務次官）　銭谷　眞美　様より「今後の学校行事に期待して」という演題でご講話いただいた。世界に誇る日本の学校行事や特別活動、学習指導要領改訂に向けたスケジュール等についてのお話をいただいた。

○　シンポジウム

コーディネーターに元文部科学省初等中等教育局視学官　宮川　八岐　様を、シンポジストには、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　安部　恭子　様、埼玉県ＰＴＡ連合会長　齋藤　芳尚　様、全国小学校学校行事研究会長　鈴木　純一郎　様　の３名を迎え、「今、求められる豊かな体験活動を考える」という主題でシンポジウムを開催した。“わが国の学校行事の変遷”“豊かな体験活動とは何か”“今後の充実のために”等の柱に沿って、ご示唆いただいた。

【２日目】

○　分科会

＜第１分科会＞

「異年齢集団活動を生かす学校行事」をテーマに、新潟県・東京都・埼玉県の先生方の実践をもとに研究協議を行った。

＜第２分科会＞

「学級活動、児童会活動、クラブ活動との関連を図る学校行事」をテーマに、徳島県・埼玉県の実践をもとに研究協議を行った。

＜第３分科会＞

「教科・道徳等との関連を図る学校行事」をテーマに、福島県・埼玉県の実践を基に研究協議を行った。

＜第４分科会＞

「幼保小中、地域、保護者との連携を図る学校行事」をテーマに、埼玉県内の小中学校それぞれの実践を基に研究協議を行った。

第58回　関東音楽教育研究会　埼玉大会

1　研究主題

「伝わる音楽」

～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～

2　期　　日　平成28年11月11日㈮

3　会　　場　所沢市立北小学校
所沢市立並木小学校
所沢市立中央中学校
所沢市生涯学習推進センター
所沢市民文化センターミューズ

4　大会の概要

本大会では、現行学習指導要領の下での成果と課題を踏まえ、今後の改善の方向性を見据えた上で、大会主題「伝わる音楽～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～」の下、小学校７校、中学校４校の11分科会で公開授業を行った。授業後の研究協議では大会主題に迫るための３つの視点

①音楽科における思考力・判断力・表現力を育む
②表現領域と鑑賞領域の関連を図る
③我が国の伝統的な音楽の充実を図る

を基に熱心な協議が行われた。

午後には、会場を所沢市民文化センターミューズに移し、全体会を行った。研究発表の後、信州大学の齊藤忠彦先生、奈良教育大学の宮下俊也先生より今後の研究推進に向けた御指導、御講評をいただいた。研究演奏では、子どもたちの音楽に対するひたむきな姿勢や生き生きと表現する姿を御覧いただき、全体会の終盤では、中学生の吹奏楽演奏に合わせて開催県の歌「旅立ちの日に」を会場全体で合唱し、盛会の中で終了となった。

【公開授業】

○第１分科会　小学校２年＜歌唱＞
「ようすをおもいうかべよう」
坂戸市立大家小学校　川北　久子　教諭

○第２分科会　小学校５年＜歌唱＞
「曲の魅力を味わい、豊かに表現しよう」
富士見市立みずほ台小学校　熊田　玲子　教諭

○第３分科会　小学校５年＜器楽＞
「和音の美しさを味わおう」
川越市立牛子小学校　橋本　隆　教諭

○第４分科会　小学校４年＜音楽づくり＞
「つくって・つなげて～旋律づくりを楽しもう～」
所沢市立小手指小学校　松長　誠　教諭

○第５分科会　小学校６年＜音楽づくり＞
「つくった旋律を楽しく演奏しよう
～友達と音をつなげて～」
川越市立今成小学校　松岡　訓史　教諭

○第６分科会　小学校３年＜鑑賞＞
「曲想とその変化を感じ取ろう」
日高市立高萩北小学校　毛利　優紀　教諭

○第７分科会　小学校６年＜鑑賞＞
「雅楽の特徴を感じ取り、よさや魅力を味わおう」
日高市立高麗川小学校　蝦　真理子　教諭

○第８分科会　中学校１年＜歌唱＞
「日本の民謡に親しみ、そのよさを味わおう」
所沢市立所沢中学校　細田　美幸　教諭

○第９分科会　中学校１年＜器楽＞
「曲の構成を感じ取り、表現の工夫をしよう」
吉見町立吉見中学校　新井　優　教諭

○第10分科会　中学校２年＜創作＞
「音階の特徴を生かした旋律をもとに
工夫して音楽をつくろう」
川越市立大東西中学校　水谷　愛　教諭

○第11分科会　中学校３年＜鑑賞＞
「我が国の伝統的な音楽の魅力を味わおう」
入間市立東金子中学校　小熊　克宜　教諭

5　成果と課題

どの公開授業においても、子どもたちが真摯に音楽活動に取り組む姿や音楽を知覚・感受する力の高さが見られた。また、〔共通事項〕で扱うべき内容の視点を明確にした上で、思考・判断・表現する活動を通して、音楽のもつ価値を互いに高め合っている姿を見ることができた。

協動的な学びで大事なことは、子どもたち一人一人が感性を働かせながら、思考・判断し、表現する一連の過程を大切にした学習指導を実践していくことだと確認した。「伝わる」授業を展開するためには、型から入るのではなく、まず、何を子どもたちに伝えたいのか、そのためにどのような授業をつくりたいのかを考え、その後、型を修正していくようにする必要がある。また、豊かな発想をもって授業計画を練り上げることが実践を確かなものにしていく。今後も本大会の成果と課題を踏まえ、豊かな感性、創造性、想像力を発揮し、更に研究を深めていきたい。

第58回　関東甲信越中学校技術・家庭科研究会　埼玉大会

1　研究主題

「次代を担い、社会を生き抜く力を育む
学習指導の研究」

2　期　　日　平成28年10月13日㈭
10月14日㈮

3　会　　場　全体会：さいたま市文化センター
分科会：県下８会場９分科会

4　大会の概要

変化が激しい社会を生き抜くためには、主体的に対応し、よりよい生活を創造し、学習したことを生活の中で活かすことのできる生徒の育成が求められている。

本県では、「生活を工夫し創造する能力と実践的な態度の育成」に課題があると捉えた。そこで，研究主題を「次代を担い、社会を生き抜く力を育む学習指導の研究」として研究に取り組んだ。

「生活を工夫し創造する能力と実践的な態度」に迫るため、本研究会では、問題解決的な学習を指導計画に位置付け、課題の難易度を意図的に高めていき、課題解決に挑戦させることで、「社会を生き抜く力」の育成に迫ることができると考えた。

初日は、さいたま市文化センターにおいて理事会と全体会を行い、埼玉県提案、新潟県提案について研究協議が行われた。２日目は、県内８会場９分科会において、研究授業、各都県提案者による実践提案、研究協議を行い、盛会の中での終了となった。

【１日目】　さいたま市文化センター

○　理事会・全体会

研究発表　埼玉県提案、新潟県提案

研究協議

指導講評　教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　栃木　法雄　氏
教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事　影山　葉子　氏

指導助言　文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　上野　耕史　氏
文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　筒井　恭子　氏

指導主事による指導講評と教科調査官による指導助言を頂戴し、大会に花を添えていただいた。

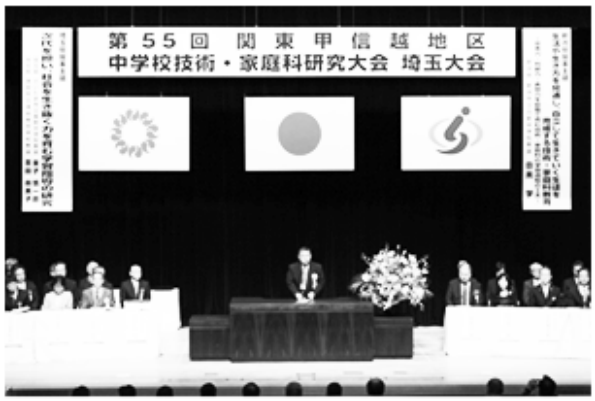
【２日目】　分科会：県下８会場９分科会

９分科会において、研究授業を公開し埼玉県提案及びブース形式による協議を行った。

研究テーマである「社会を生き抜く力」を育むための３学年間を見据えた指導計画の作成やワークシートの工夫を紹介した。また、意図的な教師の働きかけの工夫や本教科特有の言語活動の実践、問題を解決する能力を見取る評価を工夫した。さらに、主体的・協働的に学び、その成果を実践に結び付け、生活に活かしていくことを実践した。

他都県の提案者から工夫ある提案がされ、参会者による活発な議論が行われた。

分科会	分科会会場
第１分科会	川越市立富士見中学校
第２分科会	秩父市立吉田中学校
第３分科会	川口市立在家中学校
第４分科会	春日部市立東中学校
第５分科会	春日部市立東中学校
第６分科会	上尾市立上尾中学校
第７分科会	所沢市立所沢中学校
第８分科会	本庄市立児玉中学校
第９分科会	さいたま市立春里中学校



第18回　関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会　　埼玉大会

1　研究主題

「自立・協同・創造」

～人や社会、自然とのつながりを深めながら探究し、実践する子供を目指して～

2　期　　日　平成28年10月28日㈮

3　会　　場　越谷市立大袋東小学校

4　大会の概要

新学習指導要領の改訂を控えたこの時期に、これからの生活科・総合的な学習の時間の授業の在り方を追究し、一層の充実を図ることで、未来の創り手を育てる教育を推進したいと考え、「自立・協同・創造」を大会テーマに掲げ、研究に取り組んできた。

大会当日は、越谷市立大袋東小学校を会場に、公開授業、開会行事、授業別研究協議会を行った。午後には各都県提案者による課題別分科会、記念講演を行い、盛会の中での終了となった。

【公開授業】

１年生・２年生は生活科を、３年生から６年生は総合的な学習の時間の授業を、全クラスで公開していただいた。

【開会行事】

主催者挨拶の後、埼玉県教育局市町村支援部長安原　輝彦　様、越谷市教育委員会学校教育部指導課長　岡本　順　様より御挨拶を頂戴し、大会に花を添えていただいた。御挨拶を頂いた方以外にも多数の御来賓の方に御臨席いただいた。

【授業別研究協議会】

６学年に分かれて、授業別研究協議会を行った。県内外の先生方から多くの御意見を頂戴し、子どもたちの具体的な姿を基に、活発な議論が行われた。

【課題別分科会】

「自立・協同・創造」の大会主題の下、本県及び各都県の提案者から、具体的な子供の姿を基に貴重な御実践を御提案いただき、参会者による活発な協議が行われた。

【記念講演】

「新学習指導要領の方向性と生活科・総合的な学習の時間の役割」という演題の下、文部科学省初等中等教育局視学官　田村　学　先生より御講演をいただいた。

新学習指導要領のアクティブ・ラーニングにおける「主体的・対話的で深い学び」から、特に「深い学び」について、具体的な子どもの活動や取組の様子を交えながら、分かりやすく講演していただいた。

平成 28 年度

研究集録

３　地域教育研究団体の研究

1　川口市教育研究会

Ⅰ　はじめに

川口市教育研究会は、平成23年10月に川口市と鳩ヶ谷市が合併し、新生川口市教育研究会として新たにスタートしてから、今年で６年目を迎えた。

会員数も2,200名を超え、県内でも最大級の教育研究会となっている。

その活動は、各研究部の授業研究会や講演会、実技研修会を主な事業とし、市内の教育研究活動の中心を担っている。

研究活動のみならず、市文集「かわぐち」の編集発行や音楽鑑賞教室の実施、市内の科学展や硬筆展、書きぞめ展の作品選考などの教育活動も支えている。

“開かれた市教研活動”をめざして、教育講演会や授業研究会に地域住民・保護者の参加も進め、本研究会への理解と支援の裾野を広げている。

「　子どもから出て 子どもに還る　」という、基本理念に結び付いたものとなるよう、会員一人一人が熱意をもって活動している。

Ⅱ　本研究会の主な活動

1　年間活動計画

⑴　定期総会
　４月27日㈬　　川口リリア大ホール
　参加対象　全会員　参加者数　957名

⑵　評議員会
　第１回　６月29日㈬　　上青木公民館
　第２回　２月21日㈫　　上青木公民館
　参加対象　小・中各校の評議員・研究部長

⑶　正副部長会議
　第１回　４月15日㈮　　上青木公民館
　第２回　６月16日㈭　　上青木公民館
　第３回　９月７日㈬　　上青木公民館
　参加対象　各研究部の部長，副部長

⑷　研究部総会
　同日開催　５月18日㈬
　参加対象　各研究部員

⑸　平成28年度教育講演会
　１月10日㈫　　川口リリア大ホール
　講師　宮崎中央新聞社編集長
　　水谷　もりひと　氏
　演題「“いい子”より幸せな子に“いい大人”よりステキな大人に」
　参加対象　全会員　保護者
　参加者数　1,014名

⑹　市文集「かわぐち」発行
　市内の小・中学校から詩と作文を募集し掲載

⑺　市教研研究紀要発行
　１年間の各研究部および市教研の事業をまとめる。

2　各研究部の活動

⑴　国語研究部
　８月９日㈫　日本文学現地研究会
　夏季休業中　部門別研究会
　市文集「かわぐち」編集
　10月、11月　授業研究会　（小１校・中１校）

⑵　社会科研究部
　８月22日㈪　　夏季現地研修会
　２学期　授業研究会　（小１校・中１校）

⑶　算数・数学研究部
　７月29日㈮　算数・数学教育講演会
　授業研究会　（小１校・中１校）

⑷　理科研究部
　７月28日㈭　理科現地研修会・理科実験講習会
　市内科学展準備
　10月から２月　授業研究会　（小１校・中１校）

⑸　音楽研究部
　６月23日㈭・24日㈮　音楽鑑賞教室
　８月18日㈭　夏季音楽実技研修会
　12月、１月　授業研究会　（小１校・中１校）

⑹　図工・美術研究部
　８月５日㈮　夏季研修会
　市内、南地区各美術展、造形展準備
　授業研究会　（小１校・中１校）

⑺　書写研究部
　硬筆展、書きぞめ展審査
　８月４日㈭　書写実技研修会

⑻　保健体育研究部
　授業研究会　（小２校・中２校）

⑼　技術・家庭研究部
　７月22日㈮　技術・実技研修会
　７月25日㈪　中学校家庭科教科研究会
　７月26日㈫　技術・実技研修会

７月29日㈮　小学校家庭科現地研修会
８月９日㈫　小学校家庭科実技研修会
授業研究会　（小１校・中２校）

⑽　外国語研究部
夏季休業中、地区毎に研究協議会・分科会
市内英語弁論暗唱大会
10月、11月　授業研究会　（小１校・中１校）

⑾　生活科研究部
７月29日㈮　実技研修会
授業研究会　（小１校）

⑿　総合的な学習の時間研究部
８月３日㈬　夏季現地研修会
授業研究会　（中１校）

⒀　道徳教育研究部
８月23日㈫　夏季現地研修会
12月、２月　（小１校・中１校）

⒁　特別活動研究部
10月、11月　授業研究会　（小１校・中１校）
２月　講演会

⒂　生徒指導研究部
11月　講演会
１月　実践報告会

⒃　進路指導・キャリア研究部
７月５日㈫　進路・キャリア教育講演会
授業研究会　（中１校）

⒄　特別支援教育研究部
８月８日㈪　夏季現地研修会
１月　講演会　（教心・教育相談部と共催）
授業研究会　（小１校）

⒅　視聴覚教育研究部
８月３日㈬　映像研究班夏季研修会
８月８日㈪　ホームページ・著作権研究会
８月８日㈪　デジカメ講座・放送施設研究班夏季研修会
授業研究会　（小１校）

⒆　学校図書館研究部
８月１日㈪　夏季学校図書館研究会
読書感想文各地区審査
２月24日㈮　学校図書館講演会

⒇　教育心理・教育相談研究部
１月　講演会　（特別支援教育部と共催）

(21)　養護研究部
７月、10月　講演会１、講演会２

(22)　学校事務研究部
８月26日㈮　マネジメントを学ぶ！
２月３日㈮　研修会
２月23日㈭　研究発表会

(23)　食育研究部
７月29日㈮　夏季現地研修会
８月19日㈮　講演会
10月　授業研究会　（小１校）

2　志木市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、志木市小・中学校12校の教職員286名を会員として組織された教育研究団体である。本会は、公教育の理念に基づき、志木市の主任会と連携し、本市教育の充実・発展に寄与することを目的としている。

本会の目標達成のため、次の活動を行っている。

1　教育に関する小・中学校授業研究会
2　展覧会・音楽会・実技研修会・講演会
3　各種団体との連絡提携
4　その他必要な事項

Ⅱ　本研究会の組織

各教科領域等において、担当校長１名、担当教頭１名をおき、年間計画に基づいて活動している。昨年度より一斉授業研究会（12部会）を行っている。

Ⅲ　本年度の主な活動

1　志木市立小・中学校一斉授業研究会

⑴　目的

「埼玉県一授業のうまい先生がいる志木市」を目指し、教員の授業力向上を図る。

⑵　期日

平成28年11月17日㈭
研究授業　14:00～14:45（中学校は～14:50）
研究協議　15:00～16:30
※　当日は、市内全校を短縮日課とし、研究授業を行う学級以外は13：30完全下校する。
※　市内12校の小・中学校の全教員が12部会のいずれかに参加する。

⑶　各部会の取組

①　国語
授業者　宗岡第二中学校　進藤　彩恵　教諭
指導者　新座市立石神小学校長　坂口　智　先生
内　容　「確かな読みの力の育成」

②　社会
授業者　志木小学校　岩井　雄大　教諭
指導者　元志木市立宗岡第四小学校長　今井　功　先生
内　容　「自ら社会とかかわる子供を育てる社会科学習」

③　算数・数学
授業者　志木中学校　田島　清一　教諭
田中　光　教諭
指導者　十文字学園女子大学教授　日出間　均　氏
内　容　「図形領域に学校おける問題解決学習の展開」

④　理科
授業者　志木第二小学校　吉澤　巧也　教諭
指導者　十文字学園女子大学講師　岩田　泉　氏
内　容　「見通しを持って実験を行い科学的な見方や考え方を養う授業づくり」

⑤　音楽
授業者　宗岡第二小学校　長岡　裕子　教諭
指導者　戸田市立戸田東中学校長　小暮　孝明　先生
内　容　「合唱の効果的な指導法」

⑥　図工・美術
授業者　志木第二中学校　坂本　郁織　教諭
指導者　元新座市立第六中学校長　阿保資江美　先生
内　容　「主体的に心豊かな表現ができる児童生徒を育てるための小中９年間を見通した指導のあり方」

⑦　技術・家庭
授業者　志木第三小学校　山田　美弥　教諭
川崎　由恵　栄養教諭
指導者　十文字学園女子大学講師　富永　弥生　氏
内　容　「ICTを活用した家庭科の授業づくり」

⑧　保健・体育
授業者　宗岡第三小学校　三五　雄太　教諭
指導者　和光市立広沢小学校長　藤　律之　先生
内　容　「運動の特性や魅力を味わわせ、体力と運動の技能を高める授業」

⑨　生活・総合
授業者　宗岡中学校　宮嵜　晋　教諭
指導者　共栄大学教授　若手　三喜雄　氏
内　容　「将来の社会人として自己実現を果たし充実した職業観をもてる児童生徒の育成」

⑩　外国語
授業者　志木第四小学校　小原しほり　教諭
ALT　Leonsio Pena Diaz 氏
JLT　片山　由香　氏
指導者　埼玉大学准教授　及川　賢　氏
内　容　「児童が生き生きと取り組む言語活動」

⑪　道徳

授業者　宗岡第四小学校　　森　　由季　教諭
指導者　文教大学講師　　五十嵐由和　氏
内　容　「道徳的実践力を育成するための協働的な学びの追及」

⑫　特別支援教育
授業者　宗岡小学校　　鈴木乃里子　教諭
野中　淳子　教諭
指導者　所沢おおぞら特別支援学校
特別支援教育コーディネーター
若月　雅子　氏
内　容　国語「てぶくろ」

2　各部の活動

⑴　国語
主任会２回

⑵　書写
志木市硬筆展覧会　（６月）
志木市書きぞめ展覧会　（２月）
主任会６回

⑶　社会科
主任会３回

⑷　算数・数学
主任会２回

⑸　理科
いろは文化賞　審査　（９月）
創造展　審査　（９月）
科学教育振興展覧会　（10月）
小・中学校授業研究会　（２月）　宗岡中
主任会５回

⑹　生活
主任会２回　　研修会２回

⑺　音楽
市内音楽会　（11月）
小学校授業研究会　（4月）　宗岡第四小
中学校授業研究会　（1月）　宗岡第二中
実技研修会1回　（朝霞班音楽主任会合同事業）
主任会５回

⑻　図工・美術
創造展　審査（11月）
主任会４回　実技研修会１回

⑼　保健体育
実技伝達講習会（小）　（７月）
市内陸上記録会（小）　（10月）
指導案検討会　（10月）
小学校授業研究会　（11月）　宗岡第二小
中学校授業研究会　（11月）　宗岡第二中
球技大会　小学校　4ブロック　（２月）

⑽　技術・家庭
児童生徒発明創意くふう展　審査　（９月）
主任会３回

⑾　外国語・外国語活動
志木市立中学校英語学習発表会（中）
主任会３回　研修会２回

⑿　道徳
主任会３回

⒀　特別活動
授業研究会　（１月）　志木第四小
主任会2回　研修会２回

⒁　総合的な学習の時間
主任会2回　研修会２回

⒂　人権教育
人権標語　審査　（１月）
主任会１回（研修を含む）

⒃　特別支援教育
特別支援学級交流会　（７月）
小学校特別支援学級合同校外学習　（10月）
中学校特別支援学級合同宿泊学習　（９月）
特別支援学級合同作品展　（１月）
主任会７回

⒄　図書館教育
読書感想文コンクール審査　（９・10月）
主任会２回

⒅　視聴覚・情報教育
主任会1回

⒆　進路指導
中学校合同進路説明会　（９月）
主任会２回

⒇　養護
研修会11回　実技研修会２回
視察研修　（８月）

(21)　生徒指導主任会
校外パトロール　（12月）
主任会1回

(22)　保健主事会
宗岡中学校区学校保健委員会　（7月）

(23)　教務主任会
研修会1回

Ⅳ　おわりに

本研究会では、各部において積極的に活動してきた。一斉授業研究会は、２年目を迎え、昨年度の反省を生かして各部での取組が立案され、指導案検討会や当日の研究協議では、活発な協議がなされた。

来年度は、一斉授業研究会や各部会で出された課題に取り組むことで、本市の教育活動をさらに充実させ、「埼玉県一授業のうまい先生がいる志木市」を実現させるために活動していきたい。

３　桶川市教育研究会

Ⅰ　組織と研究主題・活動内容

１　国語研究部

「伝え合う力を高める国語科の授業」

⑴　研修会

⑵　授業研究会（川田谷小学校）

⑶　研究紀要作成

２　書写研究部

「書く楽しみを味わわせる指導法の工夫」

⑴　硬筆実技講習会

⑵　市内硬筆展作品搬入、審査、展示

⑶　市内硬筆展覧会（日出谷小）

⑷　埼玉県硬筆中央展覧会（日高市・日高アリーナ）

⑸　書きぞめ実技研修会

⑹　市内書きぞめ展覧会作品搬入、審査、展示

⑺　市内書きぞめ展覧会（桶川市民ホール）

⑻　書きぞめ中央展覧会作品出品

⑼　研究のまとめ・紀要作成

３　社会科研究部

「主体的に生きる力を育てる授業の研究」

⑴　施設等巡見

⑵　授業研究会

（桶川中学校：授業者　北　伸治　教諭）

⑶　研究のまとめ・紀要作成

４　算数・数学研究部

「言語活動を取り入れた指導法の工夫改善」

⑴　授業研究会（桶川小学校）

⑵　授業研究会（桶川中学校）

⑶　研究のまとめ・紀要作成

５　理科研究部

「生きる力をはぐくむ授業の創造を目指す」～児童生徒の思いや願いを生かす学習活動の充実～

⑴　主任会

⑵　わくわく科学体験教室（加納小学校）

⑶　桶川市児童生徒科学振興展覧会
搬入・審査・搬出（日出谷小学校）

⑷　北足立地区科学教育振興展覧会搬入
審査・審査・表彰式

⑸　授業研究会（桶川西中学校）

⑹　研究のまとめ・紀要作成

６　生活科研究部

「子どもの思いや願いを生かした学習活動の充実」

⑴　授業研究会（桶川小学校：石川　千佳　教諭）

⑵　研究のまとめ・紀要作成

７　保健体育研究部

「健やかな体と豊かな心をもった児童生徒の育成」

⑴　小学校親善球技大会（桶川西小学校）

⑵　授業研究会（加納中学校）

⑶　授業研究会（日出谷小学校）

⑷ 研究紀要作成

８　音楽研究部

「学習形態の工夫により、児童一人一人の表現力を高める授業のあり方を目指して」

⑴　桶川市小中学校音楽会　実施委員会

⑵　桶川市小中学校音楽会

⑶　埼玉県南部地区音楽発表会
桶川小、桶川東小、加納中出場

⑷　授業研究会（桶川中学校）

⑸　研究のまとめ・紀要作成

９　図工・美術研究部

「感性を働かせ、つくりだす喜びを味わわせる指導法の工夫」

⑴　埼玉県造形教育研究大会参加

⑵　身体障害者福祉のための埼玉県児童生徒美術展覧会地区審査会搬入、審査

⑶　郷土を描く児童生徒美術展北足立北部地区審査会搬入、審査

⑷　埼玉県小・中学校児童生徒美術展搬入、審査、研究会、搬出

⑸　桶川市小・中学校児童生徒美術展搬入、審査、研究会、搬出

⑹　研究のまとめ・紀要作成

10　技術・家庭研究部

「実践的・体験的な活動ができる児童生徒の育成」

⑴　研究会

⑵　発明創意くふう展

⑶　研究のまとめ・紀要作成

11　外国語研究部

「コミュニケーション能力の基地を生かし、積極的に知識や技能を習得しようとする児童生徒の育成」

⑴　桶川・伊奈英語科主任会

⑵　桶川・伊奈中学生英語弁論・暗唱大会

⑶　授業研究会（朝日小学校）

⑷　研究のまとめ・紀要作成

12　道徳研究部

「道徳的価値の自覚を深める指導法の工夫」
⑴　授業研究会（桶川東小学校）
⑵　南部地区道徳教育研究協議会参加
⑶　南部地区道徳教育研究協議会参加
⑷　北足立北部道徳教育研究会参加
⑸　研究のまとめ・紀要作成

13　特別活動研究部
「自主的・実践的な態度の育成をはかる指導の工夫」
⑴　授業研究会・研究協議（川田谷小学校）
⑵　授業研究会・研究協議（桶川西中学校）
⑶　研究のまとめ・紀要作成

14　総合的な学習の時間研究部
「自ら学ぶ楽しさを実感できる『総合的な学習の時間』をめざして」
⑴　埼玉県教育研究会参加
⑵　埼玉県委嘱研究発表会参加
⑶　授業研究会（桶川小学校：茂木　逸子　教諭）
⑷　研究のまとめ

15　視聴覚・情報教育研究部
「教育機器の効果的な利用と指導方法の工夫改善」
⑴　研究会
⑵　研究のまとめ・紀要作成

16　学校図書館研究部
「自ら学ぶ力を養い、豊かな心を育てる学校図書館のあり方」
⑴　研究部会（研修会）
⑵　桶川市読書感想文コンクール審査会、
　　学校図書館主任会
⑶　研究のまとめ・紀要作成

17　食育・給食研究部
「心のふれあいを深め、すこやかな体を育てる学校給食」
⑴　夏期研修会、食育に関する資料・掲示物作成
⑵　授業研究会（桶川中学校）
⑶　朝食アンケート調査実施、まとめ

18　進路指導・キャリア教育研究部
「生きる力を育む進路指導の在り方」
⑴　10月進路指導部会
⑵　３月進路指導部会
⑶　研究のまとめ・紀要作成

19　特別支援教育研究部
「特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援法」
⑴　研修会
⑵　授業研究会（日出谷小学校）
⑶　研究のまとめ・紀要作成

20　保健研究部
「望ましい生活習慣を身につけるための支援のあり方」
⑴　保健研究部会「研究課題の進め方について」
⑵　夏季研修会・研究課題について
⑶　研究課題について・保健統計確認作業
⑷　研修のまとめ、次年度について

21　生徒指導研究部
「心豊かな児童生徒の育成を目指して」
⑴　連絡協議会（小学校４回、中学校７回）
⑵　夏祭り巡回指導
⑶　南部地区小・中学校生徒指導主任等研究協議会
⑷　研究のまとめ・紀要作成

22　学校事務研究部
「初任者・臨任者の支援と事務処理マニュアルの検討」
⑴　６月初任者・臨任者の支援、事務処理問題提起
⑵　10月初任者・臨任者の支援、事務処理問題提起
⑶　事務処理マニュアルについての検討
⑷　研究のまとめ

23　人権教育研究部
「自他共に大切にする人権教育の推進」
⑴　南部地区人権教育実践報告会
⑵　南部地区人権教育実践報告会（北本市文化センター）
⑶　桶川市小中学校人権教育担当者研修会
⑷　北足立地区人権教育研究集会
⑸　研究のまとめ・紀要作成

24　安全教育研究部
「地震発生時の対応のあり方について」
⑴　防災センター見学会
⑵　研修会（地震に備えた対応の取組について各校からの情報提供・交換）
⑶　研究のまとめ

25　教育心理・教育相談研究部
「保護者との信頼関係を育む教育相談の充実」
⑴　研修会
⑵　研究のまとめ・紀要作成

26　国際理解教育研究部
「互いに尊重しあう心をはぐくむ国際理解教育の実践」
⑴　JICA地球ひろば　訪問
⑵　研究のまとめ・紀要作成

27　環境教育研究部
「環境問題に気づき、環境を守ろうとする心と態度の育成」
⑴　研修会
⑵　南部地区環境教育研究協議会参加

４　所沢市教育研究会

Ⅰ　本研究会の概要と活動指針

本研究会は、教育基本法の精神に基づき、自主的な教育活動を推進し、専門職としての職能の向上を図るとともに、所沢市の教育の進展に寄与することを目的として組織された研究会である。所沢市の小・中学校47校の教職員約1,300名を会員とする組織である。会員は６地区24研究部に所属して研究活動を進めている。

本会は、次の３つのことを基本理念におき、活動を進めていくものとする。

１　各教科等研究部並びに各地区の活動では、その課題を明確にし、研究目標や研究の重点を定め、その解決に向けた教育研究や実践交流を進める。

２　会員相互の経験値と創意を生かし、意欲的な研修会を開催するとともに、継承や改善の内容を見極め、時代に即した研究体制と諸事業の改善に努める。

３　予算に見合った活動を進め、適正な財政活動並びに教育研究に努める。

Ⅱ　本教育研究会の組織

１　地区連絡協議会

⑴東地区　⑵西Ａ地区　⑶西Ｂ地区
⑷南地区　⑸北地区　⑹中央地区

２　研究部

⑴国語　⑵社会　⑶算数・数学　⑷理科　⑸生活
⑹音楽　⑺図工・美術　⑻保健体育　⑼技術・家庭
⑽外国語・外国語活動　⑾書写　⑿道徳
⒀特別活動　⒁生徒指導　⒂教育相談・特別支援
⒃学校図書館　⒄学校事務　⒅学校保健
⒆人権教育　⒇教育機器　㉑安全教育
㉒進路指導　㉓学校食育　㉔総合的な学習の時間

３　役員

⑴会長１名　⑵副会長２名　⑶事務局長１名
⑷事務局次長１名　⑸会計２名　⑹庶務２名
⑺地区運営委員１２名　⑻会計監査３名

Ⅲ　本年度の主な事業

⑴　国語

「確かな言語能力の育成と一人ひとりを生かす指導法の工夫」

・入間地区学力調査集計
・授業研究会
・国語部・学校図書部合同講演会

⑵　社会

「基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着と、それらを活用して考える授業展開の工夫」

・授業研修会
・現地研修会

⑶　算数・数学

「学習意欲を高める授業」

・授業研究会

⑷　理科

「問題解決型の授業の研究」

・授業研究会
・市内科学展の開催
・入間地区科学展の開催

⑸　生活

「一人一人の思いや願いを生かした授業展開と評価の工夫」

・部員研修会
・授業研究会
・実践報告会または交流会

⑹　音楽

「『伝わる音楽』～音楽を共有し、感性豊かにする学びを通して～」

・市内親善音楽会
・市内小学校管楽合奏発表会
・実技研修会
・音楽主任会
・埼玉県小中学校音楽会西部南地区大会
・授業研究会
・関東音楽教育研究会埼玉大会

⑺　図工・美術

・授業研究会及び主任研修会
・各種美術展
・実技研修会

⑻　保健体育

「運動の特性や魅力を味わわせ、体力と運動の技能を高める指導と評価の工夫」

・授業研究会

⑼　技術・家庭

「児童生徒の学びを高め、生活する力を伸ばす学習指導の研究」

・実技研修会

・授業研究会
・発明創意くふう展の開催

⑽　外国語・外国語活動
「小学校で教科化になることを視野に入れ小中連携をふまえたコミュニケーション能力の基礎を身につけさせるための授業方法の研究」
・授業研究会
・英語弁論大会市内予選
・小中情報交換のための主任会

⑾　書写
「自ら学ぶ意欲と書写力を高める指導法の研究」
・主任研修会
・硬筆展・書きぞめ展の開催
・授業研修会

⑿　道徳
「自己の生き方について考えを深める道徳教育」
・指導案検討会
・授業研究会

⒀　特別活動
「学級活動を通して、児童生徒の活動意欲を高める指導の工夫」
・授業研究会
・資料交換会

⒁　生徒指導
「一人一人を認め、伸ばすための指導を目指して」
・事例研究会（授業研究会）
・生徒指導研修会または講演会

⒂　教育相談・特別支援教育
「共に特別支援教育を考える」
・講演会

⒃　学校図書館
「自ら学ぶ力を養い、豊かな心を育てる学校図書館のありかた」
・主任研修会
・読書感想文市内審査会
・国語部・学校図書部合同講演会
・入間研究大会発表

⒄　学校事務
「テーマごとに班に分かれた研修・研究の推進」
・班別研修会
・全体研修会

⒅　学校保健
「児童生徒が抱える健康課題への関わり方」
・講演会

⒆　人権教育
「基本的人権を大切にした人権教育をどのように進めていくか」
・授業研究会
・現地研修会

⒇　教育機器
「ＩＣＴを活用した情報活用能力を育てる学習指導の研究」
・教科等部会
・授業研究会

(21)　安全教育
「児童の心に響き、実生活に生かせる安全教育」
・研究協議会
・活動反省会

(22)　進路指導
「進路指導における効果的な指導資料の活用」
・部員研修会
・授業研究会

(23)　学校食育
「生涯にわたる体作りをめざして」
・講演会
・授業研究会
・彩の国学校給食研究大会
・食育フォーラム
・学校給食展

(24)　総合的な学習の時間
「主体的に課題を設定し、探究的な学習を進めることができる児童生徒の育成」
・授業研究会兼部員研修会

(25)～(30)各地区連絡協議会
・授業研究会
・合同研究協議会
・生徒指導研修会
・学校事務研究会

Ⅳ　おわりに

本研究会は今後も、「所沢市教育振興基本計画」に基づき、子どもたちの「心身のたくましさ・未来を拓く知恵・ふるさと所沢を愛する心」を大きく育てるという基本理念のもと、「特色ある学校づくり支援事業」「学び創造プラン学力向上推進事業」「新たな三学期制における教育課程の着実な実施」を進める中で、学校の教育力（学校力）と教師の力量（教師力）を高め、子どもたちの人間力の豊かな育成を図っていく。

私たち教職員は、各教科等研究部並びに各地区の事業計画をもとに、全ての会員が創意工夫して、授業研究、実技研修や実地研修、生徒指導、学級経営等の研修及び実践を積み重ね、所沢市の教育のより一層の充実発展に努めていく。

5　富士見市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、富士見市立小・中・特別支援学校18校に在職する教職員500名を会員として、組織された教育団体である。

本会は、富士見市の教職員による自主的・組織的な研究活動を推進し、職能の向上と富士見市教育の推進を図ることを目的としている。

上記の目的を達成するために次の事業を行っている。

1　会員の研究活動
2　研究会・講演会・講習会などの開催
3　教育に関する研究・調査並びに刊行物の刊行
4　各種教育団体との連絡提携
5　その他必要事項

Ⅱ　本会の組織

1　研究部

⑴国語、⑵書写、⑶社会、⑷算数・数学、⑸理科、⑹音楽、⑺図工・美術、⑻技術・家庭（小家を含む）、⑼保健体育、⑽生活、⑾英語、⑿道徳、⒀特別活動、⒁生徒指導、⒂特別支援教育、⒃学校図書館、⒄視聴覚、⒅安全教育、⒆学校給食、⒇学校保健、(21)養護、(22)人権教育、(23)路指導・キャリア教育、(24)学校事務、(25)国際理解、(26)総合的な学習　【計26部】

各校から１人ずつ研究部に所属する。

また、会員が自主的・組織的に専門領域の研究を行う目的で、研究班を組織している。

2　役員

会長１名、副会長２名、庶務幹事２名、会計幹事２名、監事３名が本部会を構成する。

理事は各校２名。

各研究部に、部長、副部長、主任各１名。

Ⅲ　主な事業

1　本部の活動

⑴　一斉主任会・会計監査会　（４月）
⑵　定期総会　（５月）
⑶　本部会　（年６回）
⑷　理事会　（年３回）
⑸　研究部長・研究班長会議　（年３回）
⑹　教育講演会　（１月）
演題「教育に科学的根拠を」
講師　慶應義塾大学総合政策学部
准教授　中室　牧子　氏

⑺　研究発表会　（２月）

2　各研究部の活動

⑴　国語
①授業研究会　（11月）
⑵　書写
①研究協議会　硬筆展搬入・審査　（６月）

② 毛筆展搬入・地区審査会　（１月）
③ 市内書きぞめ展搬入・展示　（２月）
⑶　社会
① 研究発表会　（２月）
⑷　算数数学
① 授業研究会　（11月）
⑸　理科
① 研究協議会　（９月）
② 科学展・地区科学展　（９月）
③ 授業研究会　（11月）
④ 授業研究会　（２月）
⑹　音楽
① 音楽鑑賞教室　（５月）
② 研究協議会　（６月）
③ 小学校市内音楽会　（11月）
④ 中学校市内音楽会　（11月）
⑤ 授業研究会　（12月）
⑥ 授業研究会　（２月）
⑺　図工・美術
① 授業研究会　（11月）
② 市内図工・美術展　（１月）
③ 授業研究会　（２月）
⑻　技術・家庭
① 発明創意工夫展　（９月）
② 授業研究会（小学校）（12月）
⑼　保健体育
① 授業研究会（中学校）（９月）
② 授業研究会（小学校）（11月）
③ 授業研究会（小学校）（２月）
⑽　生活
① 研修会
② 授業研究会　（２月）
⑾　英語
① 市内中学校英語弁論大会打合せ（６月）
② 市内英語弁論大会（市民体育館）（９月）
③ ２市１町英語弁論大会　（10月）
④ 小学校授業研究会　（11月）
⑤ 中学校授業研究会　（11月）
⑥ 研究発表会　（２月）
⑿　特別活動
① 授業研究会　（２月）
⒀　道徳
① 研究協議会　（１月）
② 授業研究会　（２月）
⒁　生徒指導
① 研究協議会　（７月）
⒂　特別支援教育
① 研修会　（10月）
② 研究発表会　（２月）
⒃　学校図書
① 研究協議会（読書感想文審査）（９月）
⒄　視聴覚
① 研究協議会　（５月）
⒅　安全教育
① 授業研究会　（11月）
⒆　学校給食
① 学校給食献立検討委員会　（年６回）
⒇　学校保健
① 授業研究会　（２月）
(21)　養護
① 研究協議会　（７月）
② 研究協議会　（３月）
(22)　人権教育
① 授業研究会　（10月）
(23)　進路指導・キャリア教育
① 研究協議会　（２月）
(24)　学校事務
① 研究協議会　（５月）
② 講演会　（11月）
③ 講演会　（１月）
(25)　国際理解
① 授業研究会　（２月）
(26)　総合的な学習
① 授業研究会　（２月）

その他に、会員による自主的な研究班（本年度は５班）活動も行われた。

(1)保健室経営班　(2)特別支援教育学級経営班
(3)生活指導研究班　(4)道徳教育研究班
(5)学校事務経営班

Ⅳ　今後の課題

今年度は、活動の重点として「わかる授業と学力向上をめざし≪一人一人を生かす指導方法の研究≫に取り組む」ことを掲げ、各研究部・研究班での研究推進を進めてきた。

その中では、自主的に研究を進め、多くの授業研究会や研究協議の場がもたれた。

その半面で、研究部ごとの研究活動への温度差も感じられることが、来年度への課題としてあげられる。各研究部への意識改革をさまざまな機会を通じて求めていきたい。

6　ふじみ野市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、ふじみ野市内小中学校19校、29の教科等研究部をもって組織する。

Ⅱ　活動概要

各研究部は、授業研究会や講演会を通して、指導力の向上を目指している。

⑴　国語部

①授業研究会　２月10日㈮　三角小学校
授業者　天城　学　教諭
指導者　駒西小学校　吉田　和美　校長

⑵　書写部

①研修会　６月16日㈭　大井西中学校
「硬筆地区展覧会作品審査・研修」
②研修会　11月11日㈮　大井西中学校
「書きぞめ評価研修会」
③研修会　１月19日㈭　大井西中学校
「書きぞめ展覧会地区審査・研修」
指導者　大東文化大学　齋藤　克美　先生
県立大宮光陵高校　宮島　恭子　先生
④ふじみ野市書きぞめ展覧会　１月28日㈯
上野台小学校体育館

⑶　社会科部

①研修会　６月22日㈬　駒西小学校
「ふじみ野市内社会科展について」
②ふじみ野市立小・中学校社会科展
10月22日㈯･23日㈰市民交流プラザ
③授業研究会　11月９日㈬　上野台小学校
授業者　石川　暁　教諭
指導者　鶴ヶ丘小学校　森川　哲治　校長

⑷　算数・数学部

①授業研究会　11月４日㈮　福岡小学校
授業者　朝香まりな　教諭
指導者　大井東中学校　榎本　一夫　校長
②授業研究会　1月24日㈫　葦原中学校
授業者　宮川　尚士　教諭
指導者　福岡小学校　豊田真由美　教頭

⑸　理科部

①研修会　７月６日㈬　福岡中学校
「ふじみ野市内科学展について」
②ふじみ野市科学教育振興展覧会　10月１日㈯
福岡小学校体育館
③研修会　１月27日㈮　福岡中学校
実験・実技講習会

⑹　生活部

①研修会　２月10日㈮　上野台小学校
「今年度の生活科の情報交換等」

⑺　音楽部

①研修会　10月６日㈭　大井西中学校
「市内音楽会の打合せ」
②ふじみ野市小中学校音楽会　11月18日㈮
上福岡地区　ふじみ野市勤労福祉センター
指導者　坂戸市立教育センター所長
宇佐美美巳子　氏
大井地区　大井中央公民館
指導者　入間川小学校　砂田　弘行　先生
③実技研修会　10月20日㈭　上野台小学校

⑻　図工・美術部

①研修会　11月25日㈮　福岡小学校
「市内美術展について」
②市内小中学校児童生徒美術展　１月14日㈯
ふじみ野市市民交流プラザ

⑼　小学校体育部

①授業研究会　11月17日㈭　東台小学校
授業者　入戸野明也　教諭
指導者　西小学校　桑原　操　教頭

⑽　中学校体育部

①授業研究会　10月26日㈬
授業者　鈴木　雄介　教諭・加藤　佳子　教諭
指導者　西原小学校　肥留間　宏　校長

⑾　小学校家庭科部

①研修会　７月８日㈮　三角小学校
「発明創意くふう展について」
②研修会　７月27日㈬　亀久保小学校
「授業研究会における指導案検討」
③ふじみ野市内発明創意くふう展　８月31日㈬
大井中央公民館
④研修会　10月11日㈫　亀久保小学校
「授業研究会における教材研究、教材作り」
⑤研修会　２月３日㈮　三角小学校
「今年度のまとめ」

⑿　中学校技術・家庭科部

①研修会　７月14日㈭　福岡中学校
「発明創意くふう展について」

②発明創意くふう審査会　８月31日㈬　福岡中学校

⒀　英語活動・英語部

①研修会　８月30日㈫　花の木中学校

「市英語弁論大会開催要項の確認」

②ふじみ野市英語暗唱・弁論大会

９月21日㈬　福岡中学校

⒁　道徳部

①授業研究会　11月29日㈫　福岡小学校

授業者　石川　理子　教諭

指導者　さぎの森小学校　榊原　哲也　校長

⒂　特別活動部

①児童会交流会　７月27日㈬

亀久保小学校　大井地区小学校

上野台小学校　上福岡地区小学校

②生徒会交流会

８月８日㈪　大井西中学校　大井地区中学校

８月22日㈪　葦原中学校　上福岡地区中学校

③授業研究会　１月24日㈫　大井東中学校

授業者　青木真美子　教諭

指導者　三芳町立上富小学校　山下　道夫　校長

⒃　特別支援教育部

①研修会　６月14日㈫　福岡中学校

「交流会内容の協議」

②９校交流会及び特別支援教育部主任研修会

７月６日㈬　大井小学校

「市内特別支援学級担任相互の交流と特別支援教育の理解を深める」

③研修会　10月18日㈫　福岡中学校

講演　「就労に向けての支援体制」

指導者　ヤマト自立センター　中村　竜志　氏

指導者　社会福祉法人めぐみ　永嶋　大輔　氏

④小中学校特別支援学級学習発表会　12月９日㈮

ふじみ野市勤労福祉センター

⑤研修会　２月９日㈭　福岡中学校

「活動のまとめ、来年度の活動等」

⒄　教育相談部

①研修会　８月１日㈪市民交流プラザ「フクトピア」

講演　「グループ・アプローチの効果とその課題」

関西学院大学教育学部教授　中村　豊　先生

⒅　学校図書館部

①研修会　９月９日㈮　大井西中学校

「読書感想文コンクール審査」

⒆　学校食育部

①授業研究会　11月17日㈭　大井小学校

授業者　鈴木　和恵　教諭

指導者　市教育委員会　須藤大二郎　指導主事

⒇　情報教育部

①授業研究会　１月25日㈬　西原小学校

授業者　遠藤　佳苗　教諭

指導者　市教育委員会　清水　篤史　指導主事

㉑　養護部

①研修会　７月８日㈮　大井中央公民館

「定期健康診断の反省等」

②研修会　7月29日㈮

パソコン実習　指導者　向坂　亮介　先生

講演　指導者　埼玉病院　上牧　勇　先生

③研修会　９月15日㈭　大井中央公民館

「環境衛生検査について」等

④研修会　11月９日㈬　大井小学校

実習「成長曲線について」等

⑤研修会　12月９日㈮　大井小学校

「成長曲線について」

⑥研修会　１月19日㈭　大井中央公民館

「来年度健康診断書類の確認等」

⑦研修会　２月17日㈮　ふじみ野市保健センター

「1年間のまとめ等」

㉒　保健部

①研修会　１月26日㈭　大井東中学校

「学校保健員会実施の状況について」他

㉓　学校事務部

①研修会　６月29日㈬　上福岡図書館

②研修会　９月８日㈭　上福岡図書館

③研修会　12月７日㈬　上福岡図書館

④研修会　１月26日㈭　上福岡公民館

「今後の事務改善に関する研究協議等」

㉔　生徒指導部

①研修会　９月７日㈬　大井中央公民館

「1学期、夏季休業中における情報交換」

②研修会　２月８日㈬　大井中央公民館

「今年度の成果と来年度への課題等」

㉕　安全教育部

①研修会　２月22日㈬　勤労福祉会館

「今年度の引き取り訓練の情報交換」

㉖　人権教育部

①授業研究会　２月9日㈭　上野台小学校

授業者　加藤　直美　教諭

㉗　教務主任部

①研修会　11月25日㈮　大井小学校

「教育課程の研究」

②研修会　２月23日㈭　大井小学校

「次年度の学校行事について」他

7　東松山市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、東松山市立小学校11校、中学校５校に在籍する教職員409名を会員として組織されている教育研究団体である。

本会は、教育の振興と会員の資質の向上発展を図ることを目的とし、次の事業を行う。

1　学校教育に関する研究及び調査
2　社会教育・青少年文化活動に関すること
3　講演会・講習会・研究協議会・学校参観等
4　その他必要な事業

Ⅱ　本会の組織

本会に次の研究部をおき、部の構成は各校の研究部員をもってする。各校は、研究部ごとに主任を置く。

①学校運営　②教務　③庶務　④国語
⑤書写　⑥社会　⑦算数・数学　⑧理科
⑨生活　⑩音楽　⑪図工・美術　⑫体育
⑬保健　⑭家庭　⑮技術・家庭
⑯外国語・外国語活動　⑰教心・教相
⑱特別支援教育　⑲視聴覚　⑳学校図書館
㉑道徳　㉒特別活動　㉓学校給食
㉔進路指導・キャリア教育　㉕人権教育
㉖安全教育　㉗生徒指導　㉘保健主事
㉙環境教育　㉚国際理解教育　㉛情報教育
㉜総合的な学習

Ⅲ　本会の主な事業

1　本部事業

①　平成28年度総会
②　第１回理事研究協議会
③　平成28年度教育講演会
　演題：「二宮金次郎に学ぶ生き方
　　～やる気を引き出す実践術～」
　講師：国際二宮尊徳思想学会
　　常務理事　　中桐 万里子 氏
④　第２回理事研究協議会
⑤　第３回理事研究協議会
⑥　会計監査会
⑦　選挙管理委員会
⑧　教科等主任研究協議会・部長会
⑨　新旧理事研究協議会

2　「学校特色化事業」（東松山市教育委員会委嘱）補助

・松山第二小学校
　「『わかる、できる、使える』児童の育成推進事業」
・唐子小学校
　「生き抜く力の育成推進事業」
・野本小学校
　「豊かな思考力、想像力を高める学習指導推進事業」
・市の川小学校
　「確かな学力向上推進事業」
・桜山小学校
　「『小・中連携教育特認校』推進事業」
・東中学校
　「学校図書館教育推進事業」
・北中学校
　「家庭・地域連携推進事業」
・白山中学校
　「『小・中連携教育特認校』推進事業」

3　各研究部事業

(1)　校長研究部
　・校長研修会　毎月１回
　・校長研究協議会　毎月１回
(2)　教頭研究部
　・教頭研究協議会　毎月１回
(3)　教務研究部
　・教務主任研修会　２月
(4)　庶務研究部
　・全体研修会　８月・２月
(5)　国語研究部
　・主任研修会　12月
(6)　書写研究部
　・主任研究協議会　５月
　・東松山地区硬筆展審査会　６月
　・硬筆中央展　６月
　・主任研修会　７・11・１・２月
　・東松山地区書きぞめ展審査会　１月
　・東松山地区書きぞめ展覧会　１月
　・書きぞめ中央展　１月
(7)　社会研究部
　・主任研修会　10月

・授業研究会　11月

⑻　算数・数学研究部

・授業研究会　６月

⑼　理科研究部

・主任研究協議会　５・11月

・科学教育振興展覧会 比企地区展　10月

・東松山市児童生徒理科研究発表会　12月

・比企地区理科教育研究発表会　１月

⑽　生活研究部

・主任研究協議会　２月

⑾　音楽研究部

・主任研修会　10・２月

・東松山市小中音楽会準備会　10月

・東松山市小中音楽会　10月

・埼玉県西部北地区小・中学校音楽会　11月

⑿　図工・美術研究部

・身体障害者福祉のための児童生徒
美術展地区審査会　８月

・郷土を描く児童生徒美術展地区審査会　10月

・主任研究協議会　12月

・埼玉県児童生徒美術（比企地区）展審査会　１月

⒀　体育研究部

・授業研究会　11月

⒁　保健研究部

・主任研修会　６・９・２月

・主任研修会（講演会）　10月

⒂　家庭研究部

・比企地区小学校家庭科、中学校技術・
家庭科主任研修会　６月

・比企地区児童生徒研究発表会並びに
発明創意くふう展　９月

・比企地区小学校授業研究会　７月

・家庭科主任授業研究会　１月

・比企地区小学校家庭科、中学校技術・
家庭科主任研修会　２月

⒃　技術・家庭研究部

・実技研修会（技術分野　家庭分野）　７月

・比企地区児童生徒研究発表会並びに
発明創意くふう展準備会　９月

・比企地区授業研究会　12月

⒄　外国語・外国語活動研究部

・比企地区英語弁論大会　９月

・授業研究会及び主任研修会　11月

⒅　教心・教相研究部

・教育相談員研修会　12月

⒆　特別支援教育研究部

・支援学級合同遠足　６月

・埼特研　８月

・主任研修会　10・２月

・授業研究会　11月

・児童生徒作品展（たんぽぽ作品展）　２月

⒇　視聴覚教育研究部

・主任研究協議会　11月

(21)　学校図書館研究部

・読書感想文審査会　９月

・主任研修会　３月

(22)　道徳研究部

・授業研究会　10月

(23)　特別活動研究部

・授業研究会　11月

(24)　学校給食研究部

・献立部会　毎月１回

(25)　進路・キャリア教育研究部

・進路指導主事研修会　11月

(26)　人権教育研究部

・授業研究会・主任研究協議会　１月

・比企人権教育推進協議会
学校教育専門委員会への実践報告　２月

・東松山市人権教育部会発表　２月

(27)　安全教育研究部

・主任研修会　２月

(28)　生徒指導研究部

・主任研修会　２月

(29)　保健主事研究部

・保健主事研修会　２月

(30)　環境教育研究部

・主任研修会　２月

(31)　国際理解教育研究部

・主任研修会　11月

(32)　情報教育研究部

・主任研究協議会　11月

(33)　総合的な学習研究部

・主任研究協議会　２月

Ⅳ　成果と今後の課題

○　教育の改革期において各事業を通して、市内各校の教育活動の公開や情報交換、研究協議が行われ会員相互の意識が高まり教育実践が深まった。

○　次期学習指導要領の実施に向け、教育課程編成上の工夫、指導法の工夫改善の共有等について各研究部で交流を密にしていく必要がある。

○　今後、児童生徒数の減少に伴う教職員会員数の減少が考えられる。組織のスリム化、活動内容や活動費等の見直しが課題である。

8　秩父教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、秩父教育研究会と称し、事務局を会長所属の学校に置く。

本会は、秩父市、横瀬町、小鹿野町、皆野町、長瀞町１市４町の小・中学校の教職員をもって組織されている教育研究団体である。教職員の資質向上と地域教育の振興に寄与することを目的としている。

学校数は、小学校 23 校、中学校 12 校の計 35 校、教職員会員数は 660 名である。

本会は、上記の目的を達成するために、教育関係機関並びに諸団体と連携し、次の事業を行う。

１　教育に関する研究会・講習会・発表会・展覧会等の開催
２　教育に関する研究調査
３　教育に関する実践的研究の委嘱
４　教育に関する図書雑誌の編集刊行斡旋
５　その他、教育に必要な事項

Ⅱ　本教育研究会の組織

１　役員

会長１名、副会長２名、理事（代議員）各校１名、監事３名、幹事若干名

２　任務

本会の役員の任務は次のとおりとする。

⑴　会長は、本会を代表し、会務を掌理し各種会議を招集し、その議長となる。
⑵　副会長は、会長を助け、会長に事故あるときはその職務を代理する。
⑶　理事は、理事会を組織し、本会事業の企画運営に関して審議し、会務の執行にあたる。また、代議員として学校を代表し総会に出席する。
⑷　監事は、本会の会計を監査する。
⑸　幹事は、会長の命を受け、本会の庶務会計にあたる。

３　任期

役員の任期は２カ年とする。但し､再任を妨げない。補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

４　会議

毎年１回総会を開催し、会務の報告、会長・副会長・監事の選出、予算決算、その他重要事項につき審議決定する。会長が必要と認めた場合または会員の３分の１以上の要求がある場合は、臨時に総会を開くことができる。総会は代議員による総会とする。各種会議の議決は、出席人数の過半数の賛成を必要とする。

４　経費

本会の経費は、会費及び補助金、その他をもってこれにあてる。会費は、１人年額 1,000 円とし、６月に全額納入する。

補助金は、秩父郡市内各市町より 500 円×学級数分をいただいている。

５　研究部

研究部は次のとおりとする。

⑴国語　⑵社会　⑶算数・数学　⑷理科
⑸生活　⑹音楽　⑺図工・美術　⑻保健体育
⑼技術・家庭　⑽家庭　⑾外国語　⑿書写
⒀生徒指導　⒁総合学習　⒂教育心理・教育相談
⒃学校図書館教育　⒄放送・視聴覚教育
⒅特別支援教育　⒆学校経営　⒇学校事務
㉑特別活動　㉒道徳教育　㉓学校給食
㉔進路指導・キャリア教育　㉕養護　㉖人権教育
㉗教務　㉘安全教育

各研究部には部長・副部長を置く。部長は本採者から選出する。役員の任期は１カ年とする。

但し、再任を妨げない。また、部長は次年度第１回の研究部会を主催する。

Ⅲ　本年度の主な事業

１　事務局主催の活動

⑴　第１回理事研修会　（４月）
⑵　総会　（５月）
⑶　第１回研究部（教科外）研修会　（５月）
⑷　第１回研究部（教科）研修会　（６月）
⑸　第２回理事研修会　（７月）
⑹　教育講演会　（８月）
　講師　野村総合研究所顧問　　増田　寛也　氏
　演題「人口減少を見据えた秩父の教育のあり方」
　　※　講師の都合により中止
⑺　第３回理事研修会　（２月）

２　各研究部主催の活動

⑴　国語
　講演会　(11 月)
　「新しい時代の新しい国語」
　講師　　小菅恭青史　氏

⑵　社会
授業研究会　（10 月）
授業者　浅見　寿文　教諭
⑶　算数・数学
算数・数学教育研究協議会　（11 月）
授業研究会　（２月）
授業者　根岸　文江・坂本　浩朗　教諭
⑷　理科
科学教育振興展覧会　（10 月）
理科研究発表会　（１月）
⑸　生活
実技研修会　（８月）「折り紙講習会」
講師　乾　君江　氏
⑹　音楽
授業研究会　（10 月）
「お祭りの音楽づくり」
授業者　池田　和美・鎗田　友介　教諭
実技研修会　（10 月）
講師　山崎　朋子　氏
⑺　図工・美術
造形教育実技研修会　（７月）
⑻　保健体育
中学校授業研究会　（11 月）
小学校授業研究会　（11 月）
⑼　技術家庭
研修会　（７月）
発明創意くふう展及び研究発表会　（９月）
授業研究会　（９・10 月）
⑽　家庭
調理の実技研修会　（８月）
研究協議会　（９月）（指導案検討）
授業研究会　（10 月）
授業者　知久　梢　教諭
⑾　外国語
授業研究会　（12 月）「What’s this ？」
授業者　増　雅代　教諭
⑿　書写
秩父地区硬筆展覧会　（６月）
秩父地区書きぞめ展覧会　（１月）
⒀　生徒指導
研修会　（５月）
⒁　総合学習
授業研究会　（２月）
⒂　教育心理・教育相談
講演会　（12 月）
「子どものすこやかな成長をねがって」
講師　白石　公子　氏
⒃　学校図書館教育
読書感想文審査会　（９月）
⒄　放送・視聴覚教育
授業研究会　（１月）
授業者　齊藤　寛鎮　教諭
講師　東京学芸大学教育学部
准教授　高橋　純　氏
⒅　特別支援教育
講演会　（10 月）
⒆　学校経営
視察研修・講演会　（11 月）
講師　秩父みどりが丘工業団地工業会
会長　飯野　水男　氏
⒇　学校事務
講演会　（８月）
「ＣＳ５原則＆クレーム対応研修」
講師　有隣興業（株）　宮前　昌美　氏
(21)　特別活動
授業研究会　（11 月）
研究発表会　（１月）
(22)　道徳教育
授業研修会　（１月）「きまりの意義」
授業者　佐藤　典靖　教諭
(23)　学校給食
実技研修会　（８月）「パン作り体験」
(24)　進路指導・キャリア教育
授業研究会　（10 月）
(25)　養護
班別研修会　（７月）
「養護教諭の執務の充実を目指して」
講演会　（10 月）「発達障害について」
講師　秩父熊木子どもクリニック
横井　範子　氏
(26)　人権教育
研修会　（５月）
(27)　教務
研修会　（５月）
(28)　安全教育
研修会　（５月）

９　児玉郡本庄市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、児玉郡・本庄市内の小中学校32校、30の教科等研究会をもって組織する。

Ⅱ　活動概要

各研究会は、授業研究会や講演会を通して、指導力の向上を目指している。

⑴　国語教育研究会
　①　授業研究会　本庄市立児玉小　　11月30日㈬
　　授業者　本庄市立児玉小　　田代　千絵　教諭
　　指導者　北部教育事務所　大澤　　聡　指導主事
　②　文集「こだま」第24号作成

⑵　書写教育研究会
　①　第55回硬筆展地区審査会　　６月14日㈫
　②　実技研修会「自分の書の拓本を採ろう」
　　８月２日㈫
　　講師　本庄高等学校　　猪野　徹　教諭
　③　第70回児玉郡本庄市書きぞめ展覧会

⑶　社会科教育研究会
　①　授業研究会　美里町立松久小　　１月20日㈮
　　授業者　美里町立松久小　　野澤　博孝　教諭
　　指導者　北部教育事務所　小島　直樹　指導主事
　②　社会科教育研究会研修会　　８月２日㈫
　　講　師　本庄市教育委員会　　野口　泰宣　氏

⑷　算数・数学教育研究会
　授業研究会　本庄市立本庄南小　　11月18日㈮
　本庄市立本庄東中　11月１日㈫
　指導者　北部教育事務所　　中原　裕　指導主事
　　（小）さいたま市立与野西北小　　内田　宏　校長
　　（中）埼玉大学附属中学校　　五十嵐　淳　教諭

⑸　理科教育研究会
　①　科学展地区展　美里町立東児玉小　10月８日㈯
　②　授業研究会（小）12月９日㈮（中）10月20日㈭
　　（小）授業者 美里町立松久小　　熊谷　青士　教諭
　　指導者 北部教育事務所　　齋藤　健一　指導主事
　　（中）授業者 上里町立上里中　　梅田さおり　教諭
　　指導者　埼玉大学附属中学校　島田　直也　教諭

⑹　音楽教育研究会
　①　夏季実技研修会　本庄市立本庄西中　８月４日㈭
　　講　師　　堀川　正彦　氏
　②　埼玉県小・中学校音楽会北部西地区音楽会
　　本庄市民文化会館　　11月９日㈬
　　指導者　上尾市立鴨川小　　新井　麻起　校長

⑺　図工・美術教育研究会
　①　研究発表会　美里町立東児玉小　　11月１日㈫
　　発表者　美里町立東児玉小　　小林　玲子　教諭
　　指導者　北部教育事務所　大谷　裕紀　指導主事
　②　夏季実技研修会　本庄市立旭小　　８月９日㈫
　　指導者　本庄市立旭小　　岡村　和美　教頭

⑻　保健体育教育研究会
　①　小学校体育授業研究会　　６月10日㈮
　②　小学校体育実技講習会　６月20日㈪　８月４日㈭
　③　小学校体育研究協議会
　　10月28㈮　11月２日㈬　11月15日㈫
　④　中学校体育授業研究会　　10月27日㈭
　⑤　中学校体育研究協議会　　12月１日㈭
　⑥　女子体育実技講習会　　７月28日㈭

⑼　技術・家庭科教育研究会
　授業研究会　上里町立上里北中　　７月14日㈭
　　本庄市立児玉中　　10月14日㈮
　　美里町立大沢小　　11月８日㈫
　指導者　美里町立東児玉小　　関口　典夫　教頭
　　本庄市立北泉小　　金田　佳子　校長
　　深谷市立岡部中　　田野智恵子　教頭
　　久喜市立久喜東小　　染谷　和美　校長

⑽　生活科・総合的な学習の時間研究会
　授業研究会　上里町立上里中　　12月14日㈬
　授業者　上里町立上里中教諭　畠山梅太郎　他７名
　　教諭　小島　憲悟　他１名
　指導者　共栄大学教育学部教授　　若手三喜雄　氏

⑾　外国語活動・英語教育研究会
　①　授業研究会 美里町立大沢小　　12月８日㈭
　　授業者　美里町立大沢小　　長島　弘樹　教諭
　　指導者　北部教育事務所　川田　博樹　指導主事
　②　埼玉県英語教員研究発表会　　８月４日㈭
　　発表者　上里町立上里北中　石川　ゆきの　教諭

⑿　道徳教育研究会
　講演会　美里町ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ　　７月28日㈭
　演題　「『特別な教科　道徳』の実施に向けた道徳教育の推進」
　講師　北部教育事務所　　中原　　裕　指導主事

⒀　特別活動教育研究会
　①　総会・講演会　　７月29日㈮
　　講師　東松山市立青鳥小　　内田　恵子　教諭
　②　授業研究会・上里町立上里北中　　９月28日㈬
　　授業者　上里町立上里北中　　松浦　達也　教諭
　　指導者　熊谷市立久下小　　島村　明義　校長
　　・上里町立上里東小　　11月18日㈮
　　授業者　上里町立上里東小　　手計　達也　教諭
　　指導者　県立総合教育センター

吉田　　栄　指導主事

⒁　生徒指導教育研究会
講演会　本庄市児玉文化会館　　８月25日㈭
講　師　埼玉県警察本部サイバー犯罪対策課
野田　翔子　氏
演　題　「インターネットセキュリティー」
～サイバー犯罪の被害に遇わないために～

⒂　教育相談教育研究会
講演会　深谷市立教育研究所　　７月29日㈮
講　師　開善塾教育相談研究所顧問
金沢　純三　氏
演　題　「長期欠席児童生徒への支援の方法」
講　師　　大塚　敬子　氏　　栗原　秀人　氏

⒃　進路指導・キャリア教育研究会
①　授業研究会 上里町立賀美小　　11月24日㈭
授業者　上里町立賀美小　　角田　沙羅耶　教諭
指導者　北部教育事務所　林　　孝安　指導主事
②　授業研究会 本庄市立本庄東中　　１月27日㈮
授業者　本庄東中学校２学年教諭
指導者　北部教育事務所　林　　孝安　指導主事

⒄　学校視聴覚・情報教育研究会
①　パソコン研修会　　８月24日㈬
指導者（株）日本ﾊﾞﾝｶﾞｰﾄﾞｼｽﾃﾑ　山内　淳子　氏
②　授業研究会　本庄市立秋平小　　11月29日㈫
授業者　本庄市立秋平小　　高田　寛道　教諭
指導者　前情報教育研究会会長　渡邉　孝広　氏

⒅　学校図書館教育研究会
①　授業研究会 本庄市立本庄西小　　12月８日㈭
授業者　本庄市立本庄西小　　吉田　育代　教諭
指導者　北部教育事務所　大澤　　聡　指導主事
②　読書感想文集第47号作成

⒆　学校緑化教育研究会
現地研修会　県立児玉白楊高等学校　　10月20日㈭
講師　児玉白楊高校環境ﾃﾞｻﾞｲﾝ科　　中村　直央 氏
研修内容　参加各校の緑化計画の資料の交換
パンジーの鉢上げ

⒇　学校食育研究会
総会・研修会　　６月30日㈭
調理実習研修会　　８月１日㈪
講師　　長谷川典男　氏

㉑　保健主事教育研究会
①　研修会　本庄市立中央小　　８月17日㈬
講師　県立総合教育ｾﾝﾀｰ　芦川　恵美　指導主事
演題　「児童の健康状態と発育の課題について」
②　研修会　深谷市立幡羅小　　10月27日㈭
「望ましい食生活を身につけ　豊かな食生活について　自ら考え実践できる はたらっこの育成」

㉒　養護教諭研究会
①　第２回（夏季）研修会　　７月25日㈪
講師　女子栄養大学准教授　　大沼　久美子　氏
②　第３回研修会及び研修発表会　　12月９日㈮
指導者　北部教育事務所　櫻井　隆夫　指導主事

㉓　学校安全教育研究会
研修会 上里町男女共同参画推進ｾﾝﾀｰ　８月４日㈭
講　師　　本庄市民生活部危機管理課職員　様
演　題「本庄市における地震防災対策及び学校の役割 」

㉔　特別支援教育研究会
①　夏季研修会　本庄市立本庄東中　　８月１日㈪
講師　県立秩父特別支援学校　高橋　浩美　教諭
演題　「音楽で心をつなぐ・育てる」
②　児玉郡本庄市特別支援教育児童生徒作品展
本庄市児玉総合文化会館　11月26日㈯・27日㈰

㉕　学校事務研究会
①　研修会 上里町男女共同参画推進ｾﾝﾀｰ
６月３日㈮
講　師　埼玉県情報システム課担当者
演　題　「マイナンバー入門」について
②　研究発表会 早稲田リサーチパーク　12月２日㈮
「相続税について」　本庄Ｂ班

㉖　人権教育研究会
①　講演会　　８月17日㈬
講　師　NPO法人　ReBit　　中島　潤　氏
②　授業研究会　神川町立丹荘小　　11月18日㈮
授業者　濱田　美呂　教諭　辻村　洋志　教諭
指導者　北部教育事務所　大澤　　聡　指導主事
熊谷市教育委員会・神川町教育委員会

㉗　主幹教諭・教務主任研究会
①　第１回研修会（講演会）　　８月23日㈫
「質の高い仕事をするために」 講師　菊池　豊　氏
②　第２回研修会（研究校視察）　　11月30日㈬
埼玉県教育委員会委嘱道徳教育研究発表会
会 場　神川町立神川中

㉘　学校栄養士研究会
①　食品衛生管理の研修　　６月22日㈬
赤城乳業　本庄千本さくら「５Ｓ」工場
美里町立美里中　衛生管理の研修
②　栄養教諭研究会　　８月５日㈮
本庄上里学校給食センター　指導媒体作成

㉙　環境教育研究会
①　環境教育研究会夏季研修会
本庄早稲田国際リサーチパーク　　７月29日㈮
講　師　　山本　　昇　氏
演　題　地球温暖化防止について

㉚　国際理解教育研究会
研修会　上里町男女共同参画推進センター
８月23日㈫
講　師　北部教育事務所　川田　博樹　指導主事
演　題　「国際理解の効果的な進め方」
内　容　国際理解教育の実践、等

10　寄居町教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、寄居町立小学校６校、中学校３校の教職員180名を会員として、31の教科等研究部を組織する教育研究団体である。本会は、当町の教育施策に基づき「教育課程研究推進のため、会員相互の研修を充実する。」「児童生徒の学力向上と健全育成のため、小・中学校連携強化と各種事業の推進に努める。」を基本方針に掲げている。

Ⅱ　本教育研究会の組織及び主な活動

各部会とも、参与である校長の指導の下、研究部長を中心に研修計画を立案し、研究実践を重ねている。各部の研究協議会では、授業研究会、実技研修会、発表会や展覧会等の企画・運営、事業所等の視察研修、町教委委嘱による研究発表、隣接する深谷市教育研究会との合同（一斉）授業研究会の実施を主な活動として取り組んでいる。

Ⅲ　各部の研究課題と活動

1　国語

「日常生活や社会生活で活用できる言語能力を身に付けさせるために言語活動を通して指導事項を指導する。」

◇文集作品編集（７月）　◇研究協議会（２月）

2　書写

「日常生活で活用できる書写能力を身に付けさせるために、書写活動をとおして指導事項を指導する。」

◇実技研修会（５月・11月）◇硬筆審査会（６月）

◇書きぞめ展覧会（１月）

3　社会

「社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能の確実な定着と、それを活用して考える授業の展開に努める。」

◇研究協議会（８月、１月）

4　算数・数学

「数学的活動の充実を図り、その楽しさや数学のよさを実感し、考察・判断・表現に活用しようとする態度を育てる。」

◇教育研究会発表会（11月）◇研究協議会（２月）

5　理科

「基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、主体的、協働的に学ぶ授業の展開に努める。」

◇科学展準備会（８月）　◇科学展（９月）

◇研究協議会（１月）

6　生活

「児童の思いや願いを生かし、気付きの質を高める授業を展開する。」

◇研究協議会（２月）

7　音楽

「指導のねらいや手立てを明確にし、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取って、思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって鑑賞したりするという一連の過程を重視した学習指導を工夫する。」

◇研究協議会（８月、10月、１月）

◇町小中学校音楽会（10月）

◇地区音楽会事前研究会（10月）

8　図工・美術

「創造活動の中で学び合い、喜びを味わわせる中で、図工・美術を愛好する心情を育てる授業の工夫」

◇研究協議会（10、12月）◇町内美術展（11月）

9　保健体育

「学習規律を確立し、運動の特性や魅力を味わわせるよう指導内容を明確にし、その確実な定着を図り、体力と運動技能を向上させる。」

◇研究協議会（６月、９月）◇親善運動会（10月）

10　技術・家庭（中学校）

「習得した基礎的・基本的な知識及び技術を生活で活用する力の育成を図る。」

◇研究協議会（６月、２月）

11　家庭（小学校）

「習得した基礎的・基本的な知識及び技能を生活で活用する力の育成を図る。」

◇研究協議会（６月、７月）◇実技研修会（８月）

12　外国語活動・英語

「実践的なコミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫　～アクティブ・ラーニングを通して～」

◇小中連携事業　①中学校公開授業（５月）

②小学校への出前授業（１月）

◇研究協議会（６月、２月）

◇英語弁論大会（８月、９月）

13　保健

「児童生徒の生活習慣及び心身の健康状態についてア

ンケートをもとに課題解決方法を検討し、その対策を考える。」

◇研究協議会（６月、７月、２月）

◇授業研究会（10月）

14　道徳

「教科化を踏まえて道徳的諸価値についての理解を基に、自己の生き方について考えを深める道徳の時間の着実な実践と充実を図る。」

◇研究協議会（８月、１月）◇授業研究会（10月）

15　特別活動

「特別活動の目標及び各活動・学校行事の目標を理解し、創意工夫を生かした特色ある指導と評価の計画を作成、活用し、改善を図る。」

◇研究協議会（11月、２月）

16　総合的な学習の時間

「各学校の創意工夫を生かした探究的な学習活動の研究」

◇研究協議会（６月、１月）

17　人権教育

「人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする児童・生徒を育成する。」

◇人権作文編集　◇町委嘱研究発表会（11月）

◇研究協議会（２月）

18　環境教育

「環境教育に対する理解を深め、環境に主体的に関わる態度、資質、能力の育成」

◇研究協議会（２月）

19　進路指導・キャリア教育

「児童生徒理解に基づく進路指導・キャリア教育の推進」

◇研究協議会（８月、１月）　◇講義（８月）

20　食育

「食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、給食の時間を通して、自らの健康管理ができる資質や能力と豊かな人間性をはぐくむ基礎を培う。」

◇献立作成会議　　◇「食育の日」啓発活動

21　図書

「学校図書館を活用した学習の充実と情報活用能力の育成」

◇研究協議会（６月、３月）

◇読書感想文審査（９月）

22　情報

「情報活用能力の育成を図り、発達の段階に応じた情報を正しく理解させ、身に付けさせることができるような学習活動の充実」

◇ＰＣ研修会（８月）　◇研究協議会（１月）

23　生徒指導

「心豊かな児童生徒の育成を目指す。」

◇連絡協議会

24　教育相談

「小中連携を推進し、一人一人の児童・生徒のより望ましい成長と自己実現の支援を図る。」

◇研究協議会（６月、１月）◇夏季研修会（７月）

25　特別支援教育

「発達障害を含む障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援の充実」

◇研究協議会（５月、３月）　◇視察研修（８月）

◇合同学習会（６月、11月、２月）

26　安全教育

「安全学習でねらいに応じた体験的、課題解決的な学習を取り入れるなど指導法の工夫改善をする。」

◇研究協議会（６月、１月）

27　事務

「教育委員会と連携した共同実施による学校事務の効率化」

◇研究協議会（７月、８月、１月）

28　保健主事

「学校保健の組織的な推進を図る。」

◇救急救命講習会（７月）　◇研究協議会（１月）

29　教務

「小中学校９ヶ年の学びと育ちの連続性を重視した教育を推進するために、各中学校区における研修会、交流会の企画運営を充実させる。」

◇企画運営委員会（５回）　◇研究協議会（１月）

30　教頭

「学校運営を活性化させるための教職員への指導
～「若手教員」の育成と教頭の役割～」

◇研究協議会
（５月、６月、７月、８月、１月、２月）

31　校長

「真の学ぶ力をはぐくむ小中連携教育の推進」

◇研究協議会（８月、10月、12月）

Ⅳ　おわりに

本研究会では、隔年で「教育講演会」を開催しており、平成29年度は該当年度となる。教職員の資質向上を目指した有意義な研修の場となっている。

11　羽生市教育委員会

Ⅰ　本年度の基本方針と重点

本研究会は羽生市内の小学校11校、中学校３校からなり、約290名の会員で組織されている。

1　基本方針

⑴　社会の変化への対応とその要請に応えるため、羽生市教育研究会研究部の主体的・積極的な活動を通し、羽生市学校教育の充実と質的向上を図る。

⑵　学習指導要領と埼玉県教育行政重点施策及び羽生市教育行政重点施策を踏まえて、関係機関及び団体との連携を密にし、創造力と豊かな心・たくましさと健やかな身体を培う羽生の教育を進め、市民の付託に応える。

⑶　羽生市教育委員会との連携活動を十分に図り、教育に関する諸課題の解決に向けて教育活動を進め、研究実践の効果を高める。

2　活動の重点

⑴　ファイブエス（５Ｓ）「賢明な判断（Sagacity）、迅速（Swift）、誠実（Sincerity）、奉仕（Service）、微笑み（Smile）」をキーワードとして、「創造力と豊かな心・たくましさと健やかな身体を培う羽生の教育」を推進し、たくましく生きる力を育む教育活動に取り組む。

⑵　「羽生市教育委員会学力向上重点７」の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的な内容の確実な定着と一人一人を大切にした教育活動を推進する。

⑶　市民の付託に応え、信頼される教育課程の編成と評価に向けて、教育活動を組織的・継続的に行い、資質の向上を図る。

Ⅱ　本年度の主な事業

1　国語　「日常生活に必要な言語能力を高める指導と評価の工夫」

○主任研究協議会（８月）

2　書写　「文学への関心を高め、正しく美しく書く能力を身に付ける指導の工夫」

○硬筆実技研修・硬筆展（６月）

○書きぞめ実技研修（11月）・書きぞめ展（１月）

3　社会　「学ぶ力を育てる社会科学習～児童生徒の主体的な学習を促す社会科学習のあり方」

○現地研修会（８月）

○授業研究会（１月）

4　算数・数学　「算数・数学的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」

○主任研究協議会（８月）

5　理科　「学習環境を整備し、観察・実験等を充実して、自然を主体的に調べる授業の工夫改善」

○実技研修会（８月）

○主任研究協議会（９月）・科学展（10月）

6　生活　「気付きの質を高める学習指導と評価の工夫」

○主任研究協議会（７月）

7　音楽　「音楽性を育てる指導法の研究『一人一人が生き生きと表現しようとする音楽指導法の工夫』」

○主任研究協議会・音楽会（10月）

8　図工・美術　「つくりだす喜びを味わわせる指導と評価、及び学習環境の充実」

○主任研究協議会（８、９、12月）

○美術展（１月）

9　体育　「運動の楽しさや喜びを味わわせ、体力・運動技能を高める授業の実践」

○陸上記録会（６月）

○伝達講習会（６、８月）

○授業研究会（11月）

○主任研究協議会（２月）

10　保健体育　「運動の特性や魅力にふれる楽しさや喜びを味わわせ、体力と運動の技能を高める授業を実践する。健康・安全に関する内容を科学的に理解させる授業を展開する」

○陸上競技会（５月）

○授業研究会（10月）

11　家庭　「新しい時代を切り拓く豊かな心と実践力を育てる家庭科教育」

○主任研究協議会（７、８月）

○授業研究会（１月）

12　技術・家庭　「実践的・体験的な活動を通して、これからの生活との『かかわり』を重視した技術・家庭科の推進」

○主任研究協議会（７月）

13　外国語・外国語活動　「コミュニケーション能力の素地・基礎を育成する授業の工夫」
○主任研究協議会（４月）
14　道徳　「教科化を踏まえて、自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の着実な実践と充実」
○主任研究協議会（８月）
○授業研究会（１月）
15　特別活動　「特別活動の全体及び内容の目標を理解し、創意工夫を生かした特色ある指導と評価」
○主任研究協議会（８月）
16　人権教育　「人権意識を高める教育実践の研究」
○主任研究協議会（８月）
17　生徒指導　「規範意識の向上と生きがいのある学校生活の実現」
○生徒指導委員会（５、６、10、２月）
18　進路指導・キャリア教育　「児童・生徒一人一人の将来の夢や希望実現達成のため、自校の進路指導・キャリア教育の現状を具体的に把握し、小・中学校の望ましい連携を図る」
○主任研究協議会（２月）
19　学校図書館　「学校図書館を活用した授業の充実」
○主任研究協議会（９月）
20　視聴覚・情報教育　「情報教育を推進するために、教員のＩＣＴの活用方法に関する理解の深化と能力の向上を図る」
○授業研究会（11月）
21　学校保健　「心身共に健康で安全な生活を主体的に実践できる児童・生徒の育成をめざして－学校や家庭の実践に即した指導計画の作成と組織的な推進。保護者や関係機関等と連携した保健教育・保健管理の推進－」
○主任研究協議会（７月）
22　学校安全　「安全な日常生活を営むとともに，日常生活に潜む様々な危機に気づき，的確な判断のもとに安全に行動できる実践力を高める」
○主任研究協議会（８月）
23　学校食育　「給食活動を通して食についての関心を高めるとともに、望ましい人間関係の育成を図る」
○主任研究協議会（４、２月）
24　学校養護　「児童生徒の安心・安全な健康教育を目指して～健康診断改訂に伴う効果的な運用～」
○主任研究協議会（８、２月）
○講演会（１月）
25　特別支援教育　「一人一人の個性を伸長する指導の充実」
○合同学習会（６、10、２月）
○主任研究協議会（１月）
26　学校事務　「育児短時間勤務制度等、今後増加するであろう事例について理解を深めるとともに、県費事務における事務処理能力の向上に努める」
○主任研究協議会（７月）
○実務研修会（８月）
27　教育心理相談　「通常の学級における特別な支援を要する児童生徒の理解と対応の研究」
○主任研究協議会（８月）
28　国際理解教育　「日本及び諸外国の伝統や文化への理解を深めさせる」
○主任研究協議会（７月）
29　環境教育　「気づき、考え、実行する環境教育」
○主任研究協議会（８月）
30　総合的な学習の時間　「地域や学校、児童生徒の実態に合わせて、創意工夫を生かした授業の実践」
○主任研究協議会（８、１月）
31　教務主任　「魅力ある教育課程の編成」
○主任研究協議会（６、１月）
32　学年学級経営　「生き生きとした子どもを育てる学年・学級経営のあり方」
○主任研究協議会（８月）
33　教育講演会（７月）
○講師：国士舘大学教授　　北　　俊夫　先生
○演題：「学習指導要領の改訂とアクティブ・ラーニングによる授業改善」

12　吉川市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、吉川市内の小中学校11校、27の教科等研究部会をもって組織する。

Ⅱ　活動概要

各研究部会は、部会ごとに研究テーマを設定し、授業研究会や講演会等を通して、指導力の向上を目指している。

1　国語科部会
テーマ：伝え合う力を高める指導法の工夫
①授業研究会　中曽根小　11月18日㈮
授業者　中曽根小　黒川　駿　教諭
指導者　出羽小　主幹教諭　渡辺　健司　氏

2　書写部会
テーマ：正しい字形を身に付けさせる
①硬筆展覧会地区審査会　中央中　６月15日㈬
②書きぞめ実技研修会　北谷小　11月11日㈮
③書きぞめ展審査会　三輪野江小　１月18日㈬
指導者　中村　愛子　氏　稲見　修央　氏

3　社会科部会
テーマ：児童生徒が主体的に取り組む指導法の工夫
①授業研究会
授業者　南中　板井　孝司　教諭
指導者　深谷市立藤沢中　校長　山口　勝　氏

4　算数・数学科部会
テーマ：わかる算数・数学の指導
教材・教具や指導法の工夫
①講演会　栄小　10月13日㈭
演題　「わかる算数・数学の指導
教材・教具や指導法の工夫」
講師　三郷市立北中　大塚　正樹　校長
②授業研究会　関小　11月30日㈬
授業者　関小　沼口　裕美　教諭

5　理科部会
テーマ：児童生徒が意欲的に取り組む指導法・
評価の工夫
①授業研究会　吉川小　６月28日㈫
授業者　吉川小　荒川　修平　教諭
②科学展地区展　おあしす　９月27㈫・28日㈬

6　生活科部会
テーマ：子どもが生き生きと活動し、意欲的に
取り組む指導法や評価の工夫
①実践報告会　栄小　１月24日㈫

7　音楽科部会
テーマ：児童生徒が主体的に生き生きと
活動する授業の展開
①指導法研修会　吉川小　８月８日㈪
指導内容　「児童生徒が主体的に生き生きと
活動する授業の展開」
指導者　日本音楽教育学会　熱田　庫康　氏
②小・中音楽会　中央公民館　11月８日㈫
指導者　作曲家　橋本　祥路　氏

8　図工・美術科部会
テーマ：豊かな発想で自分の思いを生き生きと
表現できる授業の工夫
①実技研修会　吉川市立東中　８月１日㈪
指導者　年度教室クレーアート秋櫻
関　由紀　氏
②授業研究会　美南小　11月24日㈭
授業者　美南小　石田　ひかり　教諭
指導者　越谷市立大沢北小
校長　伊藤　貴重　氏
③児童・生徒美術展　１月31日㈫～２月２日㈭

9　技術・家庭科部会
テーマ：児童・生徒のよい点や可能性を生かし、学
習指導を推進するための学習環境の充実
①発明創意くふう展打合会　東中　６月29日㈬
②技術科教材研究及び製作
家庭科指導案検討会　中央中　８月２日㈫
③発明創意くふう展地区展　栄小　９月13日㈫

10　保健・体育科部会
テーマ：運動の特性を味わわせ、運動の技能を
高める指導と授業の実践
①小学校陸上競技大会　関小　10月19日㈬
②小学校授業研究会　栄小　11月17日㈭
授業者　栄小　松岡　伸悟　教諭
指導者　埼玉県教育局県立学校部保健体育科
指導主事　大松　武晴　氏

11　外国語科部会
テーマ：小中連携を意識した英語教育
①授業研究会　東中　７月13日㈬
授業者　東中　鈴木　香織　教諭
②英語弁論大会　中央公民館　９月６日㈫
指導者吉川美南高校　教諭　伊藤　美帆子　氏

③授業研究会　中曽根小　12月２日㈮
授業者　中曽根小　伊古田佐枝子　教諭

12　道徳部会
テーマ：人間としての生き方を身に付け、
実践できる児童生徒の育成
①資料分析会　関小　10月５日㈬
②授業研究会　関小　11月10日㈭
授業者　関小　伊藤　さゆり　教諭
指導者　宮田　三代子　氏

13　特別活動部会
テーマ：児童生徒に自主的実践的な態度の育成と
図る指導と評価の工夫
①授業研究会　関小　２月８日㈬
授業者　関小　宮島　明日香　教諭
指導者　中曽根小　教諭　鈴木　弘明　氏

14　総合的な学習の時間部会
テーマ：小中連携のもとにすすめる総合学習の工夫
と改善
①研究協議会　三輪野江小　２月８日㈬
指導者　栄小　教頭　小林　勝治　氏

15　特別支援教育部会
テーマ：社会的自立をめざす支援のあり方
①研修会　美南小　８月４日㈭
講師　中曽根小　松井　宏公　教諭
②市内合同学習発表会　おあしす　12月８日㈭
③授業研究会　南中　１月24日㈫
授業者　南中　石川　大樹　教諭
④実践報告・研究協議会・研究紀要作成
美南小　２月22日㈬

16　教育相談・教育心理部会
テーマ：児童生徒がかかえる悩みや不安などを
解消するための教育実践
①講演会　東部地区研修会　越谷市中央市民会館
８月10日㈬
演題　「発達障害の子は増えているの？」
講師　子育て科学アクシス　藤原　一夫　氏
②教育相談事例研修会　関小　11月16日㈬

17　視聴覚部会
テーマ：視聴覚機器の効果的な活用法について
①授業研究会　南中　１月31日㈫

18　学校図書館部会
テーマ：親しみやすく、学習に役立つ
学校図書館の運営
①情報交換会　おあしす　７月25日㈪
②読書感想文審査会　吉川小　９月30日㈮

19　生徒指導部会
テーマ：問題行動への対応の仕方
①講演会　中央公民館　１月25日㈬
演題　「保護観察所における
少年の取扱について」
講師　さいたま保護観察所　保護観察官
佐藤　紀幸　氏

20　進路指導・キャリア教育部会
テーマ：目的意識を高める系統的・継続的指導
①授業研究会　三郷市立彦糸中　11月２日㈬
指導者　三郷市立前川中　教頭　名取　敬　氏

21　学校安全部会
テーマ：安全に行動しようとする実践力の育成
①講演会・情報交換会　美南小　11月29日㈫
演題　「風水害、地震災害時の備えや心構え」
講師　吉川市役所　市民安全課

22　食育・学校給食部会
テーマ：豊かな心と身体づくりを目指した食育・
学校給食
①研究協議会　関小　６月22日㈬

23　人権教育部会
テーマ：人権教育の共通理解を深め、
実践していくための職員研修のあり方
①講演会　中央公民館　８月８日㈪
演題　「児童虐待の実際と対応」
講師　越谷児童相談所草加支所
支所長　山田　真理子　氏

24　養護部会
テーマ：効果的な保健室経営
研究協議　「効果的な保健室経営」
①研修会　市役所　７月５日㈫
②研修会　市役所　10月18日㈫
③研修会　中央公民館　２月７日㈫

25　学校事務部会
テーマ：学校事務職員の資質の向上を目指して
①研修会　市役所　８月４日㈭

26　保健主事部会
テーマ：学校保健に関する企画・運営のしかた
①研究協議会　南中　２月15日㈬

27　教務部会
テーマ：創意工夫を生かした教育課程の編成
・実施・評価
①研修会・情報交換会　中央公民館　７月５日㈫
②研修会「学力向上」　中央公民館　10月４日㈫
指導者　関小　校長　黒沢　孝行　氏

13　松伏町教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、松伏町小学校３校、中学校２校の教職員144名を会員として組織された教育研究団体であり、26の教科等研究部をもって組織している。

Ⅱ　組織及び活動の概要

各教科等において各校の校長・教頭を顧問とし、指導・助言のもとに研修計画を立て取り組んでいる。

内容としては、主任研修会・教材研究会・授業研究会などが行われている。

Ⅲ　本年度の主な事業

1　各研究部の主な活動

⑴　国語

「豊かな表現力を身に付け、主体的に読み取ることができる児童生徒の育成」

○今年度の研究・活動概要

10月20日㈭　授業研究会　　金杉小

⑵　書写

「日常に生かせる書写教育」

○今年度の研究・活動概要

６月９日㈭　硬筆審査会

10月20日㈭　書きぞめ実技研修会

１月19日㈭　書きぞめ審査会

松二小

⑶　社会

「児童生徒が主体的に取り組む授業の工夫」

○今年度の研究・活動概要

９月23日㈮　授業研究会　　松伏中

10月21日㈮　授業研究会　　松二小

⑷　算数

「学ぶ喜びを味わえる授業の工夫」

○今年度の研究・活動概要

６月29日㈬　授業研究会　　金杉小

⑸　理科

「児童生徒が発展的に取り組み、研究する理科教育の展開」

○今年度の研究・活動概要

９月20日㈫・21日㈬

科学展　　松伏小

⑹　生活

「学びと育ちの連続性を意識した学習の工夫」

○今年度の研究・活動概要

12月７日㈬　研究協議会　　金杉小

埼葛生活科授業研究会に参加し、生活科の学習活動とその評価の仕方について研修した。また、生活科の学習活動に理解を深めるため、評価の方法の掲載された事例集の購入を各校で進めている。

⑺　音楽

「表現力を高め、音楽の楽しさや活動の喜びを味わえるような学習指導の工夫」

○今年度の研究・活動概要

10月28日㈮　町内音楽会　　中央公民館

２月８日㈬　授業研究会　　金杉小

⑻　図工・美術

「子どもの思いやよさが生きる授業の創造」

○今年度の研究・活動概要

７月８日㈮　授業研究会　　松伏小

・作品制作の支援の仕方や留意点について見識を深める。

⑼　家庭・技術

「個に応じた指導と評価を工夫し、制作品の完成度を発達段階に応じて向上させる」

○今年度の研究・活動概要

７月８日㈮　研究協議会　　金杉小

９月20日㈫　発明創意くふう展　　金杉小

⑽　保健体育

「授業規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく体育授業の実践」

○今年度の研究・活動概要

11月17日㈭　授業研究会　　松伏中

⑾　外国語活動・英語研究部

「基礎・基本の徹底を図り、実践的コミュニケーション能力を育成するための授業の工夫」

○今年度の研究・活動概要

２月　研究協議会　　松二中

⑿　道徳

「道徳的実践力を高める指導法の工夫」

○今年度の研究・活動概要

県及び埼葛の研究協議会や研修会に参加し、道徳的実践力を育む指導法を研究する。また、道徳の教科化に向けての指導法や道徳教育の充実化について研究した。

⒀　総合的な学習の時間

「小中の連続性と創意工夫を意識した学習活動を目指して」

○今年度の研究・活動概要

８月５日㈮　資料交換会　　金杉小

⒁　特別活動

「自主性・自発性を伸ばす特別活動のあり方」

○今年度の研究・活動概要
４月22日㈮　授業研究会　　松伏小
６月21日㈫　授業研究会　　松伏小
12月１日㈭　研究発表会　　松伏小

⒂　生徒指導
「小中の連携を密にした生徒指導の実践」
・吉川警察署管内学校警察連絡協議会並びに小中連絡会を実施した。
・第１回　　５月25日㈬
・第２回　　11月17日㈭
・第３回　　２月14日㈫

⒃　視聴覚・情報
「視聴覚機器・コンピュータの効果的な活用」
○今年度の研究・活動概要
２月　情報交換会　　松二中
各校での授業の実際を交流する。

⒄　特別支援教育
「社会的自立に向けての指導、基本的生活習慣を身に付ける」
○今年度の研究・活動概要
10月18日㈫　小中合同なかよし遠足
２月９日㈭　小中交流なかよし交流会
松伏小

⒅　学校図書
「読書に親しむ児童生徒の育成」
○今年度の研究・活動概要
８月30日㈫　研究協議会　　金杉小
10月４日㈫　読書感想文コンクール町審査会
金杉小

⒆　進路・キャリア教育指導
「生き方を考える進路指導の充実」
○今年度の研究・活動概要
・進路指導主事研究協議会、県公立高等学校入学者選抜実施要項説明会他、各協議会に参加する。

⒇　学校給食
「楽しく充実した給食活動の工夫をしよう」
○今年度の研究・活動概要
２ヶ月に１回の献立部会、月１回の物資選定部会など、給食センターと学校現場が連携を図り、よりよい学校給食のあり方を検討する。

㉑　保健主事
「学校保健の円滑な進め方」
○今年度の研究･活動概要
11月29日㈫　保健主事・学校保健合同研修会「食物アレルギー」　　松伏中

㉒　学校事務
「町費臨時職員の給与服務に関する事例研修」
○「松伏町職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例・規則」「松伏町非常勤職員取扱要綱」「松伏町職員倫理規定」など根拠法令に立ち返った研修を行う。

㉓　安全教育
「安全意識を高める安全教育」
○今年度の研究・活動概要
３月　情報交換会　　金杉小
各校で避難訓練を学期に１回以上実施し、避難時の動きなどを児童生徒に伝える。

㉔　学校保健
「養護教諭の専門性を活かした危機管理への関わり」
○今年度の研究・活動概要
６月15日㈬　研究協議会　　松二中
２月14日㈫　研究協議会　　松二中
・自然災害や、事件事故、様々な危機に備えて、養護教諭としての専門性を活かしてどのような関わり方ができるかを探る研究とした。

㉕　教育心理・教育相談
「校内教育相談活動の充実を目指して」
○今年度の研究・活動概要
埼葛教育心理・教育相談研究会主催の「カウンセリング・ワークショップ研修会」に参加。県研究会集録・埼葛研究集録を各校に配布。研修成果や研究集録を各学校の教育相談等に活用した。

㉖　人権教育
「思いやりの心を持ち、相手の立場に立って行動できる児童生徒の育成」
○今年度の研究・活動概要
・人権作文、人権標語の取組
・小中学校人権教育担当者会　　（６月）
・埼葛郡市教職員合同現地研修会　（７月）
・埼葛人権を考える集いに参加　　（10月）
・松伏町人権教育指導者養成講座８回

２　小中連携（夏季合同研修会）の取組
８月24日㈬　13時45分～16時10分
会場　　松伏小学校

⑴　講演会
指導者 埼玉県教育局市町村支援部義務教育課
指導主事　　下妻　淳志　氏

⑵　研究協議会
○松伏中学校区分科会
○松伏第二中学校区分科会
○テーマ　・学力向上プランについて
・松伏スタンダードについて

14　白岡市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、白岡市立小・中学校10校の教職員で組織する27の専門部会をもって活動している。

Ⅱ　活動概要

各専門部会は、授業研究や講演会、各種展覧会や大会等をとおして、指導力の向上に取り組んでいる。

1　国語教育専門部会
研究主題「伝え合う力を高めるための指導法の工夫」
集中授業参観　大山小学校　11月２日㈬

2　書写教育専門部会
研究主題「文字意識を高め、豊かな表現力を育てる書写教育」
①市内硬筆審査会　白岡市立西小学校　６月17日㈮
②実技研修会　白岡市立西小学校　10月26日㈬
指導者　本橋　恒夫　先生
③研究協議会　白岡市立西小学校　12月１日㈭
④白岡市立児童生徒書きぞめ展覧会
白岡市立西小学校　1月20日㈮、23日㈪

3　社会科教育専門部会
研究主題「児童生徒の主体的な学びに生かす指導と評価のあり方」
授業研究会　白岡市立白岡東小学校　２月10日㈮
授業者　白岡市立白岡東小学校　恩田　拓　教諭
指導者　白岡市教育委員会指導主事
中村　則裕　氏

4　算数・数学教育専門部会
研究主題「学ぶことの楽しさと充実感のある算数・数学指導の工夫」
授業研究会　白岡市立南小学校　11月30日㈬
授業者　白岡市立南小学校　安達　季秋　教諭
指導者　白岡市教育委員会指導主事
小林　大輔　氏

5　理科教育専門部会
研究主題「学習環境を整備し、観察、実験を通して自然を主体的に調べる児童生徒の育成」
①白岡市科学教育振興展覧会
白岡市立菁莪小学校　10月１日㈯、２日㈰
②管外視察　埼玉大学附属小学校　10月18日㈫
③授業研究会　白岡市立篠津中学校　11月28日㈪
授業者　白岡市立篠津中学校　木村　弘明　教諭
指導者　白岡市立西小学校長　小川　哲也　先生

6　生活科教育専門部会
研究主題「地域や学校などの実態を生かし、具体的な活動や体験を通して気付きの質を高める授業の工夫」
授業研究会　白岡市立篠津小学校　11月７日㈪
授業者　白岡市立篠津小学校　矢澤　則子　教諭
指導者　春日部市立豊野小学校長
石橋　桂子　先生

7　音楽教育専門部会
研究主題「全ての児童生徒が感性を高め思考判断し、表現する一連の過程を重視した学習活動の工夫」
①授業研究会　白岡市立南小学校　６月29日㈬
授業者　白岡市立南小学校　谷本能理枝　教諭
指導者　熱田　庫康　先生
②管外視察　第58回関東音楽学校教育研究会
所沢市民文化センター　11月11日㈮
③市内小中学校合同音楽会
白岡市立篠津中学校　11月８日㈫
指導者　辻浦　牧人　先生

8　図工・美術教育専門部会
研究主題「一人一人のよさや可能性を引き出し伸ばす授業の創造」
①授業研究会　白岡市立東小学校　10月25日㈫
授業者　白岡市立東小学校　伊藤　淳子　教諭
指導者　宮代町立笠原小学校　仁部　香織　先生
②白岡市児童生徒美術展覧会
白岡市立南小学校　11月26日㈯、27日㈰

9　保健体育専門部会
研究主題「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し思いっきり汗をかく授業の創造」
①小学校陸上競技大会　白岡市総合運動公園
６月２日㈭
②授業研究会　白岡市立西小学校　11月４日㈮
授業者　白岡市立西小学校　長谷川暢彦　教諭
指導者　春日部市立内牧小学校教頭
飯野　正章　先生

10　技術・家庭科教育専門部会
研究主題「基礎的・基本的な知識及び技能を生活で活用する力の育成」
①白岡市小学校発明創意くふう展
白岡市立篠津小学校　９月９日㈮
②白岡・宮代地区中学校発明創意工夫展
白岡市保健福祉総合センター　９月13日㈫
③授業研究会　白岡市立南小学校　11月29日㈫
授業者　白岡市立南小学校　女屋　香織　教諭
指導者　蓮田市立黒浜南小学校教頭
鈴木　美幸　先生

11　英語・外国語活動専門部会
研究主題「コミュニケーション能力を育成する授業

の創造」
①白岡・宮代地区中学生英語弁論大会
宮代町立図書館　９月８日㈭
②授業研究会　白岡市立西小学校　10月18日㈫
授業者　白岡市立西小学校　村社　瑞紀　教諭
指導者　久喜市立東鷲宮小学校長
青木　真一　先生
③授業研究会　白岡市立篠津中学校　11月16日㈬
授業者　白岡市立篠津中学校　小島　哲広　教諭
指導者　宮代町立百間中学校長　篭宮　賢治　先生

12　道徳教育専門部会
研究主題「豊かな心の児童生徒の育成を目指した道徳教育」
①指導案検討会　白岡市立篠津小学校　８月30日㈫
②授業研究会　白岡市立篠津小学校　12月２日㈮
授業者　白岡市立篠津小学校　中村　一枝　教諭
指導者　埼玉県道徳教育研究会顧問
鈴木　賢一　氏

13　総合的な学習の時間専門部会
研究主題「自ら考え、主体的に探求する授業の展開の工夫」
授業研究会　白岡市立大山小学校　１月25日㈬
授業者　白岡市立大山小学校　森田　陽一　教諭
指導者　幸手市教育委員会指導主事
坂本　信之　氏

14　特別活動専門部会
研究主題「よりよい生活や人間関係を築く学習活動」
①交流学習会　白岡市立白岡中学校　10月20日㈭
②授業研究会　白岡市立篠津中学校　11月４日㈮
授業者　白岡市立篠津中学校　比田井　淳　教諭
指導者　白岡市教育委員会指導主事
村松　淳一　氏

15　特別支援教育専門部会
研究主題「一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援を求めて」
①学習交流会　白岡市立南小学校　６月24日㈮
②交流学習会　白岡市立白岡中学校　10月20日㈭
③作品展覧会　白岡市勤労青少年ホーム
１月27日㈮～２月10日㈮
④学習交流会　市保健福祉総合ｾﾝﾀｰ　２月24日㈮

16　教育心理・教育相談専門部会
研究主題「児童生徒が抱える悩みや不安などを解消するために、本人または保護者への支援を通してよりよい人格の形成を図る学校教育相談」
研究協議会　白岡市立白岡東小学校　11月30日㈬

17　視聴覚専門部会
研究主題「視聴覚機器の効果的な活用」
研究協議会　白岡市立篠津小学校　８月30日㈫

18　学校図書館専門部会
研究主題「学校図書館を利用した学習の充実と情報活用能力の育成、計画的な読書指導の推進」
①研究協議会　白岡市立白岡中学校　７月７日㈭
②研究協議会　白岡市立白岡中学校　９月30日㈮

19　生徒指導専門部会
研究主題「児童生徒の生きがいのある学校生活の実現及び地域ぐるみの生徒指導の推進」
研究協議会　白岡市立大山小学校　２月８日㈬

20　進路指導・キャリア教育専門部会
研究主題「児童生徒が自らの生き方を考える進路指導・キャリア教育の充実」
①研究協議会　白岡市立南中学校　10月31日㈪
②研究協議会　白岡市立南小学校　２月14日㈫

21　安全教育専門部会
研究主題「日常生活の中で、安全意識のもてる児童生徒の育成」
研究協議会　白岡市立白岡中学校　１月27日㈮

22　学校食育専門部会
研究主題「望ましい食習慣を身に付け、豊かな心を育む食育の充実」
研究協議会　白岡市立菁莪中学校　１月25日㈬

23　学校保健専門部会
研究主題「健康で安全な生活を実践できる児童生徒の育成」
研究協議会　白岡市立南中学校　12月６日㈫

24　人権教育専門部会
研究主題「心が通い合い、潤いのある人間関係づくりの推進」
授業研究会　白岡市立白岡中学校　11月30日㈬
授業者　白岡市立白岡中学校　髙橋　良輔　教諭
指導者　白岡市教育委員会指導主事
中村　則裕　氏

25　養護教員専門部会
研究主題「健康診断の一部改正へのより良い対応を目指して」
①研究協議会　白岡市立菁莪小学校　６月28日㈫
②研究協議会　白岡市立篠津中学校　８月24日㈬

26　学校事務専門部会
研究主題「共同実施について」

27　主幹教諭・教務主任専門部会
研究主題「円滑な学校運営を図るための主幹教諭・教務主任の役割」

Ⅲ　おわりに

本市教研では、「生きる力」の着実な育成のため、「物事の上達」の普遍的な原則の育成を目的として日々活動している。今後も、より効果的な指導を行うために、仮説・検証・評価・改善という科学的なプロセスを経て、教職員の指導力の向上のために研鑽を積んでいく。

平成 28 年度

研究論文集

＜　入　　選　＞

先行概念に沿った実験結果を相互に説明し合うことが科学概念の形成に及ぼす効果
～第５学年「振り子の運動」の学習を例にして～【理科】
羽生市立須影小学校　教諭　柿沼　宏充…… 126

＜　佳　　作　＞

次期学習指導要領で求められる資質・能力の育成を図る体育科における「アクティブ・ラーニング」の在り方
～児童一人一人の学習内容の確かな習得を図る新教育課程型体育授業～【体育】
坂戸市立入西小学校　教諭　萩原　雄磨…… 132

＜　新人奨励賞　＞

学び合い、高め合いを通して「自己効力感」「自己肯定感」を養う体育授業の工夫
～「集団達成」「協調学習」を活用した児童が主体的に学び合う授業実践～【体育】
越谷市立増林小学校　教諭　八田　正登…… 138

◎　平成29年度　研究論文募集要領…… 144

先行概念に沿った実験結果を相互に説明し合うことが科学概念の形成に及ぼす効果

～第５学年「振り子の運動」の学習を例にして～

羽生市立須影小学校　教諭　柿　沼　宏　充

Ⅰ　問題の所在と研究の目的

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（第83回）の配付資料「科学的思考力の戦略的育成について（2012）」では、これまでの理数教育に関する課題、平成24年度全国学力・学習状況調査で明らかになった課題及び社会と科学技術との関わりに関する我が国全体の課題が挙げられている。これらの課題に共通しているのは、「客観的根拠に基づき多様な視点から考え、判断する力（批判的思考力）の不足」であると述べられている。実際の小学校現場では、実験結果をクラスで共有して思考し、結論を出すという探求の流れが一般的であるが「客観的根拠に基づき多様な視点から考え、判断している」とはいえない実態がある。平成24年度全国学力・学習状況調査の調査結果を基に、国立教育政策研究所教育課程センター（2013）では、**「観察、実験の結果を整理し考察すること」「科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりすること」に課題があると示した。指導改善のポイントとして、個人思考から集団思考を通して、「何と何を比較・関係付けて考えるか」「根拠に妥当性があるか」などの多様な視点を明確に示して自分の考えを省察させることが必要**である。学習したプロセスを振り返りながら追究活動の意味を自分自身で筋道を立てて論述する活動として森田（2004）は説明活動を提唱している。**説明活動**は、理解した学習内容を他者に向かって「説明する」という活動であり、他者に説明することで自身の理解状況をモニタリングするだけでなく、相手に理解されるよう表現の工夫も期待できる。しかし、**一般の授業は同一視点で観察・実験を行っている**ため、視点の異なる他者に対して説明をする機会はほとんどない。

そこで本研究では、**視点をずらした２つの実験をクラスで並行しながら探究させ、相互に説明・検証するという授業方略を考案**した。互いにチェックさせながら確認させていくことで客観的根拠に基づき多様な視点から考え判断する力の育成を図ることができると考えられる。考案した授業方略の効果を検証する。

Ⅱ　研究方法

1　検証方法

本研究で進めた授業モデルは、①～⑥に示す手順で行う。

①本時の課題に対して視点Ａ・Ｂの２つの視点で追究させる。

②それらの異なる実験結果を持ち寄り、説明グループで互いに説明し合い、それぞれの実験結果の信頼性・妥当性をチェックする。

→異なる視点の他者に説明することで自身の理解状況をモニタリングするだけでなく、相手に理解されるよう表現の工夫も期待できる。

③相手の実験を「引き継ぐ」

→しっかりと聞く意識と、相手の仮説に対しての信頼性や妥当性を吟味し合うことができる。

④視点を入れ替えて、責任をもって相手の実験の足りない点やより調べたい点を実験し合う。

→相手から任されているため、責任感が芽生える。

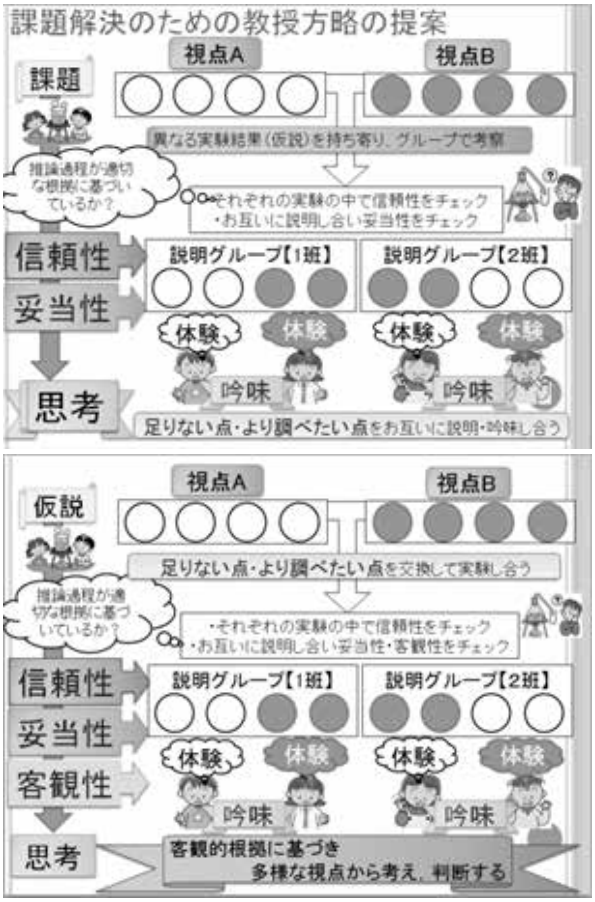


図１　本研究の授業の工夫（改善群）

⑤実験結果について、また説明グループに戻りしっかりと説明する。

→自身の結果は相手が待ち望んでいるもので、相手の結果は自身が待ち望んでいるものとなる。

⑥結果の信頼性や妥当性を吟味し、客観的根拠に基づき、多様な視点で考え、判断しながら結論を導く。

改善群では、上記のモデルを適用した授業（図１）を実施した。

従来群は、平成24年度東京書籍の教科書をもとにした通常の授業を行った。

２　研究対象・実施時期・実施単元

対象は、埼玉県公立Ｓ小学校　第５学年２学級、56名。実施時期は平成28年１月～２月。実施単元は、身近な物理現象「ふりこのはたらき」とした。

３　検証方法

検証方法は以下の項目で行った。

⑴両群の等質性

⑵発話プロトコル分析

⑶単元終了後の概念調査

Ⅲ　研究実践

１　単元計画

第１時　ターザンロープの経験をさせ、身近ではない「振り子」に興味を持たせる。

第２時　振り子の周期を変える条件を予想する。

第３時　自由試行の結果から予想させ、実験の見通しをもつ。

第４時　振り子の「ひもの長さ」を変える実験を行い、周期に関係することをまとめる。

第５・６時　【検証授業】
「おもりの重さ」・「ふりこの振れ幅」が周期に関係ないことをまとめる。

第７時　振り子の周期を変える要因についてまとめる。

第８時　周期が１秒のリズム振り子をつくろう。

第９時　振り子の「特性」を生かしたおもちゃづくり

２　検証授業の概要

改善群には①～⑧に示す指導方法を用いた授業を行った。

①振り子の周期が「ひもの長さ」に関係することを学習後、『「おもりの重さ」や「ふりこの振れ幅」に関係するか』という問題を提起する。

②児童の予想から「実験Ａ:おもりの重さ 50 g 100g」「実験Ｂ：ふりこの振れ幅 20° 30°」の２つの実験をしていく（クラスを２つにわける）。

③実験Ａグループと実験Ｂグループ内でデータを共有し、実験のデータを増やして結果の信頼性をチェックし、考察する。

実験Ａ　「おもりの重さ」を変えても振り子の周期は変わらなかった。

仮設 →「おもりの重さ」は周期に関係ない。

実験Ｂ　「振り子の振れ幅」を変えても振り子の周期は変わらなかった。

仮設 →「振り子の振れ幅」は周期に関係ない。

④それぞれのグループの結論を違う実験をしたグループへ説明する。「その結論が本当に正しいのだろうか？」という視点でお互いの考察の妥当性をチェックする。

実験Ａ…「振り子の振れ幅 20° 30°」確認＋ 40°

実験Ｂ…「おもりの重さ 50g　100g」確認＋ 150g

⑤明らかになった課題を班を入れ替えて検証する。

⑥実験Ａグループと実験Ｂグループ内でデータを共有し、実験のデータを増やして結果の信頼性をチェックし、考察する。

⑦それぞれのグループの結果を違う実験をしたグループへ説明する【相互説明活動】

⑧得られた結果を基に総合考察を行う。

なお、従来群は実験Ａ「おもりの重さ」をクラス一斉に実験を１時間で行い、まとめ･考察させた。実験Ｂ「振り子の振れ幅」についても同様に１時間で行い、まとめ･考察させた。それ以外の条件は、すべて同じである。

３　調査

⑴　両群の等質性調査

検証授業の前に両群の知識に関する学力の等質性調査を実施した。問題は、平成17年度埼玉県小・中学校学習状況調査の問題を参考に作成し、調査を行った。問題（図２）は８問で１問１点の８点満点とした。

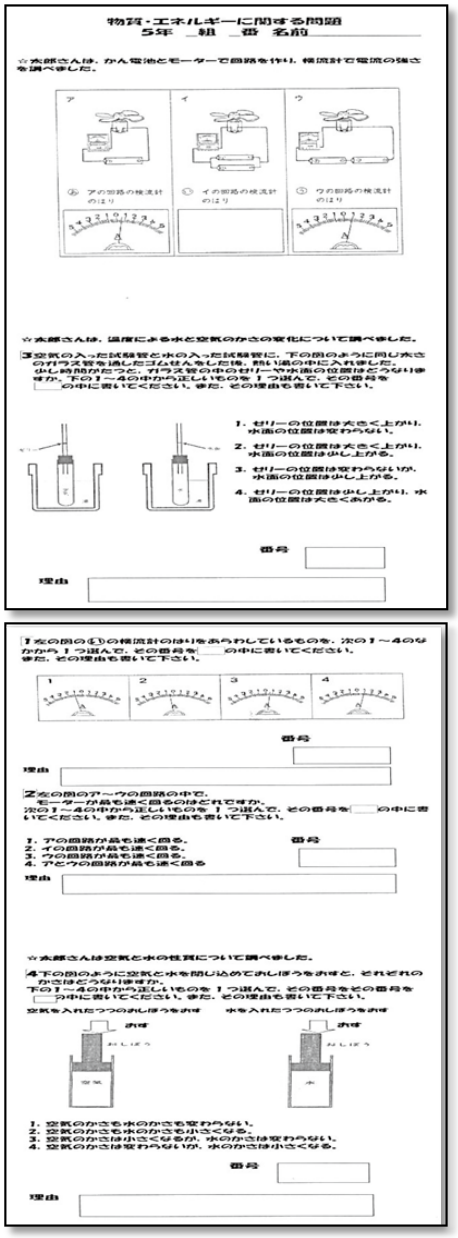


図２　等質性調査の問題

⑵　先行概念調査

５年生全児童に対し、ワークシート（図３）の記述内容を基に、先行概念の調査と自分の考えに対する自信の度合いの調査を行なった。

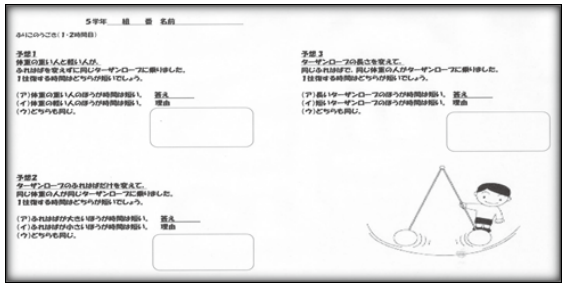


図３　先行概念調査問題

⑶　ワークシートの分析

子どもたちの概念の変容過程を明らかにするため、ワークシートの分析を行った。毎時間実験の後に学ぶべき概念と、その自信の度合いを確認した。

１日後にも、振り子の周期を変える条件について子どもたちの支持する概念の様子についても調査を行った（下図）。

図４　ワークシートによる自信度調査

⑷　検証授業終了後の概念調査

単元終了後には、振り子に関する問題を作成し、児童のもつ概念の調査を行った。問題（図５）は４問。８点満点からなる。

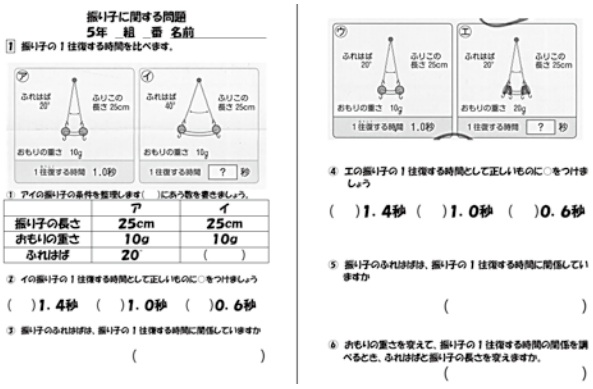


図５　検証授業終了後の概念調査問題

⑸　２ヶ月後調査

単元終了２カ月後に再び、北海道教育委員会が作成したチャレンジテストと、栃木県教育委員会が作成した平成24年版理科問題事例集の中から「振り子の運動」に関する問題を抜粋し児童のもつ概念の調査を行った（図６）。

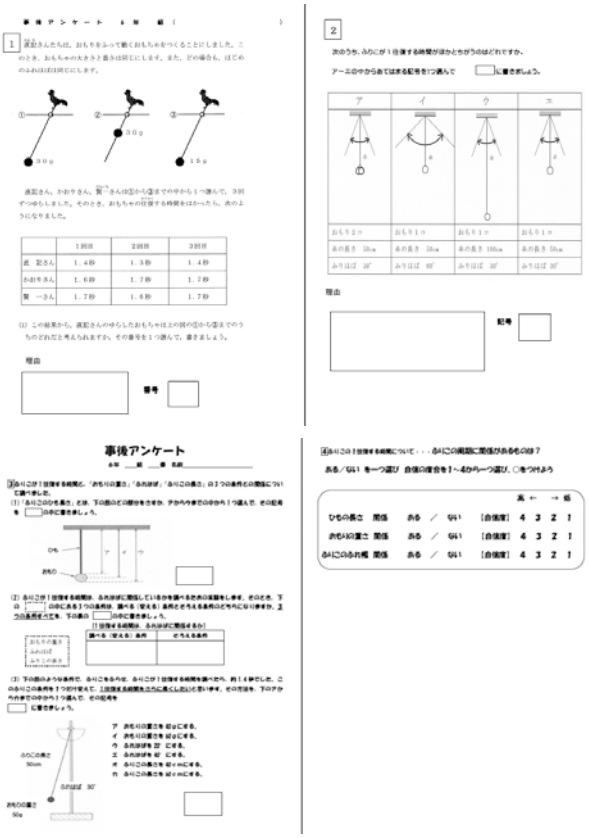


図６　実験結果への判断の客観性を問う問題

Ⅳ　成果

１　等質性調査

Ｆ検定で等分散であることを確認した後､t検定を行ったところ、5％水準で両群に有意差はないことが分かった（両側検定：t（５２）=1.05p=0.91（.10<p））。このことから、この問題に関して両群は等質であるといえる。分析結果の詳細は表１に示す。

表１　等質性調査の分析結果

	従来群	改善群
N	27	27
X	3.96	3.89
SD	6.03	6.33

２　先行概念調査

改善群に対し、検証授業の１時間目にワークシートを用いて先行概念の調査を行った。その際、児童たちは振り子の学習前であったので、振り子の代わりにターザンロープの動き方に関する３つの設問をした。

⑴「重さ」に関する先行概念

「体重の重い人と軽い人が、ふれはばを変えずに同じターザンロープに乗りました。１往復する時間はどちらが短いでしょう。」という設問をし、選択肢として表２の中にある（ア）～（ウ）を示し､選択させた。調査結果を表２にまとめる。

表２　重さに関する児童の先行概念

選択肢	従来群	改善群
（ア）体重の重い人のほうが時間は短い	11 人 (41%)	14 人 (52%)
（イ）体重の軽い人のほうが時間は短い	9 人 (33%)	10 人 (37%)
（ウ）どちらも同じ	7 人 (26%)	3 人 (11%)

正答を選択した児童は両群合わせてわずか 10 名しかいない。よって約８割の児童はおもりの重さに関して間違った先行概念をもっていると考えられる。

⑵「振れ幅」に関する先行概念

「ターザンロープの振れ幅だけを変えて、同じ体重の人が同じターザンロープに乗りました。１往復する時間はどちらが短いでしょう。」という設問をし、選択肢として表３の（ア）～（ウ）を示し、選ばせた。調査結果を表３にまとめる。

表３　振れ幅に関する児童の先行概念

選択肢	従来群	改善群
（ア）ふれはばが大きいほうが時間は短い	5 人 (19%)	11 人 (41%)
（イ）ふれはばが小さいほうが時間は短い	20 人 (74%)	12 人 (44%)
（ウ）どちらも同じ	2 人 (7%)	4 人 (15%)

正答を選択した児童は両群合わせてわずか６名しかいない。よって約９割の児童は、振れ幅に関して間違った先行概念をもっていると考えられる。

⑶「長さ」に関する先行概念

「ターザンロープの長さを変えて、同じふれはばで、同じ体重の人がターザンロープに乗りました。１往復する時間はどちらが短いでしょう。」という設問をし、選択肢として表４の中にある（ア）～（ウ）を示し、選択させた。調査結果を表４にまとめる。

表４　長さに関する児童の先行概念

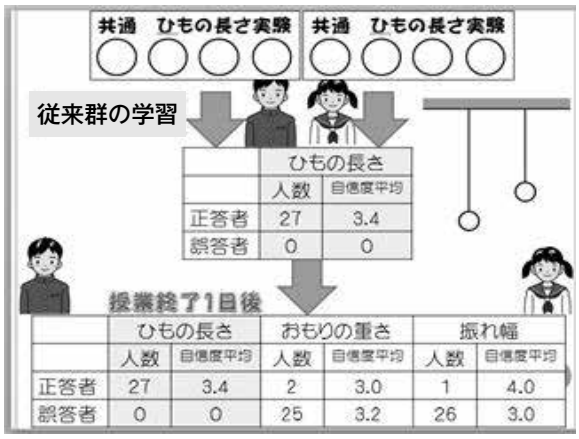
選択肢	従来群	改善群
（ア）長いターザンロープのほうが時間は短い	3 人 (11%)	1 人 (4%)
（イ）短いターザンロープのほうが時間は短い	24 人 (89%)	20 人 (74%)
（ウ）どちらも同じ	0 人 (0%)	6 人 (22%)

正答を選択した児童は約８割の４４名。この結果から、ひもの長さに関して間違った先行概念を持っている児童は約２割であることがわかった。

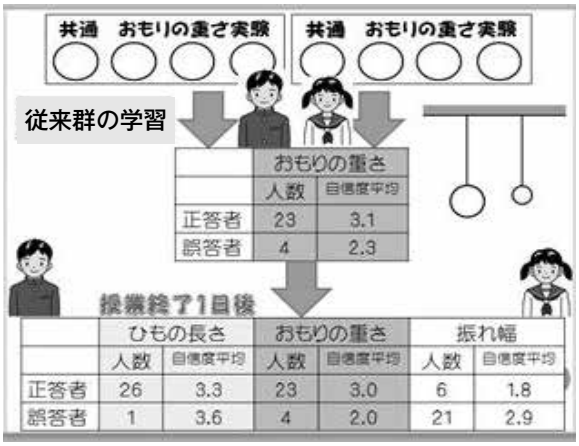
３　ワークシートの分析

毎時間実験の後や１日後に、学ぶべき【概念】と、その【自信の度合い】を確認した。結果は次のようになった。

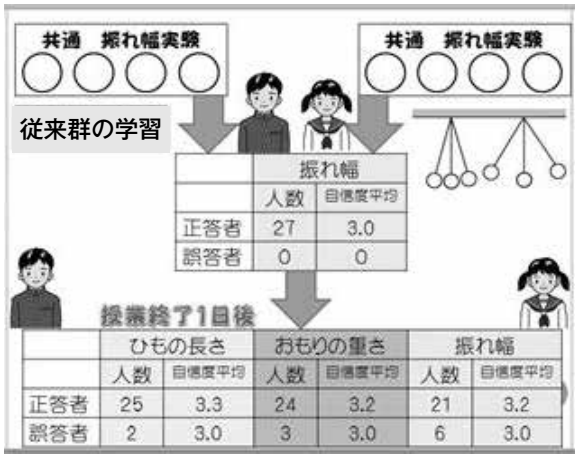
【従来群】



実験後の調査では、全員がひもの長さが周期に関係すると選択した。自信度も平均３．４と高くなっている。1日後に調査した結果からも、ひもの長さに関しては自信度が高い数値でキープされている。その他の視点は、まだ実験していないので誤答が多くなっている。



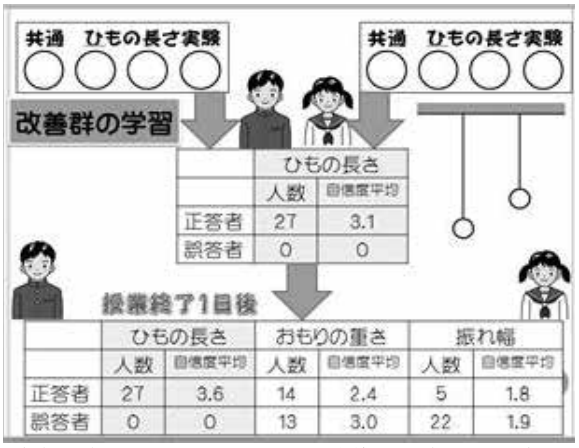
おもりの重さに関して、実験後の調査では、おもりの重さが周期に関係しないと選択した児童が 23 人。4 名は、自信度は低いが１日後も根強く先行概念を支持している。



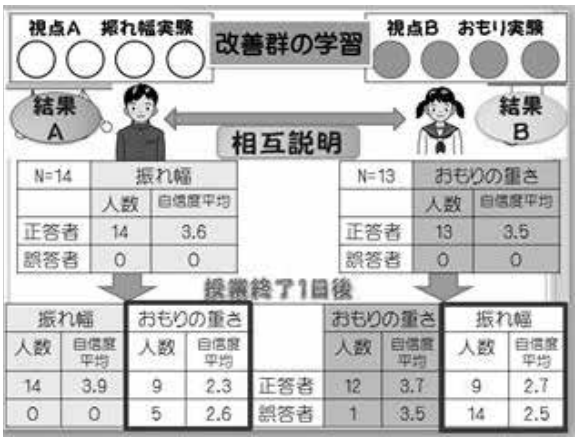
振れ幅に関して、実験後の調査では、全員振れ幅が周期に関係しないと選択した。しかし、１日後には６名は再び先行概念を支持していることが明らかになった。自信度も高くなってしまっている。

写真１　改善群実験の様子

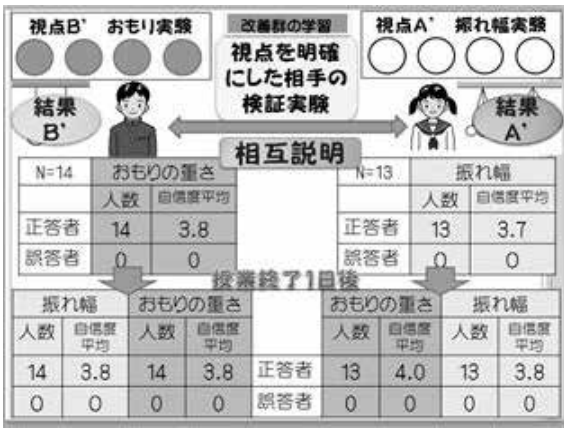
【改善群】



全体で行ったひもの長さの実験後の調査では、全員がひもの長さが周期に関係すると選択した。学習直後の自信度も平均３．１と高くなっている。１日後に調査した結果も平均３．６と、長さに関しては自信度が高い数値で保持されている。

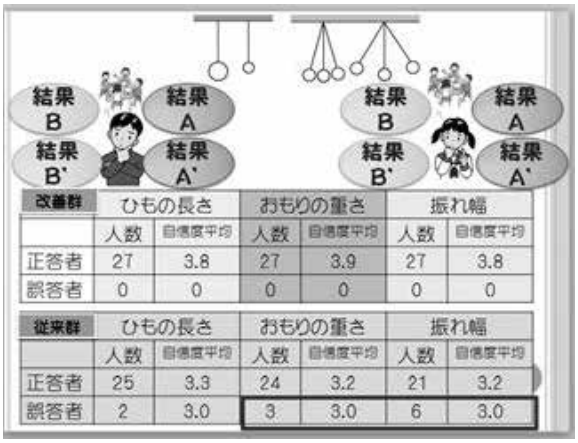


相互説明した結果、それぞれの実験視点については全員正答することができた。互いの視点の説明を受け、概念に揺らぎが見えはじめていることが自信度の低さからも読み取れる。しかし、まだまだ互いに視点については納得していない。



お互いに相手の視点の検証実験を行い、相互説明をした結果、全員自信をもって正答することができた。１日後の調査でも高い自信度を維持することができている。

写真２　相互説明時の様子



授業終了後のクラス全体の概念定着の様子と自信度を比較すると従来群では、再び先行概念を支持してしまっている児童がいるのに対し、改善群では自信をもって正答（科学概念）を支持していることがわかる。

４　検証授業終了後の概念調査

授業後に「振り子」に関する４問８点満点からなる質問紙調査を行った結果を表５に示す。

表５　検証授業終了後の概念調査結果

	改善群 (N=28)	従来群 (N=27)
被験者数 (人)	27	27
平均点 (点)	8.41	8.48
標準偏差	0.64	1.49

Ｆ検定により両群が等分散であることを確認後、ｔ検定を行った結果､両群に有意な差がみられた（両側検定: t(52)=0.26p=0.79（p ＞ .05））。この問題に関しては優位な差は見られない。

⑸　検証授業終了２ヶ月後の概念調査

授業終了２ヶ月後に「振り子」に関する４問８点満点からなる質問紙調査を行った結果を表６に示す。

表６　検証授業終了２ヶ月後の概念調査結果

	改善群 (N=28)	従来群 (N=27)
被験者数 (人)	27	27
平均点 (点)	8.78	7.07
標準偏差	5.18	6.99

Ｆ検定により両群が等分散であることを確認後、ｔ検定を行った結果､両群に有意な差がみられた（両側検定: t(52)=2.54 p=0.01 (p ＜ .05)）。この問題に関しては優位な差が見られた。

表７　単元終了２ヶ月後の『改善群』クラス全体の概念定着の様子

	ひもの長さ		おもりの重さ		振れ幅	
	人数	自信度平均	人数	自信度平均	人数	自信度平均
正答者	27	3.5	24	3.2	26	3.4
誤答者	0	0	3	2.0	1	3.0

表８　単元終了２ヶ月後の『従来群』クラス全体の概念定着の様子

	ひもの長さ		おもりの重さ		振れ幅	
	人数	自信度平均	人数	自信度平均	人数	自信度平均
正答者	27	3.4	19	3.5	19	3.4
誤答者	0	0	8	2.8	8	3.0

単元終了２ヶ月後のクラス全体の概念定着の様子と自信度を比較すると、従来群では再び先行概念を支持してしまっている子がいるのに比べ、改善群では自信を持って正答（科学概念）を支持している事がわかる。

※この後従来群には、誤答状況について説明し、再度科学概念について指導を行った。

Ⅴ　考察

本研究の結果から以下のことが考えられる。

検証授業（質問紙調査､ワークシートによる記述の分析）より、変数の異なる複数の実験をクラスで並行しながら探究させ、相互に説明させながら互いの実験結果を検証していくことで、先行概念の誤りを認識し、科学概念へと修正することができる。また、**再構成された科学概念は２カ月後も保持される。**

Ⅵ　研究を終えて

本研究より「複数の視点をクラスで並行しながら探究させ、相互に説明させながら検証していく指導」の有効性が示された。この**『子供の思考を活性化させることで主体的・必然的に生じる有効な対話を通して、深い学びへと誘う指導』**は、**理科だけではなく他教科にも応用可能**である。未来を生きる子供たちの資質･能力を育成し、生き抜く力を身に付けさせるため、今後本実践が教育現場へ普及できるよう、今後も研究を重ねる決意である。

Ⅶ　引用・参考文献

国立教育政策研究所 教育課程研究センター：理科の学習指導の改善・充実に向けた調査分析について【小学校】,2013

文部科学省（平成 24 年）:「科学的思考力の戦略的育成について」『中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（第 83 回）の配付資料』p. 1

文部科学省（平成 28 年）:「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめのポイント』

文部科学省（平成 28 年）:「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ　補足資料（１）（２）（３）』

Osborne,R.,& Freyberg,P.：Learning in Science,Heinemann,heinemann.1985 = 森本信也･堀哲夫［訳］(1988)『子ども達はいかに科学理論を構成するかー理科の学習論ー』 東洋館出版社

湯澤正道:『認知心理学から理科学習への提言』,pp.23-40, 北大路書房 ,1998

West & Pines：Cognitive Structure and Conceptual Change, 1985= 進藤公夫 [監訳] (1994)『認知構造と概念転換』東洋館出版社

White ：Learning in science,Basil Blackwell,1988= 堀哲夫・森本信也 [訳] (1990)『子ども達は理科をいかに学習し，教師はいかに教えるかー認知的アプローチによる授業論ー』，東洋館出版社

次期学習指導要領で求められる資質・能力の育成を図る体育科における「アクティブ・ラーニング」の在り方

～児童一人一人の学習内容の確かな習得を図る新教育課程型体育授業～

坂戸市立入西小学校　教諭　萩　原　雄　麿

Ⅰ　はじめに

平成26年11月に学習指導要領（以下、要領）の改訂に向け、文部科学大臣から中央教育審議会[1]（以下、中教審）に対して「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」として諮問文が出された。ここでは、これからの変化の激しい社会では、一人一人の可能性をより一層伸ばし、新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を確実に育むことを目指し、未来に向けての要領等の改善や学習の質的転換を図る必要性が示されている。

これを受けて、中教審の教育課程企画特別部会[2]の論点整理（平成27年8月）では、育成すべき資質・能力を①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」③「どのような社会・世界と関わり、よりより人生を送るか（学びに向かう力や人間性）」とし、それらを育むための具体的な改善の方策の１つとして「アクティブ・ラーニング」を挙げている。諮問文では、アクティブ・ラーニングを「課題の発見と解決に向けて主体的・協同的に学ぶ学習」としている。そして、教育課程部会体育･保健体育、健康・安全WG[3]（平成28年１月）からアクティブ・ラーニングの視点①「深い学び」②「対話的な学び」③「主体的な学び」と学びのプロセスが示され、それらを実践することで、体育科の資質・能力である「知識・技能」「思考/判断/表現」「主体的態度」の３つの学習内容を習得させることが求められるようになった。なお、学習内容の３観点は、要領改訂に向けて、新たに示されたものである。

筆者[4]はこれまでの研究において、全学年・全単元における体育授業モデルを開発し、学校全体で児童の学習成果を着実に挙げてきた。しかし、知っていること・できることをどう使うかといった資質・能力を育成するための具体的な指導方法の研究は大きな課題であり、現段階から学習の質的変換を図る重要性を強く感じている。

そこで、先行研究として、資質・能力を育成するための体育科におけるアクティブ・ラーニングの在り方について検討しようと考えた。

本論文では、アクティブ・ラーニングを「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の３つの視点による課題の発見と解決に向けての主体的・協同的な学習とし、体育科で育成すべき資質・能力を教育課程部会体育･保健体育、健康・安全WGで示された①「知識・技能」②「思考/判断/表現」③「主体的態度」の３つの学習内容と定義づけた。

本実践で扱う教材は、高学年の体つくり運動領域に示されている「長なわ跳び」である。平川[5]は、長なわ跳びの有効性を述べ、「運動構造を発見・理解する力や仲間とのかかわり、伝え合う力を身に付けるのにもっとも適した教材である」としている。また、木下[6]は教材価値を「集団的達成感・かかわりの深まり」「実感を伴った理解」「身体能力の向上」と述べている。このことから、長なわ跳びはアクティブ・ラーニングによって、体育科の資質・能力である３つの学習内容の習得に適した教材であると考えた。

本学級の実態は、長なわ跳びの８の字跳びと逆８の字跳びの技能は全員が習得し、「かぶりなわ」と「むかえなわ」に入って跳ぶ基礎的な技能は身に付いている。そこで、本研究では発展技である「ダブルダッチ」を教材として扱い、アクティブ・ラーニングによる学習の質的転換を図ることで、児童一人一人に体育科における学習内容を確実に習得させようと考えた。

そして、次期要領で求められる資質・能力の育成を図るための体育科におけるアクティブ・ラーニングの在り方を実践的な研究を通して検討し、さらには、新教育課程型体育授業について考察することとした。

Ⅱ　研究の仮説

長なわ跳びの「ダブルダッチ」を扱い、アクティブ・ラーニングによる学習の質的転換を図ることで、体育科の資質・能力である３つの学習内容（「知識・技能」「思考/判断/表現」「主体的態度」）を保障できるであろう。

Ⅲ　研究の方法

1　対象

埼玉県坂戸市小学校第６学年の１学級35名を対象とした。また、期日は平成27年11月17日～平成27年12月1日までの６回（３時間扱い）と平成28年３月７日～平成28年３月18日までの６回（3時間扱い）、計12回（全６時

間扱い）の授業をデータの対象とした。

2　データについて

⑴　「技能・知識」の成果について

①単元後に児童35名（男子17名・女子18名）の技能の変容を検証した。

②高橋ら[7]が開発した形成的授業評価票の成果次元「新しい発見」項目（あっ、わかった！とかあっそうか！と思ったことはありましたか）における児童の自己評価から知識の成果を検証した。

③毎時間の振り返り（単元前半）での「コツ」の記述内容から、知識の定着について、検討した。

⑵　「思考 / 判断 / 表現」の成果について

①高橋らが開発した形成的授業評価票の協力次元「協力的学習」項目（友達とお互いに教えたり助けたりしましたか）における各学年の児童の自己評価から「思考/判断/表現」の成果を検討した。

②単元終了後の「教え合い」の記述内容から「思考/判断/表現」の成果を検討した。

⑶　「主体的態度」の成果について

①高橋らが開発した形成的授業評価票の学び方次元「めあてをもった学習」項目（自分のめあてに向かって何回も練習しましたか）における自己評価から「主体的態度」を検証した。

②毎時間の振り返り（単元後半）での児童の「問題意識と課題」についての記述内容から、「主体的態度」について検討した。

Ⅳ　仮説に対する手立て

1　アクティブ・ラーニングを成立させる条件整備

アクティブ・ラーニングによる学習の質的転換を図る設えとして、以下の４点から条件整備を行った。

⑴　アクティブ・ラーニングの視点の明確化

アクティブ・ラーニングを成立させるためには、その視点を明確にすることが重要である。

本研究では、アクティブ・ラーニングの視点を中教審の論点整理から、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の３つとした（表１）。

表１　アクティブ・ラーニングの３つの視点

1　深い学び
→習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学び
2　対話的な学び
→他者との協働や外界との相互作用と通じて、自らの考えを広げる学び
3　主体的な学び
→見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び

⑵　体育科におけるアクティブ・ラーニングの具体化

教育課程部会体育・保健体育、健康・安全WGで示された体育科におけるアクティブ・ラーニングのイメージを整理し、体育科のアクティブ・ラーニングを「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の３点から表2のように具体化した。

表２　体育科におけるアクティブ・ラーニングの具体

1　深い学び
①系統を踏まえた教材による習得・活用・探究の学習
②運動観察による発見学習
③ＩＣＴ活用による発見学習
2　対話的な学び
①子どもの問題意識からの課題設定と解決法の共有
②単元を通した口伴奏による教え合い活動
③話合い活動による課題解決法の検討・試行
3　主体的な学び
①振り返りによる新たな課題設定と目標設定

⑶　モジュールによる単元構成と小集団学習

体育科における「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を視点としたアクティブ・ラーニングを行うために、単元構成を工夫した。

従来の体育科の単元構成は、１時間（45分）に１つの教材に取り組む単独の単元構成が中心である。その場合、６時間扱いの長なわ跳びの授業を単独単元で行うと授業回数は６回となる。６回の授業では、授業回数が少なく、1つの技の技能習得で終わる等、アクティブ・ラーニングを成立させづらいと考える。

そこで、本来の45分を1時間の単位ではなく、20分の時間を単位として取り組むモジュール[8]による単元構成とした（表３）。これは、１つの教材を行う時間を20分程にし、長期的に取り組む単元構成である。

本実践では、長なわ跳び６時間扱いの授業を、モジュールによる単元構成とし、12回の授業計画とした。

モジュールでの単元構成による長期的な取組で、習得・活用・探究といった「深い学び」、教え合いや話合い、課題解決法の共有といった「対話的な学び」、さらには、粘り強い取組や新たな課題設定等の「主体的な学び」が可能となり、アクティブ・ラーニングによって学習内容を保障できると考えた。また、深い学びや対話的な学び、主体的な学びを児童一人一人に保障するためには小集団での学習が必要である。そこで、１人ダブルダッチとダブルダッチ８の字の学習では１グループ４～５人とした。そして、創作ダブルダッチでは、１グループ６人～７人にすることで、より発展した深い学びや対話的な学びを目指した。グループ編成は、縄の操作のしやすさを考え、身長順、男女混合とした。

表３　モジュールによる単元構成（６時間扱い）

	２学期		３学期
時数	１　～　３	４　～　６	７　～　12
20分	１人 ダブルダッチ	ダブルダッチ ８の字	創作 ダブルダッチ
25分	他領域		

※１回20分程度のため、約６時間扱い

⑷　学習過程の工夫

アクティブ・ラーニングを成立させ、児童の学習内容を保障するために、１時間の授業の学習過程を工夫した。従来の学習過程は、「何ができるようになるのか」といった個別の技能の習得に重きを置く傾向があった。そこで、本研究では、教育過程部会で示された学習過程を基に「動機付け→方向付け→内化→外化→批評→統制」を学習の流れとし、多様な授業展開を意図した（表４）。技能だけでなく、「どのように学ぶか」を大切にした学習過程とすることで「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を視点としたアクティブ・ラーニングによる学習の質的転換を図った。

表４　１時間の授業の学習過程

	学習過程	活動内容
1	動機付け	易しい運動への取組（逆８の字跳び）
2	方向付け	目標設定（本時のめあて）
3	内化	運動観察による発見学習 ICT 活用による発見学習 課題設定と解決法の共有
4	外化	口伴奏による教え合い活動 話合いによる課題解決法の検討・試行
5	批評	振り返り（コツ・問題意識の記述）
6	統制	次の課題設定

２　アクティブ・ラーニングの具体的実践

体育科におけるアクティブ・ラーニングを、表２で示した「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の具体から、実践した。

⑴　「深い学び」の実践

習得・活用・探究という学習プロセスの中での、問題発見・解決を念頭に置いた学びを以下の３視点から実践し、学習内容の保障を図った。

①　系統を踏まえた教材による習得・活用・探求の学習

学習内容の習得を図るために、系統性を踏まえた教材を選定した。図４に示した教材は、技能や知識において系統性があり、習得・活用・探究の学習を意図している。そして、「活用」「探究」の学習に必要不可欠である「習得」させるべき基本的な運動ポイントを明確にした（表５）。

具体的な学習の流れは、子どもが１人ダブルダッチで表５の基本的な運動ポイントを「習得」し、ダブルダッチ８の字で「活用」しながら、新しい学習課題「出方」の解決法を考え、共有していく。そして、習得した知識や技能をさらに活用し、友達と新しい技を考え、組み合わせる創作ダブルダッチといった「探究」活動につなげることで、学習内容を保障できるようにした。

【習得】単元前半【活用】単元半ば【探究】単元後半
１人ﾀﾞﾌﾞﾙﾀﾞｯﾁ → ﾀﾞﾌﾞﾙﾀﾞｯﾁ８の字 → 創作ﾀﾞﾌﾞﾙﾀﾞｯﾁ

図４　系統性を踏まえた教材

表５　基本的な運動ポイント

【縄の操作】	①縄の長さを揃える　②腕を大きく回す ③跳ぶ人の足下を見る
【入り方】	①手前の縄が目の前を通ったら入る。
【跳躍】	①真ん中で跳ぶ　②つま先で軽く跳ぶ

②　運動観察による発見学習

１時間の授業の半ば（内化の段階）に、児童の運動モデルを観察させ、運動ポイントを自ら発見させる活動を設定した。基本的に３回観察させ、１回目は、「どこが上手か」等、問題意識をもたせ、２回目は、観察視点を教師が示して運動ポイントを発見させた。３回目は確認として運動観察させた。特に、１人ダブルダッチ（第１～３時）で、運動観察による発見学習を通して「縄の操作」「入り方」「跳躍」についての運動ポイント（表５）の理解と着実な習得を図った。

写真１　運動観察

③　ＩＣＴ活用による発見学習

運動モデルの観察では一瞬であり、角度によって見えづらいポイントである場合や複雑な動きである場合は、ＩＣＴを活用して発見学習を行った（内化の段階）。ダブルダッチ８の字の「出方（どう出るのか）」（第4時）と創作ダブルダッチの「行い方（技をどうつなげるのか）」（第7時）の２点について、映像を繰り返し再生したり、スピードを変えたりしながら、運動ポイントを発見させ、理解と習得を図った。

写真２　ICT 活用

⑵　「対話的な学び」の実践

他者との協働や外界との相互作用と通じた、自らの考えを広げる学びを３視点から実践し、学習内容の習得を図った。

①　子どもの問題意識からの課題設定と解決法の共有

体育授業では、教師が意図した課題を示して解決させたり、授業の効率化から解決させる学習課題の順序も教師が決めたりすることが多い。その場合、子どもにとって、課題解決の必要感が低く、仲間と協働して解

決法を考えたり、自分の考えを広げたりといった学びが生まれづらい。そこで、本研究では、学習課題を単元計画上で並列に考え、学ばせる順序も教師が決めずに柔軟性をもたせた。つまり、子どもが運動に取り組む中で、「思い通りにいかないこと」や「問題だと考えるところ」等を問いかけ、子どもたちの問題意識から課題設定し、解決法を全体で考え、共有できるようにした。

単元前半のダブルダッチ８の字（第５～６時）の学習では、授業の半ば（内化の段階）に困っている内容を教師が問いかけ、多くの子どもたちの問題意識であった、なわの「出方」についての課題を設定し、運動観察を通して解決法を全員で考え、共有した（表６）。１回の観察で解決法が発見できない場合は、教師が見る視点を示して再度観察させたり、問題が教師の想定外の内容であっても、個別指導や必要に応じて全体で取り上げたりして解決した。さらに、出された問題が多岐にわたる場合は、その中から多くの子どもが問題と捉えている共通の問題を取り上げて解決し、共有した。

表６　ダブルダッチ８の字における子どもの問題意識からの課題設定と解決法の共有　※抜粋

問題意識１：なわの「出方」が分からない。 課題設定１：何回跳んで、どのようにでればよいのか。 解決法１：３回跳んでななめに出る。 問題意識２：出るときにひっかかる。 課題設定２：どのように、どこへ出たらよいのか。 解決法２：ジャンプしながら、回す人の近くを抜ける。

また、創作ダブルダッチ（第８時～９時）の学習では、創作活動のため、個々で取り組む技が異なり、つまずきが様々であった。その場合にも、子どもの問題意識に寄り添い、「何に困っているのか」「どうしたいのか」を問いかけ、問題を出させながらグループ毎に課題を設定し、解決法を検討させた。

多くのグループに共通する問題は、１時間の授業の半ばに、解決策を全体で考えて共有したり、創作技を全体で共有したりする場面を設定し、自分の考えを広げる学びを意図した（表７）。

表７　創作ダブルダッチにおける子どもの問題意識からの課題設定と解決法の共有　※抜粋

問題意識１：２人で跳ぶとすぐにひっかかる。 課題設定１：入る順番はどうしたらよいか。 解決法１：速く入れる人が後から入る。 問題意識２：ダブルダッチ二重跳びができない。 課題設定２：なわを回すリズムはどうするか。 解決法２：縄の回すリズムをトトン・トトン 問題意識３：回し手を上手く交代できない。 課題設定３：どのように持ち替えるか。 解決法３：片手ずつ、持ち替える。

②　単元を通した口伴奏による教え合い活動

仲間との協働的な学習を意図し、教え合い活動を充実させた。１人ダブルダッチやダブルダッチ８の字の学習では、全体で考え、共有した解決法や運動ポイントの記述内容から、「入り方」「跳躍」「出方」についてのリズムやタイミングを口伴奏化した。また、創作ダブルダッチでは、自分たちの課題に応じた教え合いの言葉を口伴奏化した（表８）。単元を通して、お互いに口伴奏を伝え合わせながら取り組ませることで、回す人と跳ぶ人の両者が常にポイントを考え、教え合いながら運動できるようにした（外化の段階）。

表８　教え合い言葉の口伴奏

【１人ダブルダッチの口伴奏】 「　入って　ジャンプ　ジャンプ・・・」 【ダブルダッチ８の字の口伴奏】 「　入って　いち　に　でる　・・・」 【創作ダブルダッチの口伴奏　例】 「いち　にの　さんはい　ジャンプ　ジャンプ」

③　話合い活動による課題解決法の検討・試行

創作ダブルダッチの学習（第10～12時）では、グループ毎による相互観察から課題設定をさせ、話合いでの解決法の検討、試行（外化の段階）を繰り返し行わせた（写真３・４）。話合いでは、「新しい技の創り方」「技の組合せ方」「リズム・タイミング」を課題とした解決法の検討がほとんどであった。

解決法の検討でつまずいている場合は教師がグループ毎に解決の視点を示し、最終的には自分たちで考えられるようにした。話合いで運動量が減らないよう留意し、協働的な学びや自分の考えを広げる学びを意図しながら、学習内容の習得を図った。

写真３ 相互観察での課題設定

写真４ 解決法の検討

⑶　「主体的な学び」の実践

見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習を振り返り、次につなげる学びを以下の点から実践した。

①　振り返りによる新たな課題設定と目標設定

毎時間、授業のまとめ（批評の段階）の５分程度で、単元前半は「コツ」を記述させ、単元後半は児童の「問題意識や課題」等を記述させた。運動ポイントや自らの問題を整理することで、新たな課題設定（統制の段階）や目標設定（方向付けの段階）へとつなげた。

Ⅴ　結果と考察

1 「技能」の成果について

単元前後の技能成果は表９のとおりである。１人ダブルダッチとダブルダッチ８の字跳びは、全員が10回以上の跳躍ができた。また、習得した知識や技能を活用して、全員が新しい技や組み合わせ技を創作することができた（図５）。その内容は、「３人で跳ぶ」「２人同時に入る・出る」「回し手が回転」「回し手の交代」「馬跳びをしながら、入る」「跳びながらジャンケン」等である。また、創作ダブルダッチで、共有した２人ダブルダッチとダブルダッチ逆回し跳びを全員が習得し、さらには、全員が縄の操作技能を身に付けた。

表９　ダブルダッチの技能習得の変化

	単元前	単元後
１人ダブルダッチ（10 回以上の跳躍）	28.6%（10/35 人）	100%（35/35 人）
ダブルダッチ８の字（10 回以上の跳躍）	0%（0/35 人）	100%（35/35 人）
２人ダブルダッチ（10 回以上の跳躍）	0%（0/35 人）	100%（35/35 人）
逆回しダブルダッチ（10 回以上の跳躍）	0%（0/35 人）	100%（35/35 人）
創作ダブルダッチ（新しい技･組合せ技）	0%（0/35 人）	100%（35/35 人）
縄の操作	34.3%（12/35 人）	100%（35/35 人）

図５　創作ダブルダッチ（組み合わせの例）

以上の結果から、アクティブ・ラーニングを成立させる条件整備や系統を踏まえた教材による習得・活用・探究学習や運動ポイントの発見学習が「深い学び」として効果的であり、技能向上につながったと考える。

2 「知識」の成果について

⑴ 「新しい発見」の評価結果から

単元終了後に、「新しい発見（あっ、わかった！とかあっそうか！と思ったことはありましたか）」について児童に自己評価させた結果は、表10のとおりである。平均値が2.96で高得点であった。

表 10 「新しい発見」についての評価結果

	新しい発見	評価基準
平均値（sd）	2.96（0.35）	5

⑵ 「コツ」の記述内容から

単元前半の1時間の授業の振り返りで、気が付いた「コツ」を児童に記述させた結果は図６である。記述内容の97.8%は、「運動ポイント」に関わる記述であった。記述内容を分類すると６視点（表11）が抽出され、そのほとんどは、全体で共有したポイントや子どもたちの問題意識に基づいて獲得された知識であった。「その他」の記述は、態度面についての記述であった。

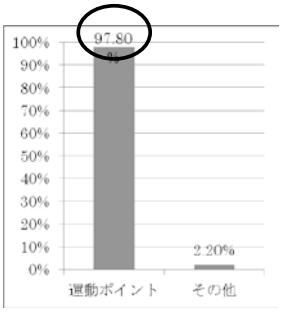


図６　コツの記述内容

表 11　記述内容の分類

分類	割合（記述数）
教え合い	34.9%（16）
縄の操作	19.6%（9）
リズム	17.3%（8）
出方	13.0%（6）
跳躍	8.7%（4）
入り方	4.3%（2）
その他	2.2%（1）

以上の「新しい発見」と「コツの記述」の結果から、多くの児童が運動ポイントを理解し、知識として定着したと考えられる。運動観察やICTの活用を通した発見学習等の「深い学び」が有効であったと考える。

3 「思考 / 判断 / 表現」の成果について

⑴ 「協力的学習」の結果から

単元終了後に「協力的学習（友達とお互いに教えたり助けたりしましたか）」について児童に自己評価させた結果は、表12のとおりである。平均値が2.57と高得点であり、友達と協力し、教え合いながら運動していたことが分かった。

表 12　協力的学習についての評価結果

	協力的学習	評価基準
平均値（sd）	2.57（0.61）	4

⑵ 「教え合い」についての記述内容から

単元終了後、「友達に教えたこと」を記述させ、記述内容を分類した（図７・表13）。教えた内容の全てが運動ポイントであった。その内訳は「縄の操作」35.5%、「跳躍」32.3%、「入り方」32.3%であった。中には「タン・タン・タンというリズムで跳ぶ」等、オノマトペを使って教えていた児童もいた。

このころから、運動ポイントをお互いに具体的に教え合っていたと考える。

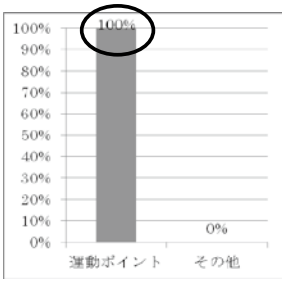


図７ 友達に教えたこと

表 13　記述内容の分類

分類	割合（記述数）
縄の操作	35.5%（22）
跳躍	32.3%（20）
入り方	32.3%（20）

上記の「協力的学習」と「教え合い」の記述内容の結果から、相手にとって必要な運動ポイントを取捨選択（思考・判断）しながら具体的な言葉で教え合っていた（表現）と考える。子どもの問題意識からの課題設定と解決法の共有や口伴奏による教え合い活動、話合い活動による課題設定と解決法の検討・試行が「対話的な学び」として効果的であり、「思考/判断/表現」の力が育ったと考える。

４ 「主体的態度」の成果について

⑴ 「めあてをもった学習」の結果から

単元終了後に、学び方次元「めあてをもった学習（自分のめあてに向かって何回も練習しましたか）」について児童に自己評価させた結果は、表15のとおりである。平均値が2.83と高得点であった。このことから、児童は、自分の目標に向かって学習したと考える。

表 15 「めあてをもった学習」についての評価結果

	めあてをもった学習	評価基準
平均値（sd）	2.83（0.45）	5

⑵ 「問題意識と課題」の記述内容から

単元後半に、１時間の授業の振り返りで、困っていること等の「問題意識」と「課題」について記述させ、技能の低位・中位・高位の児童の具体的な内容を抽出した（表16）。どの段階の児童も、問題意識をしっかりともち、新たな課題を設定していることが分かった。

抽出以外の児童の記述内容は、100％が問題意識に関する内容であった。特に、創作ダブルダッチでは、「リズム」「タイミング」についての問題意識から、新たな課題を設定した児童が多かった。

表 16 児童の問題意識と新たな課題設定※抽出児童

低位：足を上げるタイミングが難しい。
中位：技がなかなか繋がらない。今のぼくは、二重跳びができない。次回はタイミングに気を付ける。
高位：一人ずつ入っていくと簡単だが、２人同時に入っていくタイミングの取り方が難しい。次は、技へのスムーズな繋ぎ方を意識したい。

以上の「めあてをもった学習」と「問題意識と課題の記述」の結果から、自分の問題の整理や新たな課題設定と次時への目標設定、ねばり強い取組へとつながった。このことから、学習の振り返りが「主体的な学び」につながり、「主体的態度」が育ったと考える。

Ⅵ　まとめ

本研究の目的は、長なわ跳びの「ダブルダッチ」を共通課題として扱い、アクティブ・ラーニングによる学習の質的転換を図ることで、児童の体育科における学習内容を保障することであった。

まず、「知識・技能」については、「新しい発見」と「コツの記述内容」「技能の変容」の結果から、知識と技能の成果が得られた。アクティブ・ラーニングを成立させるための条件を整備し、習得・活用・探求を意図した教材や基本的な運動ポイントの明確化、運動観察やICT活用による発見学習等、「深い学び」の実践が効果的で、成果につながったと考える。

また、「思考/判断/表現」は、「協力的学習」と「教え合いの記述内容」の結果から、成果を得られた。これは、子どもの問題意識に基づいた課題解決と共有、口伴奏での教え合いや話し合いによる課題解決法の検討と試行等の「対話的な学び」が有効であったと考える。

さらに、「主体的態度」は、「めあてをもった学習」や「問題意識と課題の記述内容」から成果を得られたと考える。学習の振り返りにより、問題意識の整理や新しい課題と目標設定、粘り強い取組等の「主体的な学び」が実現されたのではないだろうか。

このように、本研究では、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」を視点としたアクティブ・ラーニングによって、学習の質的転換が図られ、全児童の学習内容を保障できることが明らかとなった。

以上のことから、本研究で実践した体育科におけるアクティブ・ラーニングは極めて有効であり、さらには、次期要領で求められている資質・能力を育てる新教育課程型体育授業になり得ると結論づけた。

（参考･引用文献）

1）中央教育審議会（2014）初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）
2）中央教育審議会教育課程特別部会（2015）論点整理
3）中央教育審議会教育課程部会体育・保健、健康・安全WG（2016）体育科･保健体育科におけるアクティブ･ラーニングのイメージ.
4）萩原雄麿（2015）児童の学習成果と体力向上を保障する６年間の系統を踏まえた全学年・全領域における体育授業モデルの開発.埼玉県連合教育研究会.pp.126-131.
5）平川譲（2009）使える授業ベーシック.学事出版.pp71-72
6）木下光正（2009）使える授業ベーシック．学事出版．p．21
7）高橋健夫（2003）体育授業を観察評価する.大修館書店.pp.163-164.
8）文部科学省ホームページhtto://www.mext.go.jp/bmenu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/0791203/001007.htm.

学び合い、高め合いを通して「自己効力感」「自己肯定感」を養う体育授業の工夫

～「集団達成」「協調学習」を活用した児童が主体的に学び合う授業実践～

越谷市立増林小学校　教諭　八　田　正　登

Ⅰ　はじめに

児童生徒の心身共に健康な成長、中学校へのスムーズな接続に向けて本市では全中学校区で小中一貫教育が進められている。本校でも「自己肯定感の高揚」「中１ギャップの減少」「学力向上」を目指し、日々の授業改善に励んでいるところである。

体育科において、児童相互の関わり合い・学び合いの充実は「関心・意欲・態度」、「思考力・判断力・表現力」、「技能」向上に大きく作用する。そこで、体育科の目標である「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎の育成」「健康の保持増進と体力の向上」の具現化に向け、「一人一人の伸びが全体の伸びにつながる集団達成」「みんなの力を結集して課題解決に取り組む協調学習」を生かした学習過程や学習形態を工夫し、児童の豊かな関わり合いを通して、一人一人に「わかる」「できる」喜びを味わわせ、授業の中で成功体験を積み重ねることで「自己肯定感」の高揚を図っていく。

Ⅱ　主題設定の理由

本校では、平成20年度より継続して算数科を中心に「伝え合い、学び合う授業の工夫」の研究に取り組んでいる。また、平成26年度より小中一貫教育の研究指定を受け、「学力向上」、「自己肯定感の高揚」を目標に研修に取り組んでいるところである。

体育科においても小中学校９年間を見通した学習モデルプランを中学校区３校で作成し、系統性を意識した授業づくりに取り組んでいる。しかし、社会で児童の運動の技能、意欲の二極化が懸念されているのと同様に、本校児童においてもその傾向が顕著である。

今年度担任している６年生の児童においても、これまでの運動経験や技能実態から、運動への好意度や運動有能感、取り組む姿勢に大きな個人差が見られた。単学級という実態もあり、児童相互の理解が深い反面、競争力や向上心に欠ける部分も見られた。

また、新学習指導要領では、児童主体の学習活動や言語活動の充実の重要性がさらに高まっている。体育科においても自らの考えをもち、友達と伝え合う中で課題解決に取り組むことは、児童の「運動への関心・意欲・態度」「思考力・判断力・表現力」「技能」をバランスよく向上させることにつながり、これは体育科の目標、小中一貫教育で目指す生徒･児童像と合致するものと考える。

そこで、全ての児童に運動の魅力や特性を味わわせ、体力と運動技能の向上を図るとともに、仲間との肯定的な関わりを通して自己効力感や自己肯定感の醸成を図るべく、本研究主題を設定した。

Ⅲ　研究の仮説と手だて

【仮説】

仲間との豊かな関わり合い､主体的な学びを促す教材、学習過程を工夫し、一人一人の「わかる」「できる」を保障する授業を展開すれば、児童の「自己効力感」「自己肯定感」をはぐくむことができるであろう。

【手だて】

①共に高め合い､肯定的な関わりを生み出す「集団達成」の活用

②共に学び合い、伸び合う喜びを味わう「協調学習」の活用

Ⅳ　研究の実践内容

今年度６年生の体育授業において、本研究主題を基に単元計画を作成し、取り組んだ実践と成果について具体的に述べる。

授業①　体つくり運動（４月　６時間）

「６年生体力向上チャレンジ～体力を高める運動～」

年度当初の単元として、「体つくり運動」は体育学習における学び合いの重要性、仲間との関わり方を身に付けるのに最適な単元と考えた。

＜授業導入の工夫＞

授業の導入で、児童の発達の段階と体力向上の相関図（図１）を提示し、自身の体力向上への意欲と必要性を喚起した。

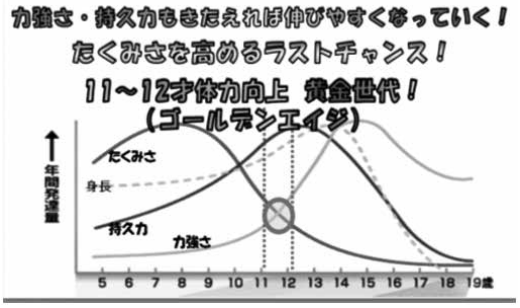


図１　スキャモンの発達曲線を基にした学習資料

また、ジグソー学習の行い方と目的を学習し、一人一人の学びが仲間の支えとなることを確認し、今後の学習への見通しをもたせることができた。

＜学級の課題をみんなで克服～集団達成型柔軟チャレンジ～＞

昨年度の新体力テストの結果、今年度の本校の体力課題から柔軟性（長座体前屈）に焦点を当て、単元を通して帯で柔軟性を測る記録会（写真１）を設定した。左右に置かれた紅白玉に前屈して触れた数を記録として、**学級全員で400個【16個（前屈42ｃｍ：６年生の体力標準値を目安）×25人】**を目標に挑戦させた。正確な動きで精一杯取り組めるよう、ペアの児童が補助、測定を行い、全員で目標達成を目指した。並行して、家庭で「体力貯金カード」（全校共通）に取り組ませることで、年間を通した体力向上に向けた運動習慣づくりにもつながった。

写真１　前屈記録会の様子

＜一人一人の学びを生かす協調学習＞

小学校高学年という発達の段階を考慮し、「巧みな動き」に焦点化し、「ボール運び（俊敏性・瞬発力）」「バランスウォーク（バランス感覚）」「３人なわとび（リズム感）」の３つの運動に取り組ませた。

第２時に、一人一人がそれぞれの運動のエキスパートとなり、運動のポイントや練習法、支援の仕方を見つける時間（エキスパート活動）を設定し、持ち帰った運動知識をグループで共有する時間（３～５時　ジグソー活動）で深めていった。（写真２・３）

写真２　バランスウォークの様子

写真３　ボール運びの様子

また、運動の場ごとに設置した学習掲示板（写真４）には他のグループが見つけたポイントやコツが書かれており、声かけの参考にさせるとともに、グループ内外からのアドバイスが全体の向上につながっていく実感をもてるようにした。

写真４　運動の場の掲示資料

単元を通して男女混合異質３人グループを固定して取り組ませたこと、自分の能力に応じて段階的に挑戦できる場を設定したことで、男女差や運動の技能差を越えて一人一人が必要感をもって主体的に学び、関わり合う姿が見られた。

授業②　走り高跳び（６月　６時間）

「ハチリンピック～走り高跳び選手権～」

事前の調査で技能実態、運動への意欲の差が大きかった「走り高跳び」において、「集団達成型記録会」「グループ学習」を活用し、陸上運動の特性である自身の記録の伸びに挑戦する楽しさを拡張し、仲間とともに伸びる喜びを実感させることをねらいとした。

＜グループ学習の充実＞

練習用具の数や練習効率を考慮し、身長、走力から設定した目標記録（ノモグラム）別でグループを編成し、慣れの運動からパワーアップタイム（課題解決学習）、ハチリンピック（集団達成型記録会）まで同一グループで行った。

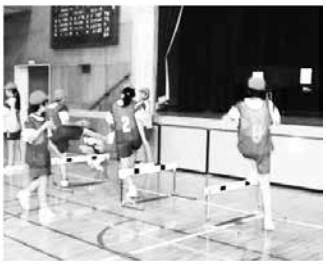


写真５　ハードルを使った慣れの運動

慣れの運動ではハードルや跳び箱、ゴムひも、バスケットゴールなどを使用し、バーを跳びこすための足の運びや助走のリズムなど走り高跳びの技能向上に必要な感覚づくりを行った。（写真５）グループでリズムをそろえたり、運動のポイントを見合ったりすることで正確に楽しく取り組めるようにした。

パワーアップタイムでは、高く跳ぶための運動知識が乏しい児童の実態を踏まえ、毎時間共通課題を設定（図３）し、グループで取り組んだ。ＩＣＴやオノマトペを活用し、それぞれの動きを見合い、伝え合いながら（写真６）練習に取り組ませた。単元を通してリズミカルな助走～踏み切り（振り上げ足）に焦点を絞り、段階的に学習していったこと（表１）で児童の理解度、技能も深まっていった。

図３　共通課題の学習掲示資料

写真６　グループ学習の様子

表１　パワーアップタイム毎時間のめあて

時	めあて	指導ポイント
2	同じ場所で力強く踏み切ろう	踏み切りの場所 振り上げ足
3	最後の３歩でスピードアップしよう	タ・タ・タンのリズム 歩幅の変化
4	リズミカルな助走を身に付けよう	５・７歩助走のリズム スタート位置の決め方
5	自分に合った助走距離、歩数を見つけ、思いきり跳ぼう	自身の課題の把握 練習方法の工夫

＜ハチリンピック～集団達成型記録会～＞

身長、50ｍ走の記録から一人一人の目標記録（ノモグラム）を設定し、目標記録との差から児童の記録を得点化した。**全員で100点越え**（１人４点以上×25人）を目指し、グループ内だけでなく学級全体の高まりを喜び合えるようにした。

図４　走り高跳び得点早見表

また、記録の面でも**全員で25ｍ（2,500cm）**という目標を設定し、好記録でも得点設定の厳しくなりやすい高身長の児童にも光が当たるようにした。

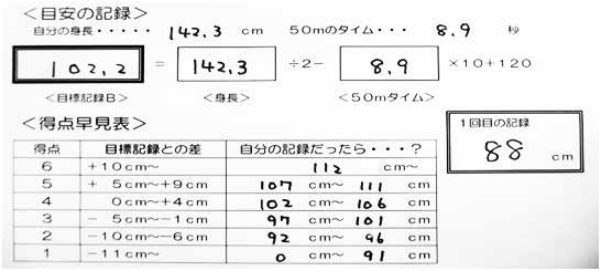


図５　児童の目標記録、得点早見表

授業③　ハードル走（１１月　８時間）

「ハチリンピック～４０ｍハードル走選手権～」

ハードル走は児童の技能差が大きく、難しさや苦手意識をもっている児童が多い上、素材、高さに対する不安感から動きが消極的になる姿も見られる。また、個人種目でストイックに捉えられがちな陸上運動において「集団達成」「協調学習」を用いて学級全員の力を結集して技能向上を目指した。

＜集団達成型タイムトライアル＞

40ｍ走の記録との差で得点化（表２）し、走力にかかわらず、ハードリングの上達により全員が記録の向上を味わえるようにした。一人一人の目標記録（４点）を【40ｍ走の記録＋1.2秒（１台につき0.3秒）】とし、**25人全員で100点**以上（技能実態調査の記録では67点）を目指すことで、自身やグループの記録だけでなく、学級全体の高まりを感じ合い、喜び合えるようにするとともに、自分の頑張りが集団の中で生かされる自己存在感をはぐくんでいけるようにした。

写真7　集団達成型タイムトライアル

表２　ハードル走タイムトライアル得点表

得点	6	5	4	3	2	1
40m走との差	～+0.4	+0.41～+0.80	+0.81～+1.20	+1.21～+1.60	+1.61～+2.00	+2.01～
実態調査時の人数（割合）	０人（0%）	２人（8%）	６人（24%）	５人（20%）	６人（24%）	６人（24%）

＜協調学習を活用した課題解決学習＞

知識構成型ジグソー学習を導入し、児童が主体的にハードリングの技能ポイントを習得し、活用していけるような授業を展開した。（４～５人×６チーム）

「素早くハードルを走り越す」ための局面、運動ポイントを３つに分け、（表３）エキスパート活動（第２時）では、ジグソー学習に向けて、担当した局面について具体的な練習方法や支援、言葉かけについて学んだ。また、家庭学習でその動きについてのイメージを膨らませ、練習方法について自分なりの学習資料を作成させた。（写真８）

表３　エキスパートで学習する３つの局面

	運動ポイント	練習方法・教具
A：第１ハードル振り上げ足	・第１ハードルまでの歩数を決めて走る ・遠くから踏み切り足裏を見せるように伸ばす	・足合わせ ・ハードル上に板目 ・踏み切り距離板
B：インターバルのリズミカルな走り	・「0・1・2・3」のリズム ・「0・1」のリズムアップ	・距離の変更 ・リズム走
C：上体の前傾	・遠くから低く踏み切る ・ディップの姿勢	・ゴムひもをくぐる ・踏み切り位置確認

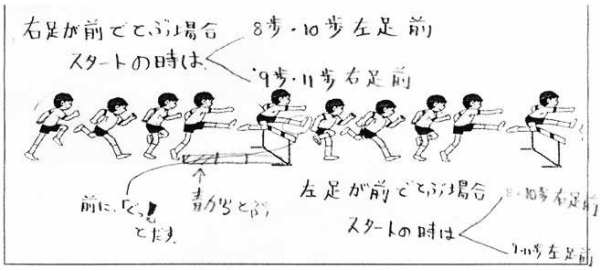


写真８　エキスパート活動（Ａ）で児童の作成した学習資料

ジグソー学習（第３～５時）では、グループの一人一人がその時間のリーダー的な役割となり、本時の共通課題に向けての学習を進めていった。クロストーク（第６・７時）では、

写真9　エキスパート活動~第1ハードル・振り上げ足~

一人一人の課題解決に向けて、これまで習得してきた全員の運動知識や技能を結集して練習に取り組ませ、一人一人の技能のさらなる向上を図った。

写真10　ジグソー学習~上体の前傾~

エキスパート活動で学習したことを一人一人が学習資料にまとめ、学級の掲示資料として共有（写真 11）することで、得手不得手を超えて、一人一人が主体的に学習に取り組み、自信が仲間の役に立つ自己効力感の向上にもつながった。

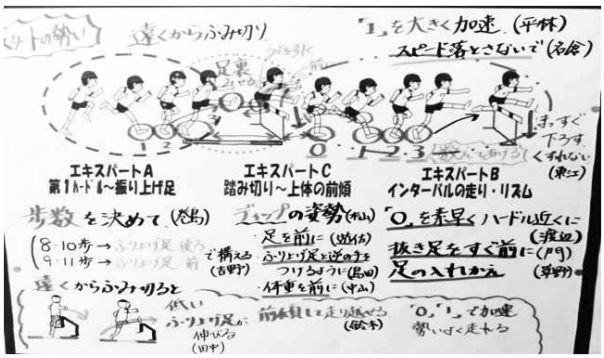


写真11　児童の学びを生かした学習掲示資料

＜ハチリンピック～グループ対抗戦～＞

習得した技能を活用し、仲間と競う楽しさを味わわせる競走をグループ対抗戦方式で実施した。競争相手との持ちタイムの差によってゴール地点をずらすことで、勝敗の不確定さを増し、全ての児童が勝利に向かって全力で競争を楽しめるようにした。

写真 12　ハチリンピックの様子

【ハチリンピック　ルール】
- 1グループごとの対戦方式（4～5人の6チーム編成）
- 40 mハードル走（ハードルの高さ 52 ｃm、台数4台、1台目までのアプローチ距離 12 m）
- スタート、第1ハードルの位置は固定。対戦相手との持ちタイムの差により、ゴール位置をずらす。タイム差 0.２秒ごとに、タイムが遅い方へゴール位置を 50 ｃm ずらす。（最大 250cm）
- インターバルは競技者の申告により設定する。
- 走順は授業開始前に決めておく。（できるだけ同レベル【1秒差程度】での対戦）
- 全員が走り終えた時点で勝者の多いグループの勝ち。

個人対個人の競走をグループ対抗戦にしたことで、グループの仲間を応援したり、練習の場面から一人一人の技能向上に向けて励まし合ったりと肯定的に関わり合い、高め合う姿が多く見られた。単元当初はうまく走り切れず差が付くレースも見られたが、一人一人の技能向上とともにゴール間際まで勝敗が分からない接戦が増え、児童も夢中になって取り組んでいた。

Ⅴ　研究の結果・考察

①学び方、肯定的な関わりの定着

どの領域においてもグループやペアでの活動を多く取り入れ、主体的な学習に取り組んできたことで、児童の学習への取り組む姿勢が大きく変わってきた。ただ漠然と練習に取り組むのでなく、一人一人がめあてをもって友達と関わりながら取り組むことができるようになった。形成的授業評価「学び方」「協力」の項目（３段階評価：３が上位）からも、どの単元でも児童が主体的に活動できていたことが伺える。（図７・８）また、４月当初に比べ、学び方が定着してきたことで、単元当初から高い数値を保つことができるようになったことも大きな変化である。

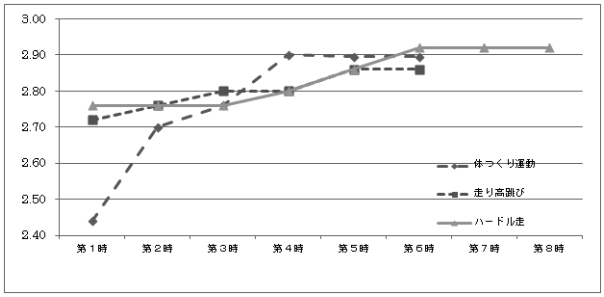


図７　形成的授業評価【学び方】の変容

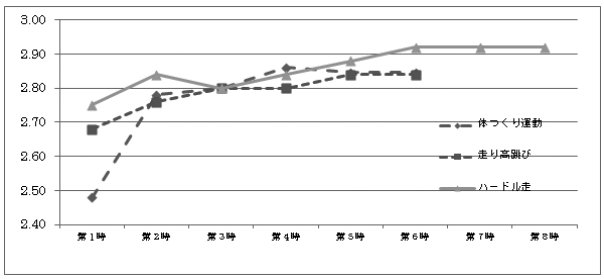


図８　形成的授業評価【協力】の変容

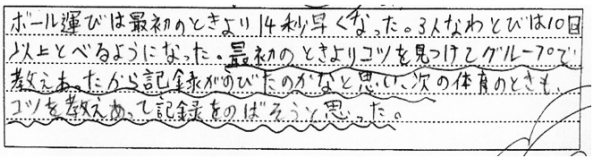
また、診断的、総括的授業評価（４月、11 月実施）においても変容が見られた。「学び方」の項目に関しては「練習を工夫」「めあてをもつ」「友人､先生の励まし」の項目において顕著な伸びが見られた。（表４）

表４　診断的総括的授業評価「まなぶ」の変容

項　目	４月	11 月	伸び
工夫して勉強	2.08	2.32	＋ 0.24
他人を参考	2.44	2.60	＋ 0.16
めあてをもつ	1.84	2.60	＋ 0.76
時間外練習	2.00	2.20	＋ 0.20
友人、先生の励まし	2.36	2.60	＋ 0.24
学び方	10.72	12.32	＋ 1.60
（評定）	（３）	（５）	

これは学習形態や学習過程を工夫したことで、児童相互の肯定的な関わりが深まってきた証と考える。また、

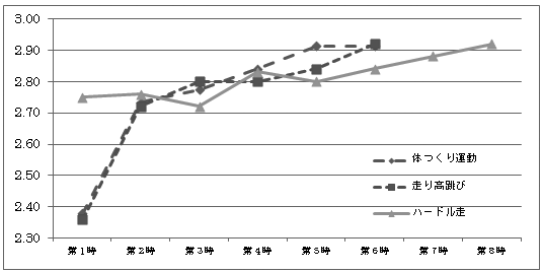
教師が率先して肯定的な声かけを続けたことで児童にも浸透していき、児童の学び合いの質の向上、学習意欲、挑戦意欲の喚起につながっていった。


ボール運びは最初のときより14秒早くなった。3人なわとびは10回以上とべるようになった。最初のときよりコツを見つけてグループで教えあったから記録がのびたのかなと思い、次の体育のときも、コツを教えあって記録をのばそうと思った。

②技能の向上

児童相互の学び合いが活性化したことが、運動技能の向上にも大きく作用した。運動に対する苦手意識、抵抗感を抱える児童の少なくなかった本学級でも、単元が進むにつれて自身の伸びや成長を実感することができるようになり、意欲的に取り組むことができた。

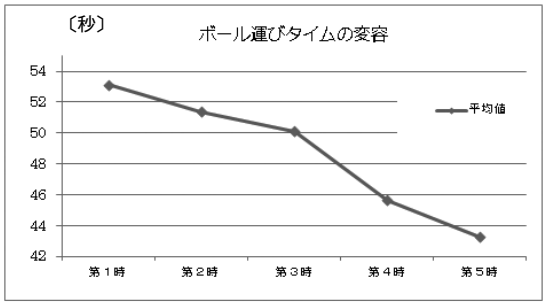
図９　形成的授業評価【成果】の変容

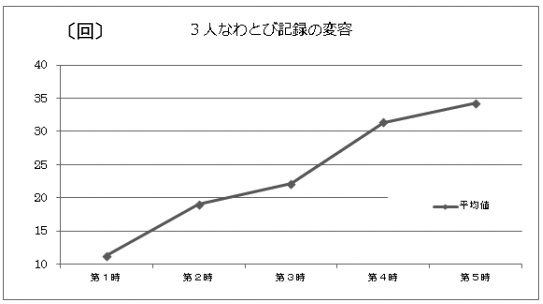


集団達成で挑戦した前屈記録会、走り高跳び、ハードル走では、いずれも目標を達成することができ、集団で目標に向かって挑戦する楽しさ、達成感を味わわせることができた。特に、これまで運動を苦手としていた児童にとっては、自分の頑張りが学級の力になることで大きな満足感を得ることができた。

【体つくり運動　技能の変容】

図 10　体つくり運動　グループ平均記録の変容





ボール運び、３人なわとびのいずれもどのグループも記録を伸ばすことができた。特に、第３～４時のジグソー学習によって記録が大きく向上していることからも、児童同士の学び合いが技能向上に大きく作用していることがわかる。

【走り高跳び　技能の変容】

図 11　ハチリンピック（集団達成記録会）平均記録の変容

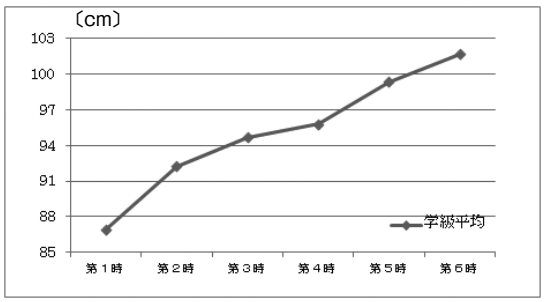


表５　ハチリンピック得点分布の変容

得点	1	2	3	4	5	6
目標記録との差	～-11cm	-10cm ～ -6cm	-5cm ～ -1cm	0 ～ +4cm	+4cm ～ +9cm	+10cm ～
第１時	９人	４人	９人	３人	０人	０人
得　点	56 点					
第６時	２人	２人	４人	６人	７人	４人
得　点	101 点					

第１時の記録と比較して、学級全体で**平均 14 ｃｍ**（87 → 101cm）と大きな伸びが見られた一方で、目標記録（４点）を達成した児童は 68％にとどまった。全ての児童に記録の伸びを実感させることはできたが、目標記録との差が大きい児童も残り、目標記録の設定の仕方に課題が残った。

【ハードル走　技能の変容】

図 12　タイムトライアル（集団達成記録会）平均記録の変容

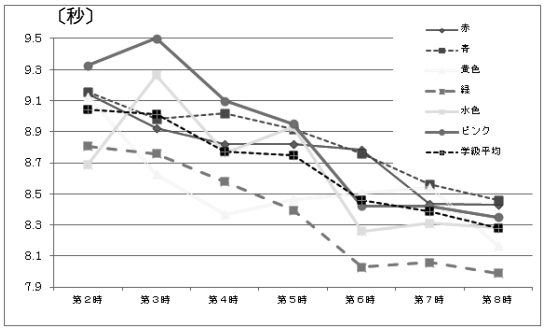
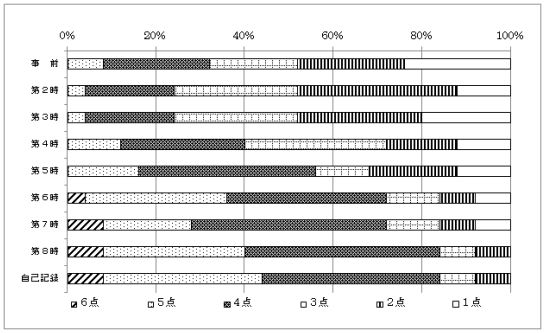


図 13　タイムトライアル得点分布の変容



事前	⇒	第２時	⇒	第８時
9.50（１点）		8.95（２点）		8.20（４点）

写真 14　技能Ｂ児童のハードリングの変容

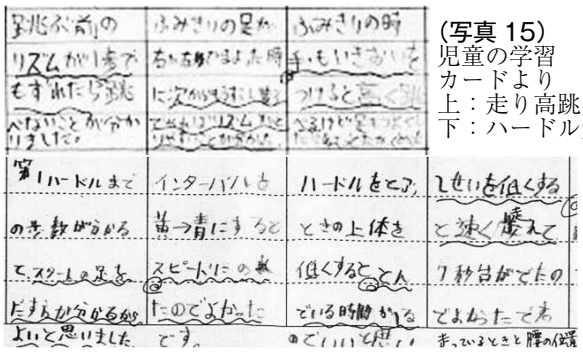
事前調査の記録と比較した学級平均記録の伸びは**0.63 秒**であった。さらに、事前調査で得点の低かった（１～２点）低位の児童（12 名）に限ると、**1.03 秒**とより大きな記録の向上が見られ、これまで苦手としていた児童にとっても「できる」喜びを味わわせることができたといえる。

40 m走の記録とタイム差で設定した得点も事前の **67 点から 101 点（第８時）**と大きく向上し、目標としていた４点以上獲得した児童も 84%となった。

特にエキスパートＡ、Ｂ、Ｃの揃った第６時以降は多くの児童が自己記録を大きく更新し、仲間と学び合ったハードリングの技能向上が記録に大きく作用する実感を得ることができた。

③思考力・判断力・表現力の向上

協調学習を取り入れたことで、児童一人一人がより必要感をもって課題解決に取り組むようになった。自分の学びが友達の学びにつながることで、責任をもって言葉や図でまとめ、伝えようとする姿が見られた。また、同時に自身の理解も深まったことで、めあてを意識して練習に取り組むことができ、「わかる」「できる」楽しさを味わわせる一助となった。**（写真 15）**



（写真 15）
児童の学習カードより
上：走り高跳び
下：ハードル走

特に、これまで運動を苦手としていた児童にとっては、自身の助言や補助によって友達の成長を感じることで、享受する喜びを味わうことができ、学習意欲の向上にも大いに作用した。

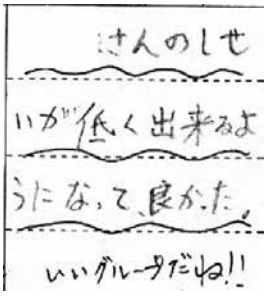


写真16　ハードル走児童の感想より

（写真 16）

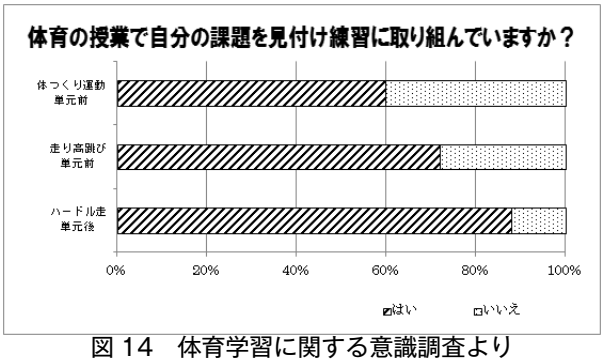


図 14　体育学習に関する意識調査より

体育授業に関する児童への意識調査からも、仲間との学び合いの充実によって、自分自身の課題発見、解決への練習ができるようになったことがわかる。毎時間の学習カードの振り返りにも友達との関わり合いに関する記述、感想が多く見られ、自身の動きに生かそうとする児童が増えた。

④自己肯定感の向上

表６　診断的総括的授業評価「できる」の変容

項　目	４月	１１月	伸び
できる自信	1.80	2.00	＋ 0.20
できるようになる自信	2.08	2.68	＋ 0.60
自発的運動	2.28	2.72	＋ 0.44
授業前の気持ち	2.32	2.70	＋ 0.38
授業での伸び	2.44	2.76	＋ 0.32
できる	10.92	12.86	＋ 1.94

一人一人が自身の目標に向かって、また集団の一員として目標達成に向かって取り組む中で、児童の運動有能感を高めることができた。（表６）これまで運動に自信のなかった児童も仲間との肯定的な関わり合いの中で、受容感を感じながら学習に取り組み、運動の楽しさを味わうことができた。

「集団達成」「協調学習」を生かした学習を通して、苦手意識をもっていた児童にも上達の実感を味わわせ、自信をもたせることができ、体育好きな児童を増やすことができたことが一番の成果と言える。

Ⅵ　おわりに

「自分が友達の役に立つ」自己効力感、「やればできる」という自己肯定感を醸成していくことは、児童の学習意欲、挑戦意欲を掻き立て、夢や目標をもって生きる力の育成につながるものと考える。これからも一人一人が活躍し、「できる」「わかる」喜びを味わえるような体育授業を通して児童の心と体を育てていけるよう、研鑽を積んでいきたい。

平成２９年度　研究論文募集要領

埼玉県連合教育研究会

平成２９年度研究論文を下記の要領で募集いたします。何とぞ奮ってご応募ください。

記

１　目的

日々の教育実践の中から生まれた研究を会員の皆様から募集し、これを広く発表することによって本県教育の振興に資する。

２　募集内容

教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、進路指導・キャリア教育、視聴覚教育、教育心理･教育相談、特別支援教育、学校図書館教育等の児童生徒に直接かかわる実践的教育研究として、どのように計画し、仮説を立て実践し、さらに、その結果をどのように評価し、今後の教育実践にどう発展させるか等の研究であることとします。

３　応募資格

県内の公立小・中学校に勤務する教員の個人及びグループの研究（学校としての研究も含む）であることとします。

４　応募規程

原稿の書式は、Ａ４判縦長・横書き、横２４字×縦４６行×２段組で、パソコン入力（Ｗｏｒｄ）により、４～６枚以内（写真、図表を含む）とし、文体は常体（「である」体）を原則とします。

また、常用漢字･現代仮名遣いにするとともに、別に表紙を付け、①題名、②氏名（グループ代表者名）、③職名、④勤務校等を記入してください。

５　応募上の留意点

研究論文は、紙上未発表のものにかぎります。

応募原稿は、返却しませんので、あらかじめご了承ください。

６　応募票

希望者には、応募票を電子メールで送付しますので事務局へ電子メールでお申し出ください。

７　原稿等の提出

平成２９年１１月２４日（金）　必着

応募票及び論文原稿の提出については、電子メールでの送付も併せてお願いします。

８　審査結果

審査結果は、平成３０年２月上旬に各応募者に書面にて通知します。

９　表彰等

最優秀賞･入選･佳作に選ばれた研究論文は､平成２９年度研究集録に集録し､入選者は本会評議員会（総会）後の席上で表彰を行います。

なお、研究資料費として入選論文には７万円（最優秀賞は 10 万円)、佳作論文には５万円、選外の応募者にも薄謝を進呈します。

また、教職経験１０年未満の方を対象に新人奨励賞（３万円）を設けています。

10　審査員

本部役員および編集委員

11　提出・問い合わせ先

〒 330-0804　さいたま市大宮区堀の内町１-99　さいたま市立大宮東中学校内

埼玉県連合教育研究会事務局　　TEL　048-641-0808　　FAX　048-645-1922

E-mail　saitamakenrengoukyouiku@jcom.home.ne.jp

平成 28 年度

記念講演会

「学校不適応児童のパラダイムシフト
～非行少年から発達障害児童へ～」

久里浜少年院　医務課長　井上　雅人　氏

＜記念講演＞

「学校不適応児童のパラダイムシフト」
～非行少年から発達障害児童へ～」

久里浜少年院　医務課長　井　上　雅　人　氏

久里浜少年院で医師をしている井上と申します。私は埼玉で長く精神科医として勤めてきたので、埼玉はホームという感覚です。今日は張り切って沢山のスライドを用意しましたので、よろしくお願いいたします。

「学校不適応児童のパラダイムシフト」という大げさな題名にしましたが、決して小難しい内容ではないので、リラックスしながら聞いていただけると嬉しいです。

本日のメニューですが、はじめに簡単に自己紹介をさせてもらって、二番目に発達障害について。後半は非行少年の話を中心にお話させていただきます。

≪本日のメニュー≫

１　はじめに、２　発達障害とは、
３　非行少年の変遷、４　非行少年の実態、
５　まとめ

１　はじめに

簡単に私の経歴を紹介させていただきます。平成８年に順天堂大学の精神医学教室に入局し、主に順天堂越谷病院で働いていました。平成12年９月から21年３月までは伊奈町の埼玉県立精神医療センターに勤務し、その後出身地の神奈川に転居したのですが、平成21年から22年の間は仕事をやめて専業主夫（イクメン）をしておりました。当時小学１年の長女のクラス委員をやって、ママ友とランチ会を開いたり、パパたちを集めて飲み会を企画したりと、楽しい専業主夫生活を送りました。平成23年から久里浜少年院に勤めていますが、縁あって今年の３月まで２年間は小学校のＰＴＡ会長をさせてもらい、と同時に県の青少年指導員を２年間務めました。これらの経験は、私の少年院での仕事に大きく影響を与えるかけがえのない財産となりました。本日はその辺のお話も含めながら、進めさせていただきます。

まず私の精神科医としての立ち位置についてお話します。と言いますのは、精神科医の考え方は非常に幅があります。例えて言えば、野党第一党よりも広い（笑）。そこでまず私がどんな考えをもった精神科医かということを先にお話させてもらいます。

◎　立ち位置

私は一般精神科医で児童精神の専門家ではありません。今日は児童の話をしますが、一般精神科医としてみた話です。これまで、研究よりも臨床を主にやってきました。大学を離れたこともあって、ほとんど研究をしていません。つまり臨床主体の一般精神科医です。

精神科において操作的（横断的）診断というのが現在は主流なんですが、私は反主流で、縦断的診断を重んじる立場です。そしてエビデンスよりもナラティブ。エビデンスとは客観的根拠のことですが、医学においてエビデンスに基づく診断と治療が最も重要視されています。しかし私の場合はエビデンスよりもナラティブ（主観性）、つまり物語性に軸足を置いています。私が入局した頃は話を聞くのが精神科医でした。今はどちらかというと薬を出すのが精神科医のようになっていて、そういう意味では、私は古いタイプの精神科医かもしれないです。

◎　自殺者数の推移

ここに「自殺者数の推移」（明治31年～平成25年）のグラフがあります。明治31年に５千人余りだった自殺者数が平成10年には３万人を超えています。戦争中や戦後、高度成長期に一時的に減少したことはありますが、ほぼ右肩上がりに増えています。このグラフからは日本の自殺者数は近代化に合わせて激増していると言えます。ただ総人口も増えているので、人口10万人当たりの自殺者数を表したのが赤い線です。平成10年から10年余りは非常に高い数値になっていて、全体的に増加しているようにもみえます。でも昭和30年代にも同様に高い時もあって、じつは明治31年からの平成25年まで10万人当たりの自殺者数は15人～25人を常に行き来しているのがわかります。そうすると全体的にはそれほど変化していないという評価もできます。このように数値の出し方で評価が変化します。

◎　平成26年自殺統計より

これは平成26年の自殺統計です。未成年者の自殺がいま問題になっています。自殺者数は３万人をきって年々減少していますが、19歳以下の自殺者数はここ数年ほとんど変わっていません。内閣府のデータですが、平成26

年に小学生13人、中学生74人、高校生191人、計278人が自殺していて、その原因・動機を調査しています。大きなカテゴリーでは、家庭問題61人、健康問題53人とありますが、この年代ではやはり学校問題が116人と一番多い。各問題でもう少し細かな項目あり、学校問題の中には「いじめ」という項目があります。ここで皆さんに問題です。『この116人中、いじめが原因となっていたのは何人いたでしょうか？』答えは３人です。学校関連の問題が原因で自殺した未成年者116人のうち、いじめが原因とされた人数はわずか３人。感覚としてどうですか？この数字は信用できますか？

◎　ＳＴＡＰ細胞はある？

突然ですが、『ＳＴＡＰ細胞はあると思われる方？』見たことないですよね、ＳＴＡＰ細胞。こちらは新聞記事からの引用ですが、「米国のスタンフォード大などの研究チームは、2000年～2014年に世界で発表された生物医学系論文から441本を無作為に抽出。うち実験データを伴う268本を精査したところ、再現実験に必要な全ての手順や条件を公表している論文は１本だけだった。」小保方さんもＳＴＡＰ細胞を再現する手順が全く載ってないことでメディアから随分と責められましたけれども、じつは世界で268本の論文うち１本しかなかった。

どういうことが言いたいかというと、科学的根拠とは何でしょう？データ（数字）って何でしょう？最近何かと科学的根拠を示せと言われます。当たり前ですが、数値自体には意味はなく、意味付けするのは、あくまでも人間です。都合の悪いデータは排除して都合のいいデータだけを採用したり、恣意的に操作したりされているデータがある。データは意図をもって利用されているということが大事だと思うんですね。はやりの言葉でいえば「（情報）リテラシー」。その点を頭に入れながら、私の話を聞いてください。私が出す様々なデータも偏っているかもしれません。決して鵜呑みにしないでください。

２　発達障害とは

発達障害についてお話させていただきます。本日は各論ではなく全体的な話をします。さて発達障害と聞いてどんなイメージが湧きますか？ここで改めて定義を調べてみました。厚労省ＨＰの「みんなのメンタルヘルス」というコーナーには発達障害について、「生まれつきの特性で、「病気」とは異なります。発達障害は、いくつかのタイプに分類されており、自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥・多動性障害（ＡＤＨＤ）、学習障害、チック障害などが含まれます。」と書かれています。また発達障害者支援法では、こう定義されています。「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの」。皆さん、イメージできましたか？

◎　診断基準変更で大混乱！？

2013年にアメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計マニュアル」が19年ぶりに改訂になり、発達障害関連の診断に変更がありました。その中でも注目されるのが自閉症スペクトラム障害（ＡＳＤ）を創設し、広汎性発達障害やアスペルガー症候群という診断名をなくして、すべて自閉症スペクトラム障害に統一したことです。

少し専門的な話になりますが、スペクトラム概念を導入して正常と異常の境界をなくしました。今まではカテゴリー分類といって、質的なものを重視して、ここまでは正常、ここからは異常と分けていました。それが正常も異常も地続きで、症状や障害の濃淡でしかないと。疾患概念の大きな変化ですね。アメリカでは診断基準が変わって、それまで受けられていた支援が受けられないケースも出てきているようです。今後、日本でもこの診断基準が順次導入されることになると、医療だけでなく教育や福祉でも少なからず影響があると思われます。

◎　発達障害は増えている？

発達障害は増えているのでしょうか？新聞記事を拾ってみました。「発達障害の可能性がある兵庫県内の公立小中学校生のうち、通常の学級に在籍しながら、必要に応じて特別な指導を受けている児童生徒が2014年度、1,565人に上り、８年間で約６倍に急増したことが分かった。（2015.7.8 神戸新聞）」「全国の公立小中学校の内、通級指導の2015年度の対象者は、前年度から6,520人増の9万270人で、過去最多だったことが28日、文部科学省の調査で分かった。調査を始めた1993年度から22年で7.4倍の増加となった。（2016.4.28 日本経済新聞）」「米国では発達障害の子どもが10年間で17％増加し、６人に１人は発達障害であると発表。（2011年米国疾病対策予防センター）」これら報道を見る限り、発達障害は確実に増えているようです。しかもかなりのスピードで。

◎　なぜ、発達障害は増えているのか？

まず言われているのが、障害認知度が上がったことです。20年前に児童精神科医を除けば、発達障害という概念は全くありませんでした。10年前くらいから急速に一般精神科医にも浸透し、さらに教育関係や親御さんの認知度が上がったことも、増えた要因と考えられます。

もう１つは診断概念が広がっていること。例えば昔は自閉症と言えばほとんどしゃべらない、おもちゃの位置が少しでもずれるとパニックを起こすみたいなイメージ（カナータイプの自閉症）でした。ところが知的障害が軽度である高機能自閉症やアスペルガー症候群が自閉症の一部であることが提唱され、これら軽度の発達障害の診断が可能になり増加につながった。また、福祉とか療育等行政サービスを受けるために積極的に診断をする、もしくは受けることで増えているという指摘があります。

違う観点ですが、医学の進歩で新生児の救命率が上がりました。統計学的には、未熟児や超未熟児に発達障害の割合が多いことがわかっています。以前なら1,000ｇの赤ちゃんは絶対助からなかったが、今はかなり救命できるようになりました。結果的に発達障害や何らかの障害のあるお子さんの数が増えているとも言われています。

その一方で、全く別の見方があります。それは当事者の障害程度に焦点を当てるのではなく、社会の方に原因を求める意見です。

◎　現代社会に原因を求める考え方

精神疾患の発病について、脆弱性モデルという考え方があります。これは病気のなりやすさ（素因）があって、そこに発病を誘発させる刺激（誘発因子）が加わり症状が出現する。そして、症状を持続させる要素（永続因子）があり症状が固定化される。これは身体疾患でも典型的なモデルです。例えばもともと癌になりやすい素因がある。そこに発癌性のある刺激によって発病し癌ができ、癌細胞を成長させる永続因子が加わり進行していく。

このようなモデルが発達障害にも当てはまらないか。つまりもともと発達障害になり易さやその一部分をもっている。ここに何らかの誘発素因が刺激によって、不適応（落ち着きのなさ・衝動性亢進・こだわり・パニック・ひきこもり・意欲低下…）を起こすのではないか。さらに永続因子が加わり、その不適応が固定化するという考え方です。では誘発因子または永続因子として働くのは何なんだろうと考えると、それは日本社会の大きな変化が関わっているのではないでしょうか。

◎　日本社会の変化

一般的に言われるのが、生産型社会から消費型社会へ変わったこと。生産型社会は、ある種の共同体が作られていました。そこでは地道な努力が評価され、人材を育てる仕組みがあった。１年目から即戦力にならなくても少しずつ仕事を覚えてくれればいいという、ある程度適応に時間がかかっても大丈夫なシステムでした。

ところが今の消費型社会は、成果主義、利益追求、効率優先で、すぐに使える人材を登用する。人材を育てる余裕は社会になくて、日本の社会全体が即戦力を要求しています。特に、臨機応変とか適応能力といった個人の能力が求められています。このことは、環境の変化にどちらかと言えば得意ではない人たち（発達や能力に偏りや凸凹がある人たち）を排除するような形になっていないか。そのようなプレッシャーが不適応を起こさせるような仕組みになっていないか。

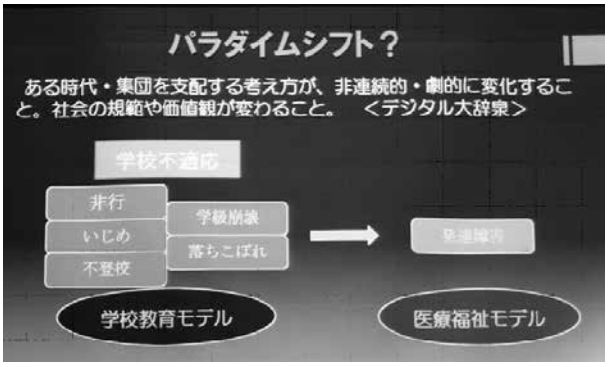
もう一つの大きな変化は、昨今の日本社会がコミュニケーション偏重社会になっていることです。極端なことを言えば、いいものを作ることよりも、いいものを作ったことをちゃんとプレゼンできるかどうかが重要で、とにかくプレゼン力を試される時代です。このように変化した日本社会が、成長するのに時間がかかったり、コミュニケーションが得意でなかったりする人たちの不適応を引き起こさせているのではないでしょうか。

◎　同調性（同質性）社会

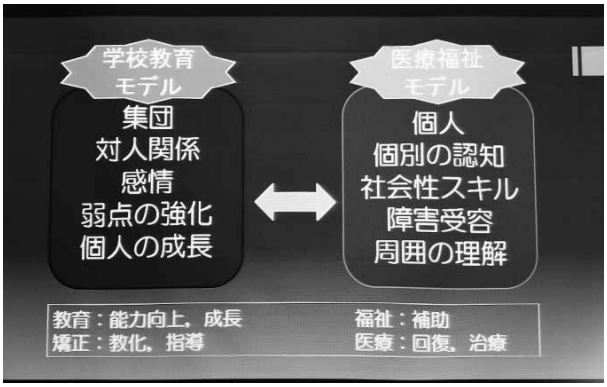
日本は、以前から同調性（同質性）社会だと言われます。もちろんメリットもあります。団結や結束しやすく、おもてなしや気配りなど、日本ならではの特徴になります。一方でデメリットもありますね。出る杭は打たれる。空気が読めない人は嫌われ、排除されたり差別されたりします。さらに、昨今の社会の閉塞感や不安はこの同調性圧力を高めている。煽っている。自分たちの思いどおりにならない、或いは自分たちの期待を裏切るようなものに対して、正義を振りかざして攻撃する。連日メディアでそのようなことが行われています。ネットの世界ではその傾向が顕著です。この同調性の圧力がいわゆる「不寛容の社会」を作りだしていて、発達にばらつきや凸凹を素因としてもっている人たちが排除され、生きづらさを際立たせる要因になっていないでしょうか。

◎　パラダイムシフト

本題であるパラダイムシフトのお話をします。そもそもパラダイムシフトって何でしょう。辞書には、「ある時代、集団を支配する考え方が、非連続的・劇的に変化すること。社会の規範や価値観が変わること」とあります。ここに当てはめると、今、次のようなことが起きているのではと私は考えています。例えば、学校で起きる非行、いじめ、不登校、学級崩壊、落ちこぼれ、これら不適応は今まで「学校教育モデル」で考えられていました。ところが発達障害という概念の出現によって、学校の不適応を「医療福祉モデル」で捉えられるように変化してきている。もしかしたら、それは劇的に変化しているかもしれません。



では「学校教育モデル」と「医療・福祉モデル」は何が違うのか？学校教育モデルは、基本的に集団を扱います。ところが医療というのは当然、患者さんと一対一、福祉も基本的には個人を扱います。そして、学校教育は、どちらかと言えば対人関係、グループの中でいろいろな事象を取り扱っていくけれど、医療・福祉の場合には、個別の認知とか個別の問題として扱っていく。少し分かりにくいかもしれませんけど、学校教育モデルでは感情を扱います。例えば、他者と何かトラブルがあれば、相手はどんな気持ちだったのか、自分はどう感じたかという感情を取り扱う。ところが医療福祉モデルでは、個人の認知や社会的なスキル、この場面はこうした方がいいと練習する。個人個人で解決していきますから、極端に言えば相手は関係ないです。この場面では、どう対応するかという個人の社会的スキルの習得に特化していきます。また、学校教育モデルの特長には、弱点の強化、不得意なところを伸ばそうというところがあると思います。例えばですね、大勢の人前で話すのが苦手な子がいたら、まずは小さな班の中で発表したりして、少しずつ経験することによって、大勢の前でも自分の意見が言えるように成長させていく。つまり弱点の強化であり、個人の成長をねらうのが学校教育モデルです。一方、医療福祉モデルでは、むしろできないことを本人も周りも含めて理解しましょう（障害受容・周囲の理解）という方向に傾きやすく、無理はさせない。そういう意味でいうと、学校教育モデルから医療福祉モデルへの転換はかなり劇的な変化だと思います。



そして、ここにかなりの混乱があるんじゃないかなと私は思っています。学校教育モデルの目標は、能力向上や成長ですよね。少年院の矯正教育でいうと、強化や指導になるかと思います。一方福祉では、足りないところを補助します。医療に関していえば、回復とか治療、悪いところを治す、もとに戻すということがメインで、能力向上とか成長という考えがない。ちょっときつい言い方かもしれませんが、個人の力を伸ばしていくという感覚が医療や福祉に関してはあまりないです。

私は、たまたまＰＴＡに携わった関係で学校の先生と話す機会が多かったり、また少年院というところに勤めて、先生方や教官が本当に熱心に生徒の力を伸ばそうとしている姿を見たりして、医療人としてビックリしました。というのも、医療や福祉はすぐに見立てをしてしまいます。この子はこういう障害がある、あるいは障害はなくても能力的に無理だとか見立てて、足りない部分をどうしたら補えるかを考えちゃうんです。だけど、現場の先生方はそこに力を入れて、ちょっとでもいい、一歩でもいいから伸ばしていこうと関わっているんです。これは本当にビックリでした。

何を伝えたいかというと、「現在の発達障害児への療育や対応というのは、ちょっと医療福祉モデルに傾きすぎていませんか？」ということです。発達障害という概念で考えると、ある子どもの不適応行動を、すっと理解する時があるんですね。その感覚というのは非常に新しいので、飛びつきたくなる。まさにパラダイスシフトです。私もかつて飛びつきました。でも今、全体的にちょっと医療福祉モデルに偏り過ぎているんじゃないかと。むしろ医療福祉関係者はもっと学校教育モデルを取り入れていく必要があるんじゃないかと思っています。

３　非行少年の変遷　≪統計から≫

私は、いま久里浜少年院で働いていて非行少年を相手にしています。せっかくの機会ですので、非行少年について統計をみながら少しお話しさせてください。

◎　昨今の少年非行のイメージ

昨今の少年非行のイメージとして、凶悪化、低年齢化、そして治安の悪化が挙げられます。原因としては、神戸連続児童殺傷事件（1997）にはじまり、最近では川崎市中１男子生徒殺人（2015）や大津いじめ事件（2011）など凶悪な少年事件が続いていることがあげられます。本当にイメージ通りでしょうか？

◎　少年検挙人員の推移（警察白書より）

まず少年検挙人員の推移を見てみましょう。これをみると、戦後から昭和50年代後半まで右肩上がりに増え、昭和59年にピークをむかえます。その後減少に転じ、平成に入ると激減しています。平成24年以降は毎年戦後最低を記録しています。少年の人口比と比較してもピークの半分以下で、少年事件は、戦後最低レベルです。

では、低年齢化についてみてみましょう。

◎　年齢層別検挙人員の推移（犯罪白書より）

グラフによれば、どの時代でも年少少年（14,15歳）が最も多くなっています。思春期真っ只中の中学生年代は衝動性が高く、反社会的な行動が出やすいと言われています。特に、少年犯罪がピークを向かえていた昭和50年辺りはこの年代が飛び抜けて高くなっていますが、平成になってからはご覧の通り、年少少年や触法少年（14歳未満）が他の年代より増加している様子はなく、結論としては少年非行が低年齢化しているとは言えません。

最後に、凶悪化や治安の悪化はどうか？

◎　殺人被害者の推移（犯罪被害者白書より）

これは殺人事件の被害者数のグラフです。事件件数や犯人数ではなく、実際にどれだけの人数が事件で殺されているかを表したグラフです。戦後から徐々に増加してピークの昭和30年は年間約２千人の被害者がいます。その後1,500人くらいで推移していますが、昭和50年頃から激減。平成20年には500人を割り、昨年（平成27年）は400人を下回り、ピーク時の５分の１以下です。つまり治安は戦後最高です。

◎　非行少年の変化と特徴

犯罪白書には少年非行の様々なデータが載っています。非行の種類ごとの件数、再非行の割合、さらに暴走族のデータや対教師暴力の件数の推移など。それらのデータから昨今の非行少年の変化を８項目にまとめてみました。

①　非行少年は激減！

先ほどのグラフにもあった通り、とにかく非行少年は激減しています。

②　粗暴性や暴力性が低下（草食系？）

粗暴性や暴力性が低下しています。強盗や傷害といった被害者に直接かつ身体的に危害を与える非行が減っていて、言ってみれば非行少年の草食化です。

③　リスク回避と効率性の追求

振り込め詐欺の増加は皆さんもご存じの通りだと思いますが、引ったくりや強盗が激減しているように、効率が良くてなるべく自分がリスクを負わない非行を選んでいる。非行も、とにかくリスク回避ですね。

④　性非行（しかも低年齢）の増加

心配なのが性非行が増加して低年齢化していることです。私はネットやゲーム等のメディアの影響が大きいと考えています。少年鑑別所で診たケースですけど、小学６年生の男の子が小さな女の子に自分の陰茎を舐めさせて捕まったケースですが、話を聞くと精通もしていないし、セックスやマスターベーションについても知らない。だけどおちんちん（陰茎）を舐めさせるスマホ画像をみて、「面白そうだから」と。隠れてやっているので、悪いことはわかっている。でもその行為がどんな意味があるかは全くわかっていません。メディアと大人の責任が大きいように思います。

⑤　暴走族等集団非行の減少

少年の暴走族が減っています。暴走族の構成人数も激減しています。昭和50年代には構成人数が50人を超える暴走族が各地に存在していました。子どもの数も減っていますが、現在暴走族の平均構成人数は10人くらいになっています。暴走族でさえも集団を作れません。昔は、敵対している集団に勝つために集団を大きくするというのが非行のパターンでした。今の少年たちは集団から外れないためにいつも周りの顔色を窺いながら非行集団の中にいる。どちらかというと敵は外ではなく内にいるような感じさえうけます。

⑥　オートバイ盗や自転車盗の減少

暴走族の減少とも関係あるかもしれませんが、確かにバイクの改造などに興味を示す非行少年が減って、盗んだバイクで走り出すことはない。まさに尾崎豊の終焉。非行少年は意外と地元好きなので、今の時代はスケボーがあればいいのかもしれません。

⑦　再犯非行少年割合の増加

非行も二極化が目立ってきています。先ほど同調性社会のところでも触れましたが、一度社会から外れてしまうと、なかなか社会には戻れません。社会で更生の機会がなくて、結果的にはまた非行を繰り返してしまう。そんな再非行少年の割合が増えています。

⑧　対教師暴力の質的変化

対教師暴力の件数について年代別にみると、ここ10年間中学生は微増。中学生と桁は違いますが、小学生は増加傾向がみられます。データがあるわけではありませんが、対教師暴力が質的に変化しているんじゃないかと。以前は大人や権力への反抗がメインだったのに、今は不快感情の発露とか、場合によっては遊びというか、そういうものに変化している。少年院でみられる問題行動でも、そのような特徴がみられます。

４　非行少年の実態

ここで少し久里浜少年院を紹介させていただきます。久里浜は東京湾に面していて、黒船で有名な浦賀の隣にあります。ちなみにペリーは黒船で浦賀沖に来航しましたが、上陸したのは実は久里浜なんです。これは久里浜のアイデンティティなので、ぜひ覚えて帰ってください。

◎　久里浜少年院の特徴

久里浜少年院の特徴ですが、まず入所している少年はほとんど19歳以上で高年齢の少年が多いです。また、少年の７割以上が過去に少年院に入ったことがある非行少年。つまり非行が進んでいる少年が多い。一言でいうと、東日本（東北、中部も含む）の最も悪い少年、非行少年のエリートが集まっているようなところです。

少年のＩＱ分布をみると、100～109が26名（88名中）と一番多く、平均ＩＱが99。中にはＩＱが120を越えている子も６人います。ＩＱは決して低くありません。しかし、彼らの最終学歴をみると、中卒が34％。高校中退を含めると、８割以上が高校を卒業していません。

久里浜少年院では、約１年間の入所中にいろいろな資格を取る機会があります。ローラー運転特別教育や小型フォークリフト特別教育などは外部講師を招いて、ワープロ検定や情報処理技能検定などはパソコン実科を行っている少年が能力に応じて受験しています。注目してほしいのは高等学校卒業認定試験です。平成25年は26人受験して９人合格（全必要科目合格）で合格率35％。平成26年は20人中３人合格の20％、27年は24人中12人合格で合格率50％。勉強に関しては教官が教えることはなく、

全て独学です。基本的に院内生活では、勉強時間は設けられていません。毎日夕食後や休日に自由時間がありますが、彼らはその時間を勉強にあて自分で勉強してこの結果です。確かに合格率は高くないかもしれない。でも、５割は高卒認定試験に受かっています。

この事実から何が言えるでしょうか？非行少年は適切な養育、支援、援助を受けられていない。逆に言えば、適切な援助だったり支援だったりが受けられていれば、少年院に来る前にもっと彼らの力を伸ばすことができたのではないでしょうか。私は「非行少年とは社会からネグレクトされた存在である」と考えています。

◎　非行少年の特徴

久里浜少年院で最も悪い少年たちを診察して、精神科医からみた非行少年の特徴を挙げてみました。

①　発達障害？被虐待？

発達障害なのか被虐待（虐待による影響）なのか区別できない少年が多いです。身体的虐待歴があると、いわゆる注意欠陥／多動性障害（ＡＤ/ＨＤ）のような多動や衝動性の強さ、不注意が目立つ。逆にネグレクトでは、こだわりが強かったり、共感性が乏しかったりとＡＳＤ的な症状がみられると言われますが、劣悪な環境で育った少年は、なかなか判別できないケースも多いです。

②　世代間連鎖

親の薬物やアルコール依存、虐待や暴力などが子どもたちに連鎖していく…。本来、子どもたちはそのような親を忌避したり恨んだりしていることが多いのですが、成長するにしたがって、なぜかその親と同じような行動パターンを取ることがあります。これが世代間連鎖です。

③　サバイバ―としての非行少年

久里浜少年院に来る少年のほとんどが非常に劣悪な環境で育っています。そこで何とか生き延びてきたサバイバ―です。彼らは生き延びるために非行をしてきたとも言えるのかもしれません。

④　低いレジリエンス

レジリエンスとは回復力や逆境力、復元力などと訳されますが、昨今の非行少年は非常に打たれ弱いです。問題（特に対人関係）に対して常に回避傾向がみられます。

５　まとめ

◎　学校不適応行動

離席・多動、暴力・器物破損、いじめ、対人トラブル、不登校、非行など学校不適応行動は、適応行動をとれなくて困っているサインだとよく言われますが、とは言っても、不適応行動には対処せざるを得ない。非行であったら司法関係ですし、引きこもりだったら本人の問題にするかもしれないし、ＡＤ/ＨＤのような発達障害だと医療の問題、虐待といったら児童相談所かもしれない。だけど、この子たちに学校不適応のレッテル貼りをして、１つの所が抱え込んだり、場合によっては押し付け合ったり、あるいは見ないふり…。こういった状況を超えていかなければならいのではないでしょうか。

◎　ハイブリットな支援を目指して

家庭・司法・学校・福祉・医療のハイブリットな支援を目指していきましょう。スライドのベン図で、学校を中心に置いたのは、医療・福祉というのは当事者の要請がないと手を出せないんです。義務教育であれば、学校は当事者に関われる権利があるんですね。もちろん、学校が全てやるということではなくて、学校を入口として各部門が少しずつ関わっていく、いわばハイブリットな支援ができたらいいなと思います。

◎　ある自閉症当事者のメッセージ

最後に、「ある自閉症当事者のメッセージ」を紹介させていただいて、私の話を終わりたいと思います。

『僕自身は、支援者の方たちに対して、こんな支援をしてもらいたいと考えたことはありません。ただ、一緒にいてくれて「今日も楽しかったね」と笑ってくれればそれが一番です。・・・（中略）　障害がある自分が辛いという以上に、自分が今、どれだけ大変な状況で生きているのか、どんな気持ちでいるのか、他の人にわかってもらえないことが、僕にとっては何より寂しく、苦しかったです。しかし、僕の場合、いくら行動を観察して分析してもらっても、僕の思いとは違っていることの方がほとんどです。

僕が支援者にお願いするとしたら、失敗しても次こそ頑張ろうと思わせてくれるような支援です。・・・（中略）　自分の力で人生を選択できない人たちにとっては、自分の思いに寄り添おうとしてくれる人たちの存在が、自分の生きる価値を見いだすことに繋がるのではないでしょうか。自閉症の人の支援が、どれだけ難しいか、それは当事者が一番よくわかっています。どうか、これからも、そんな人たちを助けてあげてください。』

御清聴、ありがとうございました。

平成 28 年度

○ 埼玉県連合教育研究会

役　員　等　名　簿

第77回　関東地区小中学校教育研究会連絡協議会　栃木大会にて
次年度開催の埼玉大会について上亟会長より説明

平成28年度　本部役員名簿

役　職	氏　　名	勤　　務　　校	〒	勤　務　校　所　在　地	電　　話
会　　長	上　亟　啓　介	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808
副会長	髙　野　　治	幸手市立幸手中学校	340-0111	幸手市北1-7-4	0480-42-0203
	久　米　　敦	本庄市立児玉小学校	367-0212	本庄市児玉町児玉1,355-1	0495-72-1569
	講　内　靖　夫	上尾市立上尾中学校	362-0034	上尾市愛宕3-23-34	048-771-0129
	児　玉　亮　一	富士見市立富士見台中学校	354-0023	富士見市諏訪2-8-1	049-251-0473
	島　村　　暁	さいたま市立片柳中学校	337-0033	さいたま市見沼区御蔵 551	048-683-3173
事務局長	分　須　正　明	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808
常任理事	小　堀　壯　一	川口市立飯塚小学校	332-0023	川口市飯塚 2-11-1	048-251-2975
	輿　水　　功	草加市立八幡小学校	340-0006	草加市八幡町 65	048-936-6293
	新　井　研　吾	寄居町立鉢形小学校	369-1224	大里郡寄居町鉢形 645	048-581-3300
	金　田　佳　子	本庄市立北泉小学校	367-0031	本庄市北堀 1,871-1	0495-22-3791
	倉　澤　俊　夫	秩父市立南小学校	368-0033	秩父市野坂町 2-14-29	0494-22-1299
	福　満　浩　一	富士見市立水谷小学校	354-0014	富士見市水谷 1-13-3	049-251-1130
	荒　井　敏　夫	東松山市立新宿小学校	355-0032	東松山市新宿町 14	0493-23-1225
	会　田　国　雄	三郷市立早稲田小学校	341-0024	三郷市三郷 3-2-1	048-952-4151
	内　田　　敬	行田市立太田東小学校	361-0013	行田市真名板 955	048-559-3810
	髙　村　達　夫	さいたま市立大宮北小学校	330-0802	さいたま市大宮区宮町 3-84	048-644-0123
理　　事	田　丸　淳　哉	川口市立青木中学校	332-0031	川口市青木 5-1-1	048-253-1371
	関　根　隆　之	蓮田市立平野中学校	349-0135	蓮田市井沼 932	048-766-9003
	西　　博　美	熊谷市立熊谷東中学校	360-0012	熊谷市上之 3,177	048-521-0066
	永　妻　恒　男	さいたま市立大宮南中学校	330-0834	さいたま市大宮区天沼町2-362	048-641-1142
	木　村　直　美	朝霞市立朝霞第九小学校	351-0003	朝霞市台 295	048-466-4481
監　　事	窪　田　　忍	春日部市立宝珠花小学校	344-0102	春日部市宝珠花 593	048-748-1031
	鵜　野　一　郎	ときがわ町立明覚小学校	355-0356	ときがわ町関堀 65	0493-65-0373
	濵　名　博　昭	美里町立大沢小学校	367-0115	美里町猪俣 3,019-2	0495-76-0390
編集委員長	長　島　庸　夫	さいたま市立七里中学校	337-0012	さいたま市見沼区東宮下 1-1-1	048-685-0603
編集委員	松　下　洋　介	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤 6-9-44	048-833-6898
	阿　部　靖　史	埼玉大学教育学部附属中学校	336-0021	さいたま市南区別所 4-2-5	048-862-2214
	吉　井　一　生	鴻巣市立下忍小学校	369-0112	鴻巣市鎌塚 10	048-548-2300
	石　川　和　宏	桶川市立桶川小学校	363-0017	桶川市西 1-4-27	048-771-1259
	小　代　美智子	さいたま市立大東小学校	330-0043	さいたま市浦和区大東 3-14-1	048-886-7296
	小　坂　浩　士	さいたま市立常盤小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤 9-30-9	048-831-2349
	大　島　綾　子	蕨市立第一中学校	335-0003	蕨市南町3-1-29	048-442-2533
幹　　事	大　木　克　己	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808
	越　智　宏　明	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808
	渡　辺　俊　行	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99	048-641-0808

平成28年度　教科等教育研究団体長及び事務局長名簿

No	研究団体名	会長名	勤務校	事務局長名	事務局長勤務校
1	埼玉県 国語教育研究会	鯨井幹夫	さいたま市立 植竹小学校	松下洋介	埼玉大学教育学部 附属小学校
2	埼玉県 書写教育研究会	岩渕賢一	所沢市立 東所沢小学校	大澤美和子	加須市立 大越小学校
3	埼玉県 社会科教育研究会	田丸淳哉	川口市立 青木中学校	北川智之	埼玉大学教育学部 附属小学校
4	埼玉県 算数数学教育研究会	駒井忠幸	川越市立 寺尾中学校	五十嵐　淳	埼玉大学教育学部 附属中学校
5	埼玉県 理科教育研究会	谷口正夫	川口市立 神根中学校	杉山直樹	埼玉大学教育学部 附属小学校
6	埼玉県 音楽教育連盟	小櫃真人	草加市立 谷塚小学校	波多江慶太	埼玉大学教育学部 附属小学校
7	埼玉県 美術教育連盟	関根隆之	蓮田市立 平野中学校	高藤友輔	埼玉大学教育学部 附属中学校
8	埼玉県 保健体育研究会	松原　誠	川口市立 南中学校	井村浩一	埼玉大学教育学部 附属中学校
9	埼玉県 英語教育研究会	西　博美	熊谷市立 熊谷東中学校	髙橋太一	埼玉大学教育学部 附属中学校
10	埼玉県 道徳教育研究会	土井雅弘	坂戸市立 入西小学校	藤澤由紀夫	越谷市立 大沢小学校
11	埼玉県 特別活動研究会	渋谷修造	久喜市立 桜田小学校	木場真理	越谷市立 蒲生南小学校
12	埼玉県 進路指導･キャリア教育研究会	鈴木秀希	越谷市立 東中学校	牛島健一	越谷市立 光陽中学校
13	埼玉県 学校視聴覚教育連絡協議会	神田俊也	飯能市立 東吾野小学校	児玉日左治	飯能市立 東吾野小学校
14	埼玉県 教育心理・教育相談研究会	髙橋光代	川口市立 元郷小学校	平田清美	川口市立 元郷小学校
15	埼玉県 特別支援教育研究会	永妻恒男	さいたま市立 大宮南中学校	加藤和子	埼玉大学教育学部 附属特別支援学校
16	埼玉県 学校図書館協議会	木村直美	朝霞市立 朝霞第九小学校	小日向輝代	越谷市立 東中学校
17	埼玉県 中学校技術･家庭科教育研究会	野口　浩	さいたま市立 与野東中学校	木村　僚	埼玉大学教育学部 附属中学校
18	埼玉県 小学校家庭科教育研究会	染谷和美	久喜市立 久喜東小学校	吉田みゆき	埼玉大学教育学部 附属小学校
19	埼玉県　生活科・総合的な学習の時間教育研究会	小川聖子	行田市立 南河原小学校	若村健一	埼玉大学教育学部 附属小学校

平成28年度　地域教育研究団体一覧

旧教育事務所	No.	研究団体名	会長名	会長勤務校	電話
南部	1	埼玉大学教育学部附属小学校教育研究会	有川秀之	埼玉大学教育学部附属小学校	048-833-6291
	2	埼玉大学教育学部附属中学校教育研究会	首藤敏元	埼玉大学教育学部附属中学校	048-862-2214
	3	さいたま市教育研究会	矢部一夫	さいたま市立岸町小学校	048-861-4320
	4	川口市教育研究会	小堀壯一	川口市立飯塚小学校	048-251-2975
	5	草加市教育研究会	輿水　功	草加市立八幡小学校	048-936-6293
	6	蕨市教育研究会	佐藤恵子	蕨市立東中学校	048-442-5370
	7	戸田市教育研究会	江添信城	戸田市立美谷本小学校	048-421-3010
	8	志木市教育研究会	川﨑善一	志木市立志木第四小学校	048-474-7911
	9	朝霞市教育研究会	内田正喜	朝霞市立朝霞第一小学校	048-461-0052
	10	新座市教育連合会	岩岬正浩	新座市立片山小学校	048-477-0312
	11	和光市教育研究会	栗原信幸	和光市立第二中学校	048-462-1793
北部	12	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	尾﨑啓子	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	048-663-6803
	13	鴻巣市教育研究会	加藤幸弘	鴻巣市立吹上中学校	048-548-0051
	14	北本市教育研究会	安野正人	北本市立東小学校	048-592-2050
	15	上尾市教育研究会	升屋好永	上尾市立上尾小学校	048-771-0067
	16	桶川市教育研究会	浅野貞雄	桶川市立桶川東中学校	048-786-4461
	17	伊奈町教育研究会	髙橋久誠	伊奈町立南小学校	048-722-5231
入間	18	川越市教育研究会	小野勝弘	川越市立霞ヶ関東中学校	049-232-4606
	19	所沢市教育研究会	山田賢司	所沢市立牛沼小学校	04-2995-3151
	20	飯能市教育研究会	今井聡美	飯能市立加治小学校	042-972-2319
	21	日高市教育研究会	新井健一	日高市立高萩中学校	042-989-2146
	22	狭山市教育研究会	庄子泰男	狭山市立堀兼小学校	04-2959-3343
	23	入間市教育研究会	中村伸一	入間市立東町中学校	04-2965-2631
	24	富士見市教育研究会	堀川博基	富士見市立ふじみ野小学校	049-267-2312
	25	ふじみ野市教育研究会	石川和明	ふじみ野市立大井西中学校	049-264-1030
	26	坂戸市教育研究会	土田勇人	坂戸市立浅羽野中学校	049-284-1441
	27	鶴ヶ島市教育研究会	伏見隆一	鶴ヶ島市立鶴ヶ島第一小学校	049-286-0214

旧教育事務所	No.	研究団体名	会長名	会長勤務校	電話
入間	28	越生班教育研究会	宮坂郡一	越生町立梅園小学校	049-292-3215
	29	三芳町教育研究会	柿沼秀樹	三芳町立竹間沢小学校	049-258-3235
比企	30	東松山市教育研究会	荒井敏夫	東松山市立新宿小学校	0493-23-1225
	31	小川班教育研究会	大久根　勇	東秩父村立槻川小学校	0493-82-1235
	32	菅谷班教育研究会	平　博之	嵐山町立志賀小学校	0493-62-5888
	33	玉川班教育研究会	田中辰弥	鳩山町立鳩山中学校	049-296-1244
	34	川島教育研究会	岡部玲子	川島町立八ツ保小学校	049-297-0064
	35	吉見教育研究会	新井　浩	吉見町立西小学校	0493-54-1509
秩父	36	秩父教育研究会	倉澤俊夫	秩父市立南小学校	0494-22-1299
児玉	37	児玉郡本庄市教育研究会	金田佳子	本庄市立北泉小学校	0495-22-3791
大里	38	熊谷市教育研究会	細野茂子	熊谷市立新堀小学校	048-533-4555
	39	深谷市教育研究会	大澤誠一	深谷市立幡羅中学校	048-571-0229
	40	寄居町教育研究会	新井研吾	寄居町立鉢形小学校	048-581-3300
北埼	41	行田市教育研究会	内田　敬	行田市立太田東小学校	048-559-3810
	42	加須市教育研究会	小暮　滋	加須市立加須西中学校	0480-61-2625
	43	羽生市教育研究会	渡邉　勤	羽生市立羽生南小学校	048-562-1901
埼葛	44	春日部市教育研究会	伊草雅広	春日部市立武里中学校	048-735-3034
	45	越谷市教育研究会	澤田一郎	越谷市立千間台小学校	048-976-1001
	46	久喜市教育研究会	関口美重子	久喜市立栗橋南小学校	0480-52-0235
	47	三郷市教育研究会	鈴木　勉	三郷市立彦郷小学校	048-957-9911
	48	蓮田市教育研究会	賀山敏正	蓮田市立黒浜中学校	048-768-0314
	49	幸手市教育研究会	飯塚　忠明	幸手市立長倉小学校	0480-42-7746
	50	八潮市教育研究会	伊藤敏子	八潮市立大曽根小学校	048-996-6372
	51	杉戸町教育研究会	伊藤美由紀	杉戸町立杉戸第二小学校	0480-34-6231
	52	吉川市教育研究会	豊田正一	吉川市立中央中学校	048-982-0241
	53	松伏町教育研究会	小熊三千世	松伏町立金杉小学校	048-991-5000
	54	白岡市教育研究会	栗原洋芳	白岡市立篠津中学校	0480-92-1508
	55	宮代町教育研究会	下川孝広	宮代町立須賀中学校	0480-33-1326
入間地区連合教育研究会			福満浩一	富士見市立水谷小学校	049-251-1130
埼葛連合教育研究会			会田国雄	三郷市立早稲田小学校	048-952-4151

あ　と　が　き

ここに、平成28年度埼玉県連合教育研究会の「研究集録付研究論文集」をまとめることができました。原稿をお寄せいただいた各教科等教育研究団体並及び地域教育研究団体の皆様に、深く感謝申し上げます。

また、今年度も広く会員の皆様方に研究論文を募集いたしましたところ、今年度は14編の研究論文を県下各地からお寄せいただきました。（校種別では小学校11編、中学校3編）それぞれの地域で、時代を担っている様々な年代の教師による研究発表の場として貴重な実践に基づく研究発表の場となりました。

今年度応募された14編は、いずれも、多忙な日常の勤務の中にあっても真摯な情熱と旺盛な課題意識を根底にもって取組まれた論文であり、審査にあたり真に心に響くものがありました。入選及び佳作等の3編は、その中でも、教育実践としての魅力のみならず、教育研究としての価値について多くの委員が認めたところです。残念ながら選に漏れた論文につきましても、児童生徒の実態をよく捉え、授業等の改善に向け良く工夫を凝らした指導実践となっており、その成果と課題の捉え方も優れたものでした。更に、検証の過程におけるデータとの関連を見つめながら、取組方法の修正を図ったり、研究対象の汎用性について更に研究を進めたりするなど、論文としての完成度をなお一層高められることを期待しております。

改めまして、今回、積極的に応募していただいた先生方に深甚なる感謝を申し上げますとともに、願わくば、次年度におきましても、これらの論文に触発され、確かな実践に裏打ちされた貴重な教育研究論文が幅広い年代の先生方から、また県内各地から結集されますことを期待しております。

編集委員長　長島　庸夫　さいたま市立七里中学校長

平成 28 年度　**埼玉県連合教育研究会「研究集録付研究論文集」**

平成 29 年 3 月 10 日　　印　　刷
平成 29 年 3 月 10 日　　発　　行

発　行　者　　埼玉県連合教育研究会
　　会長　上　亟　啓　介
印　刷　所　　関東図書株式会社
　　ＴＥＬ　048（862）2901